

# 東前原遺跡

(第 15 地点第 2 次)

— 区画道路6-23号外 1 路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 —



2018

水戸市教育委員会



とう まえ はら  
東 前 原 遺 跡

(第 15 地点第 2 次)

— 区画道路6-23号外 1 路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2 0 1 8

水 戸 市 教 育 委 員 会





空中写真（上方から）



刻書土器「口南子家」SI4-7



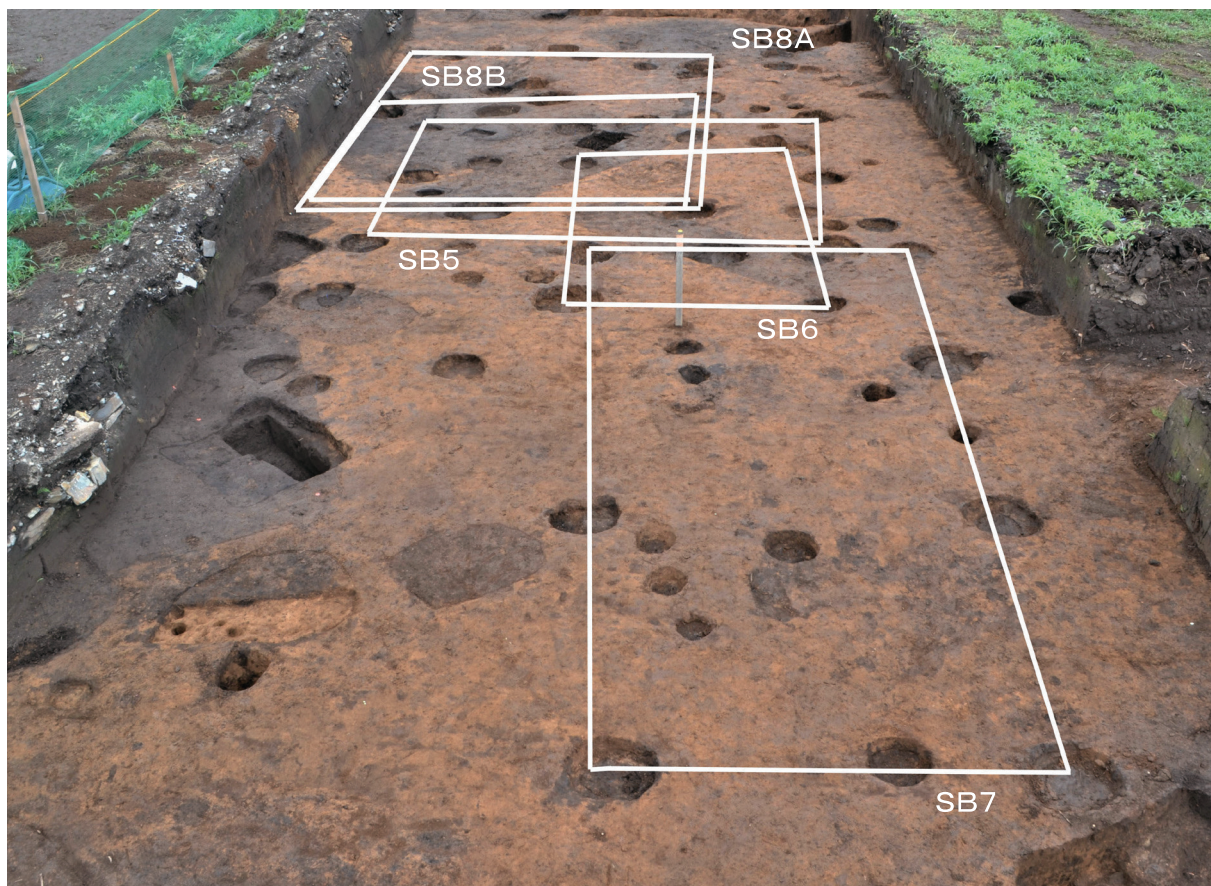
円面碗 SI7-13



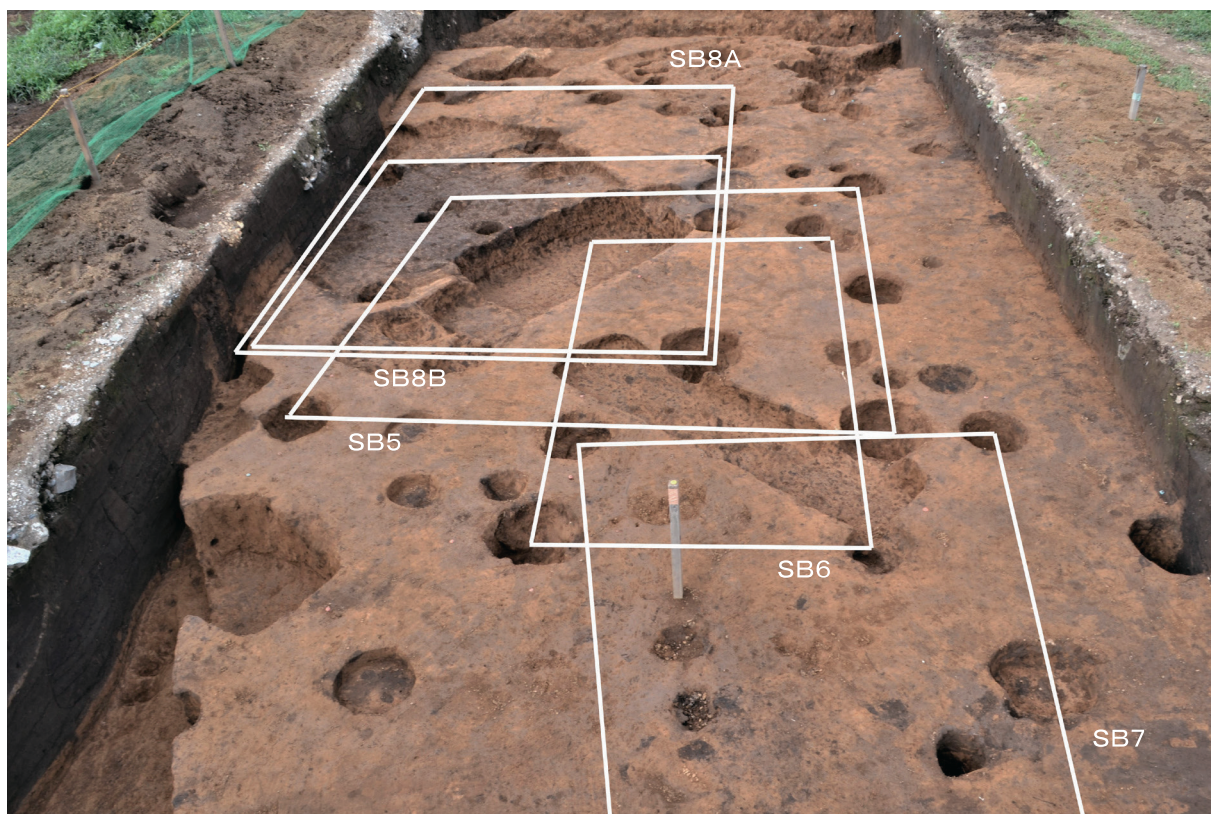
墨書土器「林家」SI11-1



「隆平永寶」SI10-3



中世掘立柱建物群調査状況



中世掘立柱建物群・土坑群と古代の竪穴建物の重複状況

## ごあいさつ

水戸市の東部に位置する常澄地区には、本書で報告する東前原遺跡をはじめ小原遺跡、梶内遺跡、那賀郡家の別院とも考えられている大串遺跡などの魅力的な遺跡が存在しています。このことから本地区は、古くから連綿と人々の生活が営まれるとともに、古代律令体制下において重要な地域であったことが判明しつつあります。

一方、常澄地区の一面をなす東前町周辺では、近年の区画整理事業に伴い、周辺に位置する遺跡の様相が大きく変わりつつあり、そのため、本市教育委員会では、東前町周辺に今も眠っている遺跡の実像を後世に伝えるため、文化財保護法並びに関係法令に基づき遺跡の保護保存に努めているところです。

さて、このたび実施した発掘調査は、道路改良等の工事に伴う記録保存を目的とした発掘調査であります。広範囲にわたる古代の集落跡と、中世の地下式坑をはじめ、多くの遺構や遺物が検出され、大変貴重な成果となりました。

ここに刊行の運びとなりました本書を契機として、かけがえのない貴重な文化財に対する愛着を深めていただくとともに、学術研究等の資料として、広く御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたりまして多大なる御理解と御協力を賜りました関係各位に、心から感謝を申し上げます。

平成 30 年 12 月

水戸市教育委員会  
教育長 本多 清峰





## 例 言

- 1 本調査は水戸市東前町地内における区画道路6-23号外1路線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、水戸市教育委員会による試掘調査に基づいて、当該工事個所が周知の埋蔵文化財包蔵地「東前原遺跡（No.201-259）」該当することから、1,466㎡を調査対象とした。
- 3 調査に当たり事業者、水戸市教育委員会、関東文化財振興会株式会社（代表取締役 宮田和男）三者で協定書を交わした。
- 4 発掘調査組織は下記の通りである。

調査担当者 宮田 和男 日本考古学協会員 関東文化財振興会株式会社代表取締役  
主任調査員 河野 一也 日本考古学協会員 関東文化財振興会株式会社調査部長  
調査員 金指とも子 関東文化財振興会株式会社調査研究員  
調査員 下岡 孝明 関東文化財振興会株式会社調査研究員  
事務局

本多 清峰（水戸市教育委員会教育長）

増子 孝伸（水戸市教育委員会事務局教育部長）

関口 慶久（水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター所長）

米川 暢敬（同主幹）

新垣 清貴（同主幹）

廣松 滉一（同文化財主事）

丸山 優香里（同埋蔵文化財専門員）

染井 千佳（同埋蔵文化財専門員）

松浦 史明（同埋蔵文化財専門員）

昆 志穂（同嘱託員）

有田 洋子（同嘱託員）

- 5 発掘調査は、平成30年6月27日から平成30年9月19日まで行い、整理作業・報告書作成は関東文化財振興会株式会社にて平成30年9月20日に開始し、平成30年12月の報告書刊行をもって終了した。
- 6 本調査における出土遺物及び実測図・写真等は水戸市教育委員会が管理している。
- 7 本報告書の執筆は、第1章1節は水戸市教育委員会が、第5章第1節はパリオ・サーヴェイ株式会社 橋本真紀夫、矢作健二、石岡智哉氏にお願いした。他第1章第2節～第4章までと第5章第2節～第6節を水戸市教育委員会の指導のもと、河野一也が担当した。
- 8 本書の編集は河野一也が担当した。
- 9 第4号竪穴建物跡出土の「□南子家」の刻書土器については大学共同利用機関法人「人間文化研究機関」の機構長平川南先生にご教授を頂き、自身の訳文を掲載させて頂いた。
- 10 調査及び本報告書の作成にあたり、次の方々からご指導・ご協力を賜った。ここに記して感謝の意を表す次第である。

茨城県教育庁文化課 公益財団法人茨城県教育財団 水戸市教育委員会








- 11 調査参加者（順不同）

（発掘調査） 白戸和夫 飯村宗弘 澤畑栄一 阿部武男 高岡徹 豊田志津子 松岡きよの 小林香苗

高野正行 岡崎稔 美代春男 佐々木淳司 加藤忠 白水貞夫

（整理作業） 大越慶子 大山晴美 郡司ゆき子 平井百合子 益子光江

## 凡 例

- 1 本書に記してある座標値は、世界測地系第IX系を用いている。方位は座標北を示す。
- 2 本文中の色調表現は、『新版標準土色帖』2008年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）を用いた。
- 3 標高は海拔標高である。
- 4 掲載した図面の基本縮尺は以下の通りである。  
遺構図 東前原遺跡周辺遺跡地図 1/25,000 東前原遺跡の位置と周辺の遺跡 1/30,000  
東前原遺跡既 住調査遺跡地図 1/5,000 グリッド設定図 1/1000 全体図 1/500 遺構図 1/60  
なお、変則的な縮尺を用いた場合には、スケールによってその縮尺を示した。  
遺物図 原則 1/3 とする。ただし、種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては個々に縮尺をスケールで示した。
- 5 遺構・遺物実測図中のスクリーントーン及び記号は以下に示すとおりである。  
遺構  竈部材  火床面  焼土  柱痕跡  
●土器・土製品・石製品・金属製品  
遺物  黒色処理  煤・油煙  施釉・赤彩
- 6 実測図・遺物観察表・本文中で用いた略号は、次の通りである。  
SI - 竪穴建物跡・竪穴遺構 SB - 掘立柱建物跡 SF - 道路状遺構 SK - 土坑 SD - 溝跡  
P - 小穴 K - 攪乱
- 7 主軸は竪穴建物の竈を通る軸線、土坑は長軸とし主軸方向はその主軸が座標北からみてどの方向にどれだけ振れているかを角度で示した。(例 N -10° - W)
- 8 南区、東区、北区の座標数値は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、南区は、X座標=38,080m, Y座標=62,350m の交点を基準点(A1)とし、東区は、X座標=37,960m, Y座標=62,160m, 交点を基準点(A1)とした。北区は、X座標=37,597m, Y座標=62,623m の交点を基準点(A1)とした。座標数値に関しては世界測地系を用いている。調査区内を、10 m毎にグリッドを設定した。

# 目次

ごあいさつ

例言

凡例

第1章 調査に至る経緯と調査経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 遺跡の地理的環境と歴史的環境	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3節 東前原遺跡における既往の調査	5
第3章 調査の方法と調査概要及び基本層序	11
第1節 調査の方法	11
第2節 調査概要	11
第3節 調査日誌	11
第4節 基本層序	14
第4章 遺構と遺物	15
第1節 古代の遺構と遺物	15
1 竪穴建物跡	15
2 掘立柱建物跡	52
3 溝跡	58
4 井戸跡	65
第2節 中世の遺構と遺物	67
1 掘立柱建物跡	67
2 溝跡	74
3 道路状遺構	85
4 集石遺構	86
5 井戸跡	88
6 地下式坑	91
7 粘土貼土坑	95
8 土坑	97
9 小穴（ピット）	107
第3節 近世・近代の遺構と遺物	110
1 溝跡	112
2 土坑	123
第4節 遺構外出土遺物	123
第5章 まとめ	125
第1節 東前原遺跡の火山噴出物の科学的分析（パリノサーベイ株式会社）	125
1 試料	125
2 分析方法	125
3 結果	126
(1) A地点	126
(2) B地点	126

4 考察	129
(1) A地点の層序対比	129
(2) B地点の層序対比	131
第2節 東前原遺跡の層序と年代	132
1 火山噴出物の内容と基本層序との関係	132
2 地形と層位	132
第3節 古代の景観	136
1 出土遺物の年代観	136
2 古代の遺構変遷	140
第4節 中世の景観	142
1 出土遺物の年代観	142
2 中世の遺構変遷	142
第5節 近世・近代の景観	145
1 出土遺物の年代観	145
2 近世・近代の遺構変遷	146
第6節 総括	147

## 図版目次

第1図 東前原遺跡周辺遺跡地図	3	第23図 第7号竪穴建物跡実測図(2)	39
第2図 東前原遺跡の位置と周辺の遺跡	6	第24図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図	40
第3図 東前原遺跡既往調査遺跡地図	7	第25図 第8号竪穴建物跡・出土遺物実測図	42
第4図 東前原遺跡グリッド設定図	8	第26図 第9号竪穴建物跡実測図	44
第5図 東前原遺跡全体図	9	第27図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図	45
第6図 基本土層図	14	第28図 第10号竪穴建物跡実測図	47
第7図 第1号竪穴建物跡実測図(1)	16	第29図 第10号竪穴建物跡出土遺物実測図	48
第8図 第1号竪穴建物跡実測図(2)	18	第30図 第11号竪穴建物跡・出土遺物実測図	49
第9図 第1号竪穴建物跡実測図(3)	19	第31図 第12号竪穴建物跡実測図	50
第10図 第1号竪穴建物跡実測図(4)	20	第32図 第12号竪穴建物跡出土遺物実測図	51
第11図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	21	第33図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	52
第12図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	22	第34図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	54
第13図 第2号竪穴建物跡・出土遺物実測図	24	第35図 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	55
第14図 第3号竪穴建物跡実測図(1)	25	第36図 第4号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	57
第15図 第3号竪穴建物跡実測図(2)	27	第37図 第4A・B号溝跡・出土遺物実測図	59
第16図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図	28	第38図 第5号溝跡実測図	60
第17図 第4号竪穴建物跡実測図(1)	30	第39図 第11号溝跡実測図	62
第18図 第4号竪穴建物跡実測図(2)	31	第40図 第11号溝跡出土遺物実測図(1)	63
第19図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	32	第41図 第11号溝跡出土遺物実測図(2)	64
第20図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	33	第42図 第2号井戸跡実測図	65
第21図 第6号竪穴建物跡・出土遺物実測図	36	第43図 第2号井戸跡出土遺物実測図	66
第22図 第7号竪穴建物跡実測図(1)	38	第44図 第5号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	67

第 45 図	第 6 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	69	第 83 図	第 18 号土坑実測図	105
第 46 図	第 7 号掘立柱建物跡実測図	70	第 84 図	第 20 号土坑・出土遺物実測図	106
第 47 図	第 8 A・B 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図	72	第 85 図	第 22・23 号土坑・第 23 号土坑出土遺物実測図	107
第 48 図	第 9 号掘立柱建物跡実測図	74	第 86 図	第 1～24 号小穴実測図	108
第 49 図	第 1 A・B 号溝跡実測図	75	第 87 図	第 6 号溝跡・出土遺物実測図	110
第 50 図	第 1 A・B 号溝跡出土遺物実測図	76	第 88 図	第 8 号溝跡実測図	111
第 51 図	第 2 A・B 号溝跡実測図	77	第 89 図	第 9 号溝跡・出土遺物実測図	112
第 52 図	第 2 A・B 号溝跡出土遺物実測図	78	第 90 図	第 19 号土坑・出土遺物実測図	112
第 53 図	第 3 号溝跡・出土遺物実測図	79	第 91 図	第 21 号土坑実測図	113
第 54 図	第 7 号溝跡・出土遺物実測図	81	第 92 図	第 24 号土坑実測図	113
第 55 図	第 10 A・B 号溝跡実測図	82	第 93 図	第 29 号土坑実測図	114
第 56 図	第 10 A・B 号溝跡出土遺物実測図 (1)	83	第 94 図	第 30 号土坑実測図	114
第 57 図	第 10 A・B 号溝跡出土遺物実測図 (2)	84	第 95 図	第 32 号土坑実測図	114
第 58 図	第 1 号道路状遺構実測図	86	第 96 図	第 33 号土坑・出土遺物実測図	115
第 59 図	第 1 号集石遺構・出土遺物実測図	87	第 97 図	第 35 A・B 号土坑・出土遺物実測図	116
第 60 図	第 1 号井戸跡・出土遺物実測図	88	第 98 図	第 36 号土坑・出土遺物実測図	116
第 61 図	第 3 号井戸跡・出土遺物実測図	89	第 99 図	第 38 号土坑・出土遺物実測図	117
第 62 図	第 4 号井戸跡・出土遺物実測図	90	第 100 図	第 39 号土坑・出土遺物実測図	118
第 63 図	第 1 号地下式坑実測図	91	第 101 図	第 40 号土坑・出土遺物実測図	119
第 64 図	第 1 号地下式坑出土遺物実測図	92	第 102 図	第 41 号土坑・出土遺物実測図	120
第 65 図	第 2 号地下式坑実測図	93	第 103 図	第 41 号土坑出土遺物実測図	121
第 66 図	第 3 号地下式坑・出土遺物実測図	94	第 104 図	第 42 号土坑・出土遺物実測図	122
第 67 図	第 1 号粘土貼土坑実測図	95	第 105 図	第 43 号土坑実測図	122
第 68 図	第 2 号粘土貼土坑・出土遺物実測図	96	第 106 図	遺構外出土遺物実測図	123
第 69 図	第 3 号粘土貼土坑・出土遺物実測図	96	第 107 図	壁面実測図 (1)	133
第 70 図	第 4 号粘土貼土坑・出土遺物実測図	97	第 108 図	壁面実測図 (2)	134
第 71 図	第 1 号土坑・出土遺物実測図	98	第 109 図	壁面遺物出土実測図	135
第 72 図	第 2 号土坑実測図	98	第 110 図	古代遺物変遷図 (1)	137
第 73 図	第 7 号土坑・出土遺物実測図	99	第 111 図	古代遺物変遷図 (2)	138
第 74 図	第 8 号土坑・出土遺物実測図	99	第 112 図	古代遺物変遷図 (3)	139
第 75 図	第 9 号土坑実測図	100	第 113 図	古代遺構配置図	141
第 76 図	第 10 号土坑・出土遺物実測図	101	第 114 図	中・近世遺物変遷図 (1)	143
第 77 図	第 11 号土坑・出土遺物実測図	101	第 115 図	中・近世遺物変遷図 (2)	144
第 78 図	第 12 号土坑・出土遺物実測図	102	第 116 図	中世遺構配置図	145
第 79 図	第 13 号土坑・出土遺物実測図	103	第 117 図	中世掘立柱建物跡遺構配置図	147
第 80 図	第 14 号土坑・出土遺物実測図	104	第 118 図	近世遺物変遷図	148
第 81 図	第 15・16 号土坑実測図	104	第 119 図	近世・近代遺構配置図	149
第 82 図	第 17 号土坑実測図	105			

## 表目次

第 1 表	東前原遺跡周辺遺跡一覧表	5	第 34 表	第 3 号地下式抗出土遺物観察表	95
第 2 表	既往の調査一覧表	6	第 35 表	第 2 号粘土貼土坑出土遺物観察表	96
第 3 表	第 1 号竪穴建物跡出土遺物観察表	21・23	第 36 表	第 3 号粘土貼土坑出土遺物観察表	97
第 4 表	第 2 号竪穴建物跡出土遺物観察表	25	第 37 表	第 4 号粘土貼土坑出土遺物観察表	97
第 5 表	第 3 号竪穴建物跡出土遺物観察表	29	第 38 表	第 1 号土坑出土遺物観察表	98
第 6 表	第 4 号竪穴建物跡出土遺物観察表	34・35	第 39 表	第 7 号土坑出土遺物観察表	99
第 7 表	第 6 号竪穴建物跡出土遺物観察表	37	第 40 表	第 8 号土坑出土遺物観察表	100
第 8 表	第 7 号竪穴建物跡出土遺物観察表	41	第 41 表	第 10 号土坑出土遺物観察表	101
第 9 表	第 8 号竪穴建物跡出土遺物観察表	43	第 42 表	第 11 号土坑出土遺物観察表	102
第 10 表	第 9 号竪穴建物跡出土遺物観察表	46	第 43 表	第 12 号土坑出土遺物観察表	102
第 11 表	第 10 号竪穴建物跡出土遺物観察表	48	第 44 表	第 13 号土坑出土遺物観察表	103
第 12 表	第 11 号竪穴建物跡出土遺物観察表	50	第 45 表	第 14 号土坑出土遺物観察表	104
第 13 表	第 12 号竪穴建物跡出土遺物観察表	51	第 46 表	第 20 号土坑出土遺物観察表	106
第 14 表	第 1 号掘立柱建物跡出土遺物観察表	53	第 47 表	第 23 号土坑出土遺物観察表	107
第 15 表	第 2 号掘立柱建物跡出土遺物観察表	53	第 48 表	小穴一覧表	109
第 16 表	第 3 号掘立柱建物跡出土遺物観察表	56	第 49 表	第 6 号溝跡出土遺物観察表	111
第 17 表	第 4 号掘立柱建物跡出土遺物観察表	58	第 50 表	第 9 号溝跡出土遺物観察表	112
第 18 表	第 4 A・B 号溝跡出土遺物観察表	60	第 51 表	第 19 号土坑出土遺物観察表	113
第 19 表	第 11 号溝跡出土遺物観察表	64・65	第 52 表	第 33 号土坑出土遺物観察表	115
第 20 表	第 2 号井戸跡出土遺物観察表	66・67	第 53 表	第 35 A・B 号土坑出土遺物観察表	116
第 21 表	第 5 号掘立柱建物跡出土遺物観察表	68	第 54 表	第 36 号土坑出土遺物観察表	117
第 22 表	第 6 号掘立柱建物跡出土遺物観察表	69	第 55 表	第 38 号土坑出土遺物観察表	118
第 23 表	第 8 号掘立柱建物跡出土遺物観察表	72	第 56 表	第 39 号土坑出土遺物観察表	118
第 24 表	第 1 A・B 号溝跡出土遺物観察表	76	第 57 表	第 40 号土坑出土遺物観察表	119
第 25 表	第 2 A・B 号溝跡出土遺物観察表	78・79	第 58 表	第 41 号土坑出土遺物観察表	119・121
第 26 表	第 3 号溝跡出土遺物観察表	80	第 59 表	第 42 号土坑出土遺物観察表	122
第 27 表	第 7 号溝跡出土遺物観察表	80	第 60 表	遺構外出土遺物観察表	124
第 28 表	第 10 A・B 号溝跡出土遺物観察表	85	第 61 表	壁面出土遺物観察表	136
第 29 表	第 1 号集石遺構出土遺物観察表	88	第 62 表	古代遺構変遷図	141
第 30 表	第 1 号井戸跡出土遺物観察表	89	第 63 表	中世遺構変遷図	146
第 31 表	第 3 号井戸跡出土遺物観察表	89	第 64 表	近世・近代遺構変遷図	149
第 32 表	第 4 号井戸跡出土遺物観察表	91	第 65 表	出土遺物計量一覧表	151～156
第 33 表	第 1 号地下式抗出土遺物観察表	92			

## 写真図版目次

PL 1 遺跡から那珂川低地を望む, 1 B 区全景 (西上方から), 北区全景 (南から), 北区全景 (北から), 東区全景 (東から), 標準層序 (北から), 1 B 区第 1 号竪穴建物跡北側全景 (南から), 北区第 1 号竪穴建物跡南側全景 (南から)

- P L 2 1 B区第1号竪穴建物跡完掘全景（南から）、北区第5号竪穴建物跡南側掘方全景（南から）、1 B区第1号竪穴建物跡北側東土層（西から）、1 B区第1号竪穴建物跡北側南壁面土層（北から）、1 B区第1号竪穴建物跡1・2号竈（南から）、1 B区第1号竪穴建物跡2号竈裁割（南東から）、1 B区第1号竪穴建物跡3号竈（南から）、1 B区第1号竪穴建物跡3号竈土層（東から）
- P L 3 1 B区第1号竪穴建物跡3号竈遺物出土状況（南から）、1 B区第1号竪穴建物跡3号竈遺物出土状況（北から）、1 B区第2号竪穴建物跡全景（東から）、1 B区第2号竪穴建物跡遺物出土状況（東から）、北区第3号竪穴建物跡全景（西から）、北区第3号竪穴建物跡掘方（南西から）、北区第3号竪穴建物跡東西土層（南から）、北区第3号竪穴建物跡東壁面土層（西から）
- P L 4 北区第3号竪穴建物跡新竈掛孔確認状況（南から）、北区第3号竪穴建物跡新竈残存状況（南から）、北区第3号竪穴建物跡新竈全景（南から）、北区第3号竪穴建物跡新竈土層（西から）、北区第3号竪穴建物跡新・旧竈（南から）、北区第3号竪穴建物跡旧竈土層・新竈袖土層（西から）、北区第3号竪穴建物跡旧・新竈掘方（南から）、北区第4号竪穴建物跡全景（南から）
- P L 5 北区第4号竪穴建物跡完掘全景（南から）、北区第4号竪穴建物跡炭化物確認状況（南から）、北区第4号竪穴建物跡竈遺物出土状況（南から）、北区第4号竪穴建物跡竈土層（南東から）、北区第4号竪穴建物跡竈袖芯材出土状況（南から）、北区第4号竪穴建物跡竈東袖土層（西から）、北区第4号竪穴建物跡遺物出土状況①（東から）、北区第4号竪穴建物跡遺物出土状況②（東から）
- P L 6 北区第4号竪穴建物跡遺物出土状況③（東から）、北区第4号竪穴建物跡遺物出土状況④（東から）、北区第4号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）、北区第6号竪穴建物跡竈（西から）、北区第6号竪穴建物跡竈完掘（西から）、北区第7号竪穴建物跡全景（南から）、北区第7号竪穴建物跡土層（南から）、北区第7号竪穴建物跡掘方土層（南から）
- P L 7 北区第7号竪穴建物跡掘方全景（南から）、北区第7号竪穴建物跡竈全景（南から）、北区第7号竪穴建物跡竈土層（南東から）、北区第7号竪穴建物跡竈東袖土層（東から）、北区第7号竪穴建物跡竈西袖土層（西から）、北区第7号竪穴建物跡遺物出土状況（南西から）、北区第7号竪穴建物跡遺物出土状況（南東から）、北区第7号竪穴建物跡遺物出土状況（南から）
- P L 8 北区第8号竪穴建物跡全景（西から）、北区第8号竪穴建物跡掘方（西から）、北区第8号竪穴建物跡皿状遺構（西から）、北区第8号竪穴建物跡皿状遺構土層（南から）、北区第9号竪穴建物跡全景（南から）、北区第9号掘方全景（南から）、北区第9号竪穴建物跡竈全景（南から）、北区第9号竪穴建物跡竈袖土層（西から）
- P L 9 北区第9号竪穴建物跡竈掘方（南から）、北区第9号竪穴建物跡遺物出土状況（南から）、北区第10号竪穴建物跡全景（東から）、北区第10号竪穴建物跡掘方（南から）、北区第10号竪穴建物跡遺物出土状況（北西から）、北区第11号竪穴建物跡全景（南東から）、北区第11号竪穴建物跡掘方（南東から）、北区第11号竪穴建物跡土層（南東から）
- P L 10 北区第11号竪穴建物跡遺物出土状況（南から）、北区第12号竪穴建物跡全景（南東から）、北区第12号竪穴建物跡・第41号土坑土層（東から）、北区第12号竪穴建物跡遺物出土状況（西から）、1 B区第1号掘立柱建物跡柱痕確認状況（東から）、1 B区第1号掘立柱建物跡-P3土層（西から）、1 B区第1号掘立柱建物跡-P1土層（東から）、1 B区第1号掘立柱建物跡-P2土層（南から）
- P L 11 1 B区第1号掘立柱建物跡-P3土層（南から）、1 B区第1号掘立柱建物跡-P4土層（南から）、1 B区第2号掘立柱建物跡全景（南東から）、1 B区第2号掘立柱建物跡-P1土層（南から）、1 B区第2号掘立柱建物跡-P2土層（南から）、1 B区第2号掘立柱建物跡-P3土層（南東から）、1 B区第2号掘立柱建物跡-P4土層（北から）、1 B区第2号掘立柱建物跡-P5土層（南から）
- P L 12 東区第3・4号掘立柱建物跡柱痕確認状況（南から）、東区第3号掘立柱建物跡-P1土層（東から）、

- 東区第3号掘立柱建物跡 - P 2 土層 (東から), 東区第3号掘立柱建物跡 - P 3 土層 (東から), 東区第3号掘立柱建物跡 - P 4 土層 (北から), 東区第3号掘立柱建物跡 - P 5 土層 (東から), 東区第3号掘立柱建物跡 - P 6 土層 (東から), 東区第3・4号掘立柱建物跡柱痕確認状況 (北から)
- P L 13 東区第4号掘立柱建物跡 - P 1 土層 (東から), 東区第4号掘立柱建物跡 - P 2 土層 (東から), 東区第4号掘立柱建物跡 - P 3 土層 (東から), 東区第4号掘立柱建物跡 - P 3 土層 (北から), 東区第4号掘立柱建物跡 - P 4 土層 (東から), 東区第4号掘立柱建物跡 - P 5 土層 (東から), 東区第4号掘立柱建物跡 - P 6 土層 (南から), 東区第4号溝跡全景 (北から)
- P L 14 東区第4号溝跡北壁面土層 (南から), 東区第4号溝跡南壁面土層 (北から), 東区第5号溝跡全景 (北から), 東区第5号溝跡土層 (南から), 東区第5号溝跡北壁面土層 (南から), 北区第11号溝跡全景 (西から), 北区第11号溝跡全景 (北から), 北区第11号溝跡土層 (東から)
- P L 15 北区第11号溝跡西壁面土層 (東から), 北区第11号溝跡東壁面土層 (北東から), 北区第11号溝跡南北土層 (北東から), 北区第11号溝跡北側土層 (東から), 北区第11号溝跡東西南側土層 (南から), 北区第11号溝跡遺物出土状況 (南から), 東区第2号井戸跡全景 (北西から), 東区第2号井戸跡土層 (南から)
- P L 16 東区第2号井戸跡遺構確認状況 (北から), 北区掘立柱建物跡全景 (北から), 北区掘立柱建物跡全景 (南から), 北区第5・6号掘立柱建物跡全景 (南から), 北区第5号掘立柱建物跡 - P 1 土層 (南東から), 北区第5号掘立柱建物跡 - P 2 土層 (南東から), 北区第5号掘立柱建物跡 - P 3 土層 (南東から), 北区第5号掘立柱建物跡 - P 4 土層 (南東から)
- P L 17 北区第5号掘立柱建物跡 - P 5 土層 (南東から), 北区第5号掘立柱建物跡 - P 6 土層 (南東から), 北区第5号掘立柱建物跡 - P 7 土層 (南東から), 北区第5号掘立柱建物跡 - P 8 土層 (南東から), 北区第6号掘立柱建物跡 - P 1 土層 (南東から), 北区第6号掘立柱建物跡 - P 2 土層 (南東から), 北区第6号掘立柱建物跡 - P 3 土層 (南東から), 北区第6号掘立柱建物跡 - P 4 土層 (南東から)
- P L 18 北区第6号掘立柱建物跡 - P 4 土層 (南西から), 北区第6号掘立柱建物跡 - P 5 土層 (南東から), 北区第7号掘立柱建物跡全景 (南から), 北区第7号掘立柱建物跡 - P 1 土層 (南東から), 北区第7号掘立柱建物跡 - P 2 土層 (南東から), 北区第7号掘立柱建物跡 - P 3 土層 (南東から), 北区第7号掘立柱建物跡 - P 4 土層 (南東から), 北区第7号掘立柱建物跡 - P 5 土層 (南東から)
- P L 19 北区第7号掘立柱建物跡 - P 6 土層 (南東から), 北区第7号掘立柱建物跡 - P 7 土層 (南東から), 北区第8号掘立柱建物跡全景 (南から), 北区第8号掘立柱建物跡 - P 2 土層 (南東から), 北区第8号掘立柱建物跡 - P 3 土層 (南東から), 北区第8号掘立柱建物跡 - P 4 土層 (南東から), 北区第8号掘立柱建物跡 - P 5 土層 (南東から), 北区第8号掘立柱建物跡 - P 6 土層 (南東から)
- P L 20 北区第8号掘立柱建物跡 - P 7 土層 (南東から), 北区第8号掘立柱建物跡 - P 8 土層 (南東から), 北区第8号掘立柱建物跡 - P 9 土層 (南東から), 北区第9号掘立柱建物跡 - P 1 土層 (南東から), 北区第9号掘立柱建物跡 - P 2 土層 (南東から), 北区第9号掘立柱建物跡 - P 3 土層 (南東から), 南区第1A・B号溝跡全景 (東から), 南区第1A・B号溝跡西壁面土層 (東から)
- P L 21 南区第1A・B号溝跡東壁面土層 (西から), 東区第2A・B号溝跡全景 (南から), 東区第2A・B号溝跡北壁面土層 (南から), 東区第2A・B号溝跡遺物出土状況 (南から), 東区第2A・B号溝跡遺物出土状況 (北から), 東区第3号溝跡全景 (北から), 東区第3号溝跡南壁面土層 (北から), 東区第3号溝跡北壁面土層 (南から),
- P L 22 北区第7号溝跡全景 (西から), 北区第7号溝跡西壁面土層 (東から), 北区第7号溝跡東壁面土層 (西から), 北区第10号溝跡全景 (西から), 北区第10号溝跡全景 (東から), 北区第10号溝跡西壁面土層 (東から), 北区第10号溝跡東壁面土層 (南から), 北区第10号溝跡遺物出土状況 (西から)



- P L 23 北区第10号溝跡遺物出土状況(南西から), 北区第1号道路状遺構硬化面(南から), 北区第1号道路状遺構硬化面土層(西から), 北区第1号集石遺構遺物出土状況(南から), 北区第1号集石遺構瓦出土状況(南から), 南区第1号井戸跡全景(南から), 南区第1号井戸跡足掛け穴(南から), 東区第3号井戸跡全景(南西から)
- P L 24 東区第3号井戸跡北壁面土層(南から), 南区第4号井戸跡全景(西から), 南区第4号井戸跡土層(西から), 1B区第1号地下式坑竪坑部(南から), 1B区第1号地下式坑竪坑部(北から), 1B区第1号地下式坑奥壁(南から), 1B区第1号地下式坑竪坑部土層(南東から), 北区第2号地下式坑竪坑部(南から)
- P L 25 北区第2号地下式坑(北西から), 北区第2号地下式坑奥壁(南から), 北区第2号地下式坑工具痕, 北区第2号地下式坑竪坑部土層(東から), 北区第2号地下式坑開削状況(南東から), 北区第2号地下式坑室部((南から), 北区第3号地下式坑全景(北から), 北区第3号地下式坑竪坑部(北から)
- P L 26 北区第3号地下式坑奥壁(南から), 北区第3号地下式坑土層(南西から), 北区第3号地下式坑竪坑部側土層(北西から), 北区第3号地下式坑奥壁側土層(南東から), 北区第3号地下式坑遺物出土状況(北から), 南区第1号粘土貼土坑完掘(南から), 南区第1号粘土貼土坑土層(南から), 南区第1号粘土貼土坑掘方(南から),
- P L 27 北区第2号粘土貼土坑全景(南東から), 北区第2号粘土貼土坑土層(東から), 北区第2号粘土貼土坑掘方(北東から), 北区第3号粘土貼土坑全景(北東から), 北区第3号粘土貼土坑土層(北東から), 北区第3号粘土貼土坑粘土貼状況(北東から), 北区第3号粘土貼土坑掘方(北東から), 北区第4号粘土貼土坑全景(北から)
- P L 28 北区第4号粘土貼土坑土層(北東から), 北区第4号粘土貼土坑粘土貼状況(北東から), 北区第4号粘土貼土坑掘方(北東から), 1B区第1・2号土坑土層(南から), 北区第7号土坑土層(北東から), 北区第9号土坑全景(東から), 北区第10号土坑全景(東から), 北区第12号土坑全景(北西から)
- P L 29 北区第13号土坑全景(西から), 北区第15・16号土坑土層(南東から), 北区第18号土坑全景(南西から), 北区第20号土坑全景(東から), 北区第22号土坑全景(南東から), 北区第23号土坑全景(南から), 北区第6・8号溝跡全景(東から), 北区第6号溝跡土層(北から)
- P L 30 北区第8号溝跡土層(東から), 北区第9号溝跡全景(西から), 北区第9号溝跡土層(東から), 北区第38号土坑全景(南東から), 北区第39号土坑全景(南東から), 北区第41号土坑全景(北東から), 北区第12号竪穴建物跡・第41号土坑土層(東から), 北区第41号土坑遺物出土状況(南西から)
- P L 31 第1号竪穴建物跡出土遺物1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12
- P L 32 第1号竪穴建物跡出土遺物14・15・16・17・18・19, 第2号竪穴建物跡出土遺物1・2・3・4
- P L 33 第3号竪穴建物跡出土遺物1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・12・13, 第4号竪穴建物跡出土遺物1・2・3・4
- P L 34 第4号竪穴建物跡出土遺物5・6・7・8・9・10・11・13
- P L 35 第4号竪穴建物跡出土遺物12・14・15・16・17・18・19, 第6号竪穴建物跡出土遺物1・2
- P L 36 第7号竪穴建物跡出土遺物1・2・3・4・5・6・7・8・9・10
- P L 37 第7号竪穴建物跡出土遺物11・12・14・15, 第8号竪穴建物跡出土遺物1, 第9号竪穴建物跡出土遺物1・2・3・4・5・6・7
- P L 38 第9号竪穴建物跡出土遺物8・9, 第10号竪穴建物跡出土遺物1・2, 11号竪穴建物跡出土遺物1・2・3・4, 第12号竪穴建物跡出土遺物1・2・3・4
- P L 39 第1号掘立柱建物跡出土遺物1, 第2号掘立柱建物跡出土遺物1, 第3号掘立柱建物跡出土遺物1, 第4号掘立柱建物跡出土遺物1, 第4号溝跡出土遺物1・2, 第11号溝跡出土遺物2・3・4・5・6・

7・8・9・10・11・12・13

P L 40 第11号溝跡出土遺物14・15, 第2号井戸出土遺物1・2・3・4・5, 第5号掘立柱建物1, 第8号掘立柱建物1・2, 第1号溝跡出土遺物1・2・3・4・5・6

P L 41 第2号溝跡出土遺物1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13, 第3号溝跡出土遺物1, 第7号溝跡出土遺物1・2・3・4

P L 42 第10A号溝跡出土遺物1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17・18

P L 43 第10A号溝跡出土遺物19・20・21・22・23・24・25・26, 集積遺構出土遺物1・2・3・4, 第1号井戸出土遺物1・2

P L 44 第3号井戸出土遺物1, 第4号井戸出土遺物3・4, 第1号地下式坑出土遺物1, 第3号地下式坑出土遺物2・3・4・6, 第2号粘土貼土坑1, 第4号年貼土坑1, 第7号土坑土坑出土遺物1, 第8号土坑出土遺物2, 第10号土坑出土遺物1・2, 第11号土坑出土遺物1・2, 第12号土坑出土遺物2, 第13号出土遺物1・2, 第14号出土遺物1, 第20号土坑出土遺物1

P L 45 第33号土坑出土遺物3, 第35号土坑出土遺物2, 第36号土坑出土遺物1, 第39号土坑出土遺物1, 第40号土坑出土遺物1, 第41号土坑出土遺物1・2・3・4・7・8・10, 第42号土坑出土遺物1

P L 46 壁面出土遺物1・2・3・4, 遺構外出土遺物2・4・6・7・8・9・11・13・14・15・16・17・18・19・21

# 第1章 調査に至る経緯と調査経過

## 第1節 調査に至る経緯

平成29年10月24日付けで、土地区画整理事業に伴い、水戸市長高橋靖（都市計画部市街地整備課東前地区開発事務所扱）から、水戸市東前町1076番地から1118-1及び1101-3地内について水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）教育長あて、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」（東開第237号）の照会があった。

照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地「東前原遺跡」に該当していることから、市教委は事業計画に基づき、平成29年12月15日から21日にかけて試掘・確認調査を実施した（東前原遺跡第15地点第1次）。その結果、埋蔵文化財の分布を確認した。

今般の事業計画と調査成果を照らし合わせたところ、「茨城県埋蔵文化財発掘調査等取扱い基準」原則Ⅲ「恒久的構造物の設置により相当期間にわたり埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が破損したに等しい状態となる場合」に該当するものと判断された。そのため、市教委は、その保存のあり方について事業主である都市計画部市街地整備課東前地区開発事務所（以下「事業課」という。）と協議を進めたが、工事による埋蔵文化財への影響は不可避であるとの結論に達した。従って今般の土木工事にあたっては、記録保存を目的とした本発掘調査が必要であるとし、事業課から提出のあった文化財保護法第94条第1項に基づく「埋蔵文化財発掘の通知について」を平成29年10月30日付け茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）教育長あて進達した（教埋第1408号）。

この通知に対し、県教委教育長から平成30年2月20日付け文第2973号にて工事着手前に発掘調査を実施すること、また、調査の結果重要な遺構が確認された場合にはその保存について別途協議を要する旨の指示・勧告があった。

これを受けて、市教委は工事対象地のうち、埋蔵文化財が確認された面積1,466㎡を調査対象とし、関東文化財振興会株式会社と発掘調査支援業務委託を締結のうえ、平成30年6月7日から平成30年9月19日の期間をもって本発掘調査を実施することとした。

## 第2節 調査経過

発掘調査は、平成30年6月27日から平成30年9月19日まで実施した。調査経過は以下のとおりである。

調査区は区画道路内で南北110m、東西128mでT字型に設定されていたため、T字型の交点を中央区、北側を北区、東側を東区、南側を南区とした。調査区の幅は6mである。

北区北端は既に施設されていた基盤道路まで削平され30cm程の段があった。

当初は南区の南端から西に36mクランク状の範囲も調査区に設定されていたが、浸透式の汚水掘りがあり既に遺構が破壊されていると判断し調査区から除外した。それに換わって北区の仮設道路の部分が調査範囲になった。

6月27日から北区（1A区）の重機による表土掘削を開始した。表土掘削は断続的に北区拡張区（1B区）、南区、東区の順に行い。調査は北区拡張区（1B区）、南区、東区、北区の順に行った。北区拡張区（1B区）は7月31日には終了確認を行い完了した。8月4日には北区北端の基盤道路のアスファルトを除去し遺構確認を行った。南区と東区の終了した時点で工事のため修了確認を行い完了した。その際、8月11日にドローンによる空中写真、8月17日には標準層序を明確にするため基本層序の土壌サンプルの採取を行った。その後、北区から中央区にかけての遺構密度が高く古代・中世・近世から近代にかけての重複した遺構の調査を精力的に行い、9月14日にはほぼ調査を終了し終了確認を行った。そして同日、南区と東区の空中写真と合成するため北区のドローンによる空中写真撮影を行った。その後、竈の補足調査や貼床状況の確認、地下式坑の断割り調査を行い、図面を作成し9月18日に最終確認を行い、9月19日には調査を完了した。

## 第2章 遺跡の地理的環境と歴史的環境

### 第1節 地理的環境

東前原遺跡は、茨城県水戸市東前町 1076 他に所在している。

水戸市は、県のほぼ中央部に位置し、北は那珂市・東茨城郡城里町、東はひたちなか市・東茨城郡大洗町、南は東茨城郡茨城町、西は笠間市と接している。当市は、江戸時代に水戸徳川家の城下町として栄え、明治時代以降は県庁所在地として、本県の政治、経済、文化の中心地となっている。

当市の地形は、北西から南東に流れる那珂川とその支流である桜川や涸沼川によって形成された沖積低地（標高 10 m 以下）と南西側の東茨城台地（洪積層台地、標高 20 ～ 30 m）、北西側は鶏足山塊からの丘陵地（標高 60 ～ 200 m）、北東側の一部は那珂川左岸の那珂台地からなっている。

台地の地質は、古生代の鶏足層を基盤とし、下層から第三紀層の泥岩からなる水戸層、第四紀層の粘土や砂で構成される見和層、段丘礫層の上市層、灰白色粘土の常総粘土層、関東ローム層の順に堆積している。また、低地部は沖積谷に河川堆積物である砂礫層が堆積し、場所によっては有機質の黒色泥や草炭類の堆積が見られる。

### 第2節 歴史的環境

水戸市の中でも特に、本跡の所在する常澄地区は、多くの中小河川や動植物に恵まれ、素晴らしい自然環境のもとに原始・古代から多くの遺跡が確認されている。国指定遺跡である大串貝塚は、奈良時代に書かれた『常陸国風土記』<sup>4)</sup>に「平津ノ駅家ノ西一二里二岡アリ。名ヲ大櫛トイウ。上古二人アリ。体極メテ長大キニ身ハ丘陵ノ上ニ居リテ、蜃ヲ採リテ食イキ。積聚リテ岡ト成リキ。…」とあり、古代から注目されていたところである。以下、『茨城県遺跡地図』の中で報告されている水戸市常澄地区を中心に主な遺跡を時代別に概観する。

旧石器時代の遺跡については、ナイフ形石器文化の後半に位置付けられる森戸遺跡〈201-177〉<sup>2)</sup>がある。

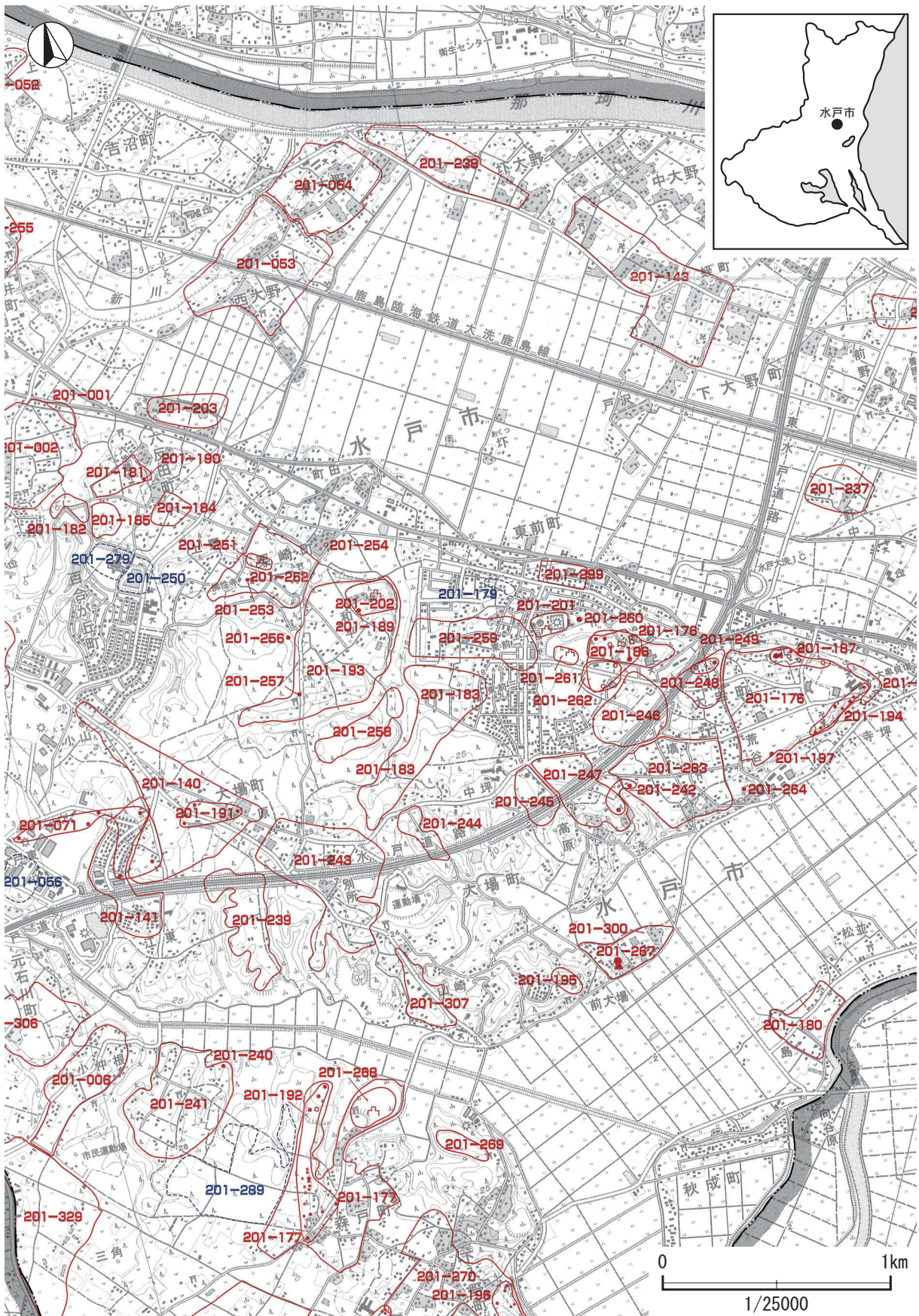
縄文時代になると、沖積低地に沿った台地縁辺部に数多くの遺跡が確認されている。特に、大串貝塚〈201-175〉は、大場磐雄を初め多くの研究者によって3度の発掘調査がなされている。調査の結果、多量の貝殻や獣骨、魚骨、土器が出土し、前期の貝塚であることがわかった。また、旧常澄地区の下畑遺跡では、加曾利E式、大木8b式期の竪穴建物跡をはじめとする遺構群が確認され中期から後期にかけての人々の営みを窺うことができる<sup>7)</sup>。その他、矢田貝塚、六地藏寺遺跡〈201-181〉、上平遺跡〈201-193〉、森戸遺跡〈201-177〉、東前遺跡〈201-179〉、向山遺跡〈201-178〉、道西遺跡〈201-279〉等が挙げられる。

弥生時代の遺跡は、丘陵沿いの台地上や縁辺部にみられる。東前原遺跡〈201-259〉では、後期の竪穴建物跡が確認されている<sup>14)</sup>。芳賀遺跡、高原遺跡〈201-147〉、大道端遺跡<sup>2)</sup>等があるがいずれも表面採集されている。

古墳時代になると、随所に大小の集落が営まれ、多くの古墳が築造されるようになる。

古墳は、那珂川右岸と涸沼川左岸の台地上縁辺部に小形の円墳を中心に群集している。六反田古墳群〈201-250〉、愛宕神社古墳〈201-189〉、金山塚古墳群〈201-186〉、大串古墳群〈201-187〉、高原古墳群〈201-242〉、涸沼台古墳群〈201-195〉、小山古墳群〈201-191〉、森戸古墳群〈201-192〉、下入野古墳群、長福寺古墳群（長福寺遺跡<sup>2)</sup>）〈201-194〉、下入野西古墳群等<sup>5)</sup>が挙げられる。

水田下から五領式土器が発見された沖積低地上の六反田広町遺跡〈201-203〉は、集落跡であったかは不明であるが、低地遺跡が茨城においても発見される可能性を示した遺跡である。また、北屋敷遺跡〈201-248〉からは、古墳時代前期の竪穴建物跡2軒と中期の竪穴建物跡1軒が確認されており、古墳と集落の関係を考えるうえで興味深いものとなっている<sup>8)</sup>。前期の集落として大串遺跡〈201-176〉が、後期の集落として竪穴建物跡8軒確認された梶内遺跡〈201-246〉がある。



第1図 東前原遺跡周辺遺跡地図

## 第2章 遺跡の地理的環境と歴史的環境

奈良・平安時代の集落跡は、竪穴建物跡 18 軒が確認された向山遺跡（大串殿山遺跡<sup>2)</sup>〈201-178〉を初め、大串遺跡（塩崎原遺跡<sup>2)</sup>〈201-176〉、梶内遺跡〈201-246〉、諏訪前遺跡〈201-244〉、沢幡遺跡〈201-245〉、高原遺跡〈201-247〉、北屋敷遺跡〈201-248〉<sup>8)</sup>等が挙げられる。向山遺跡〈201-178〉（大串殿山遺跡）は、東茨城台地南東端的那珂川に面した台地縁辺部に立地している。向山遺跡（大串殿山遺跡）の竪穴建物跡からは、布目瓦や墨書土器が出土している。また、第 14 号竪穴建物跡からは、10 世紀代の土師器の皿の内面に人の顔が描かれた人面墨書土器が出土している。大串遺跡では、桁行 6 間×梁行 3 間の大型掘立柱建物跡等も発見されている。掘立柱建物跡の柱抜き取り穴からは多量の炭化材とともに炭化米が、区画溝からは炭化した穎稻や穀稻が出土している。これら建物は、正倉の性格を有し、火災によって焼失したことが明らかになっている。そのほか「厨」銘墨書土器も出土している<sup>12)</sup>。梶内遺跡では、7 世紀から 10 世紀までの竪穴建物跡が 109 軒確認される。途中希薄になる時期は存在するものの、比較的長く継続する集落跡として看過することはできず、「舍人」「長」や里（郷）名を記したとみられる「芳」銘墨書土器、円面硯が出土している<sup>10)</sup>。両遺跡とも官衙関連遺跡を匂わせる。諏訪前遺跡では、8 世紀と 9 世紀前葉の竪穴建物跡 5 軒が確認されている。沢幡遺跡では、9 世紀前葉から 10 世紀前葉の竪穴建物跡 14 軒が確認されている。沢幡遺跡からは、「堤東」や「伍仔」等の墨書土器や陶器（愛知県猿投窯産）、鉄製品が多量に出土している。大串遺跡（塩崎原遺跡<sup>2)</sup>からは、9 世紀代の蔵骨器（須恵器）が 2 点出土しており、平安時代に当地域においても火葬の風習が入っていたことが理解できる。また、長福寺古墳群（長福寺遺跡<sup>2)</sup>からは、布目瓦が採集でき、この地域に寺院か公的建物があった可能性が考えられる。

当時代の常澄地区を見てみると、『新編常陸国誌』<sup>3)</sup>によると那賀郡芳賀里（郷）に属していたとの記載がある。那賀郡の郡衙は、「仲寺」の墨書土器や「徳輪寺」と記された文字瓦が出土した台渡里廃寺の近くにあったとされている。また、那賀郡には奈良時代に平津駅家が置かれていた。平津駅家の位置は、『常陸国風土記』<sup>4)</sup>の「平津駅家の西 12 里に大串貝塚がある」との記載から現在の平戸地区が推定されている。平津は、蝦夷征圧の為の軍需物資の補給港であり、それに連動した平津駅家も従来の駅家と性格を異にする施設があったものと考えられている。当時は、この台地上にいくつもの集落が営まれていたものと考えられる。

中世には、常陸大掾氏の一族石川氏がこの地域一帯を開発・支配していた。当遺跡周辺に位置する椿山館跡〈201-201〉、和平館跡〈201-202〉、大串原館跡〈201-261〉、久保山館跡〈201-268〉が石川氏の居館として挙げられる。いずれの館跡も土塁の残存が報告されているが、調査事例が少なく詳細については不明な点が多い。

近世においては、立原伊豆守の居所と言われる伊豆屋敷跡〈201-251〉からは 3 条の土塁と 1 条の溝跡が確認されている<sup>11)</sup>。

以上のように東前原・小原遺跡が立地する台地上には、縄文時代から近世に至るまでの豊富な遺跡が所在している。今次の調査で新たな成果を追加したことになる。

### 参考文献

- 1) 茨城県『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』1979 年 3 月
- 2) 常澄村史誌編纂委員会『常澄村史 通史編』1989 年 8 月
- 3) 中山信名『新編常陸国誌』宮崎報恩会 1979 年 12 月
- 4) 日本古典文学大系 2『風土記』「常陸国風土記」岩波書店 1958 年 4 月
- 5) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001 年
- 6) 水戸市史編纂委員会『水戸市史』1963 年 9 月
- 7) 水戸市下畑遺跡発掘調査会『水戸市下畑遺跡 市道酒門 8 号線拡幅工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市下畑遺跡発掘調査会 1985 年
- 8) 茨城県教育財団『中ノ割遺跡・小山遺跡・諏訪前遺跡・高原古墳群・沢幡遺跡・高原遺跡・北屋敷遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告 第 79 集 1993 年 3 月

第3節 東前原遺跡における既往の調査

- 9) 水戸市教育委員会『水戸市埋蔵文化財分布調査報告』1984年3月
- 10) 茨城県教育財団『梶内遺跡 一般国道6号東水戸道路改築工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』茨城県教育財団文化財調査報告第100集 1995年3月
- 11) 水戸地方埋蔵文化財調査研究会『伊豆屋敷跡確認調査報告 墓地造成事業に伴う埋蔵文化財有無の確認調査』水戸地方埋蔵文化財調査研究会 1998年
- 12) 水戸市教育委員会『大串遺跡(第7地点) 介護老人保健施設建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市埋蔵文化財調査報告第14集 2008年
- 13) 水戸市教育委員会『小原遺跡(第3地点) 都計道7・6・1号他3線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市埋蔵文化財報告第68集 2015年
- 14) 水戸市教育委員会『東前原遺跡(第10地点) 区画道路6-33号線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市埋蔵文化財報告第89集 2017年3月

第1表 東前原遺跡周辺遺跡一覧表

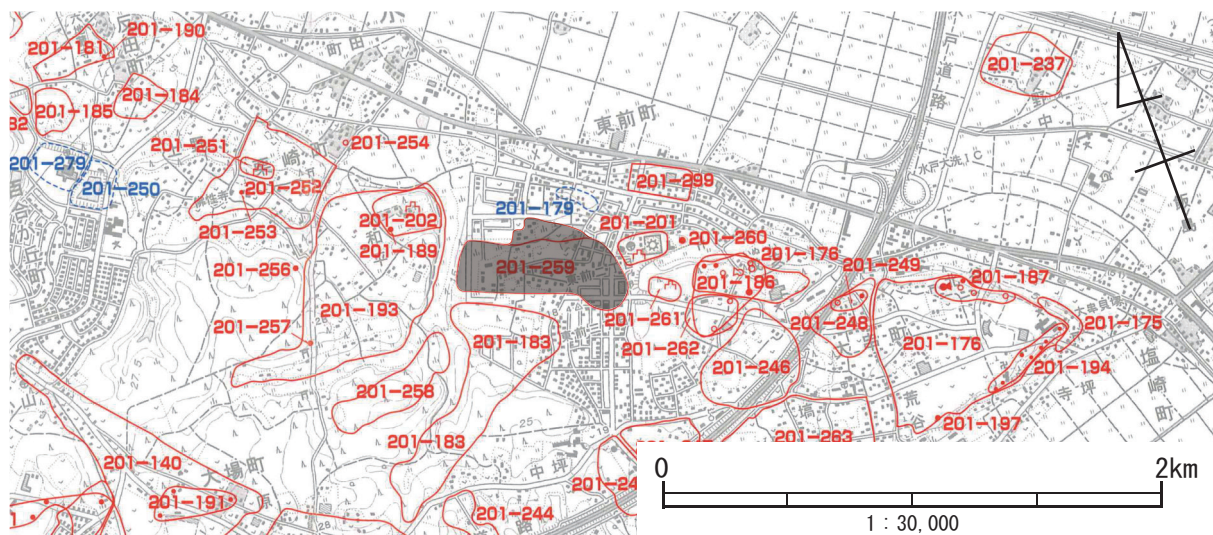
番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世
201-053	西大野遺跡			○	○			
201-054	東大野遺跡				○	○		
201-140	乗越沢遺跡		○		○	○		
201-143	中大野遺跡			○	○			
201-175	大串貝塚		○					
201-176	大串遺跡		○		○	○		
201-177	森戸遺跡	○	○					
201-178	向山遺跡		○	○	○	○		
201-179	東前遺跡		○		○			
201-181	六地藏寺遺跡		○	○	○	○		
201-182	西谷津遺跡				○	○		
201-183	小原遺跡			○	○	○		
201-184	新地遺跡				○	○		
201-185	薄内遺跡		○		○	○		
201-186	金山塚古墳群				○			
201-187	大串古墳群				○			
201-189	愛宕神社古墳				○			
201-190	六地藏古墳				○			
201-191	小山古墳群				○			
201-192	森戸古墳群				○			
201-193	上平遺跡		○		○	○		
201-194	長福寺古墳群				○			
201-195	澗沼台古墳群				○			
201-197	善徳寺古墳				○			
201-201	椿山館跡						○	
201-202	利平館跡						○	
201-203	六反田広町遺跡				○	○		
201-237	野中遺跡			○	○			
201-238	坏大野遺跡			○				
201-239	中ノ割遺跡			○				
201-242	高原古墳群				○			
201-243	小山遺跡			○				
201-244	諏訪前遺跡					○		
201-245	沢幡遺跡					○		
201-246	梶内遺跡				○	○		
201-247	高原遺跡			○		○		
201-248	北屋敷遺跡				○	○		
201-249	北屋敷古墳群				○			
201-250	六反田古墳群				○			
201-251	伊豆屋敷跡							○
201-252	上野遺跡					○		
201-253	佛性寺古墳				○			
201-254	フジヤマ古墳				○			
201-256	諏訪神社古墳				○			
201-257	千勝神社古墳				○			
201-258	打越遺跡					○		
201-259	<b>東前原遺跡</b>			○	○	○	○	○
201-260	住吉神社古墳				○			
201-261	大串原館跡						○	
201-262	大串原遺跡					○		
201~263	宮前遺跡					○		
201-264	東畑古墳				○			
201-267	天神山古墳				○			
201-268	久保山館跡						○	
201-279	道西遺跡		○	○	○	○		
201-299	上の下遺跡					○		
201-300	天神山遺跡				○	○		
201-307	山崎遺跡					○		

第3節 東前原遺跡における既往の調査

当該調査の実施時点において、東前原遺跡における調査は、計20地点において行われている。これらの調査は、その多くが個人住宅建築等に伴う、調査範囲の狭小な試掘調査であるが、奈良・平安時代の堅穴建物跡など、濃密に埋蔵文化財が分布していることが確認されている。このうち、本発掘調査に至ったものはいずれも今次の調査と同じく土地区画整備事業に伴うもので、第3・7・8・10・12・13・14・15・17地点である。

第8地点は、事業範囲が広範であったため、工事区画間に合わせて次数を分け、第2次から第5次・第7次から第9次として発掘調査を実施している。多くの堅穴建物跡の確認から、大勢としては、一時その営みが確

第2章 遺跡の地理的環境と歴史的環境



第2図 東前原遺跡の位置と周辺の遺跡

第2表 既往の調査一覧表

地点	次数	調査箇所	調査年月日	種別	調査原因	遺構	遺物	備考
1		東前町 2-57・60	H20/11/11	試	共同住宅建築	-	○	水戸市教委 2011
2		東前第二土地区画 50 街区 8	H24/2/2	試	個人住宅建築	-	-	
3	1	東前第二土地区画 6-17・18・20・21 号線 (部分)	H26/5/8 ~ 9	試	土地区画整理事業	○	○	
	2	東前第二土地区画 6-17・20・21 号線	H27/2/9 ~ 3/10	本		○	○	
	3	東前第二土地区画 6-18 号線 (部分)	H31/1/17	試		-	-	
4		東前町 2-61・62	H26/7/30	試	個人住宅建築	-	○	
5		東前第二土地区画整理 75 街区 15	H27/1/22	試	個人住宅建築	-	-	
6		東前第二土地区画 33 街区 2	H27/4/28	試	個人住宅建築	○	○	
7	1	東前第二土地区画 10-2 号線 (部分)	H27/5/8	試	土地区画整理事業	○	○	
	2		H28/3/28 ~ 4/21	本		○	○	
8	1	東前第二土地区画 6-22・31・10-2 号線 (部分) / 同 43 街区 22・48 街区 3・4	H27/6/16 ~ 19	試	土地区画整理事業	○	○	第 8 地点 2・3・9 次を含む
	2	東前第二土地区画 6-22 号線 (部分)	H27/12/22 ~ H28/1/20	本		○	○	
	3	東前第二土地区画 10-2 号線 (部分)	H28/3/8 ~ 4/6	本		○	○	
	4	東前第二土地区画 42 街区 2・3・10・8・18・20 の一部 / 6-27 号線	H28/3/8 ~ 5/31	本		○	○	
	5	東前第二土地区画 43 街区 5・28・32・37・39・41 の一部 / 同 街区 42・43・44・45	H28/5/25 ~ 7/7	本		○	○	
	6	東前第二土地区画 43 街区 5・28・32・36・37・38・39・40 の一部	H28/7/12	立		○	○	
	7	東前第二土地区画 6-22 号線 (部分)	H28/12/25 ~ 1/7	本		○	○	
	8	東前第二土地区画 43 街区 9 / 同 6-17 号線 (部分)	H29/6/7 ~ 7/26	本		○	○	
	9	東前第二土地区画 43 街区 22 (部分)	H29/7/20 ~ 8/26	本	農業用倉庫建築	○	○	
9		東前第二土地区画 48 街区 6・7	H27/7/15	試	個人住宅建築	-	-	
10	1	東前第二土地区画 6-33 号線 (部分)	H28/8/19	試	土地区画整理事業	○	○	
	2		H28/11/10 ~ 12/28	本		○	○	水戸市教委 2017
11		東前町 2-42-2 ~ 4	H28/9/2	試	宅地造成	○	○	
12	1	東前第二土地区画 48 街区 8	H29/3/24	試	個人住宅建築	○	○	
	2		H29/5/11 ~ 6/2	本		○	○	
13	1	東前第二土地区画 6-25 号線	H29/3/24	試	土地区画整理事業	○	○	
	2		H29/8/18 ~ 30	本		○	○	
14	1	東前第二土地区画 44 街区 2・3・10・12・同 5 の一部	H29/12/15 ~ 19	試	土地区画整理事業	○	○	
	2		H30/7/3 ~ 8/17	本		○	○	本報告書
15	1		H29/12/15 ~ 21	試	土地区画整理事業	○	○	
	2	東前第二土地区画 6-23・24 号線	H30/6/27 ~ 9/19	本		○	○	
	3	東前第二土地区画 6-32 号線 (部分)	H30/7/27 ~ 9/19	本		○	○	本報告書
16		東前第二土地区画 53 街区 20	H29/12/21	試	個人住宅建築	○	○	
17	1	東前町 2-35・36・37・38	H30/3/7 ~ 14	試	店舗建設	○	○	
	2		H30/6/20 ~ 8/31	本	店舗建設	○	○	
18		東前第二土地区画 64 街区 15	H30/4/24	試	個人住宅建築	-	○	
19	1	東前第二土地区画 34 街区 7・10・11・15・18	H30/5/31	試	福祉施設建設	○	○	
20	1	東前第二土地区画 46 街区 4	H30/8/2	試	個人住宅建築	○	○	





凡例  
 アミ線表記地図：土地区画整理前  
 実線表記地図：土地区画整理後  
 一：東前原遺跡の範囲  
 ○数字：調査地点数  
 ■：調査次数

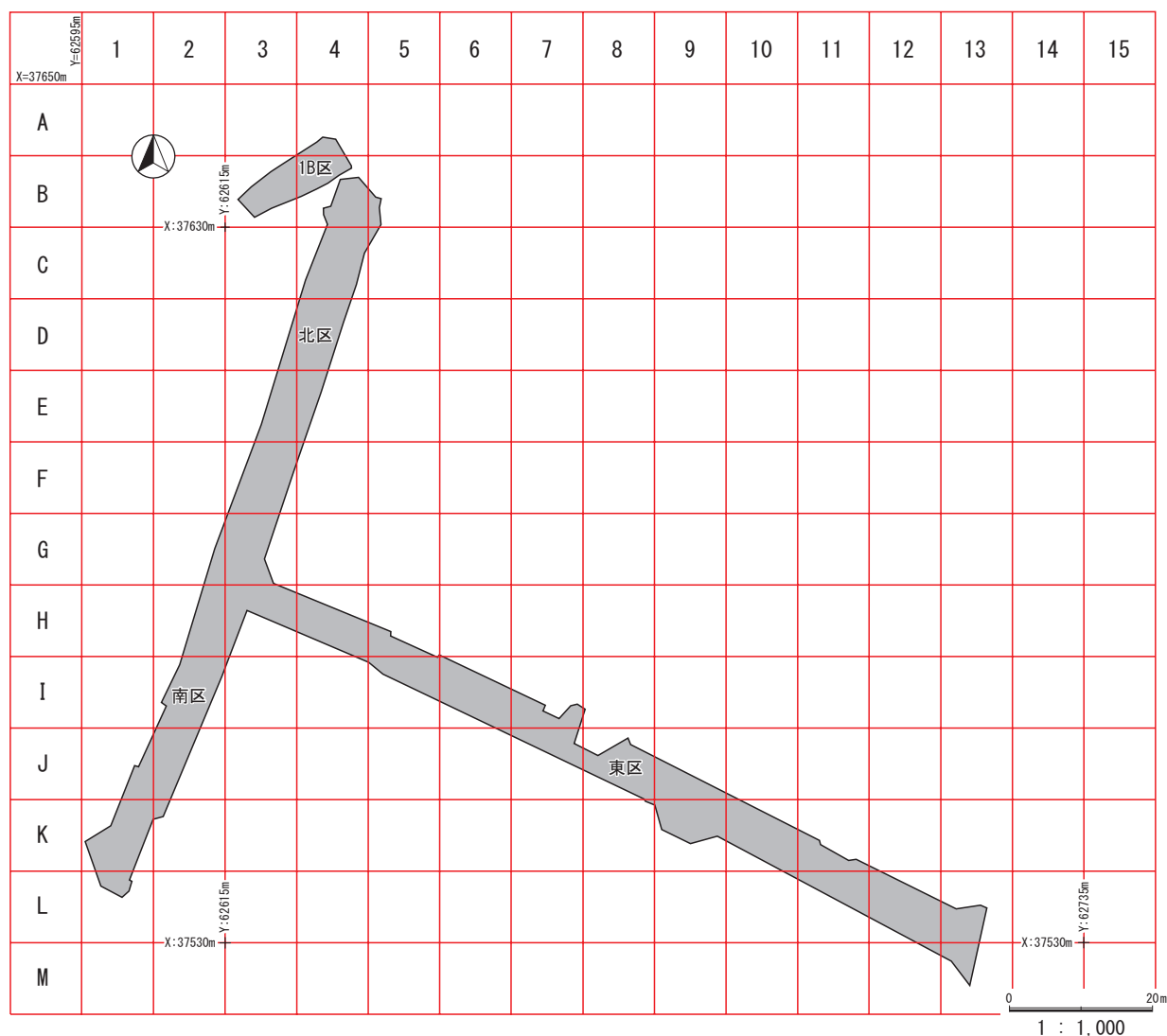
第3図 東前原遺跡既往調査遺跡地図

## 第2章 遺跡の地理的環境と歴史的環境

認められない時期もあるものの、弥生時代から奈良・平安時代にかけての集落跡であることが明らかになっている。

これらの調査成果のうち、注目すべきは第7地点、第8地点（第2～4次）にて検出された大規模な溝跡の存在である。その年代は、第8地点第2次では中世に下る可能性が指摘されており、第8地点第3次、同第4次では東西方向、第8地点第2次では南北方向に走ることが確認されており、第8地点第2次のものをおよそ東辺、第7地点のものを南辺、第8地点第3次、同第4次のものを北辺とすれば、おそらく方形を呈する区画溝であると考えられる。この溝は、断面が逆台形またはV字状を呈し、掘り直しが確認されている箇所もあり、2期に亘って利用されていることが明らかになっている。この区画溝が何を囲繞するかについては詳らかではないものの、第8地点第3次では、この区画内において10世紀代の堅穴建物跡や掘立柱建物跡が多数掘り込みあつて確認されている。溝跡の規模を積極的に評価すれば、区画内に大串遺跡例のように官衙関連施設の存在を指摘することができようが、溝跡自体や区画内施設の年代観をみる限りでは、なおも慎重な検討が必要であり、その成果が該当遺跡の性格を大きく左右するものとならう。

今次調査以前の評価に対し、第2地点第15次調査において大溝の想定位置ではなく、約40m北に大溝を確認した。大溝の軸線が西に振れていることから同一溝と判断した。しかし、区画については一様でないようである。開削時期については古代まで遡る可能性を指摘したい。



第4図 東前原遺跡グリッド設定図



第5図 東前原遺跡全体図



# 第3章 調査の方法と調査概要及び基本層序

## 第1節 調査の方法

発掘調査では基準杭より設定した座標を基準に、随所に基準点を設け、その既知点より光波測量器を使用して遺構図の作成、遺物取り上げなどの記録作業を行った。

掘削は搬出土の通路を確保するため北区北端から中央区に向かって、南区の南端から中央区に向かって、東区東端から中央区に向かって行った。遺構確認面までの深さは北区北端で60 cm、中央区で80 cm、南区北側で100 cm、東区東端で140 cm、東区中央で210 cmである。現地表面は標高18 mとほぼ平坦であるが、遺構確認面の状況から以前は中央区から東区中央付近が地形的に窪んでいたようである。廃土と遺構密度から遺構掘削の調査は南区、東区、北区の順に行った。

調査にあたっては重機を用いて表土・耕作土層の除去を行い、ソフトローム層（第Ⅲ層）上面を遺構確認面とした。遺構確認面からは人力により遺構確認精査及び攪乱の除去を行った。

遺構実測については、光波測量器で座標に従って行った。遺物は原則として遺構内出土遺物について層位ごとに取り上げ、重要なものは3次元で記録している。写真撮影はデジタルカメラ(1420万画素)を使用して適宜、記録撮影を行った。

## 第2節 調査の概要

今回の東前原遺跡の調査区は面積が1,466 m<sup>2</sup>であるが、計画道路路線にあたるため、南北110 m、東西122 mの範囲の遺跡の様相を確認することができた。

古代の遺構は竪穴建物跡11軒、掘立柱建物跡4棟、古代の規模の小さい南北方向に走る溝3条と大形溝1条を確認した。大形溝の規模は上端幅約3 m、深さ2 mで、北東から北西方向に走っている。また、古代の南北溝を掘り込んで上面八角形の井戸を確認した。規模は確認面で約2 m、深さは2 m迄確認しただけであるが、その位置で有段構造であることが判明した。

中世は溝跡8条確認した。そのうち、南区・東区・北区で大形溝を確認した。溝の規模は2条とも、上端幅約2 m、深さ1.8 m程で共に2時期ある。この大溝は規模や方向から一連の溝と判断される。南北約62 m、東西120 m以上の区画溝と判断される。北区には中世遺構が密集して確認された。地下式坑3基、井戸3基、粘土貼土坑を含む土坑21基（時期不明を含む）、掘立柱建物6棟ほか小穴を確認した。

近世から近代にかけては土坑16基、溝3条を確認した。

遺物は古代の須恵器・土師器・鉄製品・古銭・瓦が出土した。特筆すべきは皇朝十二銭の隆平永豊(796)や顎面施文三重弧文字瓦である。中世ではかわらけ、渥美・常滑の中世陶器、近世では唐津・瀬戸・美濃・相馬焼の陶器や肥前・瀬戸焼の時期が出土した。

## 第3節 調査日誌

6月 下旬 調査区の草刈り作業実施。調査用具準備。

6月27日(水) 重機搬入。重機による表土掘削開始。北区(1A区)。

・水戸市教育委員会新垣氏・廣松氏、水戸市都市計画部宮本氏・大串氏来跡。(状況視察・打ち合せ)

6月28日(木) 重機による表土掘削。遺構確認作業開始。仮設トイレ1台搬入。

・水戸市教育委員会関口氏・新垣氏、水戸市都市計画部宮本氏・大串氏来跡。(状況視察・打ち合せ)

### 第3章 調査の方法と調査概要及び基本層序

- 6月29日(金) 重機による表土掘削終了。北区(1A区)。遺構確認作業。安全対策。  
・水戸市教育委員会新垣氏, 水戸市都市計画部宮本氏・大串氏来跡。(状況視察・打ち合せ)
- 7月2日(月) 重機による表土掘削開始。北区(1B区)。遺構確認作業。安全対策。
- 7月3日(火) 重機による表土掘削。遺構確認作業。遺構調査開始。安全対策。周辺住民の方へ挨拶。  
・水戸市教育委員会新垣氏来跡。(状況視察・指導)
- 7月4日(水) 重機による表土掘削終了。(1B区)。遺構確認作業。遺構調査。SI 1~2, SK 1~2ほか。  
安全対策。
- 7月5日(木) 雨天のため発掘作業中止。(調査員は図面・写真整理。午後より安全対策)
- 7月6日(金) 雨天のため発掘作業中止。(調査員は図面・写真整理, 重機による碎石の除去への立ち会い)
- 7月7日(土) 重機による表土掘削開始。(南区)。
- 7月9日(月) 重機による表土掘削終了。(南区)。遺構確認作業。遺構調査。SI 1, SK27ほか安全対策。
- 7月10日(火) 重機による表土掘削開始。(東区)。遺構確認作業。遺構調査。SI 1~2, SK27, SB 1~2ほか。
- 7月11日(水) 重機による表土掘削。遺構調査。SI 1, SK 1・25・30ほか。安全対策。
- 7月12日(木) 重機による表土掘削。遺構確認作業。遺構調査。SI 1, SK25, SB 2ほか。安全対策。
- 7月13日(金) 重機による表土掘削。遺構調査。SI 1, SB 1~2。安全対策。  
・水戸市教育委員会新垣氏来跡。(状況視察・指導)
- 7月17日(火) 遺構確認作業。遺構調査。SI 1, SB 2, SK25・29~30。
- 7月18日(水) 遺構確認作業。遺構調査。SI 1~2, SB 1~2。安全対策。  
・水戸市教育委員会新垣氏来跡。(状況視察・指導・1B区終了確認)
- 7月19日(木) 遺構確認作業。遺構調査。SI 1, SD 1ほか。
- 7月20日(金) 重機による表土掘削。遺構確認作業。遺構調査。SI 1, SD 1, SE 1, SK26ほか。安全対策。
- 7月23日(月) 重機による表土掘削。遺構調査。SI 1, SD 1, SE 1, SK26ほか。安全対策。
- 7月24日(火) 重機による表土掘削終了。(東区)遺構確認作業。遺構調査。SI 1, SD 1, SE 1ほか。安全対策。
- 7月25日(水) 遺構確認作業。遺構調査。SI 1, SD 1, SE 1, SK26。安全対策。調査区の草刈り作業実施。
- 7月26日(木) 雨天のため発掘作業中止。(調査員は図面整理)
- 7月27日(金) 遺構確認作業。遺構調査。SI 1。高所作業車による1B区全景写真撮影。  
・水戸市教育委員会新垣氏・廣松氏来跡。(状況視察・指導)
- 7月30日(月) 重機による表土掘削。遺構確認作業。遺構調査。SI1, SK25。
- 7月31日(火) 北区(1B区)調査終了。重機による埋め戻し作業。(1B区)。遺構調査。SD 2, SK 3ほか。
- 8月2日(木) 遺構確認作業。遺構調査。SD 1~4, SK31ほか。安全対策。  
・水戸市教育委員会新垣氏来跡。(状況視察・指導)
- 8月3日(金) 遺構確認作業。遺構調査。SD 2~4, SB 3~4ほか。
- 8月4日(土) 重機による表土掘削開始。(北区北端アスファルト)。
- 8月6日(月) 遺構確認作業。遺構調査。SD 2~4, SB 3~4, SE 2。
- 8月7日(火) 遺構確認作業。安全対策。
- 8月9日(木) 雨天のため発掘作業中止。
- 8月10日(金) 遺構確認作業。遺構調査。SD 3~5, SE 2ほか。空撮のため遺構清掃。
- 8月11日(土) 東区及び南区空撮(天田安平商店黒岩氏・戸部氏)。安全対策。
- 8月16日(木) 遺構確認作業。遺構調査。SD 5, SK26, SE 2ほか。  
・水戸市教育委員会関口氏・新垣氏来跡。(状況視察・指導)
- 8月17日(金) 重機による表土掘削終了。(北区北端アスファルト)遺構確認作業。遺構調査。SI 3~4, SD 7,

SK32～36ほか。

- ・水戸市教育委員会宮本氏・矢ノ倉氏来跡。(状況視察)
- ・パリノ・サーヴェイ株式会社矢作氏来跡。(土壌サンプルの採取)

- 8月20日(月) 重機による表土掘削開始。(中央区)。遺構確認作業。遺構調査。SI 3～5, SK32～36ほか。安全対策。
- 8月21日(火) 重機による表土掘削終了。(中央区)。遺構確認作業。遺構調査。SI 3・5, SK32～37ほか。安全対策。
- ・水戸市教育委員会新垣氏来跡。(状況視察・指導・東区・南区終了確認)
- 8月22日(水) 遺構確認作業。遺構調査。SI 3～5, SD 7～8。
- 8月23日(木) 遺構確認作業。遺構調査。SI 3～5, SD 7, SK32～34ほか。東区・南区調査終了。
- ・水戸市教育委員会新垣氏・廣松氏来跡。(状況視察・指導)
- 8月24日(金) 遺構調査。SI 3～6, SD 7～8, SK 4～6・34ほか。
- 8月27日(月) 遺構調査。SI 3～5, SD 7～10, SK 4～6・35ほか。
- 8月28日(火) 遺構調査。SI 3～5・7, SD10・11, 集石遺構, SK 6ほか。
- 8月29日(水) 遺構調査。SI 3～5, SK 6・10・11・28ほか。
- 8月30日(木) 重機による表土掘削, 埋め戻し作業(生活用通路の移設)。遺構確認作業。遺構調査。SI 3～5, SD 6・11, SK 9～10・13ほか。安全対策。
- 8月31日(金) 遺構調査。SI 3・4, SD10・11, SF 1ほか。
- 9月3日(月) 遺構確認作業。遺構調査。SI 3・7・9～11, SD10・11, SK12～14ほか。
- 9月4日(火) 遺構調査。SI 3・7・9, SD10・11, SB 5～8, SF 1ほか。
- 9月5日(水) 遺構調査。SI 7・10, SK38～40, SB 5～9ほか。図面整理作業。安全対策。
- 9月6日(木) 遺構調査。SI 7・9, SK38～40, SB 5～9, P 1・4・6～9・12・13ほか。
- 9月7日(金) 遺構調査。SI 7・9, SK41, SB 5～9, P 2・10・11・15・16・20ほか。
- 9月10日(月) 雨天のため発掘作業中止。(調査員は図面・写真整理)
- 9月11日(火) 遺構調査。SI 7～12, SK41～43, P 13・18・23ほか。
- 9月12日(水) 遺構調査。SI 7～11, SD 6ほか。
- 9月13日(木) 遺構調査。SI 7～12, SK17～20・22～24・41・42ほか。
- ・水戸市教育委員会関口氏来跡。(広報用写真撮影のため)
- 9月14日(金) 遺構調査。SI 7～11, SK27ほか。空撮のため遺構清掃。北区及び遺跡全景空撮。(天田安平商店黒岩氏)
- ・水戸市教育委員会関口氏来跡。(終了確認)
- 9月18日(火) 遺構調査。SI 7・10・11, SK27・28ほか。
- 9月19日(水) 遺跡調査完了。SI 7, SK27ほか。仮設トイレ1台撤去。鋤簾等調査道具撤去。遺構ポイント釘抜き。現場撤退。
- ・水戸市教育委員会新垣氏来跡。(終了確認)

## 第4節 基本層序

基本層序は層序の状態が良い、東区の南壁面のA地点でI層からIV層まで、同じく東区の2号井戸跡の壁面をB地点でV層からIX層までを観察した。

I層は最上層を形成する層で場所によってA層の砂利整地層や表土、B層の耕作土、C層の盛土整地層や天地返し層である。さらにC層は耕作土を含めた土地利用のため、何度かの切上や盛土を確認した。時期的な変遷が考えられることから、I C層をさらにa・b・c層に細分した。

II A層は旧耕作土で黒褐色であるが、乾燥すると褐色になる。白色・黄色・褐色粒子を多く含む層で、北区や東区北側では転圧を受け固く締まっている。II B層は含まれている粒子は同じであるが比較的転圧を受けていない。

III層はA層が淡茶褐色で、褐色粒子を含むが粒子が細かく量も少ない。B層は黒色土で褐色粒子を微量に含み、黒色土自体非常に細かい。III B層は状態が良いと鍵層になる。古代の遺物包含層と考えられる。III層は現表土面からの壁面の土層で、断面に古代の遺構はIII B層まで立ち上がり確認される。III A層は中世以降の生活面と考えられるが不明瞭である。

IV層はA層が暗褐色土で白色粒子を僅かに含む。B層は黄褐色土で、A層に比べ黄褐色粒が多く黄色味が強い。IV層はいわゆるローム漸移層で場所によってA・B層に明瞭に分けられる場所と分けられない場所があり、また、層厚も違う。IV層は遺構確認面でA層上面では不明瞭で、B層上面で明瞭となる。

V層は赤黄褐色土で、ソフトロームに黄白色の七本桜軽石と赤色の今市軽石が混在している男体今市七本桜軽石層である。

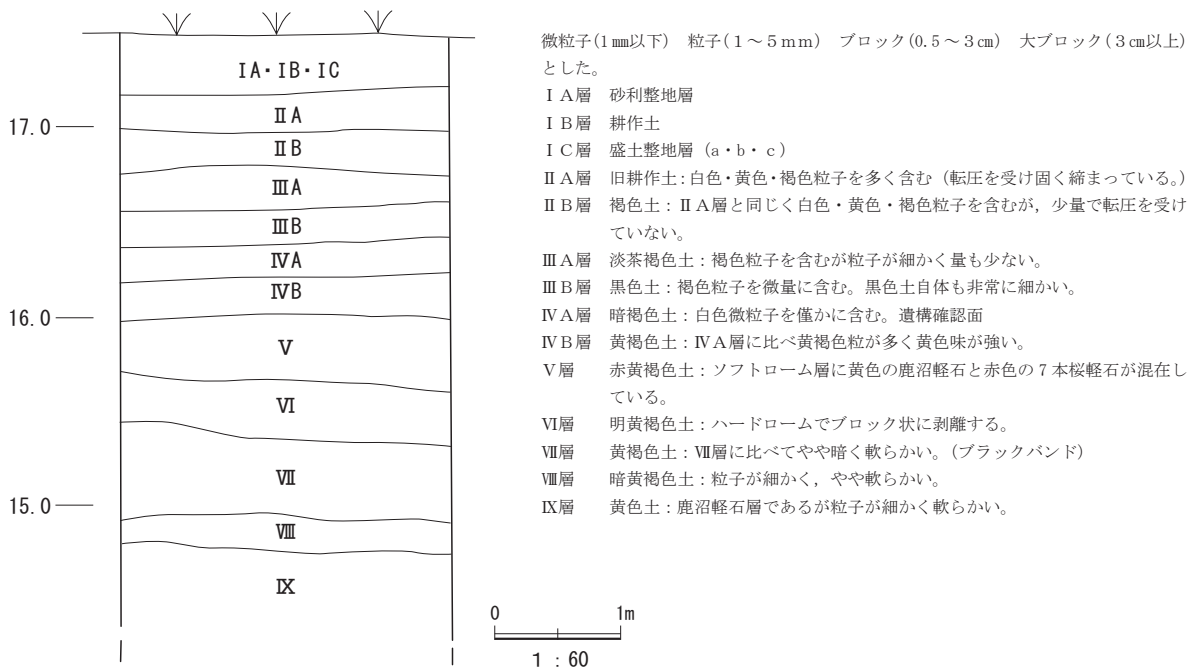
VI層は明黄褐色土のハードローム層でブロック状に剥離する。

VII層は黄褐色土でVIII層に比べてやや暗く軟らかい。

VIII層は暗黄褐色土で粒子が細かく軟らかい。

IX層は黄褐色の赤城鹿沼軽石層で上層はVIII層のロームと混じり細かく、下層は鹿沼軽石層単体で層状に堆積している。

基本層序が自然の状態を観察できるのは東区の南壁面だけで、他の地点は中世から近世の時期に大きく削平されたと考えられる。



第6図 基本土層図



## 第4章 遺構と遺物

### 第1節 古代の遺構と遺物

#### 1 竪穴建物跡

古代の竪穴建物跡は11軒確認した。全容が知れる竪穴建物跡は7号竪穴建物跡のみで他の竪穴建物跡の大半は調査区外に延びていた。また1・5号竪穴建物跡は既設の道路を跨いで調査したもので同一竪穴建物のため5号竪穴建物跡を欠番とした。さらに、大半が中世から近世・近代の遺構によって破壊されていた。

#### 第1号竪穴建物跡（第7～12図，PL 1～3・31・32）

**位置と重複** 北区調査区と拡張区のB4区に位置する。拡張区1号竪穴建物跡と北区北端で確認された5号竪穴建物跡が同一の竪穴建物と確認されたため、1号竪穴建物跡として報告する。また、拡張区の遺存状態は良かったが、北区北端は既設道路の基盤が床面まで及んでいたため、竪穴建物の平面形を確認した状態であった。北壁の竈付近が1・2号土坑に掘り込まれていた。

**平面形と規模** 平面形は正方形で、主軸はN-7°-W、規模は東西6.15m、南北6.0mである。

**壁** 壁はほぼ垂直に立ち上り、深さは確認面から北側で約60cm、南側で約20cmである。

**壁溝** 壁溝は南側で確認した。幅12～23cmで深さは10cm程である。掘方の可能性もある。

**床** 床面は北側で2面、南側で1面確認した。北側の上面を1次床面、下面を2次床面とする。1次床面は2次床面上に竈の残滓や焼土・ロームブロックを主体とし、10～15cm下方は荒く上方は固く構築している。南側は1次床面が削平され1次床面の構築土と2次床面を確認したのみである。

**柱穴** 柱穴はP1からP3を確認した。P1は上面に床面が貼られていることから2回の使用が考えられる。P2は同じ位置で抜きとり建て替えたと考えられる。P3は出入口に関連する柱穴と考えられ、2基の柱穴が切り合っていることから、2時期ある。

**竈** 竈は3基確認した。古い順に第1号竈、第2号竈、第3号竈とした。第1号竈は北壁の第2号竈の南に確認した。東側は調査区外で一部攪乱を受けている。上面は2時床面構築の際に削平され破壊されている状況であるが、両袖の粘土と中央の焼土の状況により竈と認定した。竈軸はN-11°-Eである。規模は東西75cm以上、南北60cm以上である。平面プラン上のaは袖部の粘土とその残骸、bは火床部の範囲、cは火床、dは袖部の先端の粘土とその残骸、eは焚口部、fは前庭部で掻き出した炭が散乱している状況と判断した。第2号竈は第1号竪穴建物跡を北側に拡張し構築されたものであるが、さらに次の改築のために両袖部が北壁の壁に沿って削り取られている。袖部が失われている。竈軸はN-20°-W、規模は壁際の構築粘土から130cm以上、壁外へは50cmである。竈の8層上面の高さは竪穴建物の1次床面と同じである。第3号竈は第1・2号竈の南西にあり、北壁から1m程内側に位置し、焚口部は調査区外にある。竈軸はN-19°-W、規模は東西146cm、南北146cm以上である。この竈は1次床面上にあり全体を砂質粘土で構築していた。竪穴建物の壁との関係を注意深く調査したが確認できなかった。竪穴建物のA-A'の土層の8層は砂質粘土で竈土層の1層の砂質粘土の位置と同じように確認された。現状では屋内竈と判断したい。焼土遺構は南側中央に南北に確認したもので竈の残滓を想定して調査したが、結果的には第1号竈から第2号竈構築の段階に改築し、埋め戻したと考えられる。

**掘方** 掘方は中央や壁側の周辺、小穴の周囲を不規則に5～20cm掘り下げている。

**覆土** 覆土は基本的に水平堆積している。竈周辺は竈の構築材に使用されていた土器類が散乱した状況が見られた。各層上面には締まった状況から層位ごとに転圧しながら埋め戻したと思われる。

**遺物出土状況** 遺物は土師器の坏3点、高台付皿1点、高台付坏1点、甕3点と須恵器の坏5点、高台付皿1



点, 蓋1点, 高台付盤1点, 甗3点を図化した。出土状況は1次貼床から6・14, 2次貼床から1・4・8・9・12・13が, 第3号竈から5・10・11・16・17・18が出土した。埋め戻した層からは殆ど出土していない。

## A-A'・B-B'

- 1 10YR 5/3 にぶい黄褐色: ローム粒子少量・ブロック微量, 黒色粒子微量, 明褐色土ブロック微量, 焼土ブロック極微量, 小礫極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 2 10YR 5/3 にぶい黄褐色: ローム粒子・ブロック微量, 明褐色粒子・ブロック微量, 焼土ブロック極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 3 10YR 5/3 にぶい黄褐色: ローム粒子・ブロック微量, 明褐色土ブロック微量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子微量・ブロック微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 4 10YR 4/4 褐色: ローム粒子・ブロック中量, 明褐色粒子極微量, 黒色粒子極微量, 焼土ブロック微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 5 10YR 4/3 にぶい黄褐色: ローム粒子・ブロック少量, 明褐色粒子極微量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子・ブロック少量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 6 10YR 5/6 黄褐色: 焼土粒子中量, 灰黄褐色粘土ブロック多量, 砂質粘土ブロック微量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 7 10YR 5/4 にぶい黄褐色: ローム粒子少量, 焼土粒子微量, 炭化物極微量, 灰黄褐色粘土ブロック多量, 縮まりあり, 粘性あり
- 8 10YR 5/4 にぶい黄褐色: ローム粒子少量, 黒褐色粒子少量, 焼土粒子・ブロック多量, 灰黄褐色粘土粒子少量, 縮まりなし, 粘性ややあり
- 9 10YR 5/4 にぶい黄褐色: 暗褐色粒子中量, 灰黄褐色粘土ブロック多量, 砂質粘土ブロック微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 10 10YR 5/3 にぶい黄褐色: 黒色粒子極微量, 焼土粒子・ブロック極微量, 灰黄褐色粘土ブロック多量, 縮まりあり, 粘性あり
- 11 10YR 4/4 褐色: ローム粒子・ブロック・大ブロック多量, 焼土粒子・ブロック少量, 砂質粘土ブロック少量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 12 10YR 4/4 褐色: ローム粒子・ブロック多量, 暗褐色粒子少量, 焼土粒子・ブロック微量, 炭化粒子・炭化物微量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 13 10YR 5/6 黄褐色: ローム粒子・ブロック多量, 褐色粒子極微量, 炭化粒子極微量, 砂質粘土ブロック多量, 縮まりあり, 粘性ややあり

## C-C'・D-D'・E-E', G-G'

- 1 10YR 2/3 黒褐色: ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子・ブロック少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子少量, 黒色粒子少量, 白色粒子・ブロック極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 3 10YR 4/4 褐色: ローム粒子・ブロック・大ブロック多量, 黒色粒子少量, 焼土粒子・ブロック微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 4 10YR 4/4 褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子・ブロック微量, 焼土粒子・ブロック少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 6 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子・ブロック微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 7 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 8 10YR 4/6 褐色: ローム粒子・ブロック多量, 暗褐色粒子中量, 縮まりあり(北側)・ややあり(南側), 粘性ややあり
- 9 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子中量, 焼土粒子・ブロック少量, 炭化物微量, 縮まりあり, 粘性ややあり

## 焼土遺構(D-D')

- 1 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子・ブロック少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり

- 2 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子少量, 黒色粒子少量, 白色粒子・ブロック極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり

## P1 H-H'

- 1 10YR 4/4 褐色: ローム粒子・ブロック多量, 鹿沼ブロック微量, 焼土粒子微量, 炭化物微量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 2 10YR 4/6 褐色: 鹿沼ブロック中量, 炭化物少量, 褐色粘土ブロック多量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 3 10YR 4/4 褐色: 鹿沼ブロック少量, 焼土粒子極微量, 炭化物極微量, 褐色粘土ブロック多量, 被熱粘土ブロック極微量, 縮まりなし, 粘性なし
- 4 10YR 4/6 褐色: 鹿沼粒子・ブロック中量, 炭化物少量, 褐色粘土ブロック多量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 5 10YR 4/4 褐色: 鹿沼粒子・ブロック・大ブロック(1~12cm)中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量, 褐色粘土ブロック多量, 縮まりなし, 粘性ややあり

## P2 I-I'

- 1 10YR 4/4 褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色土ブロック中量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子中量, 黒色粒子・ブロック微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 3 10YR 4/4 褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子・ブロック微量, 白色粒子中量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 4 10YR 4/4 褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子極微量, 白色粒子極微量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 5 10YR 4/6 褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 6 10YR 4/6 褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 7 10YR 4/4 褐色: ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 8 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子少量・ブロック微量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 9 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子・ブロック極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 10 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子・ブロック極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり

## P3 J-J'

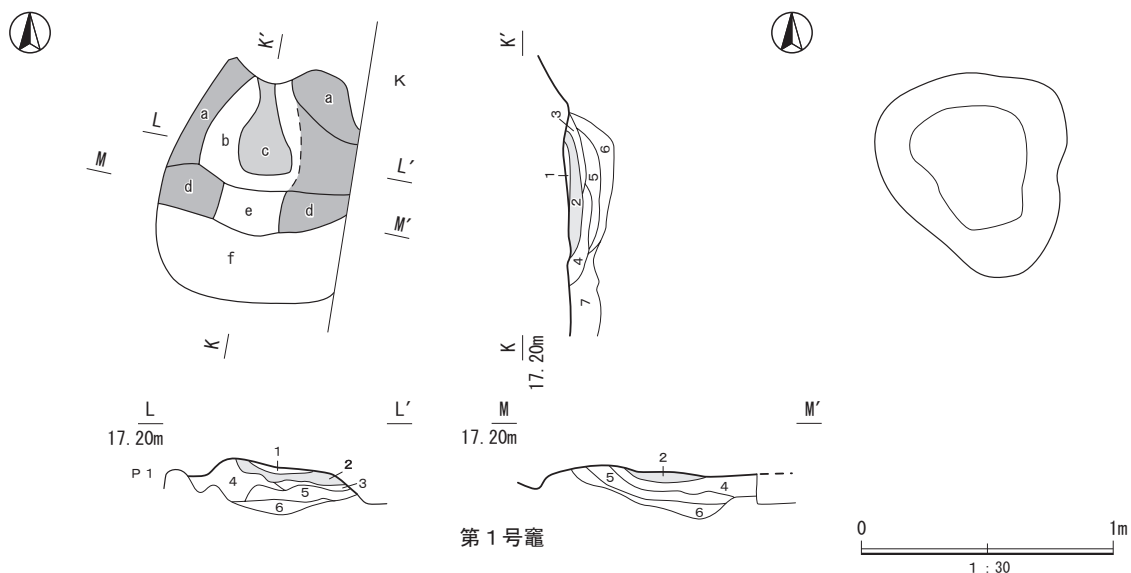
- 1 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子微量, 白色粒子極微量, 縮まりなし, 粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 5 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子極微量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 6 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子中量, 黒色粒子極微量, 白色粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 7 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子・ブロック中量, 縮まりややあり, 粘性ややあり

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏8点・高台付皿1点・甕143点, 須恵器の坏22点・高台付坏1点・高台付皿1点・蓋2点・鉢1点・甗3点・甕46点が出土した。その内19点を図化した。1~3は土師器の坏, 4は高台付皿, 11は高台付坏で, 1は底部から口縁に僅かに内湾して開き, 底部・体部下半回転ヘラ削り, 体部中頃から器壁が薄くなる。内面赤彩で2次被熱を受け器面荒れ, 白雲母を含む。2は底部から僅かに内湾して開き, 底部・体部下半回転ヘラ削り, 体部中位から器壁が薄くなり口縁部が肥厚する。内面黒色処理で2次被熱を受け器面

第4章 遺構と遺物

が荒れている。3は底部・体部下端から1/3が回転ヘラ削り、底部から僅かに内湾して開き口縁部が肥厚する。内外面赤彩で2次被熱を受け赤彩が剥離している。4は削り出し柱状高台で内面は浅く外傾し、外面は僅かに外反して開く。内面黒色処理。11の脚部は内側が内湾し、外側は端部が僅かに開く。5～10・12・13は須恵器で5は高台付皿、6～10は坏、12は蓋、13は高台付盤である。5は焼成時の歪みがあり、体部は浅く「ハ」の字に開く。高台外側は直立している。酸化焰焼成である。6は小形で逆台形の箱型の底部から直線的に立ち上がる。やや厚手。7も小形の逆台形の箱型で底部から僅かに内湾して立ち上がる。8は厚手の底部から僅かに内湾して開く。底部に切離し径がある。9は体部片で直線的に開き口縁部が僅かに外反する。10は底部突出しの底部から直線的に開き口縁部が外反する。底部内面中央が凸出する。12はツマミを欠くが厚めの体部から緩やかに下り、被せ縁で平坦になり長めの口唇が直下する。13は体部から底部片で高台は「ハ」の字に開き端部が肥厚する。14～16は土師器の甕で14は頸部から口縁部の小片で口唇部を摘み上げ外面に沈線がある。器厚が厚い。15も頸部から口縁部の小片で口唇部を上方に長く摘み上げている。器厚が薄い。16は底部片で内面ヨコナデ、外面縦ヘラ削りで綺麗な作りである。17・18は須恵器の甕で17はバケツ型の甕で2～3cmの粘土紐を13～15段積み上げて内外面横ヘラナデ仕上げをしている。内外面には輪積痕が残る。外面には把手の取付位置を決めるための沈線がある。把手は手捻りで鍵型に作り先端を上に向け貼付けている。取付位置には補助粘土、内面には押圧した指紋が残っている。底部の蒸気孔は不明、3.5cmの欠損痕から多孔式である。18は把手から上半部片で口唇部がT字状になっている。3cm程の粘土紐を巻き上げ内外面ヨコナデ仕上げである。外面には把手の取付位置の沈線がある。把手は手捻りで断面が角状になっている。接合は器面に押圧し把手の周囲には補助粘土、内面には指の押圧指紋が残る。把手の上面が平坦になっているのは押圧のためとも見られる。胎土はやや砂質で酸化焰焼成のため灰白色をしている。

所見 本竪穴建物跡の平面形は1基を確認したが床面は2次期、竈は3基確認した。第1号竈の時期から第2



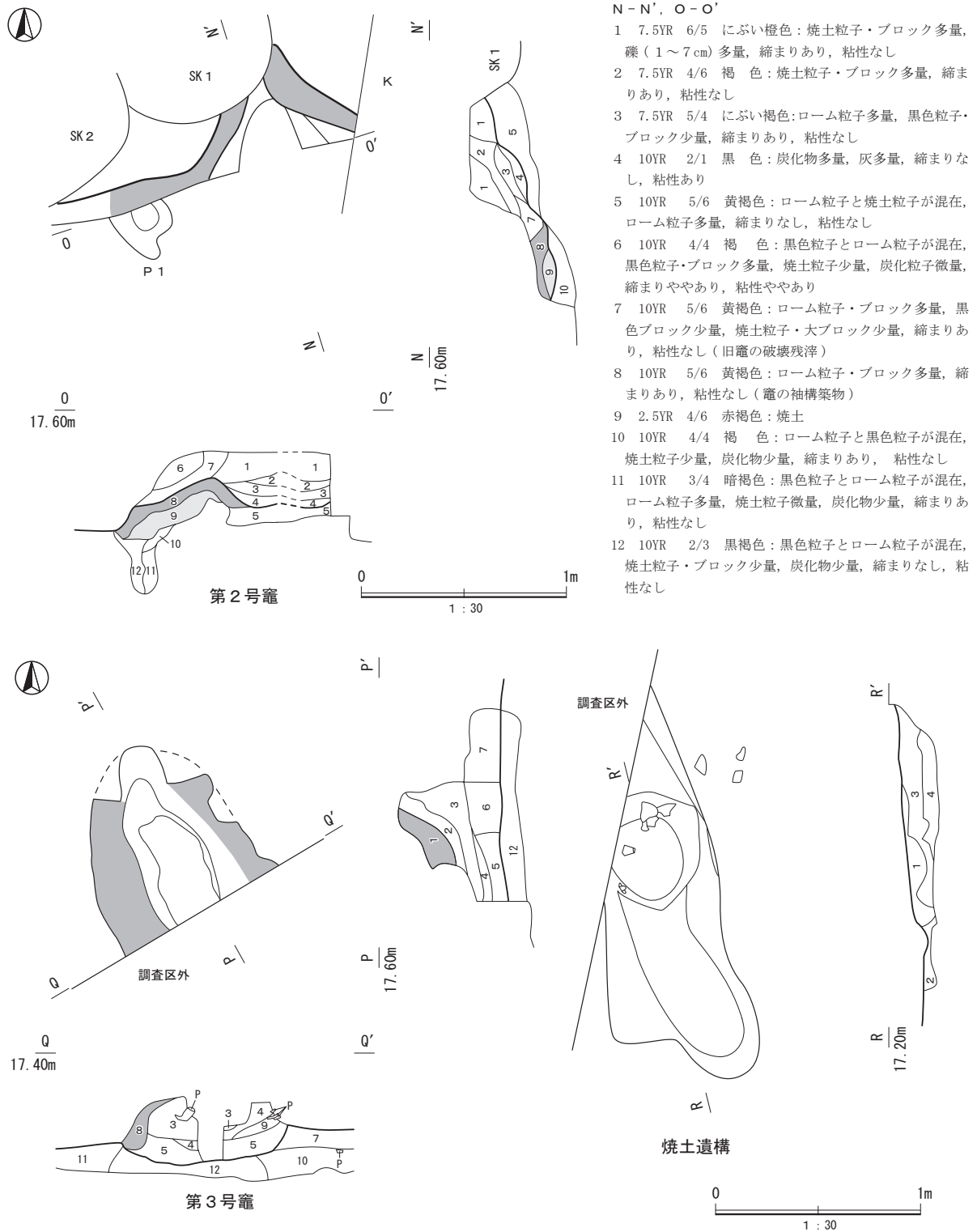
K-K', L-L', M-M'

- 1 10YR 7/4 にぶい黄橙色：焼土粒子多量，炭化物微量，灰少量，締まりあり，粘性なし
- 2 5YR 4/8 赤褐色：焼土ブロック微量，灰少量，締まりあり，粘性なし
- 3 7.5YR 5/4 にぶい褐色：焼土ブロック微量，上層に灰多量，下層に炭化物多量，粘土ブロック微量，締まりなし，粘性なし
- 4 10YR 6/6 明黄褐色：粘土粒子・ブロック多量，焼土粒子極微量，炭化物極微量，粘土ブロック中量，締まりあり，粘性あり

- 5 7.5YR 4/4 褐色：黒色粒子微量，焼土ブロック微量，炭化粒子微量，締まりあり，粘性なし
- 6 10YR 4/6 褐色：砂質土主体，ブロック中量，締まりあり，粘性ややあり
- 7 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，焼土粒子微量，締まりなし，粘性なし（灰が混ざった床面構築土）

第8図 第1号竪穴建物跡実測図(2)

号竈の時期に床面は共有し拡張したと推定され、本竈穴建物跡はこの時期の平面形であろう。第3号竈は第2号竈を壁迄掘削し屋内竈としたと推定される。3基の竈穴建物が重複していたことを確認した。本竈穴建物からは第3号竈の構築材として甑は出土していることが特徴であろう。出土遺物は8世紀後半から9世紀後半までが含まれている。3時期に分別できる。居住時期も建替えや竈の改築を行いながら、8世紀第2四半期～9世紀第4四半期まで長期間使用されたと推定される。



第9図 第1号竈穴建物跡実測図(3)

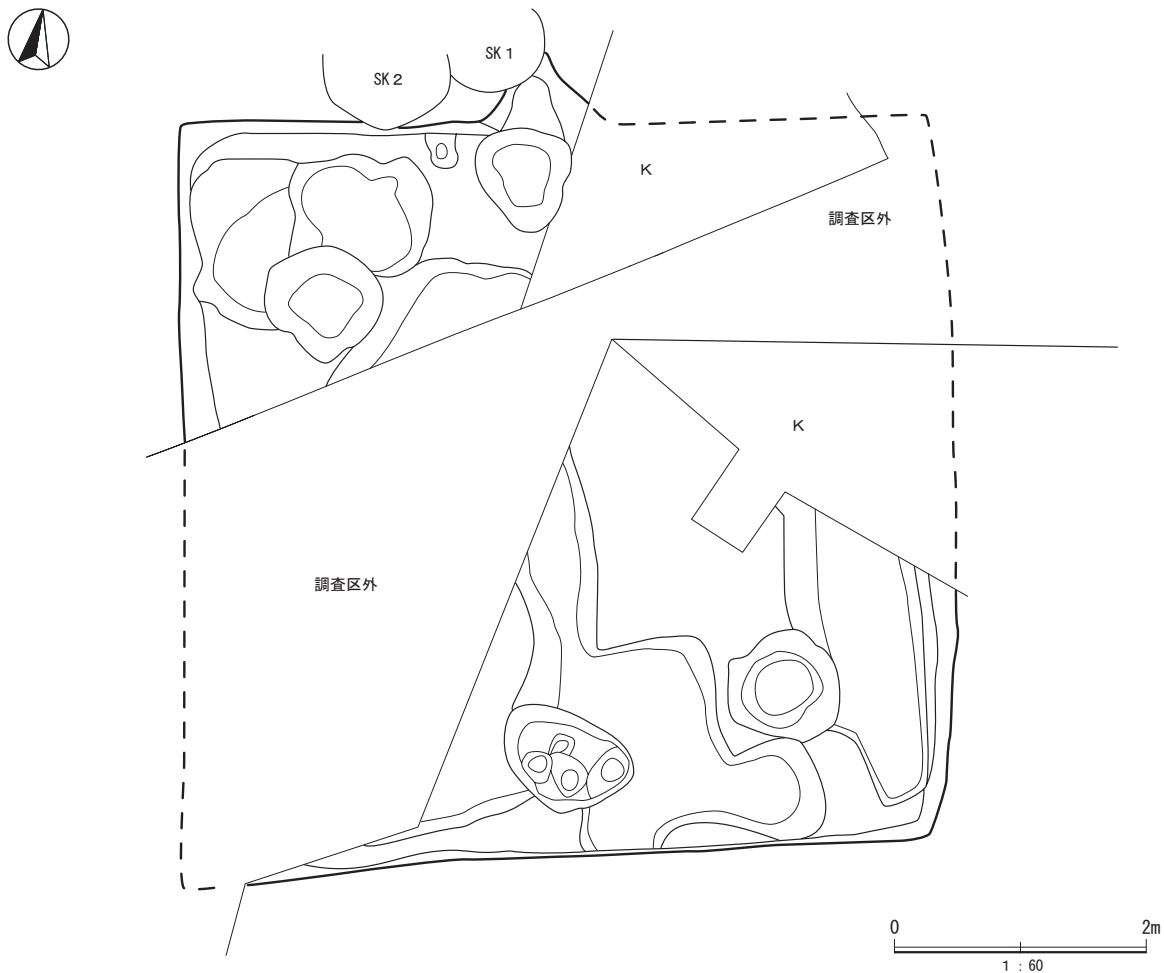
# 第4章 遺構と遺物

## P-P', Q-Q'

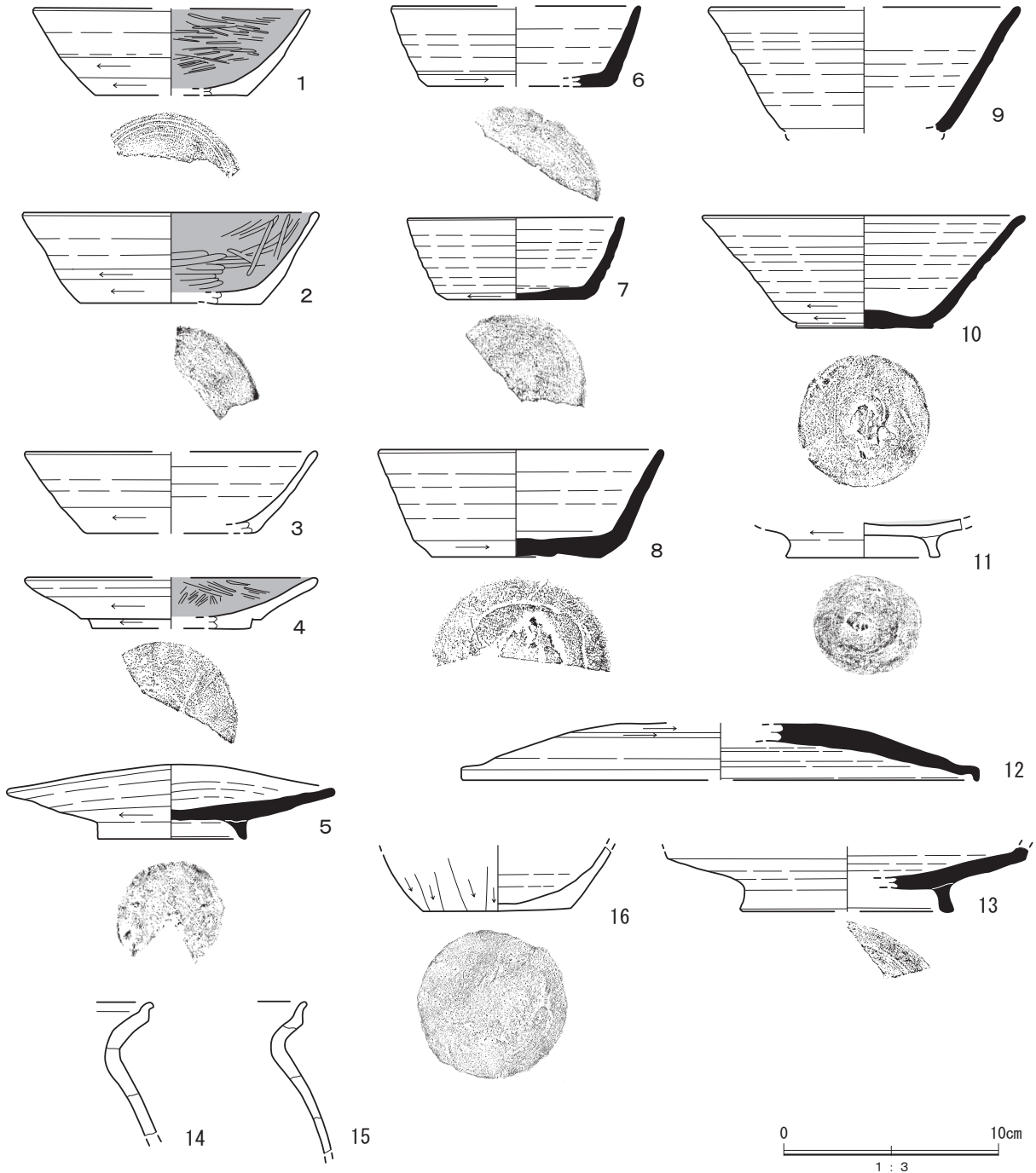
- 1 10YR 4/6 褐色：砂質粘土粒子・ブロック多量， 黒色粒子少量（被熱している）， 焼土粒子少量， 縮まりあり， 粘性なし
- 2 10YR 4/4 褐色：ローム粒子多量， 焼土粒子・ブロック多量， 縮まりあり， 粘性なし
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量， 焼土粒子・ブロック少量， 縮まりあり， 粘性なし
- 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量， 焼土粒子少量， 縮まりあり， 粘性なし
- 5 10YR 4/4 褐色：ローム粒子多量， 焼土粒子多量， 炭化物少量， 縮まりなし， 粘性なし
- 6 10YR 4/4 褐色：ローム粒子多量， 焼土粒子少量， 炭化物少量， 縮まりあり， 粘性なし（構築土）
- 7 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・大ブロック多量， 縮まりあり， 粘性なし
- 8 10YR 5/8 黄褐色：砂質粘土粒子・ブロック多量， 縮まりあり， 粘性あり
- 9 10YR 4/4 褐色：ローム粒子中量， 炭化物少量， 縮まりあり， 粘性あり
- 10 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量， 縮まりあり， 粘性あり
- 11 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量
- 12 10YR 4/6 褐色：ローム粒子多量， 黒色粒子少量， 縮まりなし， 粘性なし

## 焼土遺構掘方 R-R'

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量， 黒色粒子・ブロック少量， 焼土粒子・ブロック多量， 粘土ブロック少量， 縮まりややあり， 粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量， 焼土粒子・ブロック少量， 縮まりややあり， 粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量， 黒色粒子微量， 焼土粒子・ブロック多量， 粘土ブロック微量， 縮まりややあり， 粘性ややあり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量， 黒色粒子微量， 焼土粒子・ブロック少量， 縮まりややあり， 粘性ややあり



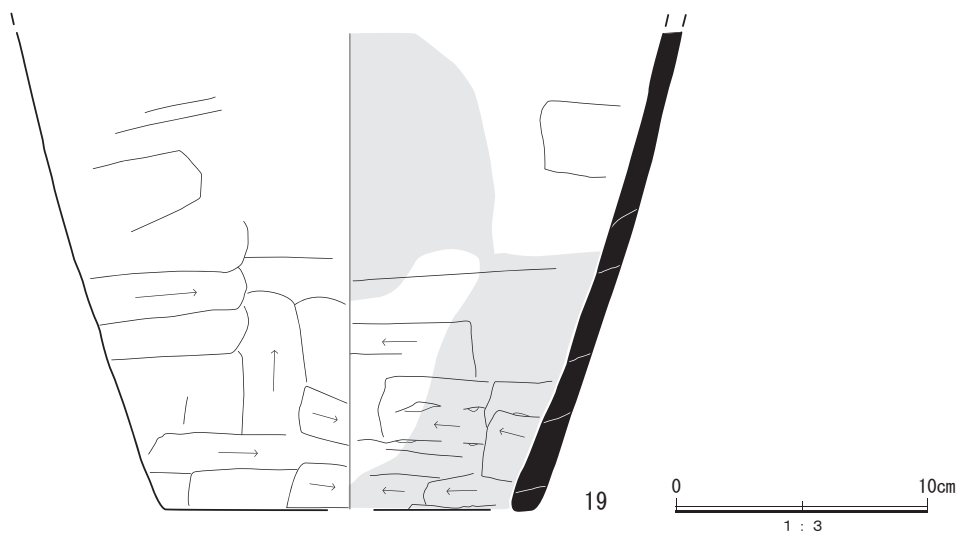
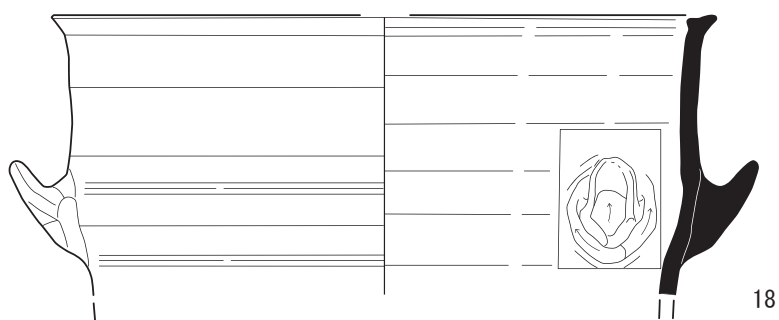
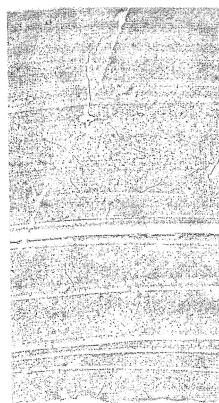
第10図 第1号竪穴建物跡実測図（4）



第11図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

第3表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	坏	[12.6]	—	(3.9)	(39.0)	7.5YR6/6 橙	石英・長石粒 微量, 白雲母 微量	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部へら削り, 内面赤彩, 内面使用痕, 体部中位迄へら削り, 2次被熱痕	No. 17 + 竈火床 部上 30%	在地B 8世紀後半
2	土師器	坏	[13.5]	[8.4]	4.35	(30.0)	5YR7/6 橙色	石英・長石粒 微量	不良	輪積成形後ロクロ整形, 底部へら削り, 内面黒色処理, ミガキ雑, 内底面使用痕, 器面荒れ, 2次被熱	竈火床上 20%	在地C 8世紀後半
3	土師器	坏	[13.5]	[8.0]	3.8	(17.0)	7.5YR7/6 橙	石英・長石粒 微量・赤色粒子	普	輪積成形後ロクロ整形, 体部下半1/3迄へら削り, 内外面赤彩, 外面黒斑, 2次被熱	竈内 5%	在地C 8世紀後半



第12図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)



第1節 古代の遺構と遺物

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
4	土師器	高台付皿	[13.2]	[7.3]	[2.3]	(61.0)	7.5YR7/6 橙色	石英・長石粒微量, 赤色粒子, 白雲母微量	良	輪積成形後ロクロ整形, 柱状高台(削り出し高台), 底部回転ヘラ削り, 内面黒色処理	No.22 + 23 貼床下 40%	在地B 9世紀前半
5	須恵器	高台付皿	15.0	6.8	3.4	(144.0)	5YR5/3 にぶい 赤褐	石英粒微量, 長石粒多量, 白色粒子・針状鉱物中量	普	輪積成形後ロクロ整形, 口縁が歪む, ヘラ記号「土」	No.19 + 61 + 竈 50%	木葉下窯跡群 9世紀前半
6	須恵器	杯	[11.4]	[8.3]	3.7	(48.0)	5Y6/1 灰	石英・長石粒微量, 長石砂粒少量, 白色粒子・針状鉱物少量	普	輪積成形後ロクロ整形, ロクロ目4段, 底部ヘラ削り後回転ナデ	No.11 30%	堀ノ内窯跡群カ 8世紀第3四半期
7	須恵器	杯	[9.8]	6.4	3.8	(34.0)	2.5YR6/2 灰黄	石英・長石・針状鉱物中量	普	輪積成形後ロクロ整形, ロクロ目8段, 底部回転ヘラ削り, 内底面指ナデ	一括 30%	木葉下窯跡群 8世紀第4四半期
8	須恵器	杯	[13.0]	9.9 (7.8)	5.0	(99.0)	5YR6/1 灰	石英粒少量, 石英粒・砂粒多量, 針状鉱物多量・白色粒子多量	普	輪積成形後ロクロ整形, ロクロ目5段, 回転ヘラ掘り込み後軽いナデ(花弁状), 外面自然釉付着	No.5・13 40%	木葉下窯跡群カ 9世紀第1四半期
9	須恵器	杯	[14.2]	—	(5.4)	(32.0)	2.5YR6/1 黄灰	石英粒中量, 長石粒多量, 針状鉱物多量	普	輪積成形後ロクロ整形, ロクロ目9段, 底部欠	No.16 20%	木葉下窯跡群 9世紀第1四半期
10	須恵器	杯	[14.8]	6.2	5.2	(82.0)	2.5YR6/2 灰黄	石英粒中量, 長石粒多量, 針状鉱物多量	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部ヘラ切後ナデ(中心切)ロクロ目10段, 底部突き出し・ヘラ記号「二」	No.25・78 40%	木葉下窯跡群 9世紀第1四半期
11	土師器	高台付杯	—	7.1	(1.7)	(61.0)	7.5YR7/6 橙色	石英・長石粒微量, 褐色粒子少量, 白雲母微量	普	輪積成形後ロクロ整形, 付高台内面赤彩, ヘラ磨き一方向	No.29 25%	在地C 9世紀前半
12	須恵器	蓋	[23.8]	—	(2.6)	(105.0)	7.5Y5/1 灰	長石・石英粒少量, 長石粒・砂粒多量, 白色粒子・針状鉱物多量	普	輪積成形後ロクロ整形, 天井部3段削り, 被せ縁が平坦になり長めの口唇が直下する	No.3・14・貼床下 20%	木葉下窯跡群 8世紀第4四半期
13	須恵器	高台付盤	—	[9.6]	(2.9)	(47.0)	5Y5/1 灰	石英中量, 長石粒・砂粒多量, 針状鉱物多量・白色粒子	普	輪積成形後ロクロ整形, 付高台, 内面使用痕で光沢がある	No.6 20%	木葉下窯跡群 8世紀後半
14	土師器	甕	—	—	(6.2)	(46.0)	10YR6/4 にぶい 黄橙	石英粒少量, 長石粒中量, 白雲母粒微細中量, やや粘土質	普	輪積成形後口縁部内外面ヨコナデ	No.34 5%	在地B 9世紀前半
15	土師器	甕	—	—	(7.0)	(34.0)	10YR6/4 にぶい 黄橙	長石・石英粒微量, 長石粒中量・白雲母粒中量	普	輪積成形後口縁部内外面ヨコナデ	竈 5%	在地B 8世紀後半
16	土師器	甕	—	(6.8)	(3.0)	(89.0)	7.5YR6/6 橙	石英・長石粒少量, 粘土質	普	輪積成形後内面ヨコナデ, 外面縦ヘラ削り, 底部外面ヘラナデ	No.47 10%	在地C 8世紀後半
17	須恵器	甕	[31.0]	[16.5]	29.2	(814.0)	N50 灰	石英粒中量, 長石粒・砂粒多量, 針状鉱物多量, 小礫	普	輪積成形後ロクロ整形, 体部下端は内面はヨコナデ, 外面は縦ナデ下端はヨコナデ, 外面尾把手取付位置に目印の沈線を入れている。把手は外面に指ナデ貼付け, 底部は多孔式4孔か	No.3・4・56・57・58 30%	木葉下窯跡群 9世紀前半
18	須恵器	甕	[26.1]	—	(10.0)	(179.0)	2.5YR8/1 灰	石英粒少量, 長石粒中量	普	輪積成形後ロクロ整形, 把手は外面に指ナデ貼付け, 内面が窪む	No.6 5%	木葉下窯跡群カ 9世紀後半
19	須恵器	甕	—	[14.4]	(18.9)	(286.0)	10YR7/4 にぶい 黄橙	長石・石英・白雲母微粒	普	輪積成形後ロクロ整形, 内外面ヘラナデ, 酸化焰焼成, 底部は多孔式4孔か	竈No.2 10%	在地B 9世紀前半

第2号竪穴建物跡 (第13図, PL 3・32)

**位置と重複** 拡張区の西側で確認したものでB3地区に位置し, 竪穴建物の東壁と南壁一部を確認した。北東隅は第2号掘立柱建物跡-P3に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は方形と推定される。主軸はN-0°で, 規模は東西1.8m以上, 南北3.05m以上である。

**壁** 壁は外傾して立ち上がる。壁高は確認面からは50cmであるが, 現地表面の層序からの覆土の状況からは100cmである。

**壁溝** 明瞭な壁溝はない。

**床** 床は1面でローム直床である。

**柱穴** 明確な柱穴は確認できなかった。

**竈** 竈は東の調査区外の北壁にあると推定される。

第4章 遺構と遺物

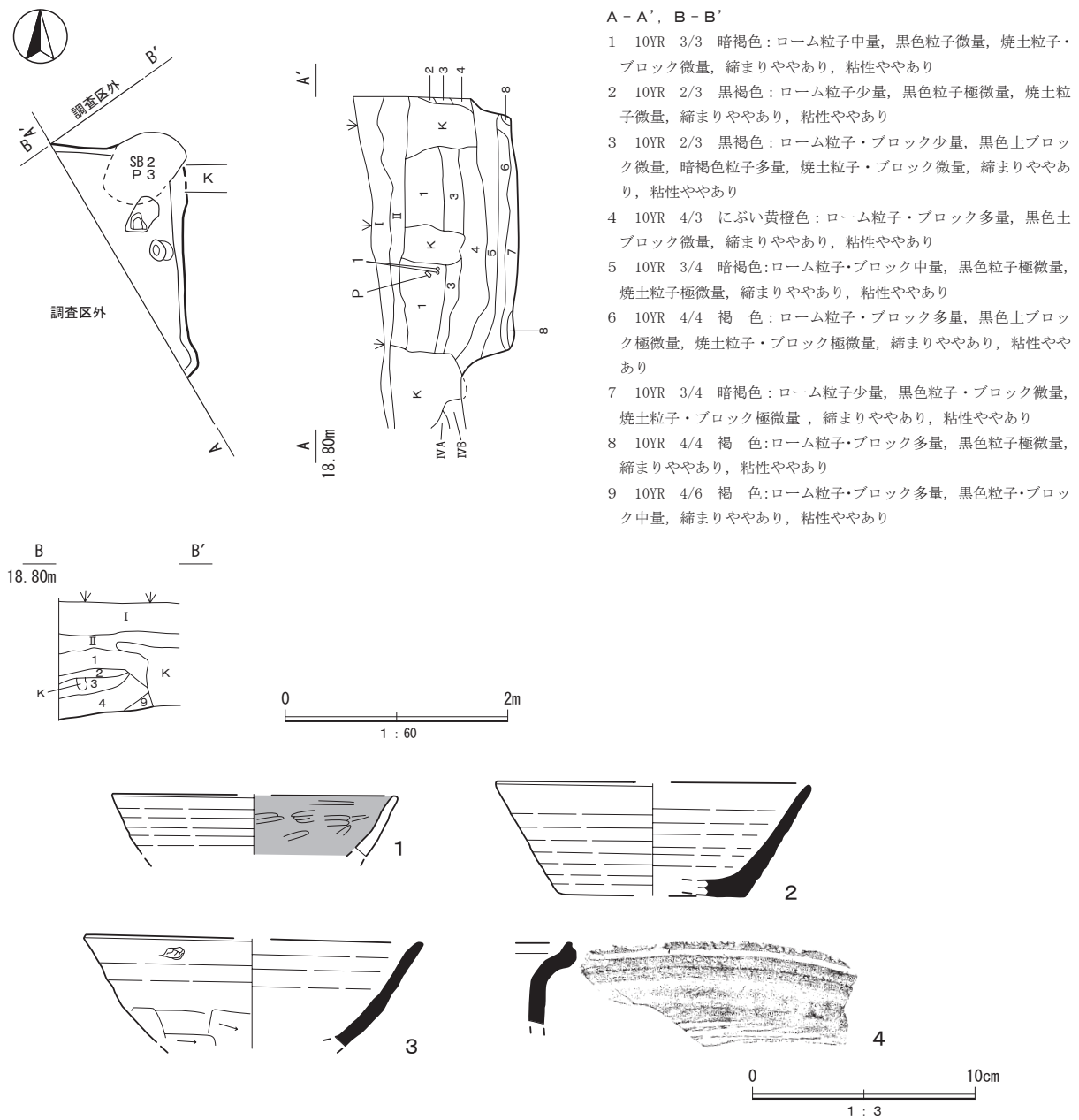
**掘方** ローム直床で貼り床はない。

**覆土** 黒色粒子・ブロックとローム粒子・ブロックを多量に混入した土を交互に埋め戻している。

**遺物出土状況** 遺物は1・4層と6層のロームブロックを多量に含んだ層から主体的に出土した。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏1点・甕2点、須恵器の坏6点・鉢1点・甑1点が出土した。その内4点を図化した。1は土師器の坏、2・3は須恵器の坏、4は須恵器の鉢である。1は胎土に白雲母・針状鉱物含み、ロクロ目が細かく内面を黒色処理している。2は底部から口縁に向かって器壁が薄くなり直線的に外傾し、ロクロ目が細かい。3は胎土に長石粒・雲母を多量に含み、底部を欠くが体部が内湾気味に開き体部下半を横へら削りしている。4は外面に板目叩きがあり、口唇部にへら状工具を当てて摘み上げている。

**所見** 本跡は埋め戻された竪穴建物で、ローム粒子・ブロックを多量に含んだ層と黒色土主体の層が交互に埋



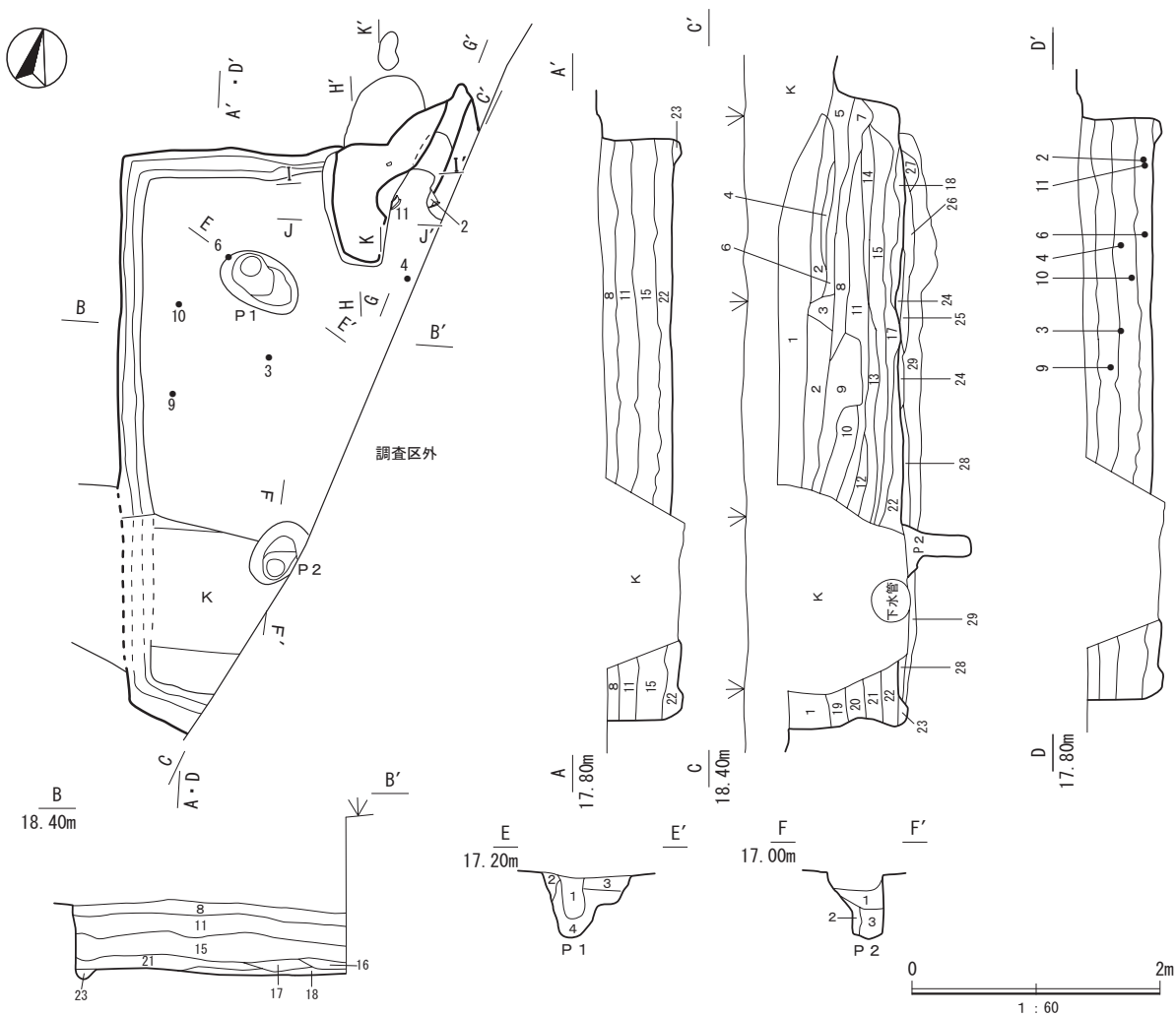
め戻され、その中のローム粒・ブロックが多量に含まれた層から出土した。三和産の須恵器を共伴している。遺物は8世紀後半から9世紀後半まで含まれているが、居住時期は9世紀第1四半期～第3四半期であろう。

第4表 第2号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	坏	[12.6]	—	(2.6)	(12.0)	7.5YR5/4 にぶい 褐色	石英・長石微 細微量, 白雲 母微細微量, 針状鉱物微量	普	輪積成形後ロクロ整形, 内面荒いヨコナデ, 内面黒色処理	西壁土層1層 5%	在地B 8世紀第3四半期
2	須恵器	坏	[14.0]	[8.2]	5.0	(26.0)	2.5YR7/2 灰黄色	石英・長石・ 針状鉱物中量	普	輪積成形後ロクロ成形(9段), 底部ヘラナデ	土層4層 10%	木葉下竈跡群 8世紀第3四半期
3	須恵器	坏	[15.0]	—	(4.7)	(40.0)	10YR4/1 褐灰色	石英・長石・ 白色粒子多量	普	輪積成形後ロクロ成形, 体部下半が横ヘラ削り	土層4層 20%	三和竈跡群 8世紀第4四半期
4	須恵器	鉢	[30.8]	—	(3.6)	(49.0)	N4/10 灰色	石英・長石・ 白雲母粒多量	普	輪積成形後ロクロ整形, 体部外面板目叩き	土層6層 5%	新治竈跡群 8世紀後半

第3号竪穴建物跡 (第14～16図, PL 3・4・33)

位置と重複 B・C-4・5地区に位置し、第1号竪穴建物跡の南東にあり、東壁が調査区外にある。また、南側の3分の1が東西方向に走る現代の排水管により破壊されている。



第14図 第3号竪穴建物跡実測図(1)

## 第4章 遺構と遺物

### A-A', B-B', C-C', D-D'

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子極微量，褐色粒子極微量，灰白色土ブロック極微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子・ブロック極微量，褐色粒子微量，白色粒子微量，焼土粒子・ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，褐色粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量，褐色粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，焼土粒子・ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量，褐色粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 7 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，黒色粒子極微量，褐色粒子極微量，白色土ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 8 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子極微量，褐色粒子極微量，縮まりなし，粘性ややあり
- 9 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，褐色粒子極微量，炭化物極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 10 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，黒色粒子極微量，褐色粒子極微量，白色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 11 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量・大ブロック極微量，黒色粒子・ブロック微量，褐色粒子微量，焼土粒子・ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 12 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，縮まりなし，粘性ややあり
- 13 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子少量，褐色粒子極微量，白色粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 14 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，焼土粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 15 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，黒色土褐色土極微量，焼土ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり（A・Bラインの3層）
- 16 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量，黒色土ブロック極微量，焼土ブロック微量，粘土ブロック中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 17 10YR 4/3 にぶい黄褐色：焼土粒子少量，炭化物少量，砂質粘土少量，縮まりあり，粘性なし（竈掻き出し土）
- 18 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子極微量，焼土ブロック極微量，粘土ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 19 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子極微量，褐色粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 20 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，黒色土ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり

- 21 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量・ブロック微量，褐色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 22 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量・ブロック微量，黒色粒子極微量，焼土粒子極微量，粘土ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 23 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりなし，粘性ややあり
- 24 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，焼土粒子少量，炭化物少量，炭化物少量，黄灰白色粘土ブロック多量，縮まりあり，粘性あり
- 25 10YR 5/4 にぶい黄褐色：粘土粒子・ブロック多量，ローム粒子・ブロック中量，焼土粒子・ブロック少量，くすんだ焼土ブロック微量，炭化粒子微量縮まりあり，粘性あり
- 26 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック中量，焼土粒子・ブロック中量，炭化粒子・炭化物少量，淡黄色粘土ブロック多量，縮まりあり，粘性あり
- 27 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，焼土粒子多量，炭化粒子・炭化物多量，淡黄色粘土ブロック微量，縮まりなし，粘性ややあり
- 28 10YR 4/6 褐色：ローム主体，ローム粒子多量，炭化物微量，淡黄色粘土ブロック極微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 29 10YR 4/4 褐色：ローム主体，ブロック・大ブロック多量，焼土粒子・ブロック中量，炭化粒子・炭化物少量，鹿沼土ブロック極微量・鹿沼土大ブロック中量，縮まりなし，粘性ややあり

### P1 E-E'

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子・ブロック中量，褐色粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子少量，褐色粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子少量，褐色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，褐色粒子極微量，縮まりあり，粘性ややあり

### P2 F-F'

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性なし
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，黒色粒子少量，鹿沼土ブロック少量，縮まりなし，粘性なし

**平面形と規模** 平面形は方形と推定され，主軸はN-9°-W，規模は東西2.9m以上，南北4.7mである。

**壁** 壁は垂直に立ち上がり，深さは確認面から63cmであるが，東壁の土層断面では100cm確認できる。

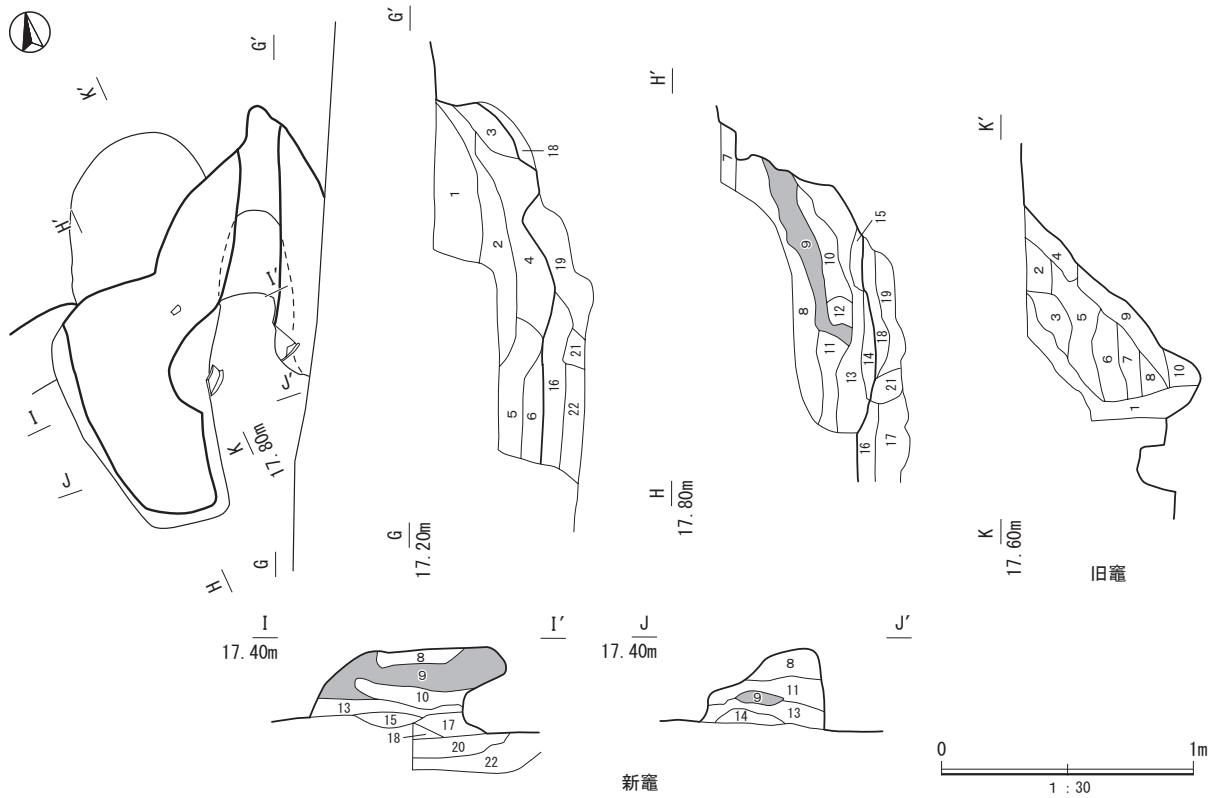
**壁溝** 壁溝は竈の部分を除き確認しているため全周していると推定される。規模は幅15～30cm，深さは10cm程である。

**床** 貼り床の厚さは薄く平坦で硬く締まっている。

**柱穴** 柱穴は北東隅のP1と南東隅のP2を確認した。P2は一部攪乱を受けている。建替えはなく，P1・2とも竪穴建物跡の中心に向かって楕円形になっている。P1の3層の土層線では明瞭でないが，P2の1層から判断すると柱が中心に向かって倒され抜き取られた結果と判断される。

**竈** 竈は造り替えている。旧竈の主軸はN-12°-Wで水平に層状に埋め戻し1層のローム粒子・ブロック・黒色土・焼土粒子を含む土で下部を覆うように調整している。新竈は東袖が調査区外にある。新竈軸はN-10°-Wで旧竈より2度東に寄っている。調査過程では竈中央に掛孔が確認された。竈は火床部分を16cm程掘下げてローム粒子・ブロック・焼土粒子を含む土で叩き締めず構築している。H-H'・I-I'は竈西袖の土層であるが9層の粘土主体の土を芯として焼土粒子・ブロックを混入して袖部を構築している。袖部は壁から100cm，室外に120cm張出している。

**掘方** 掘方は竈前庭部の周辺は竈構築のため15cm程掘下げているが，他の部分は数センチ程で平坦にしたロー



H-H', I-I', J-J' (新竈)

- 1 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子少量, 焼土粒子・ブロック少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子中量, 焼土粒子・ブロック少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子・ブロック微量, 粘土ブロック微量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 5 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 6 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子・ブロック微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 7 10YR 4/4 褐色:ローム粒子中量, 黒色粒子微量, 焼土粒子・ブロック少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 8 10YR 4/4 褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子中量, 焼土粒子少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 9 10YR 6/6 明黄褐色:粘土粒子・ブロック多量, ローム粒子少量, 黒色粒子・ブロック極微量, 焼土粒子・ブロック極微量, 縮まりあり, 粘性あり
- 10 10YR 4/4 褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子・ブロック中量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 11 10YR 4/4 褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子・ブロック中量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 12 10YR 4/4 褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子・ブロック中量, 白色粘土ブロック多量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 13 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子・ブロック多量, 白色粘土ブロック微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 14 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 15 10YR 4/6 褐色:ローム粒子と黒色粒子が混在, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 16 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子少量, 粘土ブロック微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 17 10YR 4/4 褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子中量, 焼土粒子少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり

新竈

- 18 10YR 4/6 褐色:ローム粒子多量, 暗褐色粒子中量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 19 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子・ブロック少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 20 10YR 4/4 褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子中量, 焼土粒子少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 21 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子微量, 黒色粒子中量, 焼土粒子微量, 縮まりなし, 粘性あり
- 22 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子微量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり

K-K' (旧竈)

- 1 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子極微量, 焼土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子・大ブロック微量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 3 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子・ブロック少量, 焼土粒子微量, 縮まりあり, 粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子中量, 焼土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 5 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子少量, 焼土粒子・大ブロック少量, 白色粘土ブロック中量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 6 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子中量, 黒色粒子中量, 焼土粒子中量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 7 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子中量, 焼土粒子微量, 白色粘土ブロック極微量, 縮まりなし, 粘性ややあり
- 8 10YR 4/4 褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子中量, 焼土粒子中量, 縮まりなし, 粘性なし
- 9 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子中量, 黒色粒子少量, 焼土粒子・ブロック中量, 白色粘土ブロック・大ブロック微量, 縮まりなし, 粘性ややあり
- 10 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子少量, 焼土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり

第15図 第3号竈跡実測図(2)

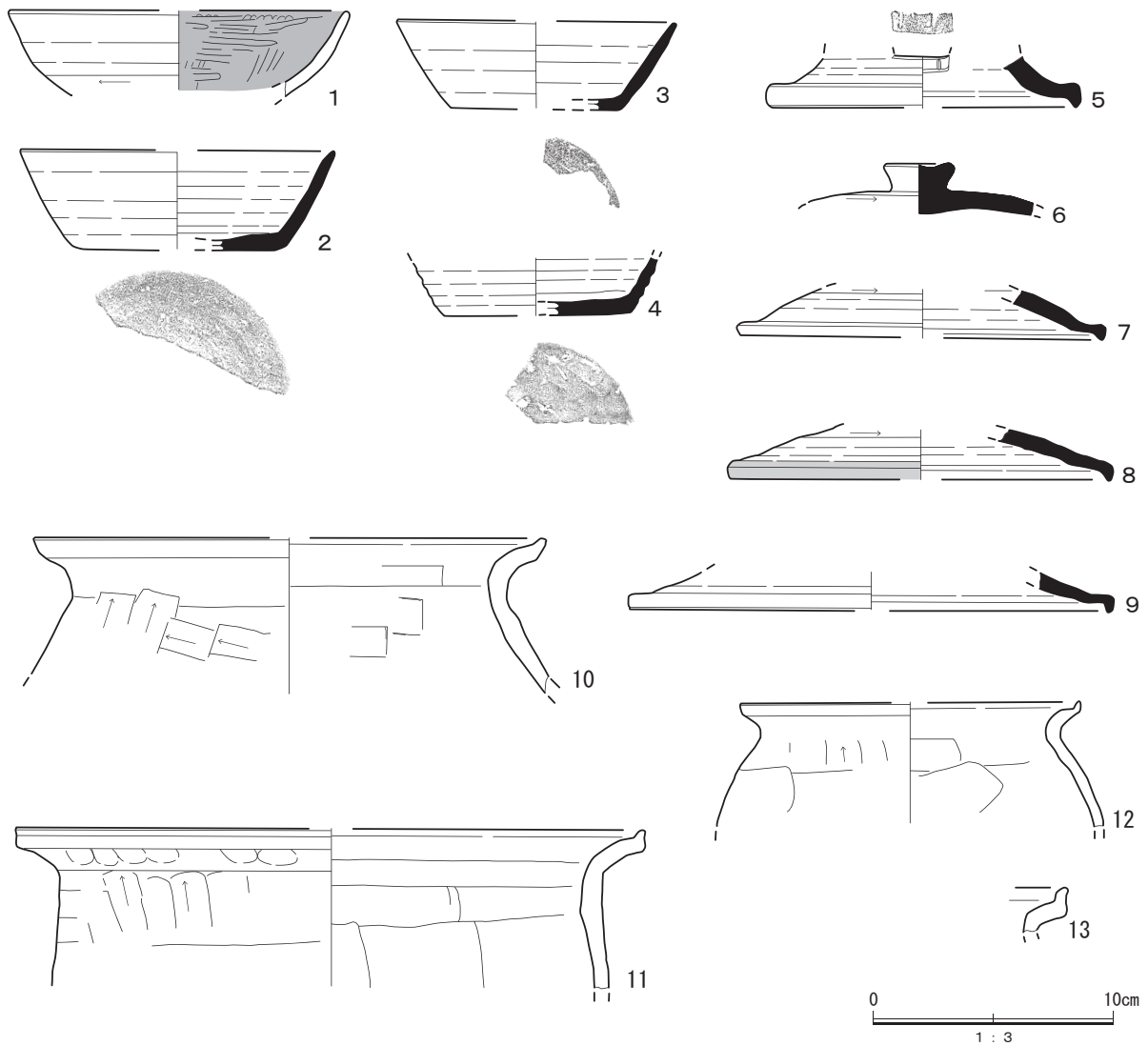
第4章 遺構と遺物

ム直床で硬く締まっている。

**覆土** 覆土はローム粒子・ブロック含む層と違えた層を交互に埋め戻している。竈前面も竈残滓主体、黒色土主体と層厚は薄いが同様に交互に埋め戻している。

**遺物出土状況** 遺物は7は貼床内、2・11・13は竈内、埋め戻した11層から9、15層から3・4・10、22層から6、上層から5・8が出土した。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏6点・甕199点、須恵器の坏44点・高台付坏1点・高坏1点・蓋10点・鉢1点・甑1点・甕3点が出土した。その内13点を図化した。1・10～13は土師器で1は坏、10～13は甕である。2～9は須恵器で2～4は坏、5は高坏、6～9は蓋である。1は内湾する坏で内面黒色処理である。やや器面が荒れている。2は酸化焰焼成の須恵器で底部から直線的に開き口縁部が僅かに外反する。内底面立ち上がり部が僅かに窪む。3は底部から直線的に開くが底部の立ち上り部が内外面から押圧され薄くなり体部中位が膨らむ。4は体部下半から底部片でロクロ目が多く、直線的に立ち上がる。5は透のある脚部片で脚端部が下方に屈曲し端部が尖り気味である。6は蓋の体部からツمامミ部で天井部が窪む。7・8・9は蓋の返り部で、7は傾きがやや急で端部が平坦で口唇部が短い三角形である。8は緩い傾斜のまま口唇部に三角形で細身である。9は7に近いが体部の傾斜から端部の内外面に平坦面があり、やや広く長めの口唇部が下向く。10



第16図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図

は口辺部から頸部片で頸部の屈曲が強い。砂質で器面が荒れている。口唇部は外方に摘み上げている。11は口辺部から体部片で肩の張りが無い。口唇部は直立して摘み上げ内面の立ち上り部と外面の中位に稜がある。12は小形の甕で口辺部から体部片で肩が張っている。口唇部は厚めの頸部から薄く上方に摘み上げている。13は口辺部で口唇部は外反直立し、内面立ち上がり部と外面中位に稜がある。

**所見** 本堅穴建物跡は建替えの痕跡はみられず、柱穴の重複も見られないが、竈は造り替えられていた。出土遺物は貼床内、竈袖内、埋め戻した層位の上層、11・15・22の各層から出土した。遺物は8世紀後半から9世紀後半まで含まれているが、居住時期は9世紀第2四半期～第3四半期であろう。

第5表 第3号堅穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	坏	[13.9]	—	(3.5)	(21.0)	10YR8/4 浅黄橙色	石英・長石	普	外面ヨコナデ内面ヘラ磨き後、内面黒色処理	一括 5%	在地C 8世紀後半
2	須恵器	坏	[13.0]	[8.0]	4.1	(44.0)	7.5YR4/8 浅黄橙	石英・長石 (3mm)・小礫・ 針状鉱物微量	不良	輪積成形後ロクロ整形、底部ヘラ切後ナデ、 ロクロ目5段、酸化焰焼成か2次被熱	No.18 10%	木葉下窯跡群カ 8世紀後半
3	須恵器	坏	[11.4]	[7.0]	3.7	(22.0)	5YR6/1 灰	石英・長石 (3mm)・小礫・ 針状鉱物微量	普	ロクロ成形、底部ヘラナデ、ロクロ目4段、 やや砂質	No.2 5%	木葉下窯跡群 8世紀中葉
4	須恵器	坏	—	[7.8]	(2.4)	(25.0)	2.5YR6/1 黄灰	石英・長石・針 状鉱物・小礫	普	回転ヘラ削り後ナデ、ロクロ目細い	No.3 10%	木葉下窯跡群 8世紀後半
5	須恵器	高坏	—	[12.6]	12.1	(19.0)	7.5YR4/1 灰	石英・長石	普	脚部片、ロクロ成形、透穴	3区上層 5%	堀ノ内窯跡群カ 8世紀代
6	須恵器	蓋	—	—	(2.0)	(41.0)	10YR5/1 褐灰	石英・長石 (4mm)・針状 鉱物・小礫	普	ロクロ成形、ボタン状ツマミ	No.16 5%	木葉下窯跡群 9世紀代
7	須恵器	蓋	[15.0]	—	(2.0)	(13.0)	10YR5/1 褐灰	石英・長石・ 針状鉱物微量	普	輪積成形後ロクロ整形	貼床内 5%	堀ノ内窯跡群カ 9世紀前半
8	須恵器	蓋	[15.7]	—	(2.1)	(15.0)	10YR5/1 褐灰	石英・長石	良	輪積成形後ロクロ整形	4区上層 5%	堀ノ内窯跡群カ 8世紀後半
9	須恵器	蓋	[19.9]	—	(1.6)	(12.0)	7.5YR6/1 灰	石英・長石 (4mm)	良	輪積成形後ロクロ整形	No.8 5%	木葉下窯跡群 9世紀前半
10	土師器	甕	[21.2]	—	(6.5)	(69.0)	7.5YR5/4 にぶい褐	石英・長石 (多量)・白雲 母・砂質	普	輪積成形、口縁部内外面ヨコナデ、体部外面 ヨコナデ、内面ヘラナデ	No.15 5%	在地B 8世紀前半
11	土師器	甕	[26.0]	—	(6.5)	(121.0)	7.5YR6/6 橙	石英・長石・ 白雲母	普	輪積成形、口縁部内外面ヨコナデ、体部内外 面ヨコナデ	No.17 5%	在地B 9世紀前半
12	土師器	甕	[14.0]	—	(5.2)	(43.1)	5YR5/8 明 赤褐	石英・長石 (3mm)・白雲 母微量	普	輪積成形、口縁部内外面ヨコナデ、体部内外 面ヨコナデ	東壁3 5%	在地B 8世紀後半
13	土師器	甕	—	—	(1.9)	(15.1)	7.5YR7/6 橙	石英・長石	普	輪積成形、口縁部内外面ヨコナデ	竈 5%	在地B 8世紀後半

第4号堅穴建物跡 (第17～20図, PL 4～6・33～35)

**位置と重複** B・C-4区に位置し、第1号堅穴建物跡の南側、第3号堅穴建物跡の西側にある。西半が調査区外にあり、東壁と北壁が竈右袖まで南壁は東から2.5mまで確認した。また、本跡の南半は東西に設置された下水管により3分の1が、さらに東半の3分の2は下水管より新しい現代の土坑(33号土坑)により失われていた。また、北側は既設道路により、南側は中世の溝(7号溝跡)により掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は方形と想定され、主軸はN-0°、規模は東西3.0m以上、南北は3.54mである。

**壁** 壁は外形して立ち上がり、深さは確認面から30cm程であるが、壁面の層位からは85cm程確認される。

**壁溝** 壁溝はない。

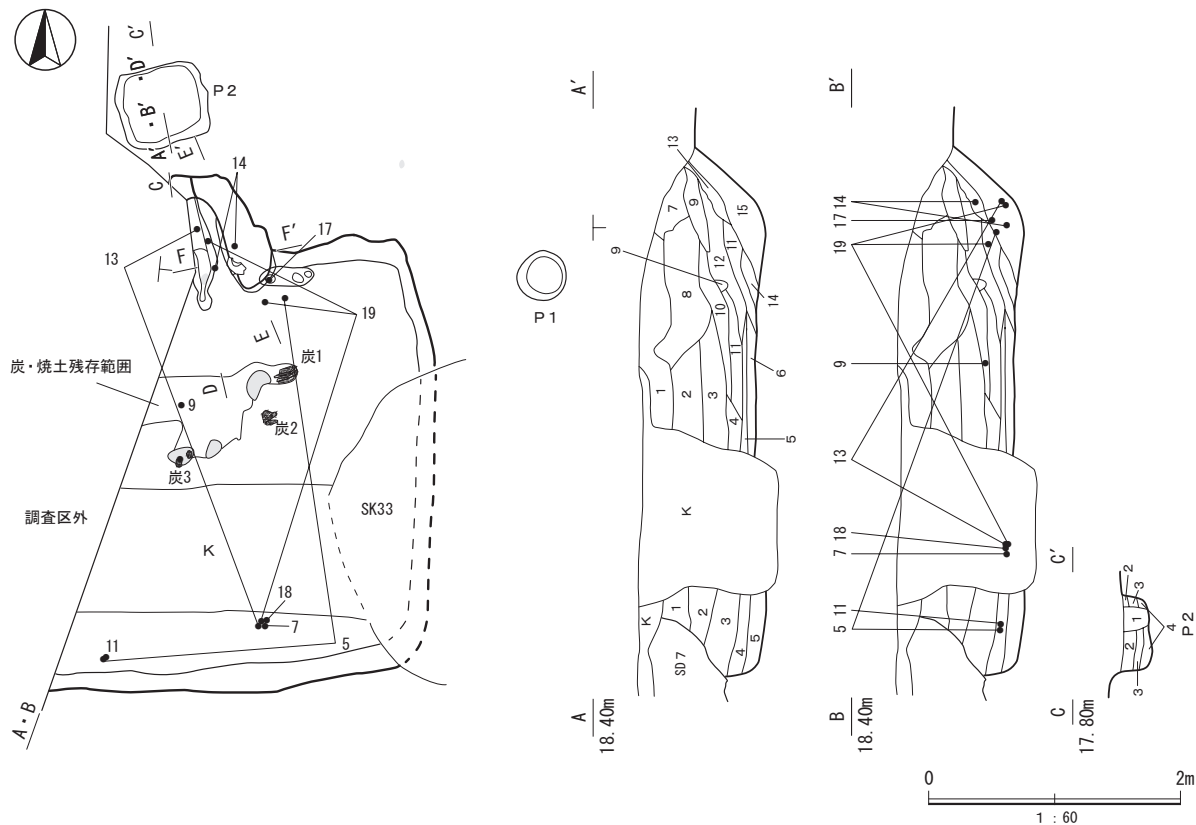
**床** ローム直床で硬く締まっていた。床面中央には焼土と炭化物が確認された。この層は竈からの5層の上に確認され、壁面の土層では6層が相当するが壁際ではないので、中央部にレンズ状に確認された。

**柱穴** 柱穴は堅穴建物内には確認されなかった。その為建物外の精査を行った。確実ではないが状況は、P1

第4章 遺構と遺物

は径 40 cm の円形で深さは 10 cm 程である。P 2 は竈の北側で確認された柱穴で、東西 70 cm、南北 60 cm の方形で深さは 25 cm あるが、径 15 cm の柱痕跡が確認された。調査の結果は P 1 については対応する柱がないことから疑問を呈する。P 2 については方形で規模も大きく柱痕跡が確認されたことから、北側に展開する掘立柱建物跡を想定したい。

**竈** 竈は北壁にあり、東西方向の距離的には竈は東に寄っているようである。西袖は調査区外にあり、火床部の半分から東袖を確認した。竈軸は N -17° - W である。火床部から煙道部にかけては D - D' の 3 層黒色土が



A-A'・B-B'

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子少量，焼土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量，黒色粒子，焼土粒子・ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，焼土粒子・ブロック微量，炭化物極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，焼土粒子・ブロック微量，炭化物極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，焼土粒子微量，炭化物少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子・ブロック微量，焼土粒子・ブロック微量，炭化物少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 7 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，焼土粒子・ブロック極微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 8 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック少量，黒色粒子微量，焼土粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 9 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，焼土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 10 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，焼土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり

- 11 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，黒色粒子微量，焼土粒子・ブロック中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 12 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，焼土粒子・ブロック少量，炭化物極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 13 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，黒色粒子微量，焼土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 14 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子少量，焼土粒子・ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 15 10YR 5/8 黄褐色：ローム粒子・ブロック多量

P 2 C-C'

- 1 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子極微量，暗褐色粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色粒子微量，縮まりあり，粘性あり
- 3 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色粒子少量，縮まりあり，粘性あり
- 4 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色粒子少量，縮まりあり，粘性あり

第 17 図 第 4 号竈穴建物跡実測図 (1)

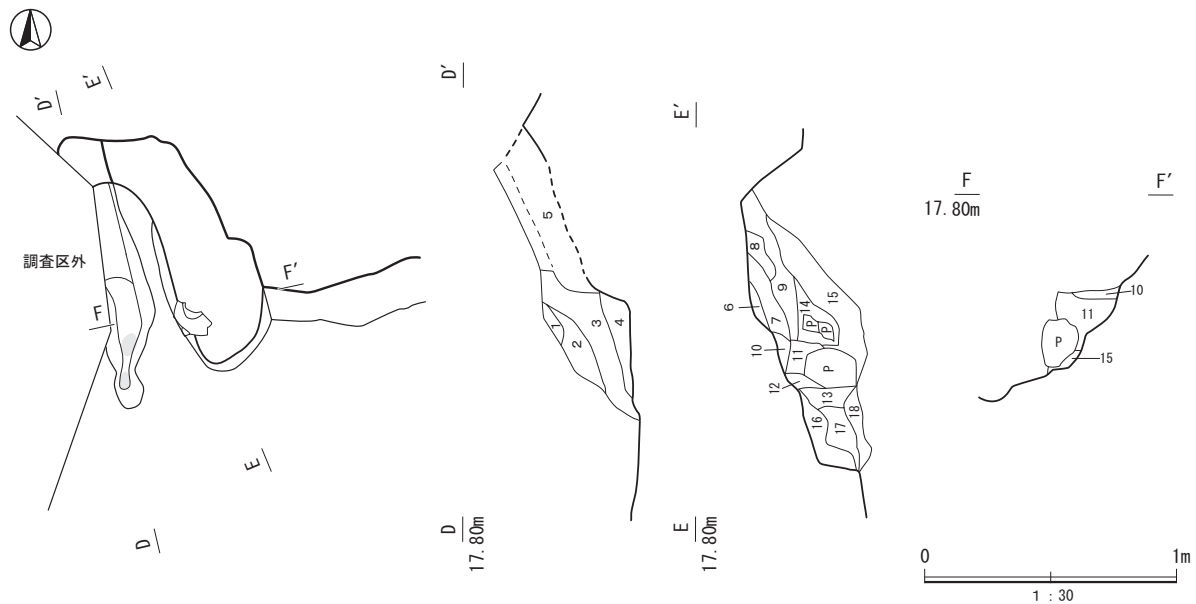


流入した状態であった。完全ではないが煙道部が遺存していたと判断した。火床部は壁際に段があり4層は焼土粒子を多量に含む層で構築材の土師器の甕が下に敷いてあることから有段構造の竈であろう。袖部には常総型の小形甕を分割し芯材として周囲に粘土を貼り付けている。E-E'の4層は焼土に粘土を混ぜた土を使用している。粘土が収縮して壊れてしまう対策とも考えられる。

**掘方** 掘方はローム直床で硬く締まっている。

**覆土** 覆土は平行堆積で埋め戻している。竈の袖部は構築材としての土師器の常総甕や須恵器の甕片が遺存していたので、確認面の標高17.4mまで残っていたことになる。堅穴建物の床面中央に確認した焼土・炭化物を層位的に解釈すると、11層を埋めた時点で建物を解体し建物の床面中央で焼却し、その後埋戻し作業を行ったと考えられる。

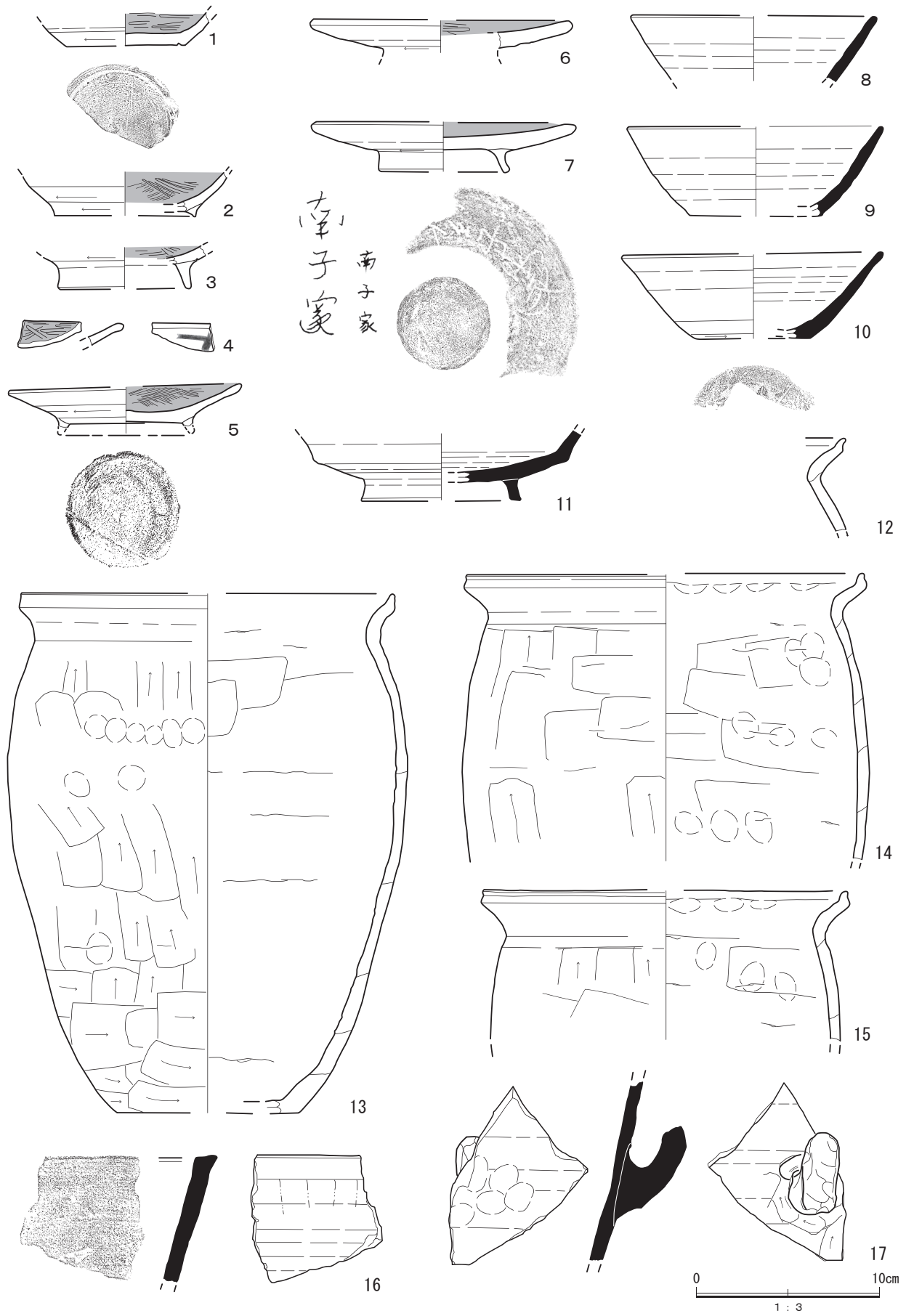
**遺物出土状況** 出土遺物は竈構築材の常総甕や須恵器の甕、6層とした焼却材の上層から出土したが、多くは4層から出土した。廃棄時の直上と考えられる。13の常総甕は竈芯材で南壁下の4層出土遺物と接合した。19の須恵器甕も火床部と南壁下出土遺物が接合した。須恵器坏類が少なく、土師器の皿類と須恵器の甕が4個体出土している。7の高台付皿の刻書土器「□南子家」も4層から出土した。



D-D', E-E', F-F'

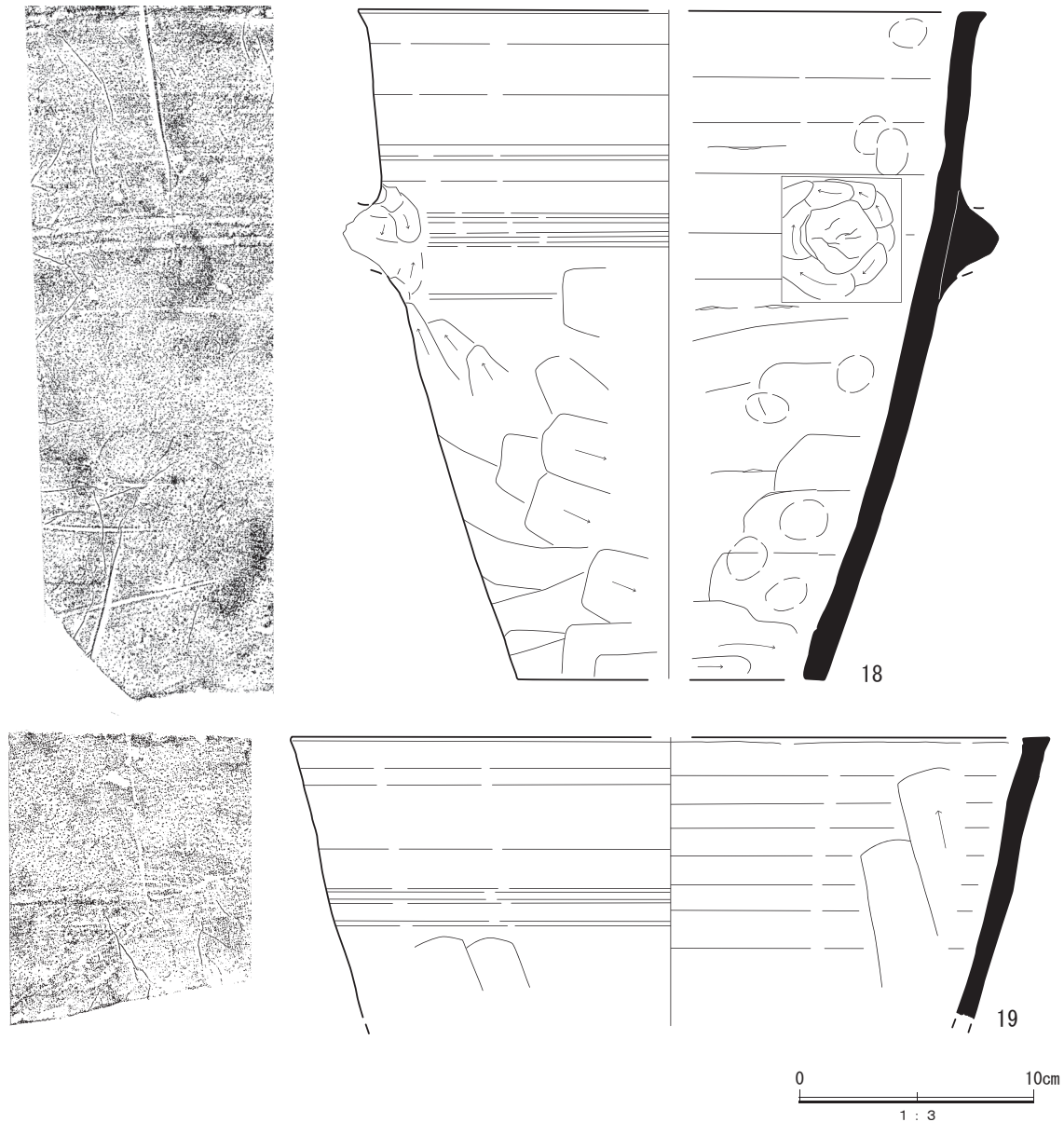
- |  |   |
|--|---|
| <p>1 10YR 3/3 暗褐色:粘土粒子・ブロック多量,ローム粒子少量,締まりあり,粘性なし</p> <p>2 10YR 2/3 黒褐色:ローム粒子少量,焼土粒子微量,灰少量,締まりなし,粘性なし</p> <p>3 10YR 1/3 黒褐色:黒色土主体,ローム粒子少量,焼土粒子少量,灰少量,締まりなし,粘性なし</p> <p>4 10YR 4/3 褐色:ローム粒子多量,焼土粒子多量,締まりなし,粘性なし</p> <p>5 10YR 1/4 褐灰色:ローム粒子多量,焼土粒子多量,灰少量,締まりなし,粘性なし</p> <p>6 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子極微量,黒褐色粒子少量,焼土ブロック中量,小礫極微量,締まりあり,粘性なし</p> <p>7 10YR 4/6 褐色:黒褐色粒子微量,焼土ブロック多量,粘土ブロック微量,締まりあり,粘性ややあり</p> <p>8 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量,焼土ブロック少量,締まりあり,粘性ややあり</p> <p>9 10YR 5/6 黄褐色:ローム主体,焼土ブロック少量,粘土ブロック微量,締まりあり,粘性なし</p> | <p>10 10YR 4/4 褐色:ローム粒子多量,黒褐色粒子中量,締まりあり,粘性ややあり</p> <p>11 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・ブロック多量,焼土粒子・ブロック微量,粘土ブロック微量,締まりあり,粘性ややあり</p> <p>12 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・ブロック多量,暗灰色土ブロック微量,粘土ブロック微量,締まりあり,粘性なし</p> <p>13 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量,焼土粒子・ブロック微量,炭化粒子微量,締まりあり,粘性なし</p> <p>14 10YR 5/6 黄褐色:ローム粒子多量,ブロック少量,暗灰色粒子微量,締まりあり,粘性ややあり</p> <p>15 10YR 4/6 褐色:ローム粒子・ブロック多量,黒褐色粒子微量,締まりあり,粘性ややあり</p> <p>16 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量,暗灰色粒子中量,焼土粒子・ブロック少量,締まりややあり,粘性ややあり</p> <p>17 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量,暗灰色粒子中量,焼土粒子少量,炭化粒子極微量,締まりややあり,粘性ややあり</p> <p>18 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・ブロック多量,暗灰色粒子少量,焼土粒子極微量,炭化粒子極微量,締まりあり,粘性ややあり</p> |
|--|---|

第18図 第4号堅穴建物跡実測図(2)



第19図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏 23 点・高台付坏 2 点・皿 6 点・高台付皿 3 点・甕 197 点，須恵器の坏 30 点・高台付坏 1 点・高坏 2 点・蓋 1 点・甌 11 点・甕 10 点が出土した。その内 19 点を図化した。1～7・12～15 は土師器で 1 は坏，2・3 は高台付坏，4～7 は高台付皿，12～15 は甕，8～11・16～19 は須恵器で 8～10 は坏，11 は高台付坏，16～19 は甌である。1 は体部下半から底部片で底部は回転ヘラ削りで周縁に沈線がある。内面はヘラ磨き後内外面に赤彩しているが摩滅している。2 は体部下半から底部片で内湾して開く。内面はヘラ磨き後黒色処理し，高台が低く三角高台である。3 は内面ヘラ磨き後黒色処理，高台は「ハ」の字に開き高い。4 は皿の口縁部の小片で内面ヘラ磨き後黒色処理，外面に墨書あるが不明である。5 は高台付皿である。高台が剥離しているが接合は体部下端に確認できる。厚めの底部から体部で薄くなり口縁部は厚めになる。内面は黒色処理後ヘラ磨きしているが光沢がない。口唇部外面と破面に油煙痕が確認されることから燈明具に使用されていたと推定される。6 は高台付皿で底部を欠く。厚手で浅く口唇部が丸い。内面はヘラ磨き後黒色処理されているが光沢がない。口唇部外面に油煙痕が確認されることから燈明具に使用されていたと推定される。7 は高台付皿で底部から口縁まで厚めで端部は丸く，高台が高い。内面はヘラ磨き後黒色処理であ



第 20 図 第 4 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

#### 第4章 遺構と遺物

るが、2次被熱を受け器面が荒れている。体部外面には焼成後に針状具で「□南子家」と刻書してある。8は酸化焰焼成で口縁部が直線的に開く。9は酸化焰焼成で内湾して開き、口縁部内面が引出され薄くなっている。10は酸化焰焼成で体部は僅かに内湾して開き、口縁部は僅かに外反する。11は高台が「八」の字に開き付高台の取付位置がやや内側になっている。体部は外反して開く。12は口縁から肩部片で口唇部は屈曲して外方に摘み上げている。竈袖芯材に使われた破片は内面の器面が荒れている。13の甕は竈袖芯材として使用していた破片と南壁付近の破片が接合した。肩の張りが無い円筒型で、肩部が縦ナデ、中位が縦ヘラ削り、下端が横ヘラ削りである。口辺部は屈曲が弱く頸部は若干「コ」字状になり、口唇部は上方に摘み上げられている。竈袖芯材に使われた破片の内面は器面が荒れている。14は竈の火床部と袖芯材から出土した破片が接合した。火床部の破片は赤褐色に変色しているが、袖芯材の破片は褐色である。肩の張りがなく、頸部からの外反が大きい。肩部は縦ナデ後横ナデ、中位は縦ナデしている。口唇部は内径気味に摘み上げ外面に沈線がある。15は口辺から肩部の小片で肩の張りがなく口径が最大径となる。口唇部はやや厚く内径気味に摘み上げ、外面は外湾する。16は甕の口縁部片で口唇は平坦で外方に引き出している。17は甕の把手部の小片で、酸化焰焼成である。把手は手練りで断面が長方形で正面からは平坦に見える。接合は凸上の粘土を器面貼付けそれに把手を押圧して接合している。18は把手の部分だけを欠くが全体が窺える資料である。バケツ型で口唇部は平坦で外方に引き出している。把手は先端を欠くが鍵形ではなくて乳房状になると思われる。底部に穿孔は不明であるが4孔と推定される。体部の把手の取付位置には中心部に2本の沈線、上方と下方に1本の沈線をクロコ横ナデの製作の時に施している。19の甕は上半部で酸化焰焼成である。口唇部は平坦で内外方に僅かに引き出している。

**所見** 本跡は竈上部を破壊し建物の部材を焼却したのち埋め戻したと推定される。13の甕は竈袖芯材に使用されていた甕の体部片と南壁下の甕の口辺部が接合し、体部片は外面には灰の付着し内面は器面が荒れていた。口辺部は2次被熱を受けているが変色や器面の荒れが少ない。14の甕は火床部と袖芯材が接合したもので火床部の甕は赤褐色に変色していたが、袖部内の甕は褐色のままであった。床面上に確認された炭化物と焼土層および状況などから埋め戻しの作業工程を類推することが出来る。出土遺物では須恵器が少なく、土師器の皿が多く、燈明皿に利用されていた。また、甕が4点出土していることや、高台付皿の「□南子家」の刻書土器は本跡の性格や意味を考える視点になる。遺物は9世紀前半から10世紀前半まで含まれているが、居住時期は9世紀第3四半期～第4四半期であろう。

第6表 第4号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	坏	—	6.4	(1.7)	(30.0)	7.5YR6/6 橙	石英・長石・ 白雲母微量	普	輪積成形後クロコ整形、底部回転ヘラ切後回転ヘラ削り、内面・体部外面赤彩、内底面一方向のヘラ磨き、2次被熱	下層 10%	在地B 9世紀代
2	土師器	高台付 坏	—	[7.6]	(2.4)	(13.0)	7.5YR6/6 橙	石英・長石・ 白雲母微量	普	クロコ整形、付高台、三角高台、内底面一方向・体部矢羽状ヘラ磨き、内面黒色処理	下層 10%	在地B 9世紀代
3	土師器	高台付 坏	—	[7.0]	(2.3)	(13.0)	7.5YR6/4 にぶい橙	石英・長石・ 白雲母微量	普	輪積成形後クロコ整形、付高台、内底面一方向ヘラ磨き、内面黒色処理	東袖 10%	在地B 9世紀代
4	土師器	皿	—	—	(1.2)	(3.3)	7.5YR6/6 橙	石英・長石・ 白雲母微量、 粘土質		クロコ整形、内面黒色処理、外面墨書（不明）	下層 5%	在地B 9世紀代
5	土師器	高台付 皿	12.5	6.0	(2.1)	(92.0)	10YR6/4 にぶい 黄橙	石英・長石・ 白雲母微量	普	クロコ整形、台部欠、底部外面回転ヘラ削り、内面黒色処理、内面一方向体部矢羽状ヘラ磨き	No.4 + 13層 60%	在地B 9世紀代
6	土師器	高台付 皿	[13.8]	—	(1.9)	(41.0)	5YR6/6 橙	石英・長石・ 白雲母微量	普	クロコ整形、内面黒色処理、2次被熱	下層 20%	在地B 9世紀代
7	土師器	高台付 皿	[14.4]	6.8	2.7	(136.0)	7.5YR5/4 にぶい橙	石英、長石	普	輪積成形後クロコ整形、内面中央一方向周囲一方向4回、被熱、器面荒れ、刻書「□南子家」	No.2 50%	在地C 9世紀代
8	須恵器	坏	[13.2]	—	(3.5)	(25.0)	10YR7/3 にぶい 黄橙	石英、長石、 針状鉱物	不良	やや砂質、酸化焰焼成、被熱	下層 10%	木葉下窯跡群 9世紀代
9	須恵器	坏	[13.8]	[7.2]	4.9	(25.0)	2.5YR7/2 灰黄	石英・長石・ 白色粒子少量	普	輪積成形後クロコ整形、クロコ目5段	下層 10%	不明 三毘山窯 跡群カ 9世紀代

第1節 古代の遺構と遺物

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
10	須恵器	坏	[14.0]	6.2	4.6	(55.0)	7.5YR5/4 にぶい褐	石英, 長石, 針状鉾物	普	輪積成形後ロクロ整形, 2次被熱, ヘラ記号 (不明)	下層 30%	木葉下窯跡群 9世紀代
11	須恵器	高台付 坏	—	[8.6]	(3.8)	(70.0)	5Y5/1 灰	石英, 長石, 針状鉾物, 小 礫	普	輪積成形後ロクロ整形, 高台の取付位置が中心によっている	No.4 20%	木葉下窯跡群 9世紀代
12	土師器	甕	—	—	(5.1)	(42.0)	7.5YR6/4 にぶい橙	石英, 長石, 白雲母	普	輪積成形, 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内面横ヘラナデ, 外面横ヘラ削り, 内面器面荒れ, 2次被熱	下層 5%	在地B 9世紀代
13	土師器	甕	20.2	(10.0)	28.2	(1019.0)	5YR5/4 にぶい 赤褐	石英, 長石	普	輪積成形, 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内面横ヘラナデ, 外面上半横ヘラナデ, 中位縦ヘラ削り, 下位横ヘラ削り, 内面肩部から下位器面荒れ, 2次被熱	竈 1A + 1B + No.2 + 32 50%	在地C 9世紀前半
14	土師器	甕	[21.4]	—	(15.6)	(406.0)	5YR5/6 明赤褐	石英, 長石, 微細白雲母	良	輪積成形で内外面に輪積痕あり, 口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外面ヨコナデ	No.20 + 24 5%	在地B 9世紀代
15	土師器	甕	[19.6]	—	(8.1)	(59.0)	7.5YR4/3 赤褐	石英・長石微 細微量, 白雲 母微細微量	良	輪積成形で内面に輪積痕あり, 口縁部内外綿面ヨコナデ, 体部内外面ヨコナデ	下層 5%	在地B 9世紀代
16	須恵器	瓶	—	—	(6.8)	(62.0)	10YR6/1 褐灰	石英・長石少 量, 針状鉾物 微量	不良	輪積成形後ロクロ整形, 口辺部下に沈線がある	下層 5%	木葉下窯跡群カ 9世紀代
17	須恵器	瓶	—	—	(9.7)	(71.0)	10YR7/3 にぶい 黄橙	石英・長石微 細微量	不良	輪積成形後ロクロ整形, 把手は上向き鍵形で外側から押し内側に指押さえがある。	No.35 5%	在地C 9世紀代
18	須恵器	瓶	[26.6]	[12.8]	(28.3)	(871.0)	5YR5/4 にぶい 赤褐	石英・長石少 量, 針状鉾物 微量	良	輪積成形後ヘラによるロクロ整形, 把手の端部が欠落し, 接合位置に沈線がある。接合方法は不明。底部に蒸気孔がある。	No.2 25%	木葉下窯跡群カ 9世紀代
19	須恵器	瓶	[32.0]	—	(11.8)	(440.0)	10YR7/1 灰白	石英・長石微 細微量, 黒色 砂粒微量	良	輪積成形後ヘラによるロクロ整形, 沈線がある。	No.2 + 23 + 30 +上層 10%	在地C 9世紀代

第6号竪穴建物跡 (第21図, PL 6・35)

**位置と重複** C・D4区に位置し, 2号地下式坑と8号溝跡に掘り込まれていることになっているが, 竈と柱穴と思われる小穴のみを確認した。

**平面形と規模** 平面形と規模は不明, 竈の残存から東竈の竪穴建物と推定した。

**壁** 確認できなかった。

**壁溝** 確認できなかった。

**床** 確認できなかった。

**柱穴** P1を確認した。

**竈** 竈の下部が遺存していた。東西100cm, 南北66cmで主軸は東西方向である。平坦で面形の土質の違いから両袖の灰白色粘土, 灰白色粘土と焼土混じりの焚口部, 焼土多量の火床部の残存であろう。手前は黒色土主体の前庭部と思われる。

**掘方** 確認できなかった。

**覆土** 確認できなかった。

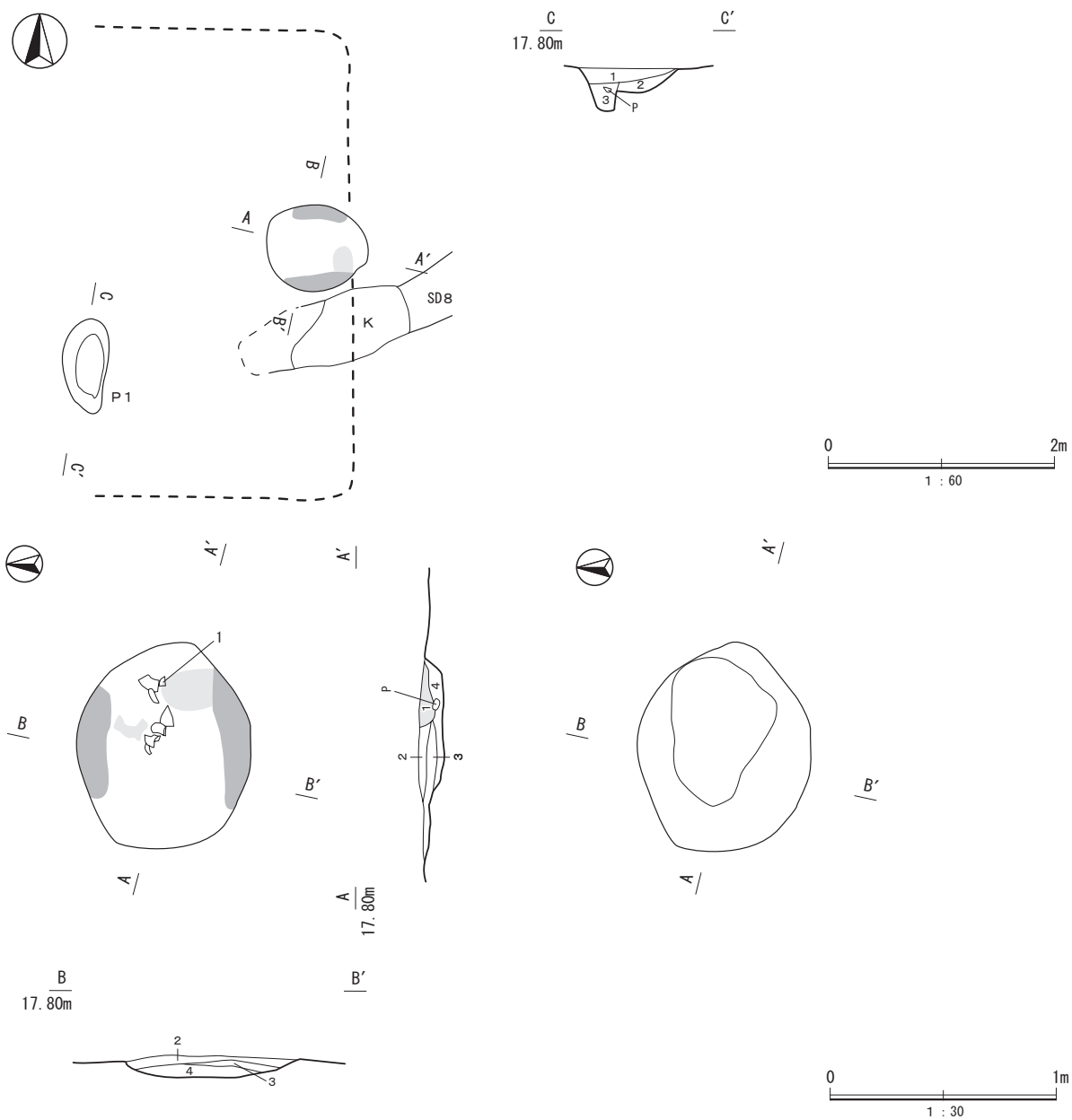
**遺物出土状況** 火床部から須恵器の坏底部と土師器の甕が破砕した状況で出土した。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏4点・甕14点, 須恵器の坏2点・甕2点が出土した。そのうち2点を図化した。

1は須恵器の坏の底部片で底部ヘラ切後ナデ, 底部突出して内面に重ね焼き痕が残る。2は土師器の甕の口辺部から体部片で, 頸部の屈曲が強く, 内面は外方に外面は中位で膨らむように引き上げている。

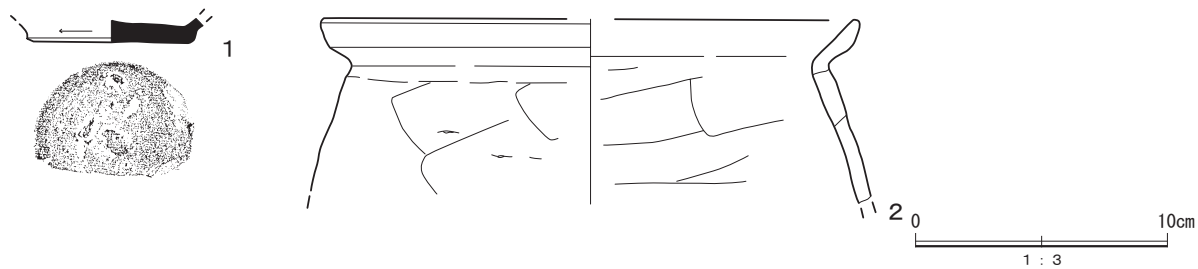
**所見** 竈の下部を確認したのみであるが, 東竈の小形の竪穴建物と推定される。時期は須恵器の坏は9世紀代であるが甕は10世紀代と思われる。居住時期は9世紀第4四半期～10世紀第1四半期と推定される。

第4章 遺構と遺物



A-A', B-B', C-C'

- 1 5YR 6/5 明赤褐色：明赤褐色粒子と黒色粒子が混在，焼土粒子中量，縮まりなし，粘性なし
- 2 10YR 5/6 黄褐色：黄褐色粒子と黒色粒子が混在，焼土粒子少量，粘土粒子少量，縮まりなし，粘性なし
- 3 10YR 4/4 褐色：褐色粒子と黒色粒子が混在，焼土粒子少量，粘土粒子少量，縮まりなし，粘性なし
- 4 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子少量，縮まりなし，粘性なし



第21図 第6号竪穴建物跡・竈・出土遺物実測図

第7表 第6号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	—	[6.6]	(0.9)	(35.0)	7.5YR5/1 灰	石英、長石、 針状鉱物	良	ロクロ整形、底部ヘラ切後ナデ、中心切、底部突き出し	竈No.3 15%	木葉下窯跡群 9世紀代
2	土師器	甕	[21.0]	—	(7.3)	(58.0)	5YR4/4 にぶい 赤褐色	石英・長石微 細、白雲母微 量	普	輪積成形後口縁部内外面ヨコナデ、体部内外面ヨコナデ	柱穴 5%	在地C 9世紀後半代

第7号竪穴建物跡（第22～24図，PL 6・7・36・37）

**位置と重複** G3区に位置し，41・42号土坑を掘り込んでいる。南西隅が調査区外にある。

**平面形と規模** 平面形は方形で主軸はN-10°-W，規模は東西422cm，南北は395cmである。

**壁** 壁はやや外形して立ち上がり，深さは確認面から56cmであるが調査区の壁では90cm確認できる。

**壁溝** 確認されなかった。

**床** 床はローム主体土の貼床で硬く締まっていた。上面には2cm程の黒色の腐蝕土層が確認された。

**柱穴** 確認できなかった。

**竈** 竈は北壁ほぼ中央に位置し，袖幅約100cm，焚口から煙道まで約100cmで壁外に45cm張出している。火床部は屋内にある。火床部から煙道は竪穴建物の掘方と共に掘り下げ，ローム粒・ブロックと暗褐色土・焼土の混在した土を貼り付けていた。火床部から煙道に至るところでは傾斜を変えていた。袖部は下部に砂質粘土主体土をブロック状に積み重ね，その中に焼土ブロックやロームブロックを混ぜた土を乗せ，それを包み込むように砂質粘土主体土を被せている。袖部の壁からの室内への張り出しは東袖で58cm，西袖で48cmである。竈の掘方は竪穴建物の掘方の段階で袖部にロームを掘り残していた。

**掘方** 掘方は全面的に掘り下げるのではなく，竪穴建物の西側半分と竈前庭，南東隅を深く掘り下げ，東半中央と推定入口付近の掘り込みは浅くなっている。

**覆土** 基本的にはローム粒子・ブロックを多量に含む土層と，黒色土を含む土層を交互に版築状に埋め戻している。

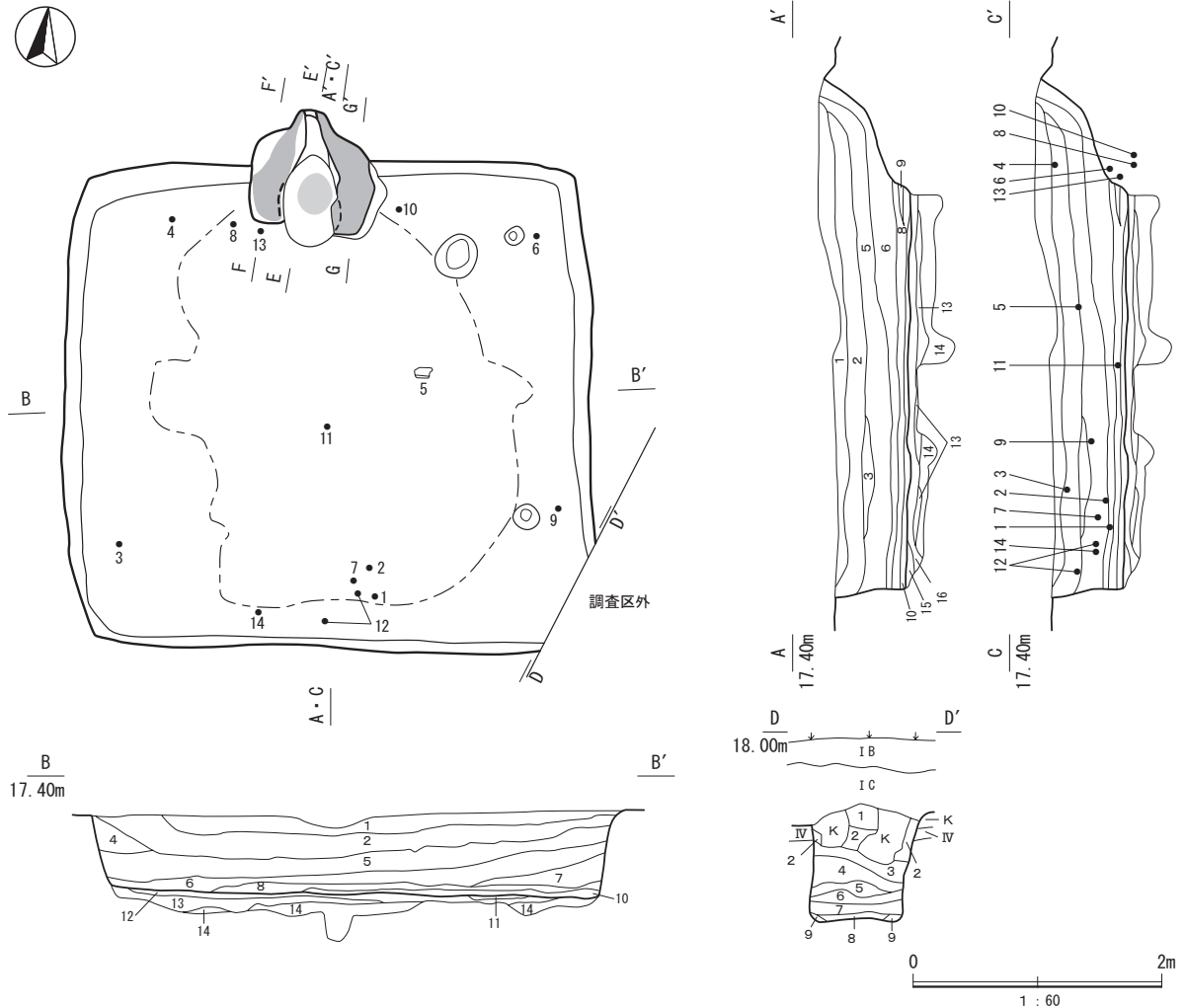
**遺物出土状況** 竈周辺の6・8・10の土器と13の鉄鏃は床直ないし床面近くから出土している。1・2・7の須恵器と9の土師器，14の鉄鏃の茎は中層から，3・4・5の須恵器は上層から出土した。12は須恵器の甕の大型片は南壁側で上層と中層が接合した。竈内からの出土は少なかった。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏15点・皿2点・甕388点，須恵器の坏190点・高台付坏19点・高台付盤5点・蓋33点・鉢1点・甕38点・円面硯1点・鉄製品2点が出土した。その内15点を図化した。1～7・11・12は須恵器で1～4が坏，5・6が高台付坏，7が高台付盤，11は鉢，12は甕である。8～10は土師器の甕，14・15は鉄鏃である。1・2は底部の切離しがやや内側になり，底部からはほぼ直線的に外形し，口縁部に向かって器厚が薄くなる。共に酸化焰焼成で口縁部の仕上げが若干異なるが似ている。3は底部中央周縁の器高が薄く周辺が厚くなる。底部からやや外反して立ち上がり，器厚は同じで口唇部薄くなる。4の器厚は中心が厚く，周縁が薄く，外縁が厚くなる。底部から僅かに外反して開く。底部内面の屈曲が強い。ロクロ目の段が強い。5は高台付坏で底部から直線的に開き，口縁部を抑え気味に口唇部は丸味を帯びる。脚部は外湾気味で端部は丸い。6の高台付坏は厚めの底部から直線的に開き，口縁部は薄くなる。脚部は「ハ」の字に開き端部は丸く，使用痕がある。7は高台付盤で薄手で，脚部は外湾気味で端部は丸い。8は常総型の甕で肩の張りがなく最大径が口縁部にあり，頸部は外反する。口唇部の摘み上げは直立外反である。9の甕は肩の張りが強く，頸部は「く」の字に屈曲する。口唇部の摘み上げは，直立し端部が僅かに反る。10の甕は肩部の張りが強く，頸部は「く」字に屈曲する。口唇部の摘み上げは直立外反であるが厚みがある。11は須恵器の鉢で，高温焼成で外面にはテカリがある。12は須恵器の大甕の底部片で器厚が2.3cmある。14・15は鉄鏃で竈付近

第4章 遺構と遺物

の床直と南壁際の中層から出土した。

**所見** 本跡は今回の調査区で最も南に確認された竪穴建物で、南東隅が一部調査区外にあるが全景がわかる建物である。柱穴は確認できなかったが1時期の建物である。遺物は9世紀前半～中頃まで含まれているが、居住時期は8世紀第4四半期～9世紀第1四半期であろう。

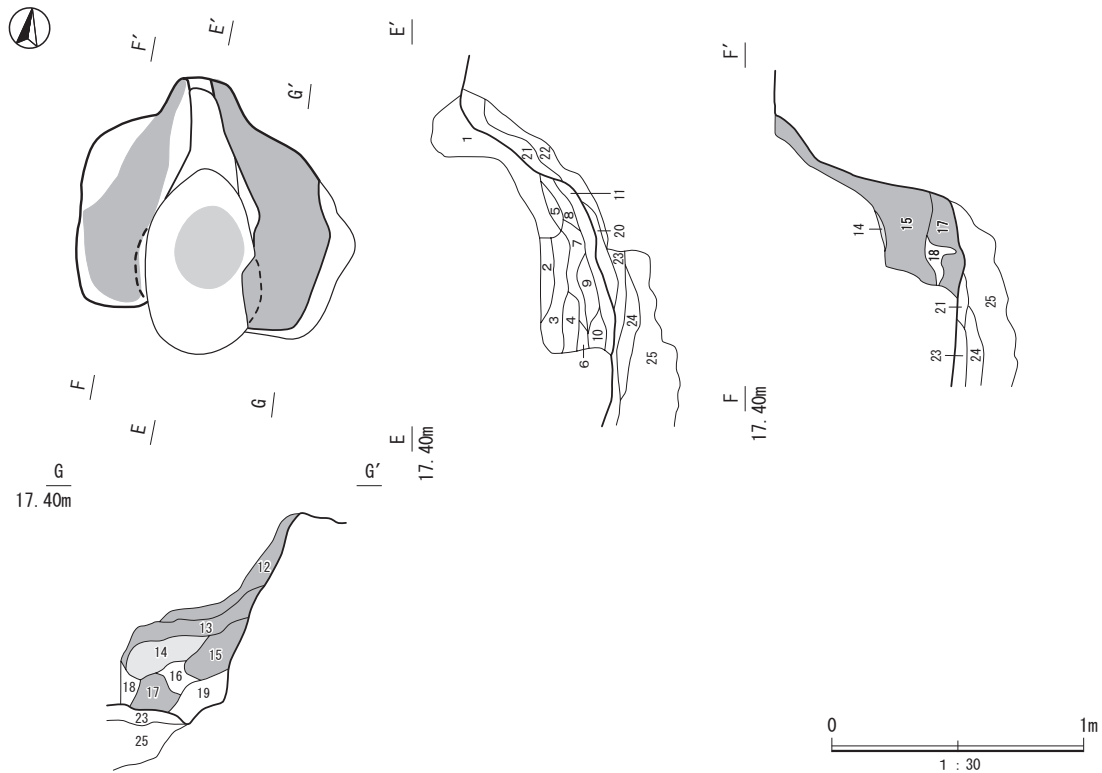


A - A' , B - B' , C - C' , D - D'

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，焼土粒子・ブロック極微量，黒色粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，焼土粒子・ブロック極微量，黒色粒子・ブロック中量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，焼土粒子・ブロック極微量，黒色粒子・ブロック少量，縮まりややあり，粘性あり</p> <p>4 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック（5～6cm）少量，焼土粒子・ブロック微量，黒色粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>5 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，焼土粒子・ブロック微量，黒色粒子・ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>6 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，焼土粒子・ブロック微量，黒色粒子・ブロック少量，白色粘土ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>7 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，焼土粒子・ブロック極微量，黒色粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>8 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子・ブロック微量，焼土粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>9 10YR 6/4 にぶい黄褐色：粘土層，縮まりなし，粘性ややあり</p> | <p>10 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック微量，黒色粒子極微量，縮まりあり，粘性ややあり（床直上の使用痕跡）</p> <p>11 10YR 4/6 褐色：ローム主体，ロームブロック多量，黒褐色粒子中量，焼土粒子極微量，縮まりあり，粘性あり</p> <p>12 10YR 4/4 褐色：ブロック多量，焼土粒子・ブロック少量，黒色粒子・ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>13 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，焼土粒子・ブロック微量，黒色粒子・ブロック極微量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>14 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，焼土粒子・ブロック微量，黒色粒子・ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>15 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒褐色粒子少量，縮まりややあり，粘性あり</p> |
|---|--|

第22図 第7号竪穴建物跡実測図（1）

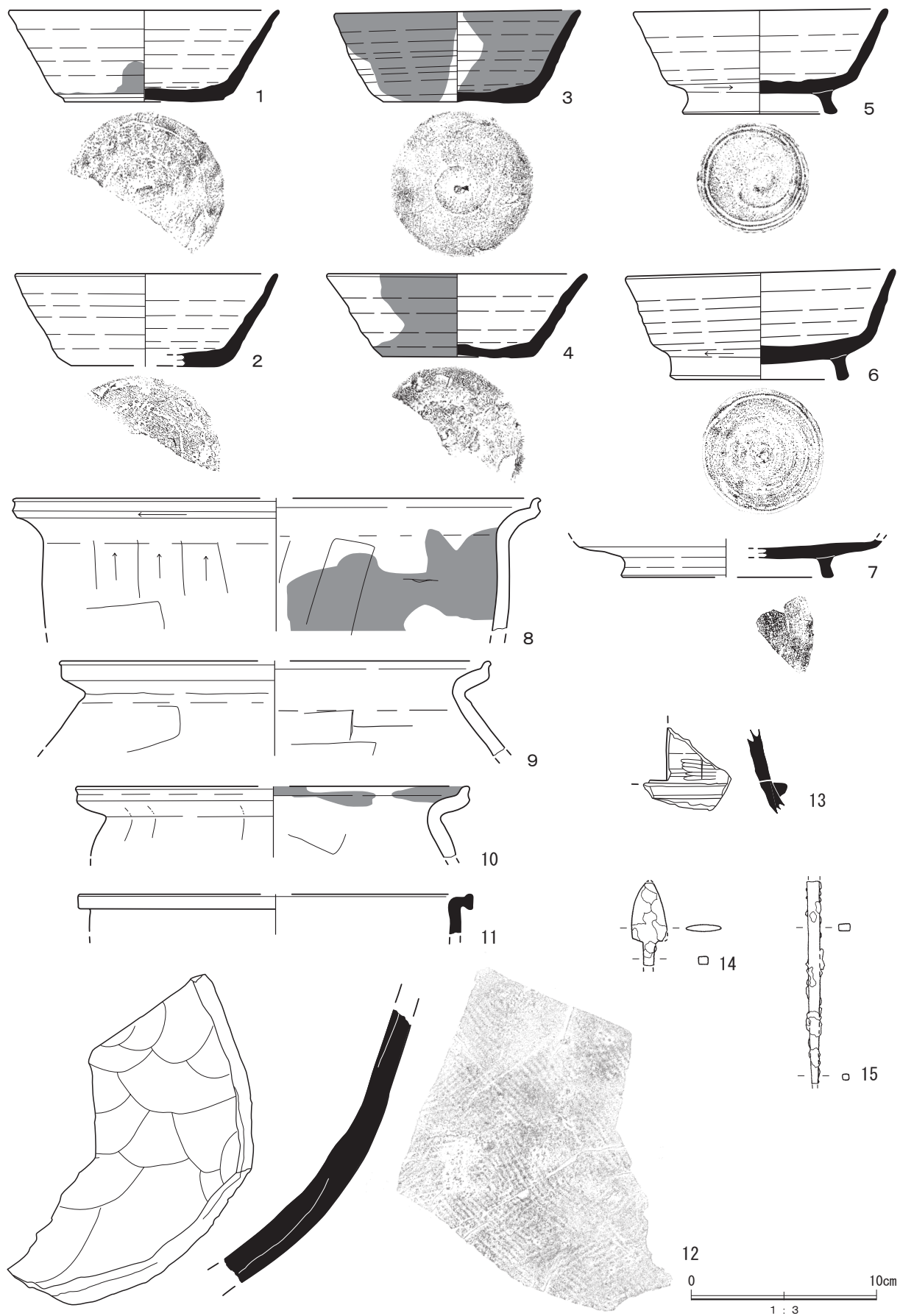




E-E', F-F', G-G'

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 10YR 2/3 黒褐色:ローム粒子・ブロック・大ブロック中量, 黒色粒子・ブロック中量, 焼土粒子・ブロック少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>2 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子少量, 焼土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>3 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子少量, 焼土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>4 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色粒子少量, 焼土粒子・ブロック・大ブロック少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>5 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 焼土粒子微量, 灰白色灰少量, 縮まりなし, 粘性ややあり</p> <p>6 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子少量, 焼土粒子少量, 灰白色灰少量, 縮まりなし, 粘性ややあり</p> <p>7 10YR 8/2 灰白色:ローム粒子微量, 黒色粒子微量, 焼土粒子少量, 灰白色灰多量, 縮まりなし, 粘性なし</p> <p>8 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・大ブロック少量, 黒色粒子少量, 焼土粒子・ブロック中量, 炭化物微量, 灰白色灰極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>9 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子少量, 黒色粒子少量, 焼土粒子・ブロック多量, 灰白色灰極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>10 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子微量, 黒色粒子微量, 焼土粒子・ブロック少量, 縮まりなし, 粘性ややあり</p> <p>11 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子中量, 黒色粒子微量, 焼土粒子微量, 灰白色灰少量, 縮まりなし, 粘性ややあり</p> <p>12 10YR 4/4 褐色:粘土粒子・ブロック多量, 黒色粒子少量, 焼土粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性あり</p> <p>13 10YR 4/4 褐色:粘土粒子・ブロック多量, 暗褐色粒子が混在, 小礫微量, 縮まりややあり, 粘性あり</p> | <p>14 10YR 4/6 褐色:黒色粒子多量, 焼土ブロック多量, 縮まりややあり, 粘性あり</p> <p>15 10YR 4/4 褐色:粘土粒子・ブロック多量, 淡黄褐色粘土ブロック少量, 縮まりあり, 粘性あり</p> <p>16 10YR 3/3 暗褐色:ブロック少量, 黒褐色粒子微量, 淡黄褐色粘土ブロック少量, 縮まりあり, 粘性あり</p> <p>17 10YR 4/6 褐色:粘土粒子・ブロック多量, 黒褐色粒子少量, 礫少量, 縮まりあり, 粘性あり</p> <p>18 10YR 3/2 黒褐色:ブロック少量, 焼土ブロック少量, 縮まりなし, 粘性なし</p> <p>19 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量, 炭化粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>20 10YR 4/6 褐色:ローム粒子と暗褐色粒子が混在, 縮まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>21 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック微量, 焼土粒子・ブロック少量, 炭化粒子・ブロック微量, 縮まりなし, 粘性ややあり</p> <p>22 10YR 4/4 褐色:ローム粒子と暗褐色粒子が混在, ブロック中量, 縮まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>23 10YR 3/4 暗褐色:ブロック多量, 焼土粒子・ブロック少量, 黒色粒子・ブロック微量, 縮まりあり, 粘性ややあり</p> <p>24 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 褐色粒子・ブロック微量, 黒色粒子・ブロック極微量, 縮まりあり, 粘性ややあり</p> <p>25 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・ブロック多量, 褐色粒子・ブロック微量, 黒色粒子・ブロック極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり</p> |
|--|--|

第23図 第7号竪穴建物跡竈実測図(2)



第24図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図

第8表 第7号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	(4.4)	8.5	4.9	(111.0)	5Y8/1 灰白	石英・長石微 細粒微量	良	輪積成形後ロクロ整形、底部ヘラ切後回転ヘ ラ削り、花卉状、切離し径に段がある。ロク ロ目5段、軽い	No.11 40%	在地C(三叢山窯 跡群カ) 8世紀後半から9 世紀前半
2	須恵器	坏	[14.0]	[8.0]	4.9	(75.0)	10YR8/1 灰白	石英・長石微 細粒微量、黒色 砂粒	普	輪積成形後ロクロ整形、底部ヘラ切後回転ヘ ラ削り、花卉状、切離し径に段がある、ロク ロ目6段、軽い	No.10 30%	在地C(三叢山窯 跡群カ) 8世紀後半から9 世紀前半
3	須恵器	坏	13.2	7.8	4.9	(196.0)	5Y7/2 灰白	石英・長石微 量、針状鈹物 微量	普	輪積成形後ロクロ整形、底部ヘラ切後ナデ、 中心切、切離し径に段がある、ロクロ目9段、 やや厚手で重い	No.2 80%	在地C(堀ノ内窯 跡群カ) 8世紀後半から9 世紀前半
4	須恵器	坏	[13.8]	[8.0]	4.4	(90.0)	10YR7/4 にぶい 黄橙	石英微量、長 石砂粒、針状 鈹物微量	普	輪積成形後ロクロ整形、底部ヘラ切後ナデ、 花卉状、ロクロ目4段で目に明瞭な段がある	No.6 45%	在地C 8世紀後半から9 世紀前半
5	須恵器	高台付 坏	13.7	8.2	5.6	(224.0)	2.5Y6/2 灰黄	石英微量、長 石砂粒、針状 鈹物微量	良	輪積成形後ロクロ整形、底部ヘラ切後回転ヘ ラ削りして付高台、花卉状、ロクロ目4段で 目に明瞭な段がある。内底面に重ね焼き痕あり	No.23 80%	在地C(木葉下 窯跡群カ) 8世紀後半から9 世紀前半
6	須恵器	高台付 坏	14.3	9.2	5.9	(317.0)	2.5GY5/1 オリーブ 灰	石英微量、長 石粒・砂粒多 量、針状鈹物 微量	良	輪積成形後ロクロ整形、底部回転ヘラ削りし て付高台、ロクロ目4段、やや厚手で重い	No.18 95%	在地C(堀ノ内 窯跡群カ) 8世紀後半から9 世紀前半
7	須恵器	高台付 盤	[11.3]	[11.3]	(2.0)	(43.0)	2.5Y6/1 黄灰	石英微量、長 石粒、砂粒、 針状鈹物微量	良	輪積成形後ロクロ整形、底部回転ヘラ削りし て付高台、軽い	No.9 10%	木葉下窯跡群カ 8世紀後半から9 世紀前半
8	土師器	鉢	[28.0]	—	(8.7)	(149.0)	7.5Y7/6 橙	石英・長石微 量、白雲母、 金雲母微量	良	輪積成形後、口縁部内外面ヨコナデ、体部外 面縦ヘラナデ、内面横ヘラナデ	No.32 5%	在地B 8世紀後半から9 世紀前半
9	土師器	甕	[22.9]	—	(5.1)	(58.0)	7.5YR6/4 にぶい橙	石英微量、長 石多量、白雲 母	普	輪積成形後、口縁部内外面ヨコナデ、体部外 面横ヘラナデ、内面横ヘラナデ	No.15 5%	在地B 8世紀後半から9 世紀前半
10	土師器	甕	[21.0]	—	(3.8)	(42.0)	7.5YR7/8 黄橙	石英微量、長 石、白雲母微 細粒多量、褐 色粒子	普	輪積成形後、口縁部内外面ヨコナデ	No.21 5%	在地B 8世紀後半から9 世紀前半
11	須恵器	鉢	—	—	(2.0)	(25.8)	5Y5/1 灰	石英微細粒微 量、長石粒、 砂粒少量	良	輪積成形後ロクロ整形、外面高温焼成で光沢 がある	No.25 5%	在地C(堀ノ内 窯跡群カ) 8世紀後半から9 世紀前半
12	須恵器	甕	—	—	(16.8)	(471.0)	5Y6/1 灰	長石粒、黒色 砂粒多量	良	輪積成形後ロクロ整形、内面無文の当具痕、 外面細めの板目叩き、外面に黒褐色の自然釉	No.7 + 24 5%	猿投窯跡群カ 8世紀後半から9 世紀前半
13	須恵器	円面碗	—	—	(4.4)	(15.0)	2.5YR5/3 にぶい 赤褐色	石英、長石、 小礫	良	輪積成形後ロクロ整形、隆帯貼り付け	一括 5%	胎土C(堀ノ内 窯跡群カ) 9世紀後半
遺物 番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
14	金属 製品	鐵	(4.4)	1.9	0.4	(7.6)	平根式の鉄鐵で茎の断面は僅かに長方形である。竈西袖床面から出土した				No.28	
15	金属 製品	鐵	(10.7)	0.6	0.4	(12.2)	茎の部分で断面が長方形であることから鉄鐵の茎と思われる。南壁際の埋土 下層から出土した。14の切先の部分と同一個体と考えられる				No.1	

第8号竪穴建物跡 (第25図, PL 8・37)

位置と重複 E3・4地区に位置し、第9号掘立柱建物跡、第10号土坑、第4・7号小穴に掘り込まれている。建物跡は上面が削平され床面と壁溝を確認した。

平面形と規模 平面形は方形で、主軸はN-30° - Wで、規模は東西2.4m、南北2.9mである。

壁 削平されていた。

壁溝 壁溝は一部途切れているが、幅8~16cmで、深さは8~16cmである。

柱穴 柱穴は3基確認したが配列は整っていない。また北東壁コーナー付近において、硬化面が床面から連続した浅い皿状の凹みが確認された。床面構築時と同時に造られた施設であるが用途は不明である。

竈 竈は第10号土坑によって破壊されたが、壁溝が途切れている部分に、痕跡として僅かな焼土と土師器の甕片が出土した。東竈と判断した。

掘方 貼り床はなく、掘削したローム面を直床にしている。

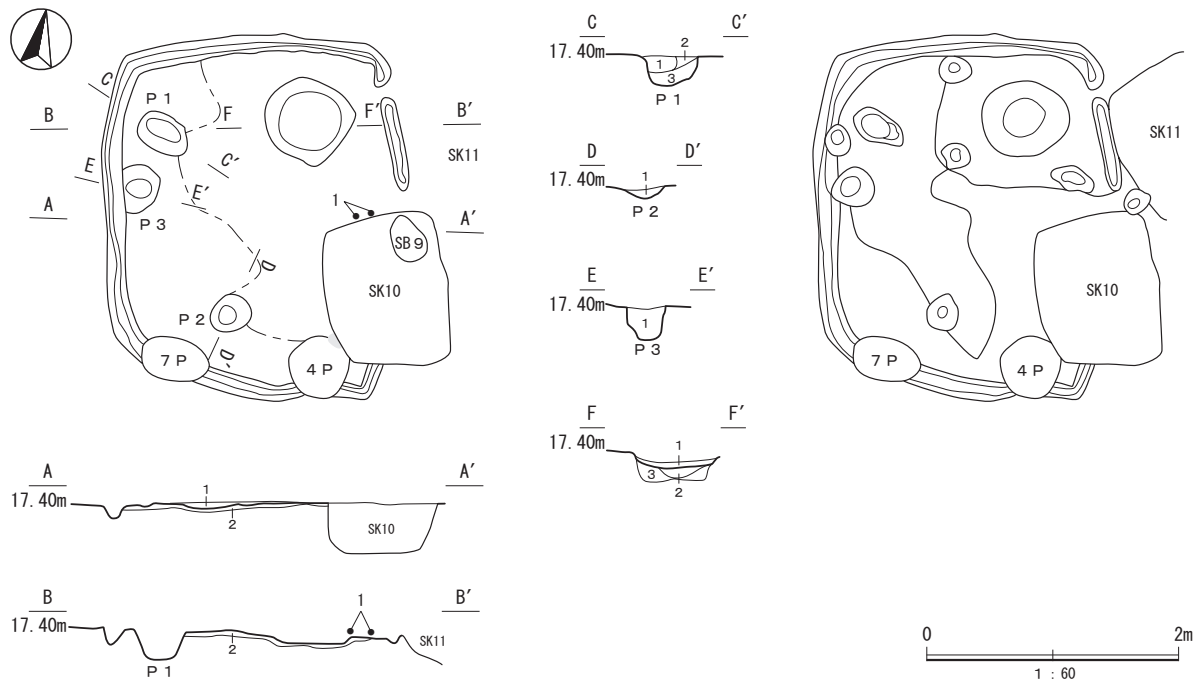
覆土 失われていた。

第4章 遺構と遺物

**遺物出土状況** 東竈から土師器の甕が出土した。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏4点・甕16点、須恵器の坏4点・高台付坏1点が出土した。そのうち1点を図化した。1は土師器の甕の口辺部片で、肩の張りが少ない。頸部は「く」の字に外反するが丸味を帯びる。口縁部は内面が内湾するが、外面は2段の稜があり口唇部は外方に摘み上げている。

**所見** 本竈穴建物跡は上方が削平され床面と壁溝が辛うじて確認された。竈穴建物は掘り込みが浅く床面は、標準層序のVI層上面に有るようである。出土遺物1は土師器甕であるが10世紀前半代で、居住時期は9世紀代第4四半期～10世紀第1四半期であろう。



**A - A' , B - B'**

- 1 10YR 4/2 灰黄色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，炭多量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性なし

**P 1 C - C'**

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子微量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性なし

**P 2 D - D'**

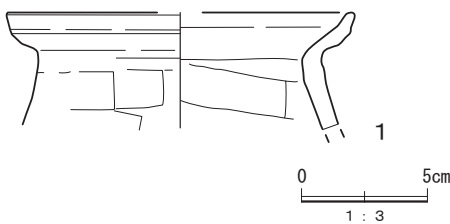
- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり

**P 3 E - E'**

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，縮まりなし，粘性なし

**P 4 F - F'**

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子と暗褐色粒子が混在，黒色粒子少量，焼土粒子極微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量



第25図 第8号竈穴建物跡・出土遺物実測図

第9表 第8号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	甕	[13.7]	—	(4.6)	(4.0)	2.5YR5/6 明赤褐	石英微細粒微量, 長石粒・砂粒少量, 針状鉱物微量	良	輪積成形後口縁部ヨコナデ, 体部内外面横ヘ ラナデ	一括 5%	在地C 9世紀後半から 10世紀前半

## 第9号竪穴建物跡 (第26・27図, PL 8・9・37・38)

**位置と重複** F3区に位置し東半が調査区外にある。西壁の一部は第40号土坑に掘り込まれている。南に第7号竪穴建物跡, 西に第12号竪穴建物跡がある。

**平面形と規模** 平面形は方形と推定される。主軸はN-0°で規模は東西1.5m, 南北2.4mである。

**壁** 壁は外形して立ち上がり, 深さは35cmである。東壁面では攪乱のため深さは確認できなかった。

**壁溝** 無し

**床** 床面まで攪乱が及んでいる部分もあり, 中央部分は硬化しているが, 他はやや軟弱な床で凹凸がある。

**柱穴** 確認できなかった。

**竈** 竈は北辺に確認したが破壊が著しかった。特に床面と共に東袖は遺存状態が良くなかった。袖幅は壁際で推定86cm, 焚口から煙道まで推定86cm, 壁外には46cmである。火床部は失われ, 図面上の太線は埋め戻した時点の状況である。掘方はローム粒子・ブロック, 焼土粒子・ブロックを混ぜた土を順に突き固めたと推定される。上層は埋め戻した層である。西袖は壁下に灰白色粘土を基底にその上に粘土・ブロック・焼土を混ぜた土で叩き締めている。

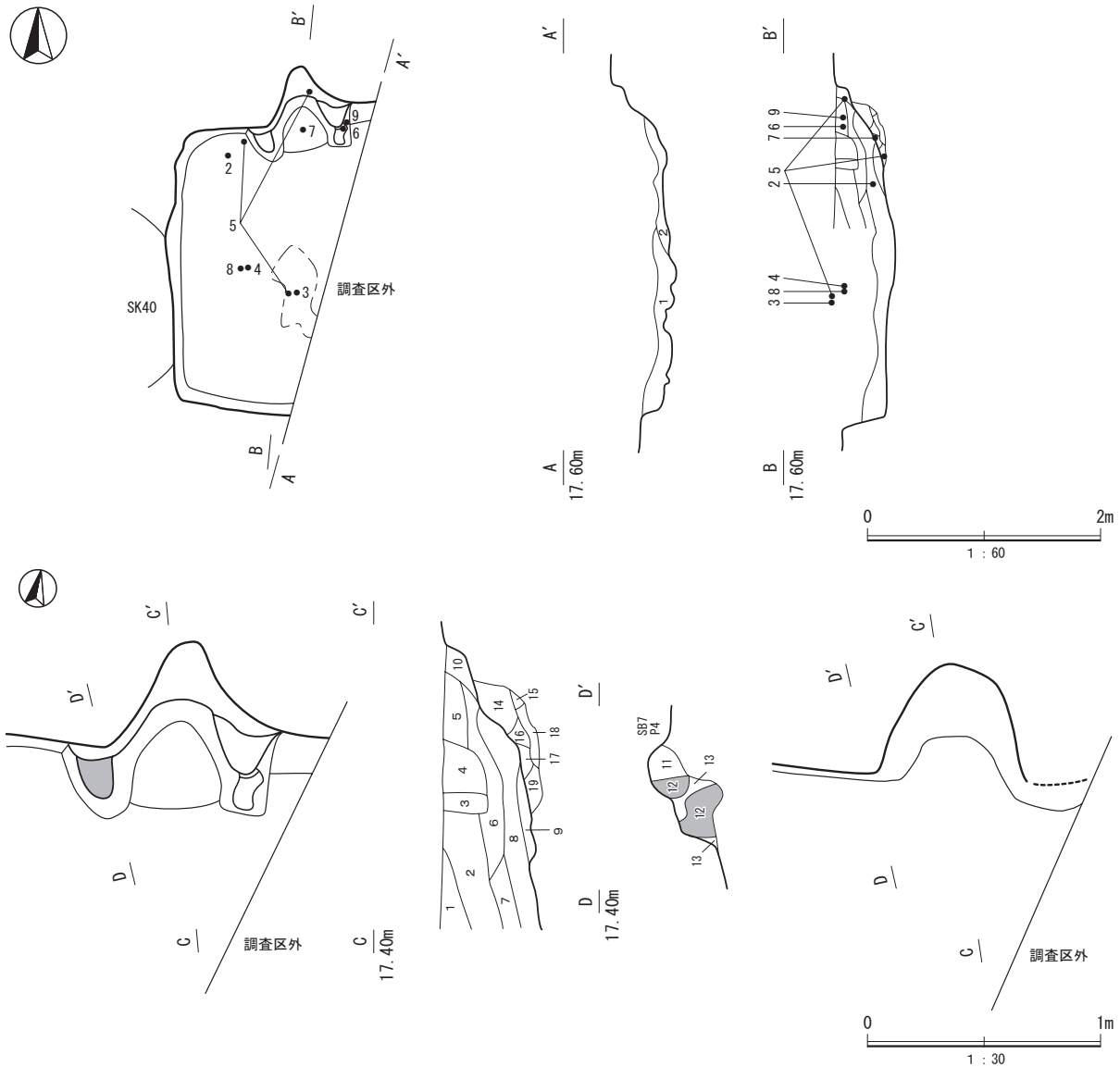
**掘方** 小穴が多数確認されたが, 掘方まで大木の根痕と思われる攪乱が及んでいた。竈に相対する南壁に一部掘り残しが見られるが他は一樣に開削したと推定される。

**覆土** 土層では最下層と破壊された竈の土層で埋め戻した状況を確認した。

**遺物出土状況** 遺物は竈内, 袖内, 周辺と上層から出土したが, 接合関係から時間差はないと判断する。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の甕82点, 須恵器の坏10点・高台付坏1点・蓋1点・鉢1点・甕2点, 石製品1点が出土した。その内9点を図化した。1~4は須恵器で, 5~8は土師器, 9は石製品である。1は小形の坏で内湾して開く。2は完形の坏で底部から外反して開く。3は高台付坏で底部の器高が厚く, 脚部は「ハ」の字に開き底面は平坦になっている。底部外面にヘラ記号がある。4は甕の体部下半から底部片で幅の広い板目叩きがある。5は竈内・床直・中層出土が接合した。肩の張りが弱い小形甕で肩部はヨコナデし, 体部中位から下位まで横ヘラ削りしている。頸部は弱い「く」の字で口唇部は内径気味に摘み上げ端部は僅かに折り返している。6は竈袖内からの出土で肩部の張りはなく, 頸部は緩やかに外反する。口唇部は内傾し外面に稜はない。7は肩の張りはなく, 頸部は緩やかに外反する。口唇部は器厚がある口縁部から薄く外方に摘み上げている。8は竈下・竈内・中層から出土し接合した。肩がやや張り, 頸部はコ字状に近い。口唇部は上方に摘み上げ端部を外方に引出している。外面に稜がある。9は竈袖内から出土した砥石で使用痕が少なく, 加工痕が見られる。使用途中で破損し竈の構築材に再利用されたと考えられる。

**所見** 本竪穴建物跡の遺存状態は良くなかったが, 竪穴建物の廃絶時に竈を破壊し, 出土遺物の接合関係から短時間に埋め戻されたと思われる。土師器の常総型の甕は5~8まで竈の掘方, 竈袖内, 火床部から出土しており, 口唇部の形態変化を観察する材料になる。遺物は9世紀前半~後半まで出土しているが, 居住時期は9世紀第2四半期~第3四半期と思われる。



A-A', B-B'

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，暗褐色粒子中量，焼土粒子極微量，炭化粒子・炭化物極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，炭化粒子・炭化物微量，縮まりあり，粘性ややあり

竈 C-C' D-D'

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，焼土粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，焼土粒子・ブロック少量，炭化物少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，焼土粒子・ブロック少量，白色粘土微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子微量，焼土粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子微量，焼土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子少量，焼土粒子・ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 7 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子・ブロック少量，焼土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 8 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック中量，黒色粒子少量，焼土粒子・ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 9 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子少量，焼土粒子少量，白色粘土中量，縮まりややあり，粘性ややあり

- 10 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子少量，焼土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり

- 11 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色粒子中量，焼土粒子・ブロック微量，炭化粒子・ブロック微量，縮まりあり，粘性あり

- 12 10YR 5/6 黄褐色：粘土粒子・ブロック多量，ローム粒子・ブロック微量，焼土粒子・ブロック微量，炭化粒子微量，灰白色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性あり

- 13 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，焼土粒子微量，炭化粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり

- 14 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，焼土粒子・ブロック少量，炭化粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり

- 15 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色粒子少量，縮まりあり，粘性あり

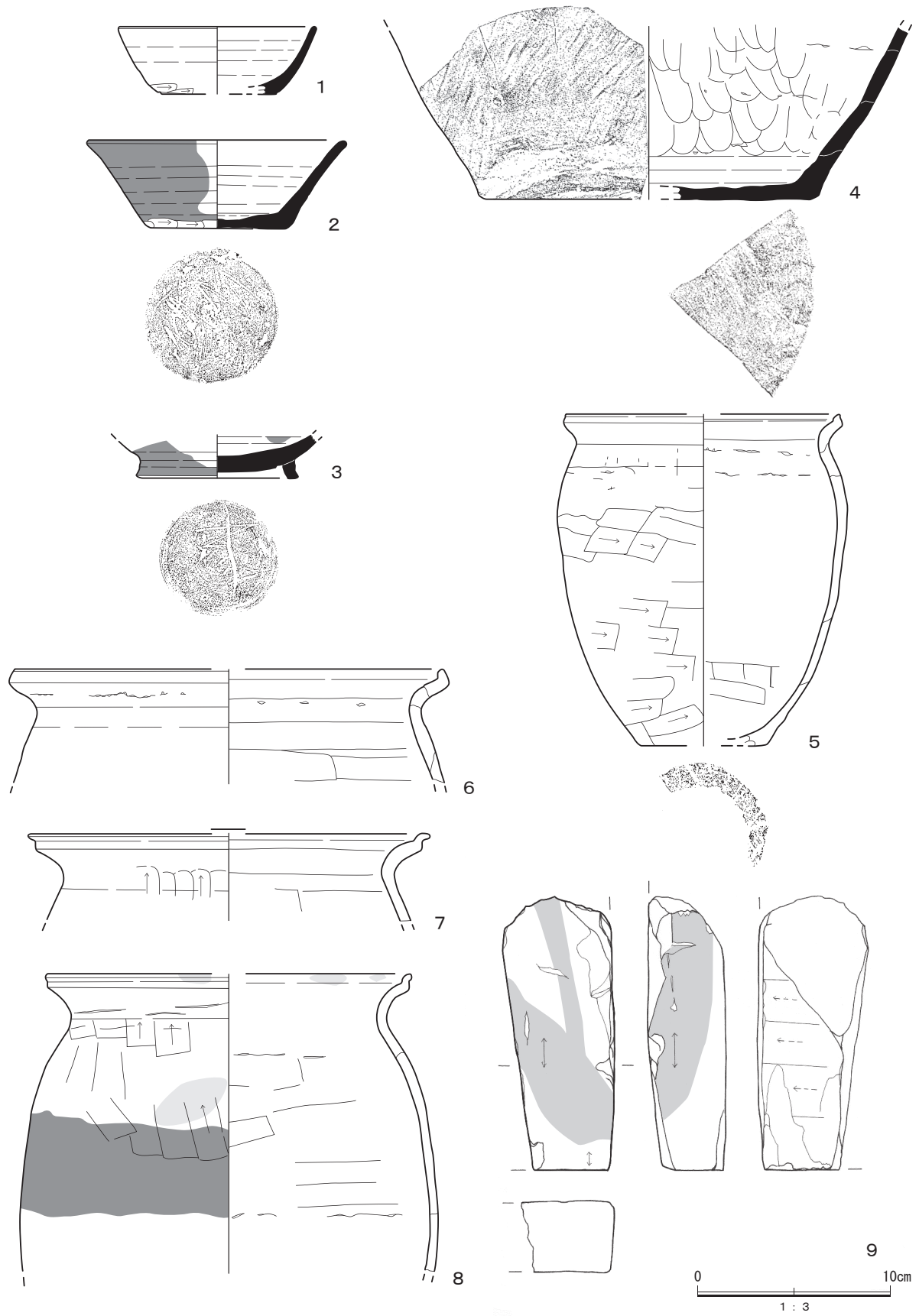
- 16 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり

- 17 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量，焼土粒子・ブロック中量，炭化粒子少量，縮まりあり，粘性なし

- 18 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，焼土粒子少量，炭化粒子少量，縮まりややあり，粘性なし

- 19 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，焼土粒子・ブロック微量，炭化粒子微量，縮まりあり，粘性なし

第26図 第9号竪穴建物跡実測図



第27図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4章 遺構と遺物

第10表 第9号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	[10.0]	[5.9]	(3.5)	(14.0)	2.5Y6/1 黄灰	石英粒微量, 長石粒・砂粒 少量, 針状鉱 物微量	良	輪積成形後ロクロ整形, 輪積2段, 底部回転 ヘラ切後回転ヘラナデ, ためらい痕あり	中層一括 10%	木葉下窯跡群カ 8世紀後半から9 世紀前半
2	須恵器	坏	13.2	6.8	4.6	204.0	5YR6/2灰	長石粒・砂粒 多量, 針状鉱 物中量	普	輪積成形後ロクロ整形, 輪積4段, ロクロ目 6段, 底部回転ヘラ切後体部下端と底部外面 手持ちヘラ削り, やや厚手で重い, ヘラ記号(横 波状)	No.15 100%	堀ノ内窯跡群カ 8世紀後半から9 世紀前半
3	須恵器	高台付 坏	—	8.4	(2.3)	(115.0)	10YR6/1 黄灰	長石粒・砂粒 多量, 針状鉱 物少量	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部回転ヘラ削り後 付高台, 底部外面にヘラ記号(横波状に立て 一文字)	No.1 20%	木葉下窯跡群カ 8世紀後半から9 世紀前半
4	須恵器	甕	—	[16.9]	(8.9)	(210.0)	5Y5/1灰	石英粒微量, 長石粒・砂粒 少量, 針状鉱 物中量	良	輪積成形後ロクロ整形, 内面は底部から体部 下端に二重の回転を施し, 上位には無文の当 具痕, 外面は5mm幅の板目叩きである。底部 ナデ, 底部ヘラ記号(キカ)	No.2 5%	木葉下窯跡群カ 8世紀後半から9 世紀前半
5	土師器	小形甕	[14.2]	[6.5]	17.1	(339.0)	5YR5/4 にぶい 赤褐	石英少量, 長 石中量, 砂粒 多量, 白雲母 微量	良	輪積成形後口縁から肩部内外面ヨコナデ, 体 部内面横ヘラナデ, 外面横ヘラ削り, 底部に 制作時の圧痕あり	竈No.1 + No.8 + 16 70%	在地B 8世紀後半から9 世紀前半
6	土師器	甕	[22.2]	—	(62.0)	(62.0)	7.5YR6/4 にぶい橙	石英少量, 長 石中量, 白雲 母中量	良	輪積成形後口縁部内外面ヨコナデ, 体部内面 横ヘラナデ	No.3 5%	在地B 8世紀後半から9 世紀前半
7	土師器	甕	[20.6]	—	(4.5)	(32.0)	7.5YR5/3 にぶい褐	石英微量, 長 石粒多量, 白 雲母多量	普	輪積成形後口縁部内外面ヨコナデ, 体部内外 面横ヘラナデ	No.14 5%	在地B(益子窯跡 群カ)8世紀後半 から9世紀前半
8	土師器	甕	—	—	(15.3)	(468.0)	5YR7/4 にぶい橙	石英・長石粒 微量, 粘土質	良	輪積成形後口縁部内外面ヨコナデ, 体部内面 横ヘラナデ, 外面上位縦ヘラナデ, 中位横ヘ ラナデ	No.3 30%	在地C 8世紀後半から9 世紀前半
遺物 番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴			出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期	
9	石器	砥石	(14.2)	(5.7)	(4.1)	(452.0)	砥石の破片で, 全体形は不明, 使用痕が上面と側面の一部に見られる。下面 には制作時の加工痕が横方向に見られる。使用痕が少なく早い段階で破損し たと考えられる。			No.3		

第10号竪穴建物跡(第28・29図, PL9・38)

**位置と重複** E・F3区に位置し, 西側の4分の3は調査区外にある。第3号粘土貼土坑, 第15・19・20・43号土坑に掘り込まれているが, すべて床面までは達していない。

**平面形と規模** 平面形は方形と推定される。主軸はN-8°-Wである。規模は東西1.65m以上, 南北4.0mである。

**壁** 壁は垂直に立ち上がるが, 南壁は上方が外傾する。深さは確認面から50cmであるが, 西壁面では95cm確認できる。

**壁溝** 壁溝は東壁下に確認した。幅は20cmで深さは8cm程である。床は2時期確認したが壁溝は2時期目に伴う。

**床** 床はローム粒子・ブロック主体で非常に硬く作られていた。その床を除去しようとしたら, 下部から同様の床が確認された。床構築の作業工程とも考えられるが, 床は2時期のものと理解した。

**柱穴** 柱穴は南東の南壁下に確認した。

**竈** 竈は北壁に想定されるが確認できなかった。

**掘方** 2次期目の床から10cm程平坦に掘り込まれているが, 敷き均す程度でローム直床としてよい。

**覆土** 覆土は黒色土主体の土にローム粒子・ブロック少量含む土を交互に埋め戻している。竈の付近でないので粘土や焼土の量が少ないのであろう。

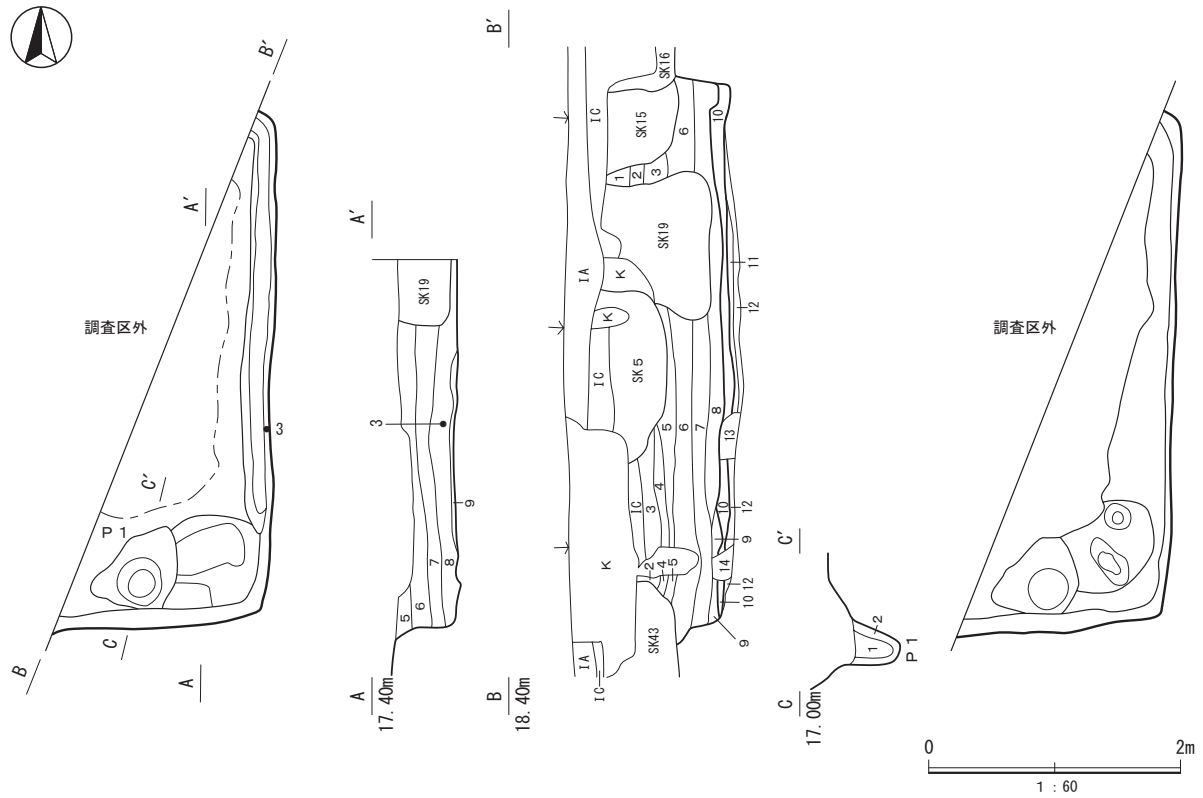
**遺物出土状況** 遺物の出土量は非常に少ない。その中で東壁面の壁際で床面から10cm程の位置から銅銭の5分の1が出土した。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の碗1点・甕16点, 須恵器の坏3点・甕1点, 銅銭1点が出土した。その内3点を図化した1は土師器の碗で底部から大きく内湾して開き薄手である。内面はヘラ磨き後黒色処理し, 外面



のロクロ目はヘラ状具を当てた段がある。2は須恵器坏の底部片で底部は突出し気味である。底部外面にヘラ記号(不明)がある。3は銅銭で天の字が「隆」と読める。皇朝十二銭の「隆平永寶」で初铸年は延暦十五(796)年である。

**所見** 本竪穴建物跡は人為的に埋め戻した竪穴建物であることが確認され、皇朝十二銭の隆平永寶が出土した。遺物は9世紀後半代が出土しているが、居住時期は9世紀第3四半期～第4四半期と思われる。



A - A' , B - B'

- 1 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子少量, 黒色土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子少量, 黒色土粒子微量, 暗灰色粘土粒塊少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子少量, 黒色土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・塊少量, 黒色土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 5 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・塊少量, 黒色土粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 6 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・塊少量, 黒色土粒子微量, 白色土粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 7 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子少量, 黒色土粒子少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 8 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・塊少量, 黒色土粒子微量, 焼土粒極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 9 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・塊中量, 黒色土粒子微量, 焼土粒極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 10 10YR 4/6 褐色:ロームブロックと黒色土の混在, 縮まり強く固い,

粘性ややあり

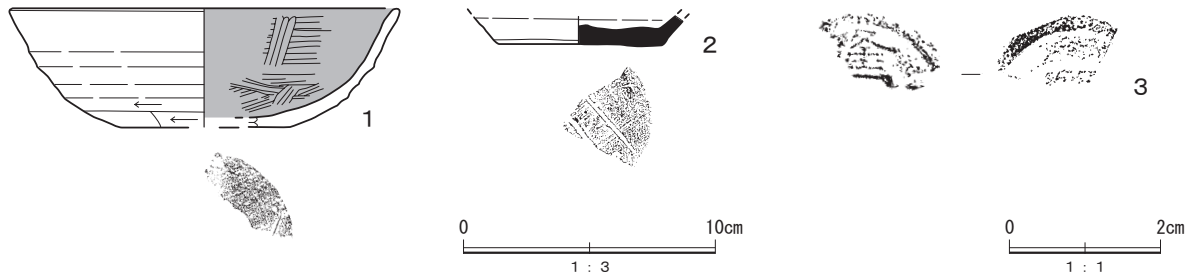
- 11 10YR 4/6 褐色:ロームブロックと暗褐色土が混在, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 12 10YR 4/6 褐色:ロームブロックと黒色土が混在, 黒色土塊少量, 縮まり強く固い, 粘性ややあり
- 13 10YR 4/6 褐色:ロームブロックと暗褐色土が混在, 黒色土粒微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 14 10YR 4/6 褐色:ローム粒子と黒色土が混在, 縮まりややあり, 粘性ややあり

P 1

- 1 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子少量, 黒色土粒子微量, 縮まりなし, 粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色土粒子少量, 縮まりややあり, 粘性ややあり

第28図 第10号竪穴建物跡実測図

第4章 遺構と遺物



第29図 第10号竪穴建物跡出土遺物実測図

第11表 第10号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	碗	[15.2]	[6.5]	(4.7)	(36.0)	10YR6/6 明赤褐	石英・長石微 細粒微量, 針 状鉱物微量	良	輪積成形後ロクロ整形でヘラ当具痕明瞭, 体部 下端から底部回転ヘラ削り, ヘラ削り上半ロク ロ目4段, 内面ヘラ磨き後, 内面黒色処理	一括 5%	在地C 9世紀代
2	須恵器	坏	—	[0.3]	(1.1)	(15.0)	2.5Y5/1 黄灰	石英・長石微 量, 針状鉱物 微量	良	底部ヘラ切後ナゲ削り, 底部ヘラ記号 (不明)	一括 3%	在地C 9世紀代
遺物番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
3	金属製品	銭貨 [皇朝 十二銭]	0.94	1.71	0.18	0.5	5分の1の小片で「隆」の字が観察される。皇朝十二銭の「隆平永寶」で初 铸年は延暦十五 (796) 年である。				No.1	796年

第11号竪穴建物跡 (第30図, PL 9・10・38)

**位置と重複** E3区に位置し, 北東部が調査区外にある。第5・8号掘立柱建物跡, 第23・24号土坑, 第2号粘土貼土坑, 第11号小穴に掘り込まれている。第10号竪穴建物跡の北側にある。

**平面形と規模** 平面形は不整長方形である。主軸はN-25° - Wである。規模は東西3.2m, 南北2.8mである。全形は不明であるが, 東壁が2.15m対し西壁は短いように見える。

**壁** 壁は僅かに外反して立ち上がる。深さは確認面で15cm, 西壁面で40cmである。

**壁溝** 無し

**床** 床は中・近世の遺構によって破壊されている部分が多いが, 中央付近を中心に硬化している。

**柱穴** 3基確認したが中央付近にあり中世の小穴と考えられる。

**竈** 北壁に灰白色粘土を確認した。竈は北壁のあったと推定されるが破壊されていた。

**掘方** 掘方は中央が窪む浅い皿状で, ローム粒子・ブロック, 焼土粒子, 炭化物粒子などを混在し, 荒く埋め戻した床を構築している。

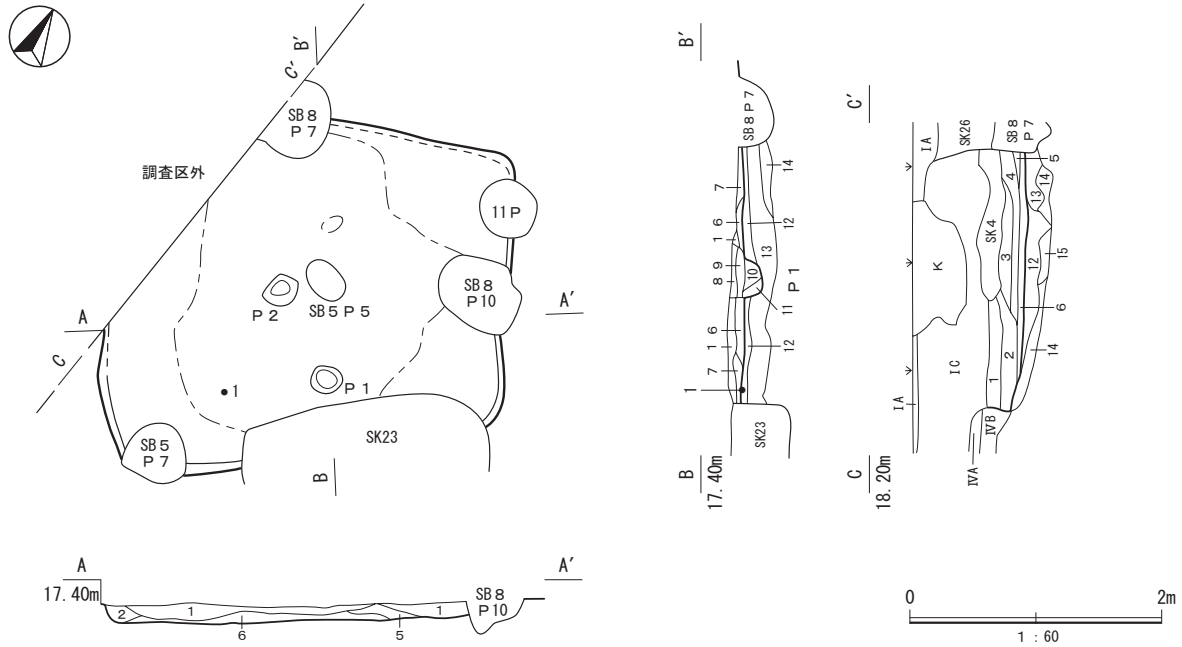
**覆土** ローム粒子・ブロック多量, 黒色土粒子, ローム粒子を含む層を相互に埋め戻している。上層は中・近世の遺構によって失われていた。

**遺物出土状況** 上層の遺構によって遺物の多くは失われていたが, 床面上や貼床下から出土している。1は床面上から出土した土師器の高台付坏の底部片である。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏2点・高台付坏1点・皿1点・甕17点, 須恵器の坏12点・蓋1点・甕1点が出土した。その内4点を図化した。1は土師器の高台付坏で内面ヘラ磨き後黒色処理, 高台は直立し外端に接地面がある。体部下端周縁は人為的に打ち欠いている。台に転用したものと推定される。外部底面には「林家」の墨書がある。墨書のある底部外面を上にして出土した。2は土師器の常総型の甕の口縁部片で, 内外面に赤彩し, 口唇部は内側に摘み上げ内外面とも外湾する。3は須恵器坏の口辺部で直線的に開きロクロ目幅が

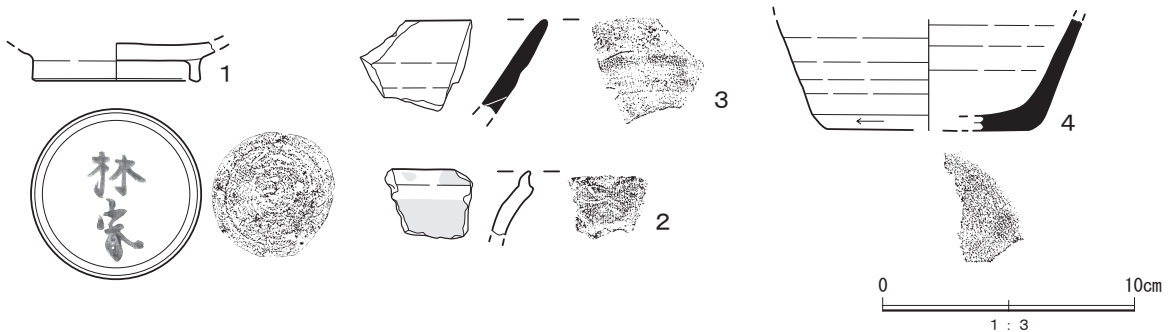
広い。4は須恵器で厚手で底部から直線的に開く。

**所見** 本堅穴建物跡は上面が中・近世の遺構によって失われていたが埋め戻していることは確認された。掘方は浅い皿状で今回の調査で唯一の資料である。出土遺物は少ないが「林家」の墨書土器は貴重である。遺物は9世紀後半の遺物が出土しているが、居住時期は9世紀第2四半期～第3四半期であろう。



A-A', B-B', C-C'

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子少量，焼土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子微量，焼土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>5 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色土粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>6 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子・ブロック中量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>7 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，焼土粒子極微量，黒色土粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>8 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子微量，焼土粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> | <p>9 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック少量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>10 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子微量，焼土粒子極微量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>11 10YR 4/6 褐色：暗褐色土とブロック混入，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>12 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，炭化物粒子・ブロック多量，暗褐色土少量 縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>13 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒褐色土粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>14 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性あり</p> <p>15 10YR 4/6 褐色：ローム粒子と暗褐色土が混在，黒色土粒子・ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> |
|--|--|



第30図 第11号堅穴建物跡・出土遺物実測図

第4章 遺構と遺物

第12表 第11号竪穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	高台付 坏	—	6.4	(1.5)	(53.0)	7.5YR6/6 橙	石英・長石微量, 針状鈹物微量	良	底部回転ヘラ削り後付高台, 内面ヘラ磨き後内面黒色処理, 底部外面に「林家」の墨書	No.1 15%	在地C 9世紀代
2	土師器	甕	—	—	(2.6)	(8.2)	5.5YR6/6 橙	石英・長石微量	普	口縁部内外面ヨコナデ, 内外面赤彩で摩滅している。	一括 5%	在地C 9世紀代
3	須恵器	坏	—	—	(3.9)	(12.7)	7.5Y5/1 灰	長石粒・砂粒中量, 針状鈹物微量	普	輪積成形後ロクロ整形, 外面に重ね焼き痕あり	貼床下 5%	木葉下窯跡群カ 8世紀代
4	須恵器	坏	—	[8.0]	(4.5)	(36.0)	7.5Y7/1 灰白	石英粒微量, 長石粒中量, 針状鈹物中量, 砂質	普	底部ヘラナデ, 体部下端ヘラ削り	一括 5%	木葉下窯跡群カ 8世紀代

第12号竪穴建物跡 (第31・32図, PL10・30・38)

**位置と重複** F3区に位置し, 西壁は調査区外にあり, 第38・39・41号土坑に掘り込まれていた。第38号土坑は床面まで, 第41号土坑は床面近くまで破壊されていた。

**平面形と規模** 平面形は方形で, 主軸はN-8°-Wである。規模は東西2.75m, 南北2.45mである。

**壁** 壁は僅かに外形して立ち上がる。深さは40cmであるが, 西壁面の土層では破壊のため確認できなかった。

**壁溝** 壁溝は調査区内では全周している。幅は14~25cm, 深さは10~18cmである。

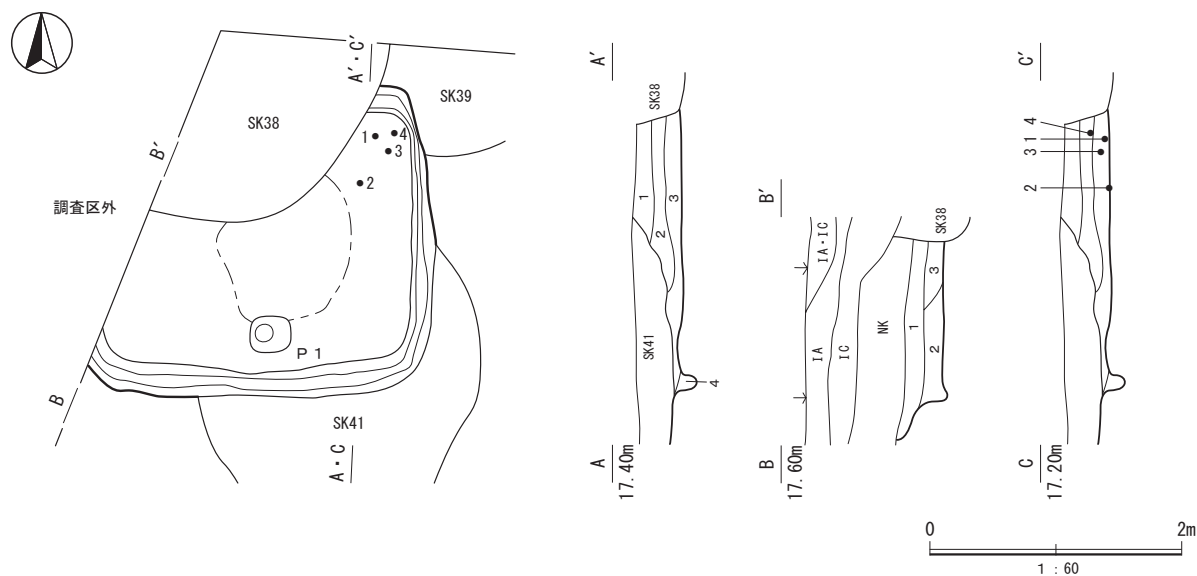
**床** 床はローム直床で中央付近が特に硬化していた。

**柱穴** 南壁下中央付近に1基確認した。位置的に主柱穴ではなく入口施設に伴う柱であろう。

**竈** 竈は北壁にあると思われるが確認できなかった。

**掘方** 基本層序IVA層を床面とする。

**覆土** 覆土は4層が確認された。黒色土層, ローム粒子・ブロック主体層とする互層であることから人為的に埋め戻したと推定される。



A-A', B-B', C-C'

- 1 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子・ブロック少量, 黒色土粒子微量, 焼土粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子・ブロック中量, 黒色土粒子少量, 焼土粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり

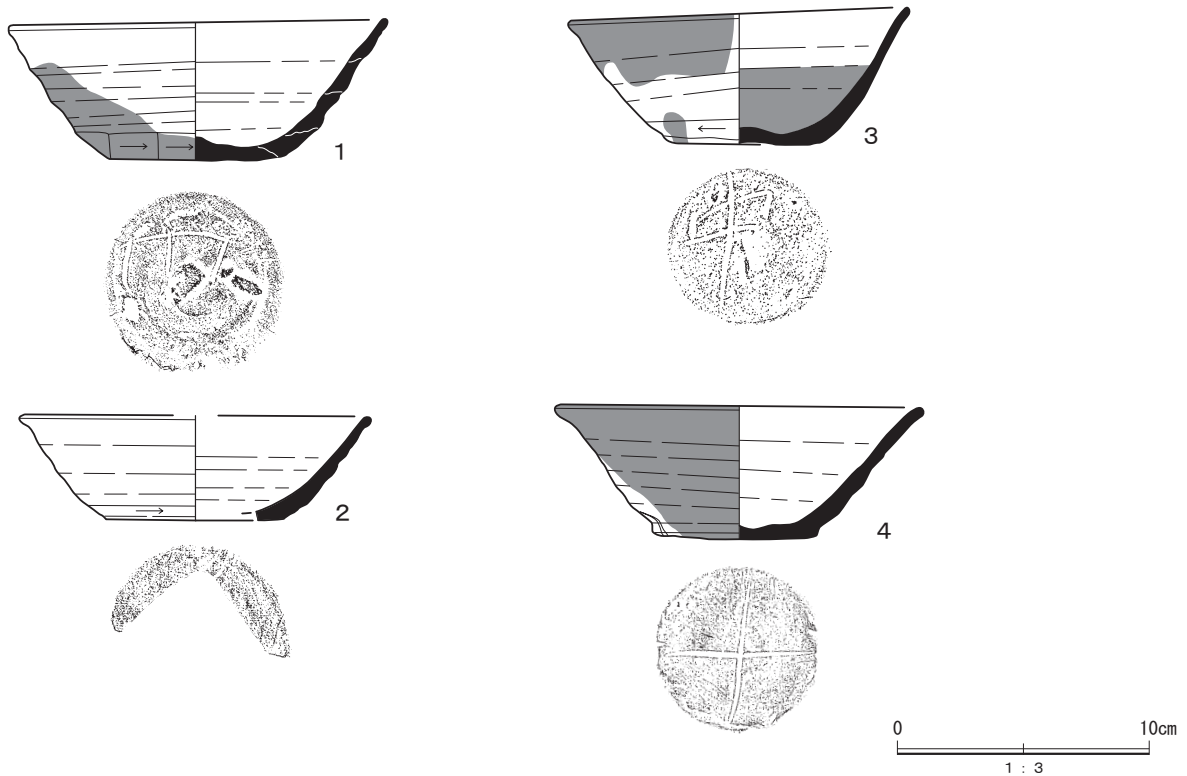
- 3 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子少量, 黒色土粒子微量, 焼土粒子極微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 4 10YR 5/6 黄褐色: ローム粒子・ブロック多量

第31図 第12号竪穴建物跡実測図

**遺物出土状況** 北東隅の41号土坑の手前から出土した。1・2が床面上，3・4は5～15cm上から出土した。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏4点，須恵器の坏4点が出土した。その内4点を図化した。1～4は須恵器の坏で全て酸化焰焼成である。1は直線的に開き，外面にヘラ状具を当てロクロ整形しているため段がある。底部外面には「巾」のヘラ書きがある。2は僅かに内湾して開き口唇部を引出している。3は底部突出しで，底部から内湾して開き上方が外反する。底部外面に「中」のヘラ書きがある。4は底部突出しで，底部から外傾して開き上方が外反する。底部外面には「十」のヘラ記号がある。

**所見** 本堅穴建物跡は破壊が大きかったが，人為的に埋め戻した堅穴建物であり，偶然にも完形に近い須恵器坏が2点出土した。遺物は9世紀後半で，居住時期は9世紀第3四半期～第4四半期であろう。



第32図 第12号堅穴建物跡出土遺物実測図

第13表 第12号堅穴建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	14.8	6.8	5.6	(196.0)	2.5Y7/2 灰黄	石英粒微量， 長石粒少量， 針状鉾物微量	普	輪積成形後ロクロ整形，底部ヘラ切後軽いナデ，ロクロ目は明瞭で段がある。ロクロ目5段がある。外面一部に煤付着，底部外面に「巾」様のヘラ記号	No.3 95%	在地C（益子窯跡群カ） 9世紀前半代
2	須恵器	坏	[13.6]	[7.0]	4.1	(77.0)	5Y7/1 灰白	石英・長石微量， 針状鉾物微量	普	輪積成形後ロクロ整形，底部ヘラ切後ナデ，底部突出し，ロクロ目5段	No.4 + 一括 40%	在地C（三叢山窯跡群カ） 9世紀前半代
3	須恵器	坏	13.3	6.0	5.5	1018.0	2.5Y7/2 灰黄	石英・長石微量， 針状鉾物微量	普	輪積成形後ロクロ整形，ロクロ目5段，底部ヘラ切後ナデ，底部突出し，体部内外面に煤付着，底部外面に「中」の文字	No.2 100%	在地C（益子窯跡群カ） 9世紀前半代
4	須恵器	坏	14.4	6.5	6.5	(5.3)	2.5Y7/3 浅黄	石英・長石微量	—	輪積成形後ロクロ整形，底部ヘラ切後ナデ，底部突出し，ロクロ目6段，底部外面に「十」のヘラ記号	No.1 60%	在地C（益子窯跡群カ） 9世紀前半代

2 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡（第33図，PL10・11・39）

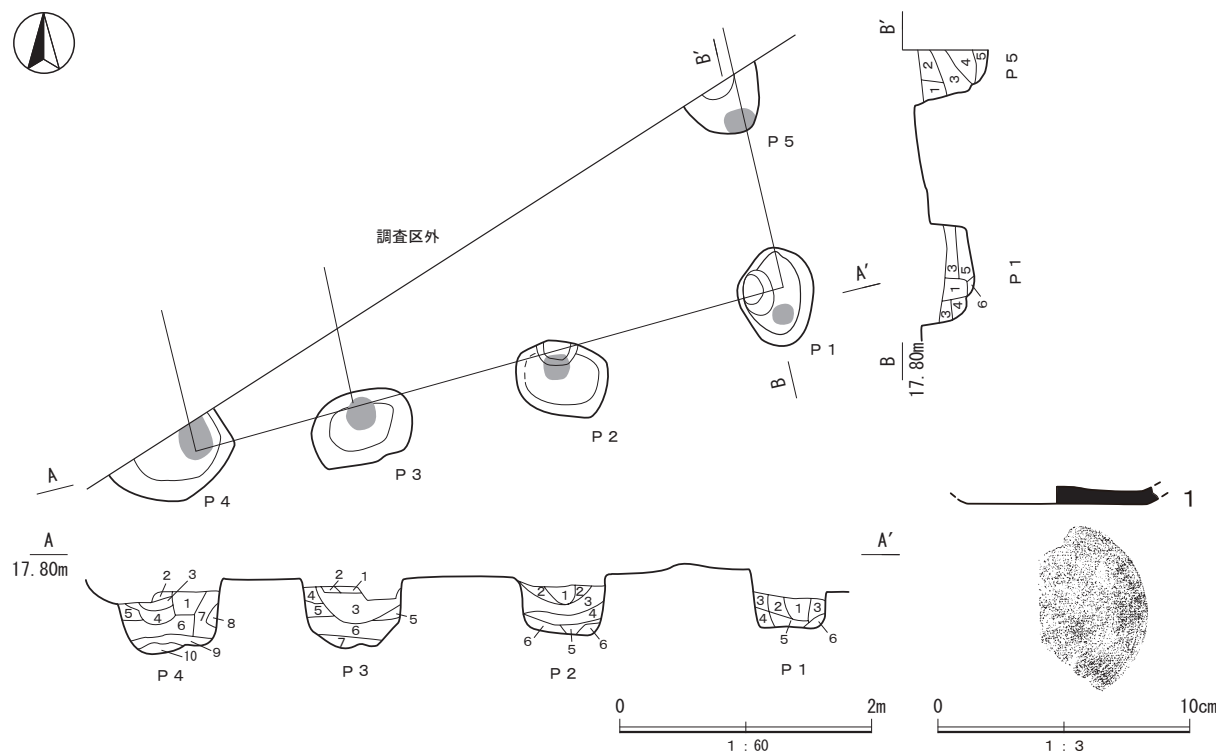
位置と重複 AB3・4区に位置している。

建物方向と規模 2間×1間以上の西廂のある南北棟で、主軸はN-16°-Wである。規模は桁行が南から1.8m以上（1.8m）、梁行は東から1.8m+1.8m（3.6m）の2間に1.2mの廂が付く。

柱穴 平面形は楕円形で、深さは確認面から40～50cmである。柱当たりは底面に達するものと、柱穴内を版築状に固めた上に柱を据えているものがある。

出土遺物 出土遺物は土師器の甕16点、須恵器の坏2点が出土した。その内1点を図化した。1は須恵器の坏底部片で底部回転ヘラ削りである。

所見 2間×1間以上の南北棟で西廂が付く、9世紀代であろう。



第33図 第1号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

A-A' , B-B'

P 1

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒褐色土粒子少量，焼土ブロック少量，炭化粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，ロームブロック少量，黒褐色土粒子少量，褐色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒褐色土粒子少量，褐色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子少量，黒褐色土粒子多量，褐色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 4/2 灰黄褐色：ローム粒子中量，黒褐色土粒子微量，褐色粒子極微量，灰黄褐色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 6 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色土粒子微量，粘性あり，縮まりあり

P 2

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒褐色土粒子中量，褐色ブロック少量，炭化粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり

- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，ロームブロック少量，褐色土粒子中量，明褐色土ブロック少量，褐色粘土粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/4 褐色：ローム粒子多量，ロームブロック中量，黒褐色土粒子少量，縮まりややあり，粘性あり
- 4 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色土粒子多量，縮まりややあり，粘性あり
- 5 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子多量，ロームブロック微量，縮まりなし，粘性ややあり
- 6 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，ロームブロック中量，黒褐色土粒子少量，縮まりあり，粘性あり

P 3

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，ロームブロック微量，黒褐色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/2 灰黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，ローム小ブロック少量，明褐色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり

- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，ローム粒子・ブロック少量，黒褐色土粒子中量，褐色土ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，黒褐色土粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 4/6 褐色：ローム粒子多量，黒褐色土粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 4/6 褐色：ローム粒子多量，ロームブロック少量，暗褐色土粒子多量，黒褐色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 7 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，ロームブロック微量，黒褐色土粒中量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 4

- 1 10YR 3/2 黒褐色：暗褐色土粒子中量，炭化粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒褐色土粒子少量，暗褐色土粒子・ブロック少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/4 褐色：ローム粒子多量，ロームブロック少量，暗褐色土粒子少量，明褐色土粒子微量，縮まりあり，粘性あり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量，褐色土ブロック微量，暗褐色土粒子中量，縮まりなし，粘性ややあり
- 5 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，ロームブロック少量，暗褐色土粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，ロームブロック少量，明褐色土

- ブロック量，炭化粒子微量，縮まりなし，粘性ややあり
- 7 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒褐色土粒子少量，明褐色土ブロック微量，炭化粒子微量，縮まりなし，粘性ややあり
- 8 10YR 3/3 黒褐色：ローム粒子微量，暗褐色土粒子中量，明褐色土粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 9 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，暗褐色土粒子中量，黒褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 10 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子多量，黒褐色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 5

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，ロームブロック少量，暗褐色土粒子微量，褐色土粒子微量，炭化粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒褐色土粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，ロームブロック少量，黒褐色土粒子少量，小礫微量，縮まりややあり，粘性あり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，ロームブロック少量，黒褐色土粒子中量，明褐色土粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 4/4 褐色：ローム粒子多量，黒褐色土粒子中量，縮まりなし，粘性ややあり

第14表 第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	—	7.0	(0.7)	(28.0)	7.5Y5/1 灰	石英粒微量，長石粒多量，針状鉱物多量	良	底部回転ヘラ削り	5%	木葉下窯 9世紀代

第2号掘立柱建物跡 (第34図, PL11・39)

**位置と重複** B3区に位置し，古代の第2号竪穴建物跡を掘り込み，中世の第1号地下式坑，第24号小穴，近世の第29・30号土坑に掘り込まれている。

**建物方向と規模** 2間以上×1間以上の東西棟と推定される。主軸はN-80° - Eである。規模は北辺で東から1.85mで東から1.85m+2.35m以上(4.2m)，南辺は東から1.7m以上である。梁行は東辺で2.0m以上である。

**柱穴** 平面形は全景を窺がえるものは少ないが不正方形・楕円形である。深さは40～75cmで当りは底面まで達している。抜き取られている可能性がある。

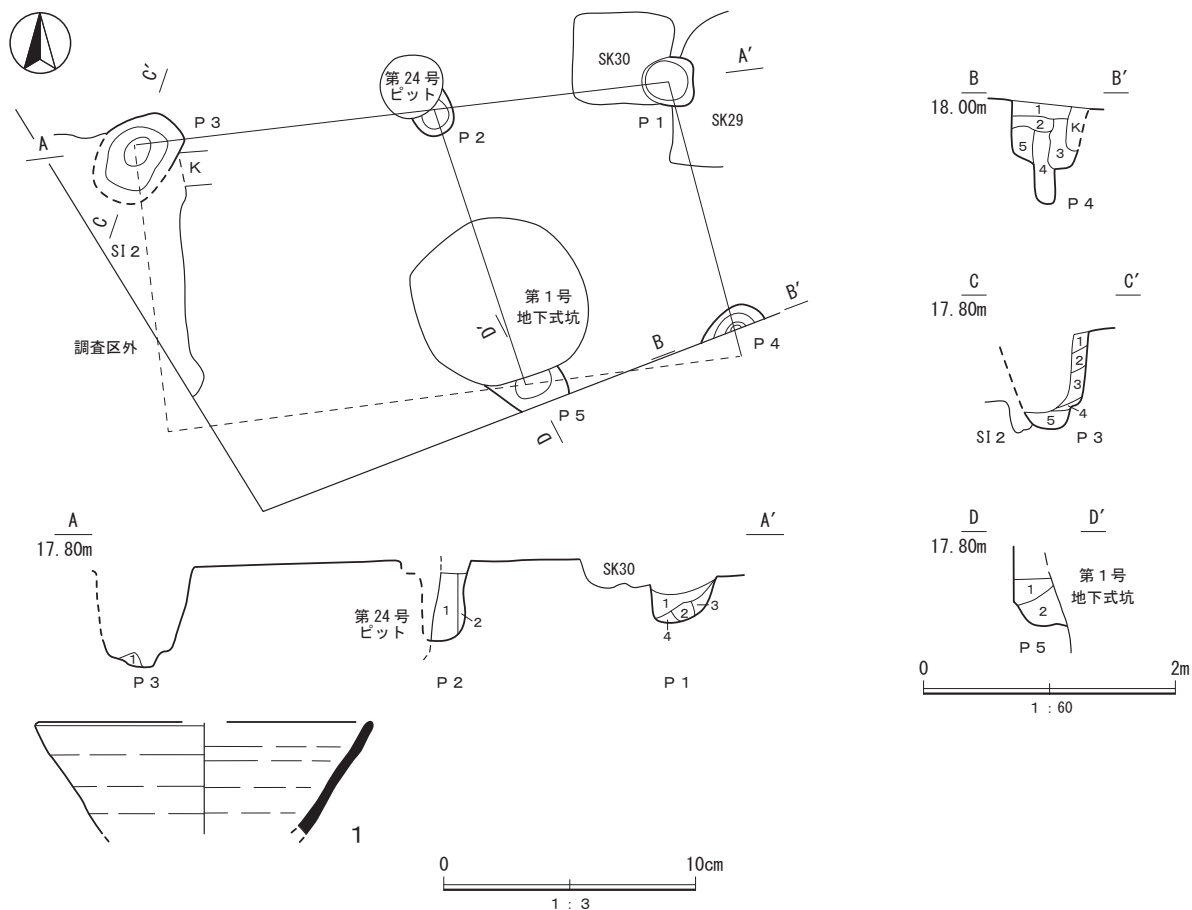
**出土遺物** 出土遺物は土師器の甕1点，須恵器の坏1点が出土した。その内1点を図化した。1は須恵器坏の体部から口縁部片で器壁が薄く，直線的に開く。

**所見** 不規則な柱配置であるが，2間以上×1間以上の東西棟の側柱建物で，時期は9世紀代であろう。

第15表 第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	—	—	(4.4)	(15)	10YR5/2 灰黄褐	石英粒微量，長石粒多量，針状鉱物微量	良	輪積成形後ロクロ整形，ロクロ目が4段で薄手，酸化焰焼成であるが焼き縮まっている	5%	在地C 9世紀代

第4章 遺構と遺物



A - A' , C - C'

P 1

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 2

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 3

- 1 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 5/4 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 5/4 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり

- 4 10YR 6/4 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色粒子少量，縮まりなし，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子多量，炭化物少量，褐色粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 4 B - B'

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・塊中量，褐色土粒子・塊微量，縮まりなし，粘性なし
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，褐色土粒子極微量，黒色土粒子極微量，縮まりなし，粘性なし
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，褐色土粒子極微量，黒色土粒子・塊極微量，縮まりややあり，粘性なし
- 4 10YR 4/3 褐色：ローム粒子・塊多量，黒色土塊極微量，縮まりややあり，粘性なし
- 5 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・塊・ブロック多量，黒色土塊微量，縮まりややあり，粘性なし

P 5 D - D'

- 1 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり

第34図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第3号掘立柱建物跡 (第35図, PL12・39)

**位置と重複** L12区に位置し，古代の第4号掘立柱建物跡と中世の第3号溝跡と重複しているが，第4号掘立柱建物跡とは遺構の重複関係がないので前後関係は不明である。

**建物方向と規模** 2間以上×1間の南北棟と推定される。主軸はN-20° - Eである。桁行は西辺で1.8 + 2.2



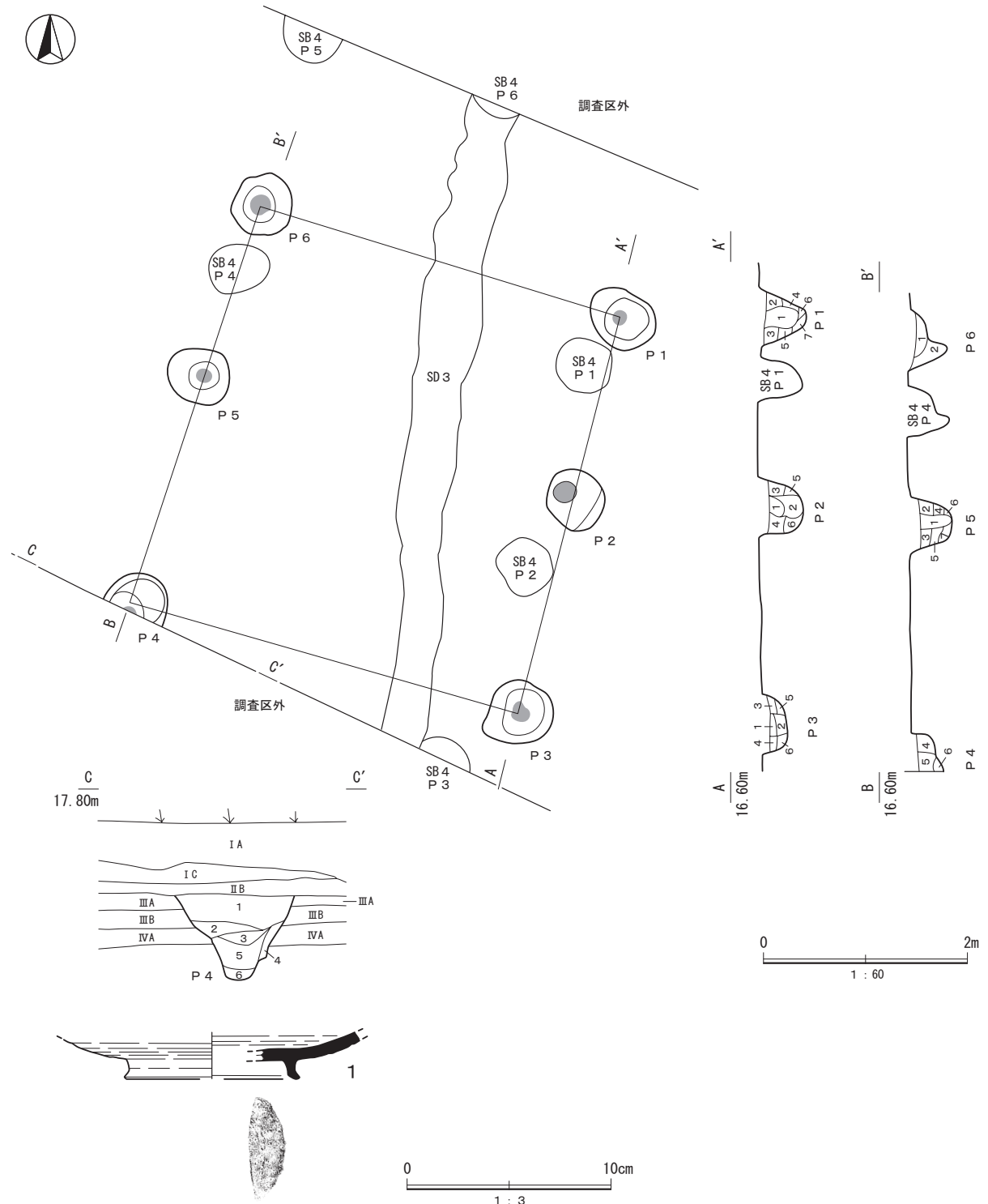
m以上 (4.0 m), 東辺で 1.8 m + 2.3 m以上 (4.1 m), 梁行は北から 3.65・3.7・3.9 mである。

**柱穴** 平面形は不整形形で、深さは確認面から 20 ~ 48 cm。P 4の土層は壁面をみると 80 cmである。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の甕5点、須恵器の坏2点・高台付盤1点が出土した。その内1点を図化した。

1は須恵器の高台付盤の底部片で外面にはへら状具を当てている。高台は内湾して開き端部が反る。

**所見** 2間以上×1間の南北棟の側柱建物で、時期は9世紀代であろう。



第35図 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

## 第4章 遺構と遺物

### A - A' , B - B' , C - C'

#### P 1

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色：黒色土粒子・ブロック多量，ローム粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 2/3 黒褐色：黒粒子・ブロック多量，ローム粒子・ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色：黒色土粒子・ブロック多量，ローム粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 2/3 黒褐色：黒色土粒子・ブロック多量，ローム粒子・ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 2/3 黒褐色：黒色土粒子・ブロック多量，ローム粒子極微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 7 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子，ブロック・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり

#### P 2

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 6 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり

#### P 3

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒褐色粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 2/3 黒褐色：黒色土粒子・ブロック多量，ローム粒子少量，暗褐色粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり

- 6 10YR 3/3 黒褐色：黒色土粒子・ブロック多量，ローム粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり

#### P 4

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，褐色土ブロック微量，黒色土ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，褐色粒子極微量，黒色土ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック微量，黒色土ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量（下部に集中），黒色土ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり

#### P 5

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子極微量，焼土ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子少量，縮まりなし，粘性ややあり
- 5 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，褐色ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 7 10YR 3/3 暗褐色：暗褐色土主体，ローム粒子・ブロック・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり

#### P 6

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，暗褐色粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量

第16表 第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	高台付盤	—	[8.4]	(2.3)	(42.0)	2.5Y5/1 黄灰	石英粒多量， 長石粒多量， 針状鉱物微量	良	輪積成形後ロクロ整形，底部回転ヘラ削り後付高台，高温焼成で石英が黒色砂粒化	P 2 5%	木葉下窯跡群 9世紀代

### 第4号掘立柱建物跡（第36図，PL12・13・39）

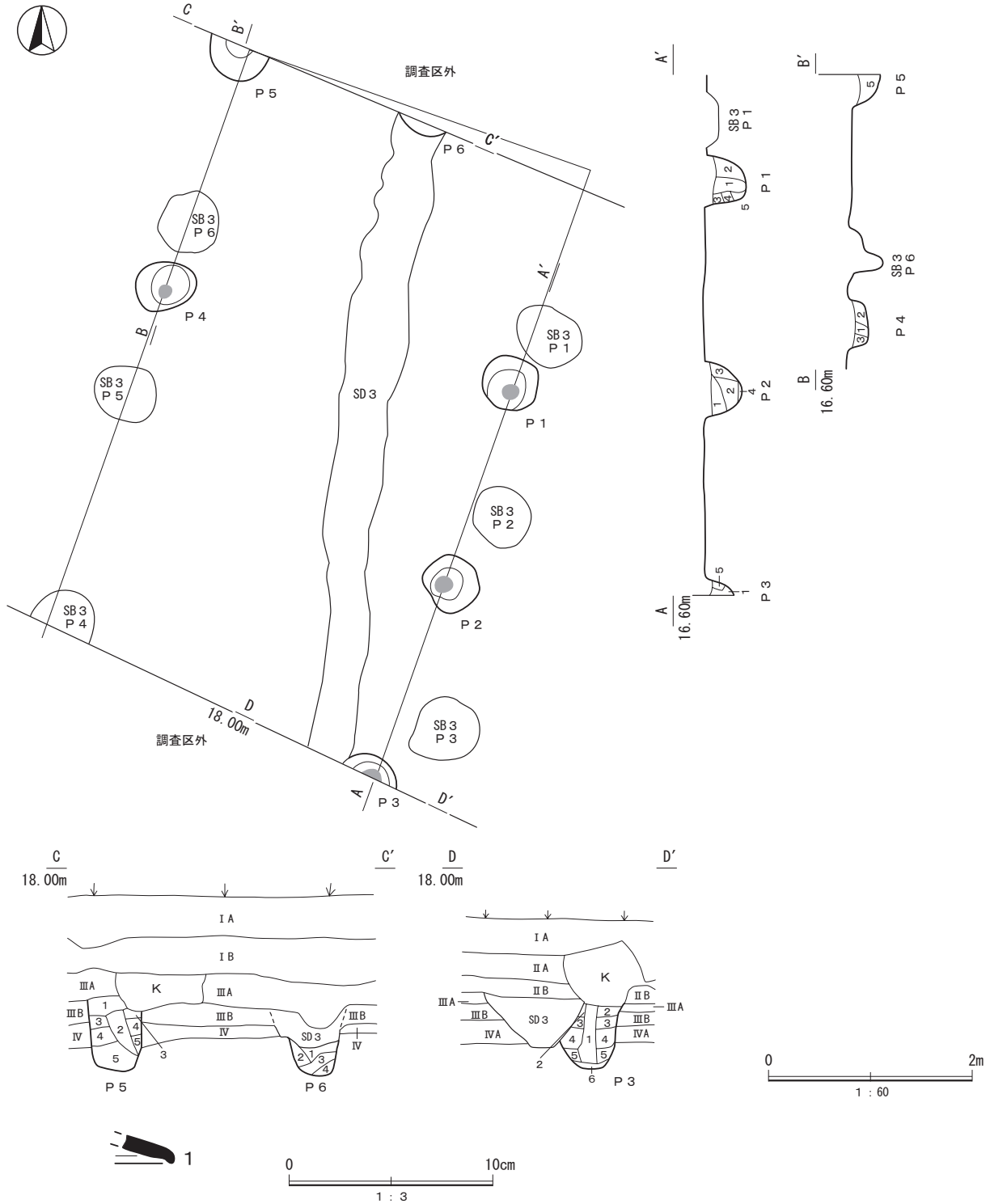
**位置と重複** L12区に位置し，古代の第3号掘立柱建物跡と中世の第3号溝跡と重複し，第3号溝跡は本溝のP3・P6を掘り込んでいる。

**建物方向と規模** 3間以上×2間の南北棟と推定される。主軸はN-20° - Eである。規模は桁行が東辺で2.0 + 2.0 m以上 (6.0 m)，西辺は2.5 m以上でP2に対応する柱穴がない。梁行は北辺で1.95 m + (0.9) mと推定される。北辺から2列目の梁行は3.5 mである。全体規模は桁行6.0 m×梁行3.5 mの側柱建物である。

**柱穴** 平面形は円形。深さは20～40 cmであるが，壁面の土層をみると60～70 cmである。柱穴には全てではないが，抜取痕が見られるものがある。

**出土遺物** 出土遺物は土師器甕が2点，須恵器蓋が1点出土した。1点を図化した。1は須恵器の蓋で，器厚がやや厚く，返りが下方に短く端部が丸い。

所見 3間以上×2間の側柱建物で、第3号掘立柱建物跡と本跡の新旧関係は本跡の柱穴に抜取痕が確認されたことから、本跡が古く第3号掘立柱建物跡が新しいと推定される。その後第3号溝跡が構築されたと判断した。出土遺物も時期差がある。時期は9世紀代であろう。



第36図 第4号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

## 第4章 遺構と遺物

### A - A' , D - D'

#### P 1

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量（下部に集中）、縮まりややあり、粘性ややあり
- 2 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子・ブロック多量
- 3 10YR 5/4 にぶい黄褐色：ローム粒子多量、褐色粒子極微量、縮まりややあり、粘性ややあり
- 4 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子少量、縮まりややあり、粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量、縮まりなし、粘性ややあり

#### P 2

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック極微量、褐色粒子極微量、縮まりややあり、粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子極微量、縮まりややあり、粘性ややあり
- 3 10YR 5/4 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量、縮まりなし、粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量、縮まりなし、粘性ややあり

#### P 3

- 1 10YR 4/6 褐色：ローム粒子多量、縮まりややあり、粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量、ローム塊微量、縮まりあり、粘性ややあり
- 3 10YR 4/4 褐色：ローム粒子中量、黒色土塊微量、縮まりややあり、粘性ややあり
- 4 10YR 5/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・塊中量、褐色土粒微量、縮まりあり、粘性なし
- 5 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子・塊・ブロック多量、黒色土塊少量、縮まりあり、粘性なし
- 6 10YR 5/8 黄褐色：ローム粒子・塊・ブロック主体、縮まりあり、粘性なし

### B - B' , C - C'

#### P 4

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ロームブロック少量、褐色粒子極微量、縮まりなし、粘性ややあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子微量、縮まりややあり、粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量、黒色粒子中量、縮まりややあり、粘性ややあり

#### P 5

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量、黄色粒子微量、褐色粒子微量、白色粒子微量、縮まりあり、粘性なし
- 2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量、黄色粒子極微量、褐色粒子極微量、白色粒子極微量、黒褐色粒子少量、縮まりややあり、粘性なし
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量、黄色粒子極微量、褐色粒子極微量、黒褐色粒子微量、縮まりあり、粘性なし
- 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量、黄色粒子極微量、褐色粒子極微量、炭化物極微量、縮まりあり、粘性なし
- 5 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子多量、黄色粒子極微量、褐色粒子極微量、黒色粒子少量、縮まりややあり、粘性なし

#### P 6

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量、黄色粒子極微量、褐色粒子極微量、黒褐色粒子中量、縮まりなし、粘性なし
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子多量、褐色粒子微量、暗褐色粒子微量、黒褐色大ブロック微量、縮まりややあり、粘性なし
- 3 10YR 4/4 褐色：ローム粒子多量、褐色粒子極微量、暗褐色粒子多量、黒褐色粒子極微量、縮まりややあり、粘性なし
- 4 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子・ブロック多量、黒褐色粒子中量、縮まりあり、粘性ややあり

第17表 第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	蓋	—	—	(1.3)	(6.0)	7.5Y7/1 灰白	石英・長石粒 微量、針状鈹 物多量	普	蓋の返り部で厚手の肩部から口縁が丸味を帯びる	5%	木葉下窯跡群 8世紀代

## 3 溝跡

### 第4 A・B号溝 (SD 3) (第37図, PL13・14・39)

位置と重複 KL 11 区に位置し、2 時期の第4 A号溝と第4 B号溝が重複し第4 A号溝が新しい。

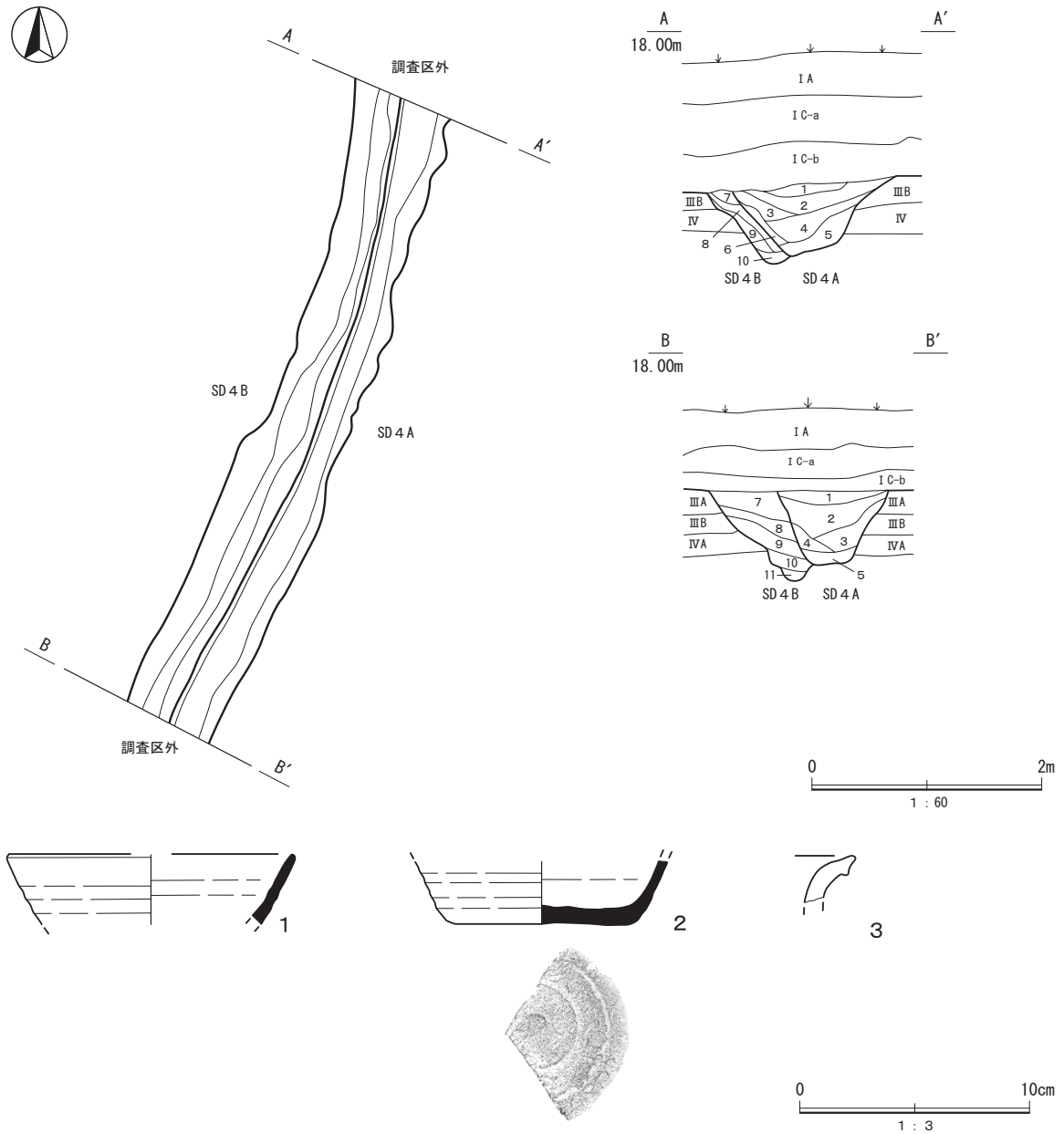
長軸方向と規模 溝は北東から南西方向に振れた南北溝である。主軸は第4 A・B号溝とも N -23.5° - E である。規模は確認面では、南北 5.8 m、第4 A・B号溝合わせて幅 0.8 ~ 0.9 m、深さは第4 A号溝が 15 ~ 20 cm、第4 B号溝が 25 ~ 30 cm である。北壁と南壁の土層では、第4 A号溝が上端幅 1 ~ 1.4 m、底面幅は 0.3 ~ 0.45 m、深さは第4 A号溝が 0.6 m である。第4 B号溝は幅 0.58 m 以上、深さは 0.65 ~ 0.8 m である。

溝の形態 第4 A号溝の溝底は平坦な平底で、東西とも丸味を帯びて立ち上がり、西壁は外傾して開くが、東壁は中位に傾斜変換部から外反する。第4 B号溝の全景は窺えないが、溝底は丸くなっている。形態は第4 B号溝の薬研形から第4 A号溝の箱薬研形に変化している。

覆土 第4 A号溝は5層には東から多量のロームブロックが確認された。上層は東・西・東と交互に堆積している自然埋没層である。土層から東側に掘削時の土を盛り上げた土塁状の施設があったと推定される。第4 B号溝は判断が難しいが自然埋没した溝を開削したと推定したい。

出土遺物 出土遺物は土師器の坏5点・甕30点、須恵器の坏3点が出土した。その内3点を図化した。1は須恵器の坏で直線的に開く。2は須恵器坏の底部片で外傾して開く。3は土師器の甕の口縁部で口唇部の内面に稜はなく、外面は外湾している。

所見 第4B号溝の薬研堀から第4A号溝の箱薬研堀に改築している。時期は9世紀代と推定される。



A - A' , B - B'

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子少量,褐色土粒子少量,黄色土粒子微量,縮まりあり,粘性あり</p> <p>2 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子中量,褐色土粒子微量,白色土粒子微量,黄色土粒子微量,縮まりあり,粘性あり</p> <p>3 10YR 4/3 にぶい黄褐色:ローム粒子少量,褐色土粒子微量,白色土粒子微量,黄色土粒子微量,黒色土粒子微量,縮まりあり,粘性あり</p> <p>4 10YR 4/3 にぶい黄褐色:ローム粒子少量,褐色土粒子微量,白色土粒子微量,縮まりあり,粘性あり</p> <p>5 10YR 5/6 黄褐色:ローム粒子・ブロック・大ブロック多量,縮まりなし,粘性あり</p> <p>6 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子微量,褐色土粒子・ブロック微量,黄色土粒子微量,白色土粒子微量,黒色土粒子微量,縮まりなし,粘性なし</p> | <p>7 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子少量,褐色土粒子微量,白色土粒子微量,縮まりあり,粘性なし</p> <p>8 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子少量,褐色土粒子微量,白色土粒子微量,黄色土粒子微量,縮まりあり,粘性あり</p> <p>9 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子微量,褐色土粒子微量,白色土粒子微量,黄色土粒子微量,黒色土ブロック微量,縮まりあり,粘性なし</p> <p>10 10YR 4/3 にぶい黄褐色:ローム粒子・ブロック・大ブロック多量,黒褐色土粒子微量,黒色土粒子微量,縮まりあり,粘性あり</p> <p>11 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・塊・ブロック多量,黒褐色土と黒色土混ざり,縮まりなし,粘性なし</p> <p>※1~6層がA号溝,7~11層がB号溝</p> |
|---|--|

第37図 第4A・B号溝跡・出土遺物実測図

第4章 遺構と遺物

第18表 第4A・B号溝跡出土遺物観察表

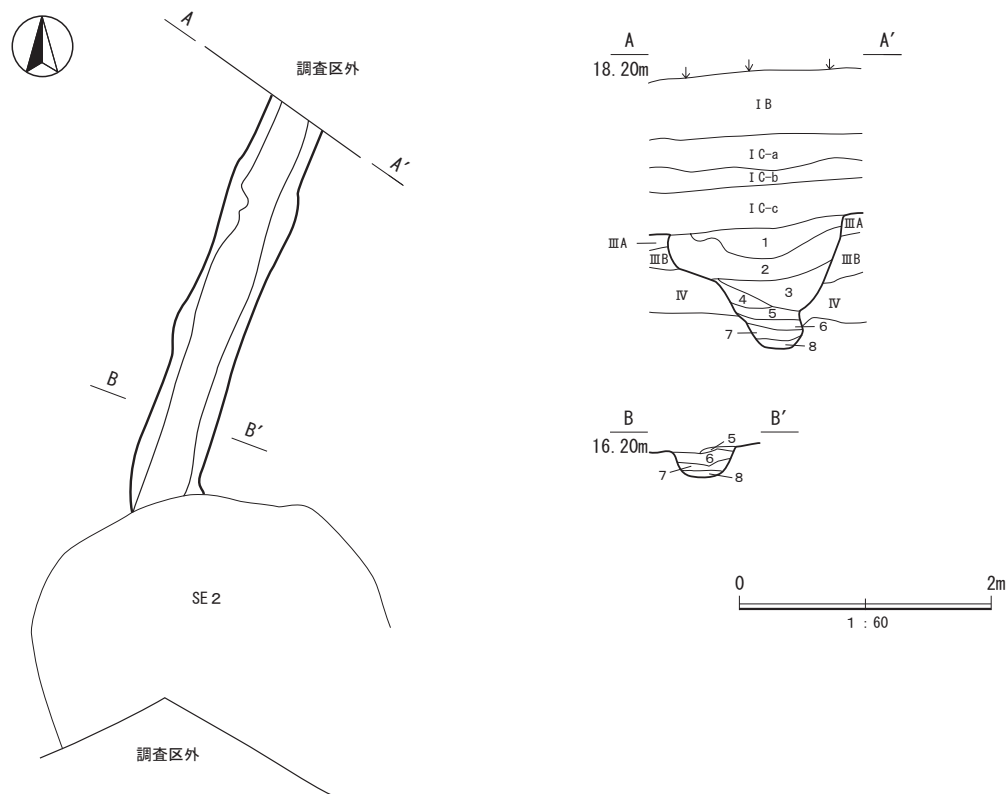
遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	[12.2]	—	(3.0)	(6.5)	2.5Y6/1 黄灰	石英粒微量, 長石粒中量, 針状鉱物中量	良	輪積成形後ロクロ整形	上層 5%	木葉下窯跡群 9世紀代
2	須恵器	坏	—	[8.2]	(2.7)	(54.0)	5Y6/1 灰	石英粒中量, 長石粒多量, 針状鉱物微量	良	輪積成形後ロクロ整形, 底部回転ヘラ削り後ナデ (花卉状), ロクロ目細かい	確認面 20%	木葉下窯跡群 9世紀代
3	土師器	甕	—	—	(2.6)	(19.0)	7.5YR7/6 橙	石英・長石粒 中量	良	輪積成形後ヨコナデ, 胎土が赤褐色で鉄分を含んでいる。	上層 5%	在地C 9世紀代

第5号溝 (第38図, PL14)

位置と重複 JK9・10区に位置し, 第2号井戸に掘り込まれている。

長軸方向と規模 溝は北東から南西方向に振れた南北溝である。主軸はN-20° - Eである。規模は確認面で幅50~55cmで, 深さは23cmである。北壁面の土層では上端幅140cm, 深さは96cmである。

溝の形態 溝底はU字状であるが, 溝幅は24~36cmである。東壁は傾斜変換部から外傾して開く。西壁は傾



A - A', B - B'

- |  |  |
|--|--|
| 1 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子微量, 褐色土粒子微量, 締まりなし, 粘性あり                      | 5 10YR 3/3 暗褐色: ロームブロック少量, 締まりあり, 粘性あり                     |
| 2 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子少量, 暗褐色土粒子少量, 締まりあり, 粘性あり                     | 6 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子・ブロック少量, 褐色土粒子微量, 締まりあり, 粘性あり         |
| 3 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子少量, 褐色土粒子微量, 黒色土粒子微量, 暗褐色土ブロック少量, 締まりあり, 粘性あり | 7 10YR 4/6 褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色土ブロック微量, 締まりあり, 粘性あり        |
| 4 10YR 5/4 にぶい黄褐色: ローム粒子・ブロック・大ブロック多量, 締まりあり, 粘性あり                 | 8 10YR 5/4 黄褐色: ローム粒子・ブロック・大ブロック多量, 黒色土ブロック微量, 締まりあり, 粘性あり |

第38図 第5号溝跡実測図

斜変換部から外方に向かってから立ち上がる。

**覆土** 溝底付近は水平に埋設しているが上層は交互に自然埋設している。中層付近ではローム漸移層が西から流入している。

**出土遺物** 出土遺物は無い。

**所見** 溝は2段掘りして断面はU字型で、ローム漸移層が西から流入していることから、土塁状の施設は西側にあった可能性がある。時期は第2号井戸より古いことから8世紀代と推定される。

#### 第11号溝（第39～41図，PL14・15・39・40）

**位置と重複** D3・4区に位置し、中世の第8・16号土坑，第1号道路状遺構，第1号集石遺構と近世・近代の第6・9号溝に掘り込まれている。

**長軸方向と規模** 第11号溝は北東方向から南西方向に走る溝で、主軸はN-56°-Eである。規模は確認面で長さ9.6m以上、上幅は1.95～3.0m、溝底幅は0.4～0.7m、深さは0.75～0.95mである。西壁面の土層では幅は攪乱が激しく確認できなかった。深さは1.5mまで確認できる。

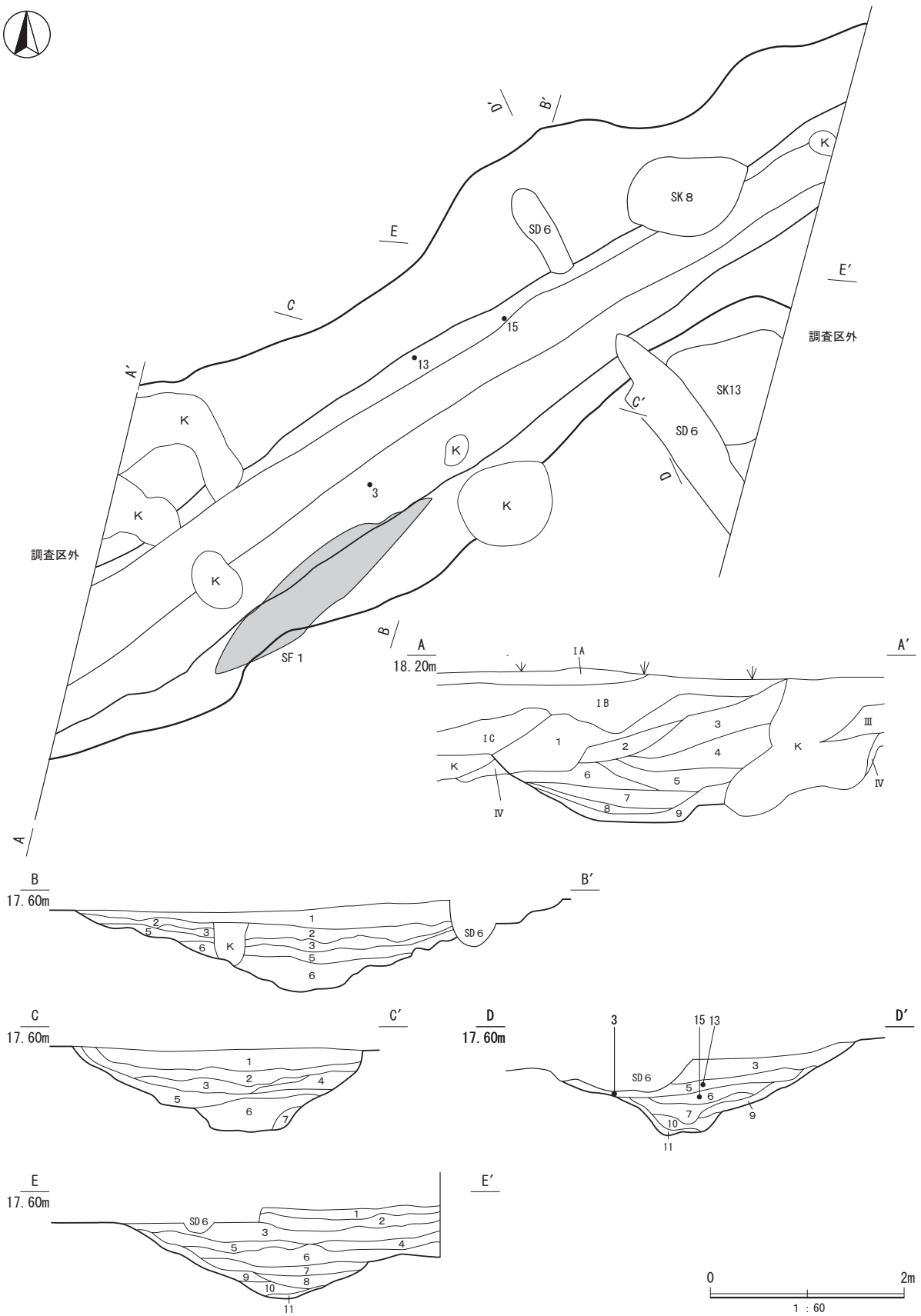
**溝の形態** 溝底に平坦面がある。壁の傾斜角は東壁が約40度、西壁が約30度で西壁には傾斜変換部が確認される。壁の傾斜の緩い箱葉研型の溝である。

**覆土** 最下層は黒褐色土の自然埋設であるが、中層からはローム粒子・ブロックの多い層と少ない層を交互に埋め戻している。中層の各面は固く叩き締められていた。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏23点・高台付坏1点・甕92点，須恵器の坏57点・高台付坏2点・高台付盤1点・蓋9点・鉢1点・甕5点・甕44点，土師質土器の鍋1点，瓦質土器の鉢1点，陶器の播鉢1点・甕1点，石製品の砥石1点・石斧1点・石臼1点が出土した。その内15点を図化した。1～8・10～12は須恵器で、13は陶器、14・15は石製品である。1は底部回転ヘラ削り、2は内湾し外反する。3は底部にヘラ記号があり、4は器厚が薄く、口縁部が外反する。5は内湾する。6は器厚が厚く、端部が短く丸い。7は端部の屈曲が強く内傾し外面に稜がある。8の高台付盤は高台が直立気味で脚端部が張り出す。9は土師器の甕で口唇部が外方に引き出され稜がある。10は須恵器甕の口辺部で外反し、口唇部を外方に僅かに引き出している。11は須恵器甕の体部片で焼成良好で、外面は板目叩きである。12は墨痕が確認され転用硯と思われる。13は常滑焼の甕の口辺部でN字状口縁の融着した段階の資料で13世紀前半と思われる。14は茶臼の上臼で中世と思われる。15は使用痕の少ない砥石としたが、温石の可能性もある。

出土遺物は古代の須恵器の坏・蓋・高台付盤・甕・転用硯と土師器の甕と中世の常滑焼の甕・茶臼・砥石が出土した。古代の土器の出土位置は下層・中層からは僅かで上層からの出土が大半である。中世の遺物も中層の埋め戻しの層から出土した。

**所見** 第11号溝は北から西に56度振れて開削された。上幅は約3.0m、深さ約1.5mの緩い箱葉研堀で遺物は上層から8世紀代の須恵器が多く出土し、中世の段階で埋め戻し、その層の中に中世の遺物が混入していた。道路状遺構は中世の所産と推定される。集石遺構も中世の遺構と考えられるが、遺物は8世紀前半代と推定される。現状からは8世紀中葉以前開削され中世の段階で堀底道に整備されたと推定したい。この事は中世段階でも溝の窪みが認められたことを示している。



第39図 第11号溝跡実測図



A-A'

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子・ブロック微量，焼土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子・ブロック中量，焼土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子・ブロック微量，焼土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 7 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子微量，焼土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 8 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 9 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり

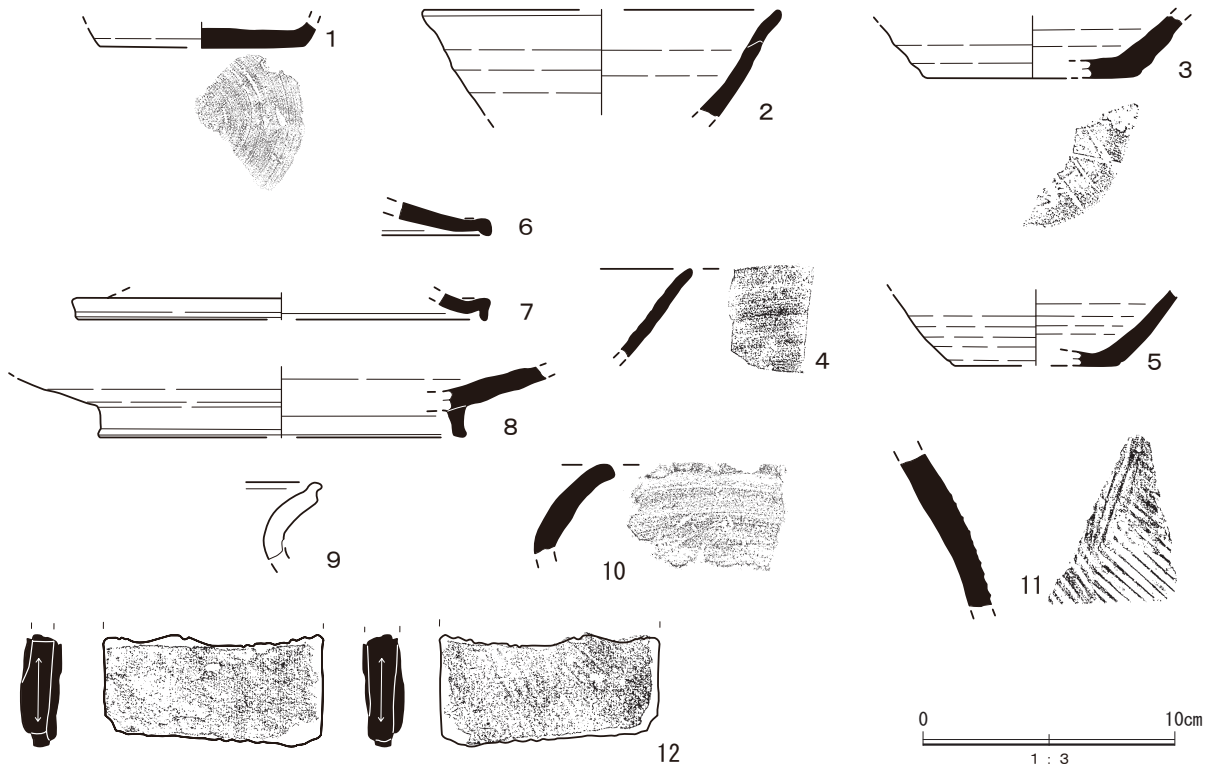
B-B'・C-C'

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子・ブロック中量，褐色土粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子・ブロック少量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子中量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子少量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック多量，黒色土粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 6 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック多量，黒色土粒子少量，焼土粒子・ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり

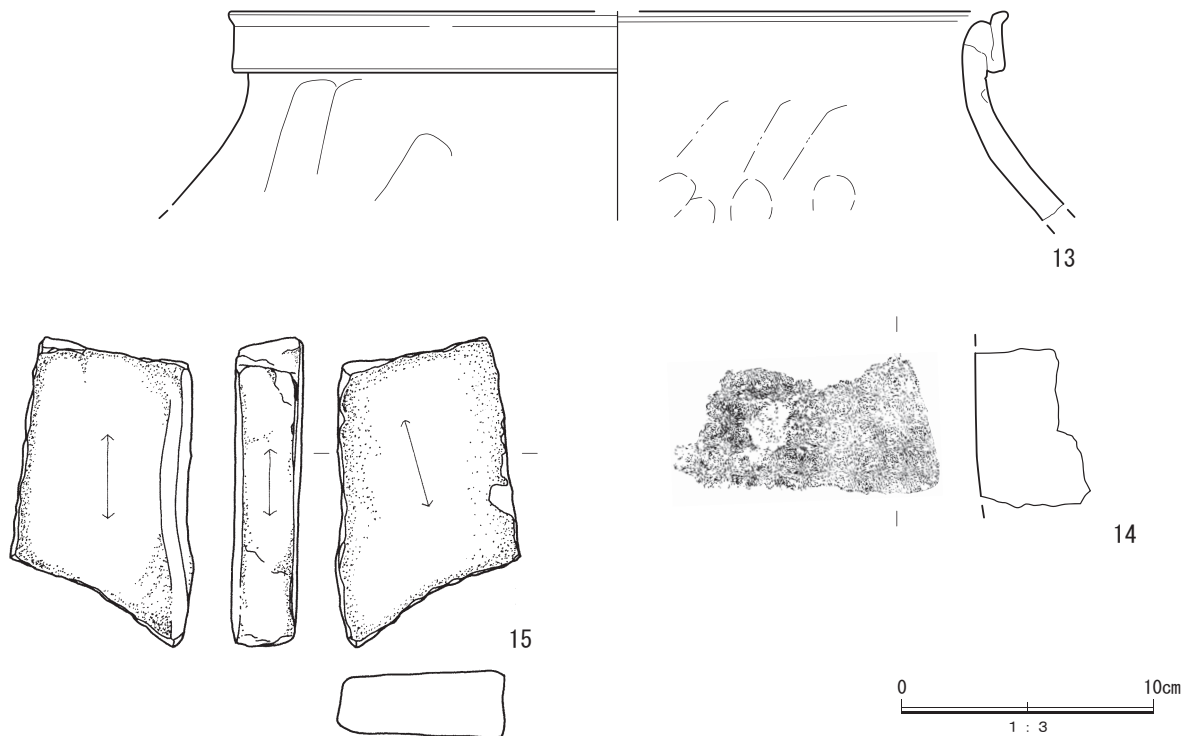
- 7 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック大ブロック多量，黒色土粒子少量，縮まりなし，粘性ややあり

D-D'・E-E'

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック多量，黒色土粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック多量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック多量，黒色土粒子少量，焼土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック中量，黒色土粒子微量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック中量，黒色土粒子微量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 7 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック多量，黒色土粒子・ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 8 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 9 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック微量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 10 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 11 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり



第40図 第11号溝跡出土遺物実測図(1)



第41図 第11号溝跡出土遺物実測図(2)

第19表 第11号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	—	[8.2]	(1.0)	(23.0)	2.5Y6/1 黄灰	石英粒黒色砂粒化微量, 長石粒・砂粒中量, 針状鉱物微量	良	底部回転ヘラ削り, やや乾燥してからで器面が滑らか	上層 5%	木葉下窯跡群カ 9世紀代
2	須恵器	坏	—	—	4.2	(21.0)	5Y5/1 灰	石英粒黒色砂粒化微量, 石英粒・砂粒中量, 針状鉱物中量	普	輪積成形後ロクロ整形	上層 5%	木葉下窯跡群カ 9世紀代
3	須恵器	坏	—	[8.3]	(24.0)	(43.0)	2.5Y5/2 暗灰黄	石英粒微量, 長石粒・砂粒多量, 針状鉱物中量	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部回転ヘラ後ナデ, 底部外面にヘラ記号, 体部内外面に重ね焼き痕	No.2 20%	木葉下窯跡群カ 9世紀代
4	須恵器	坏	—	—	(3.9)	(10.0)	5Y5/1 灰	石英粒黒色砂粒化微量, 長石粒中量	慮	輪積成形後ロクロ整形, ロクロ目は外面に対して内面は細かい, 胎土が緻密で高温焼成で外面に光沢がある	中層 5%	堀ノ内窯跡群 9世紀代
5	須恵器	坏	—	[6.4]	(3.0)	(23.0)	2.5Y6/2 黄灰	石英粒黒色砂粒化微量, 石英粒微量, 針状鉱物中量	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部回転ヘラ切後ナデ(花卉状), 底部突出し, ロクロ目内外面とも細かい	下層 20%	木葉下窯跡群 9世紀代
6	須恵器	蓋	—	—	(1.3)	(8.0)	2.5Y5/2 暗灰黄	石英粒微量, 長石粒多量, 針状鉱物中量	普	輪積成形後ロクロ整形, 被せ縁が三角形で短く丸味を帯びる	土層ベルト中層 5%	木葉下窯跡群カ 9世紀代
7	須恵器	蓋	—	[16.6]	(1.1)	(9.0)	5Y5/1 灰	石英粒黒色砂粒化微量, 長石粒中量, 砂質	良	輪積成形後ロクロ整形, 被せ縁の屈曲が強く長い	上層 5%	堀ノ内窯跡群カ 9世紀代
8	須恵器	高台付盤	—	[14.4]	(2.7)	(30.0)	10Y6/1 灰	石英粒黒色砂粒化微量, 長石粒中量, 針状鉱物中量	普	輪積成形後ロクロ整形, 付高台	一括 5%	木葉下窯跡群カ 9世紀代
9	土師器	甕	—	—	(3.1)	(15.0)	5YR6/6 橙	石英・長石粒微量, 白雲母微細微量, 鉄分を含む	普	輪積成形後ヨコナデ	上層 5%	胎土B 9世紀代
10	須恵器	甕	—	—	(3.5)	(38.0)	5Y4/1 灰	石英粒微量, 長石微細粒中量, 針状鉱物微量, 砂質	普	輪積成形後ロクロ整形	上層 5%	木葉下窯跡群カ 9世紀代
11	須恵器	甕	—	—	(6.0)	(38.0)	5Y6/1 灰	石英粒黒色砂粒化微量, 長石粒中量	良	輪積成形後ロクロ整形, 内面無文当具痕, 外面平行(板目)叩き, 高温焼成で内外面に光沢がある	上層 5%	堀ノ内窯跡群カ 9世紀代

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
12	須恵器	甕	—	—	(4.4)	(63.0)	10YR5/1 褐灰	石英粒微量, 長石粒中量,	良	大形甕の破片で内面にヨコナデ痕, 外面に平行叩きがある。両側端を打ち欠き擦って整形している。僅かに平行叩き面に墨痕が認められる。硯に転用	上層 5%	堀ノ内竊跡群か 9世紀代
13	陶器	甕	[30.6]	—	(8.3)	(131.0)	2.5YR4/4 にぶい 赤褐	石英粒黒色砂 粒化微量, 長 石粒中量	良	外面に自然釉, 内面ヨコナデ	2層 5%	常滑焼 15世紀前半
遺物 番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
14	石瀬品	石臼	(6.2)	(10.7)	(4.5)	(489.0)	石臼の上臼で外側の一部が残存している。材質は凝灰岩で白雲母が比較的多く含まれている。2次被熱を受け黒くなっている。					中世
15	石製品	砥石	(12.2)	(7.3)	(2.7)	(378.0)	自然石の両面と側面の一部に使用痕があるが多用していない。材質は硬質砂岩で多量の白雲母が含まれている。				No.3	中世

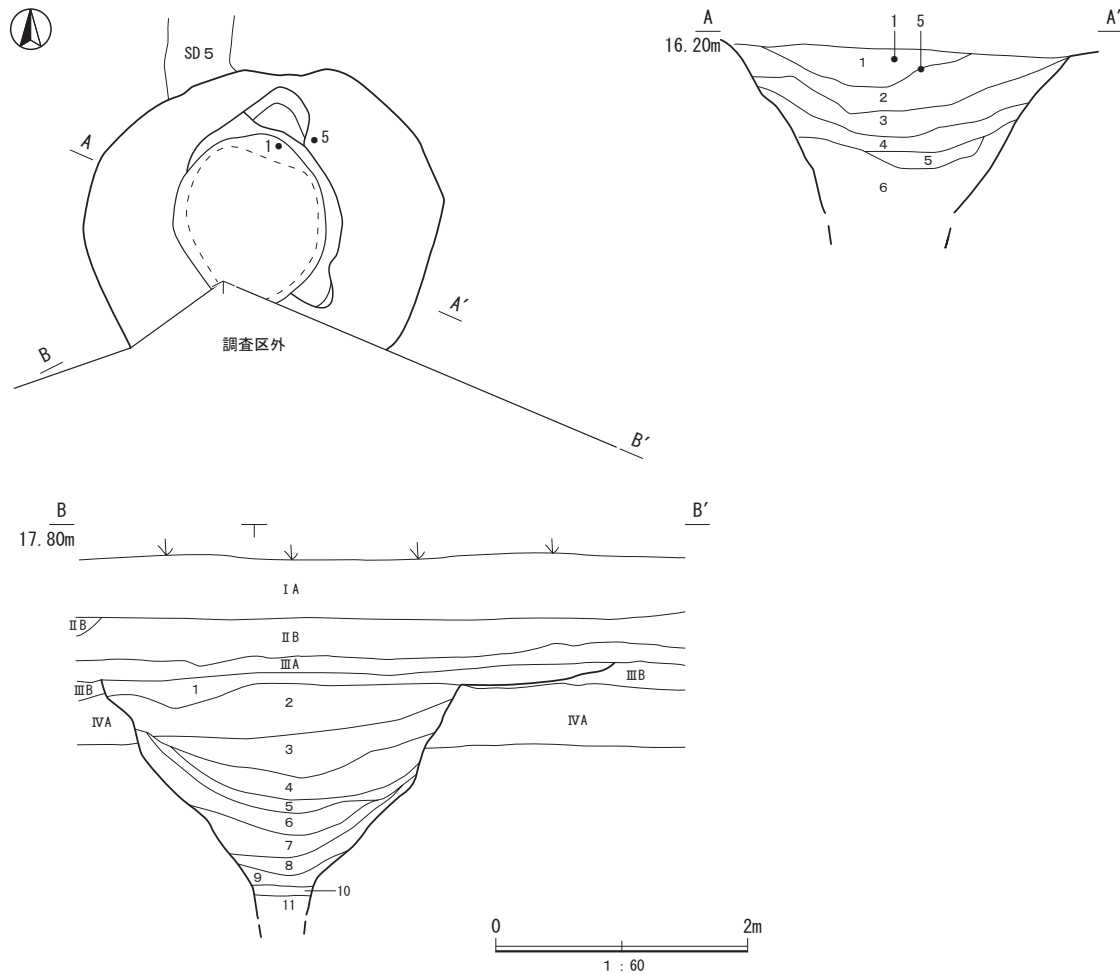
4 井戸跡

第2号井戸跡 (SE 2) (第42・43図, PL15・16・40)

位置と重複 K 9・10区に位置し, 第5号溝跡を掘り込んでいる。

平面形と規模 平面形は明瞭ではないが八角形と推定される。主軸はN-0°である。規模は2.8mで八角形の1辺は1.2mと推定される。深さは湧水のため確認面から1.2mまでを調査した。南壁面の土層では約2.0mまでを調査した。

形態 上方は確認面から1.2mまで傾斜角60度の漏斗状で10cm程の平坦面を造り, 下方は円形になる。



第42図 第2号井戸跡実測図

## 第4章 遺構と遺物

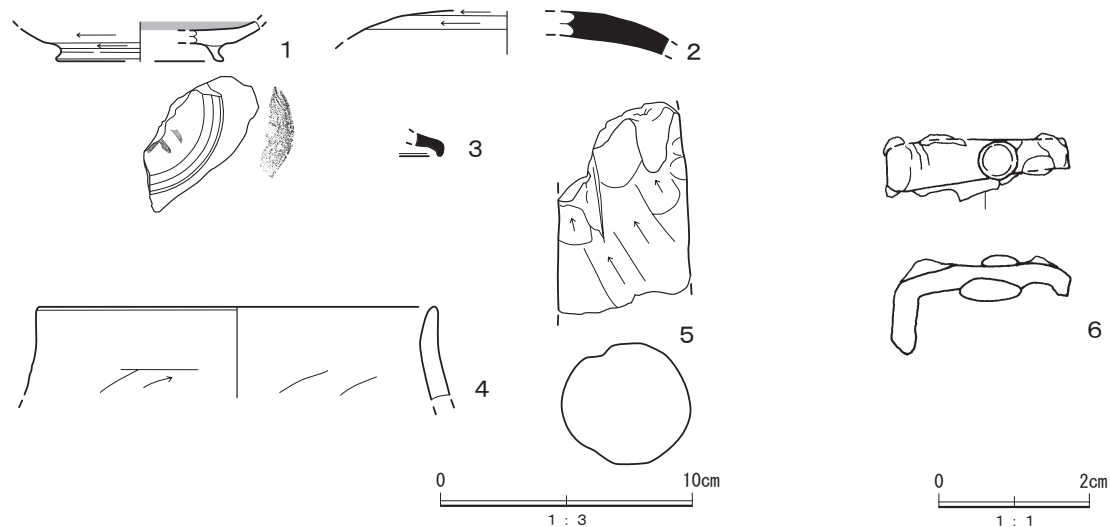
### A-A', B-B'

- |   |   |
|---|---|
| <p>1 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子中量，褐色粒子微量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>2 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，褐色粒子・ブロック微量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>3 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>4 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>5 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック微量，黒色粒子微量，鹿沼土ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>6 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，暗褐色粒子中量，黒色粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> | <p>7 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，褐色粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>8 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，明褐色粒子中量，縮まりなし，粘性ややあり</p> <p>9 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量（東側に集中），縮まりなし，粘性ややあり</p> <p>10 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子微量（西側にロームが上方から落ちている），縮まりなし，粘性ややあり</p> <p>11 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック微量（西側にロームが上方より落ちている），縮まりなし，粘性ややあり</p> |
|---|---|

**覆土と遺物出土状況** 覆土は標準層序のⅢA・B層の黒褐色土が主体層で交互に埋め戻した可能性がある。遺物は少なく上層からの出土が多い。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏2点・高台付坏1点・甕11点，須恵器の坏4点・蓋2点・甌1点・甕4点，土製品の支脚1点，不明鉄製品1点が出土した。その内6点を図化した。1は土師器の高台付坏で底部内外面とも平らで，内面はミガキ後黒色処理している。高台は短く「八」の字に開き中位から外反する。外底面には墨書（不明）がある。2・3は須恵器の蓋で，2は器厚が厚く外面は2段削りである。3は口唇部が短く下向きになる。4は土師器の甕で，同部が膨らむもので，いわゆる鬼高系の甕である。5は土製の支脚である。6の鉄製品の用途は不明であるが，何らかの鋳留めと推定する。

**所見** 形態が八角形であること，埋め戻していること，出土遺物も古代であることから古代の井戸と推定した。今回の調査で鬼高系の土器が出土している遺構は本跡のみであることから，時期は8世紀代であろう。



第43図 第2号井戸跡出土遺物実測図

第20表 第2号井戸跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	高台付坏	—	[6.6]	(2.0)	(15.0)	7.5YR7/6 橙	石英粒微量，長石粒少量，白雲母微細粒少量	普	ロクロ成形で付高台，内面黒色処理，底部外面墨書（不明）	No.1 5%	胎土B 9世紀代
2	須恵器	蓋	—	—	(1.7)	(34.0)	10YR6/1 灰	石英粒黒色砂粒化微量，長石粒・砂粒少量，短い針状鉱物微量	良	輪積成形後ロクロ整形，外面2段ヘラ削り，やや厚い	下層 5%	木葉下窯跡群カ 9世紀代

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
3	須恵器	蓋	—	—	(0.9)	(1.3)	5YR6/1 灰	石英粒黒色砂粒化微量, 長石粒少量, 針状鈦物微量	普	返り縁部で短く丸味を帯びる。	上層 5%	木葉下窯跡群カ 8世紀代カ
4	土師器	甕	[15.6]	—	(3.6)	(13.0)	10YR7/4 にぶい黄橙	長石粒少量, 褐色粒・黒色粒少量	普	口縁部の小片で輪積成形後ヨコナデ	上層 5%	胎土C 7世紀代
遺物番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
5	土製品	支脚	(8.2)	(5.2)	(4.7)	(199.0)	7.5YR5/3 にぶい黄橙で長石粒が多量, 白雲母微量で砂質, 被熱を受け灰の付着もある				No.2	古代
6	金属製品	不明	(2.3)	(1.3)	(0.6)	(1.6)	錠状であるが幅が6~4mmと細くなり広端から15mmに位置に頭が円い銚頭があり, 内側には銚を折り曲げたよう観察される。広狭端がある錠状で, 銚留めの鉄製品と思われる。					古代

## 第2節 中世の遺構と遺物

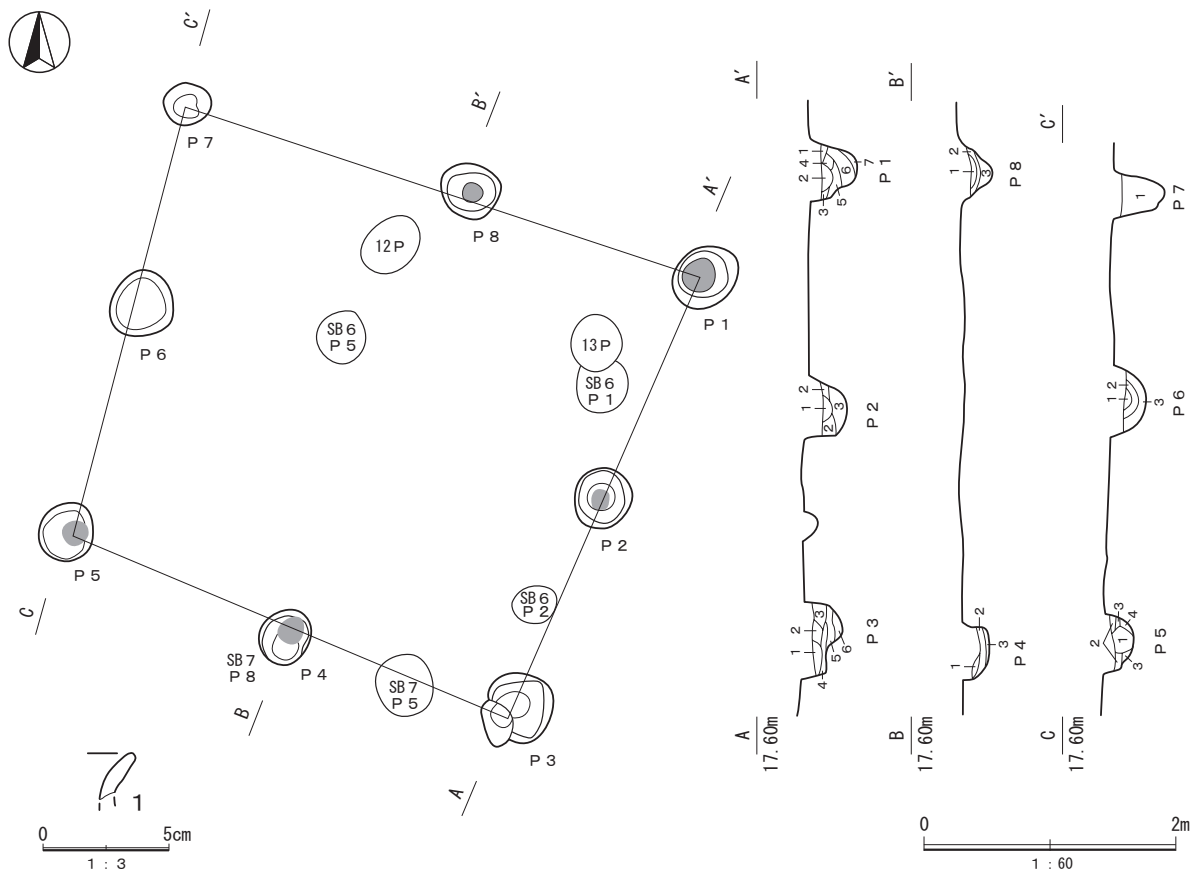
### 1 掘立柱建物跡

#### 第5号掘立柱建物跡 (第44図, PL16・17・40)

**位置と重複** EF3・4区に位置し, SB7P8を切っている。第18・22・23号土坑を掘り込んでいる。第6号掘立柱建物跡とも重複しているが柱穴の重複が無いため新旧関係は不明である。

**建物方向と規模** 2間×2間の東西棟と推定される。主軸はN-73°-Wである。規模は桁行が北辺で東から1.86m+2.4mの4.26m, 南辺で東から1.84m+1.96mの3.80m, 梁行は東辺で北から1.84m+1.84mの3.68m, 西辺で北から1.64m+1.96mの3.60mである。芯々距離が不統一であるが側柱建物である。

**柱穴** 平面形は円形から不整形円で, 柱当たりが底面まで達しているものと, 版築状にしてその上に柱を据え



第44図 第5号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

## 第4章 遺構と遺物

### A - A'

#### P 1

- 1 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子少量，縮まりなし，粘性ややあり
- 2 10YR 4/1 褐灰色：ローム粒子極微量，黒色粒子極微量，褐灰色粘土ブロック微量，縮まりなし，粘性なし
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子極微量，褐灰色粘土ブロック微量，縮まりなし，粘性なし
- 4 10YR 4/6 褐色：ローム粒子多量，黒色粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子中量，縮まりあり，粘性なし
- 6 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック・ブロック多量，黒色粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 7 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子多量，黒色粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり

#### P 2

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子少量，褐灰色粘土含む，縮まりなし，粘性ややあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子多量，黒色粒子微量，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりなし，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり

#### P 3

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 5/1 褐灰色：ローム粒子中量，黒色粒子微量，灰白色粘土含む，縮まりなし，粘性なし
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子多量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 6 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，黒色粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり

### B - B' , C - C'

#### P 4

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量，縮まりなし，粘性ややあり
- 2 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子と黒色粒子が混在，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子と黒色粒子が混在，黒色土ブロック微量，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり

#### P 5

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，暗褐色粘土ブロック少量，縮まりなし，粘性ややあり
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子極微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子極微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/6 褐色：ローム粒子と黒色粒子が混在，縮まりややあり，粘性ややあり

#### P 6

- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子少量，暗褐色粘土ブロック少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり

#### P 7

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子，ブロック少量，黒色粒子少量，白色粘土が底面帯状に混在，縮まりややあり，粘性ややあり

#### P 8

- 1 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子少量，黒色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子多量，黒色土粒子極微量，縮まり弱い，粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ロームブロック中量，黒色土粒子極微量，縮まり弱い，粘性ややあり

ている柱がある。柱痕跡には灰白色粘土が確認された。深さは25～36 cmである。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の甕1点が出土し図化した。第44図1はP4から出土した土師器の甕の口縁部片で鬼高系の甕である。

**所見** 2間×2間の東西棟で側柱の掘立柱建物である。東の1間分は柱間隔が均一であるのに対し，西の1間分が不均一になっている。出土遺物は古代であるが，調査状況から中世の遺構と判断した。

第21表 第5号掘立柱建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	甕	—	—	(1.8)	(5.0)	7.5YR7/6 橙	石英・長石・ 白雲母微量	良	輪積成形後ヨコナデ	P 4 5%	胎土B 7世紀代

### 第6号掘立柱建物跡 (第45図, PL16～18)

**位置と重複** EF3区に位置し，第18・22・23号土坑，第13・18号小穴を掘り込んでいる。第5号掘立柱建物跡と重複するが柱穴の重複が無いので新旧関係は不明である。

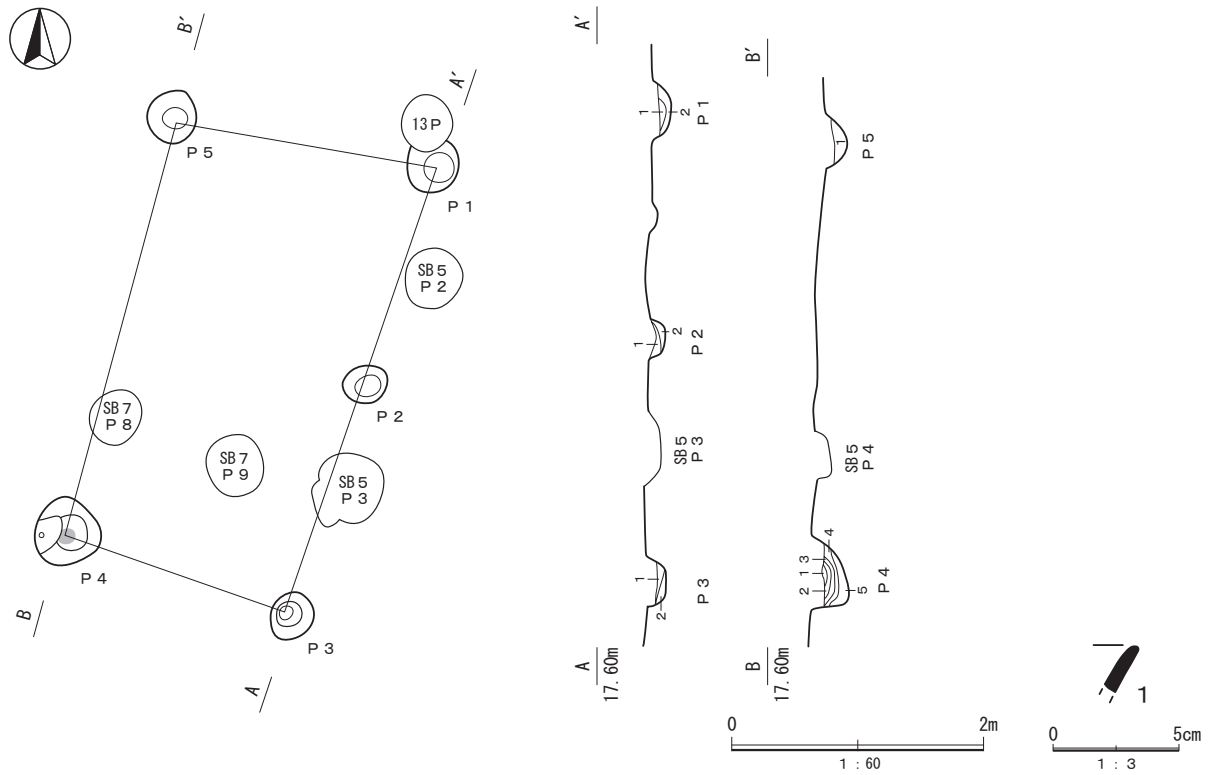
**建物方向と規模** 1間×2間の南北棟で，主軸はN-15°-Eである。規模は桁行が東辺で北から1.84m+1.92mの3.76m，西辺は1間で3.44mである。梁行は北辺が2.10m，南辺は1.84mである。側柱建物である。

**柱穴** 円形で柱当たりが底面に達していたものはなく，全て版築状にした上に据えていると思われる。深さは15～30cmである。

**出土遺物** 出土遺物は須恵器の坏1点・甕1点が出土した。1点を図化した。第45図はP1から出土した須

恵器の坏の口縁部片である。

**所見** 1間×2間の南北棟の側柱建物で西側が開口している。柱当りを版築状にした上に柱を据えている。柱痕跡には灰白色粘土が確認された。出土遺物は古代であるが、調査状況から中世の遺構と判断した。



**A - A'**

**P 1**

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子極微量，灰白色粘土含む，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子・ブロック多量

**P 2**

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/6 褐色：黒色粒子微量，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり

**P 3**

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子多量，黒色粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり

**B - B'**

**P 4**

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，黒色粒子微量，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 4 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子中量 縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子と黒色粒子が混在，縮まりややあり，粘性ややあり

**P 5**

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり

第 45 図 第 6 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 22 表 第 6 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	坏	須恵器	—	—	(1.8)	(3.0)	2.5Y6/2 灰黄	石英・長石・ 針状鉾物微量	普	輪積成形後ロクロ整形	P 1 5 %	木葉下窠跡群 8 世紀代カ

第7号掘立柱建物跡 (第46図, PL18・19)

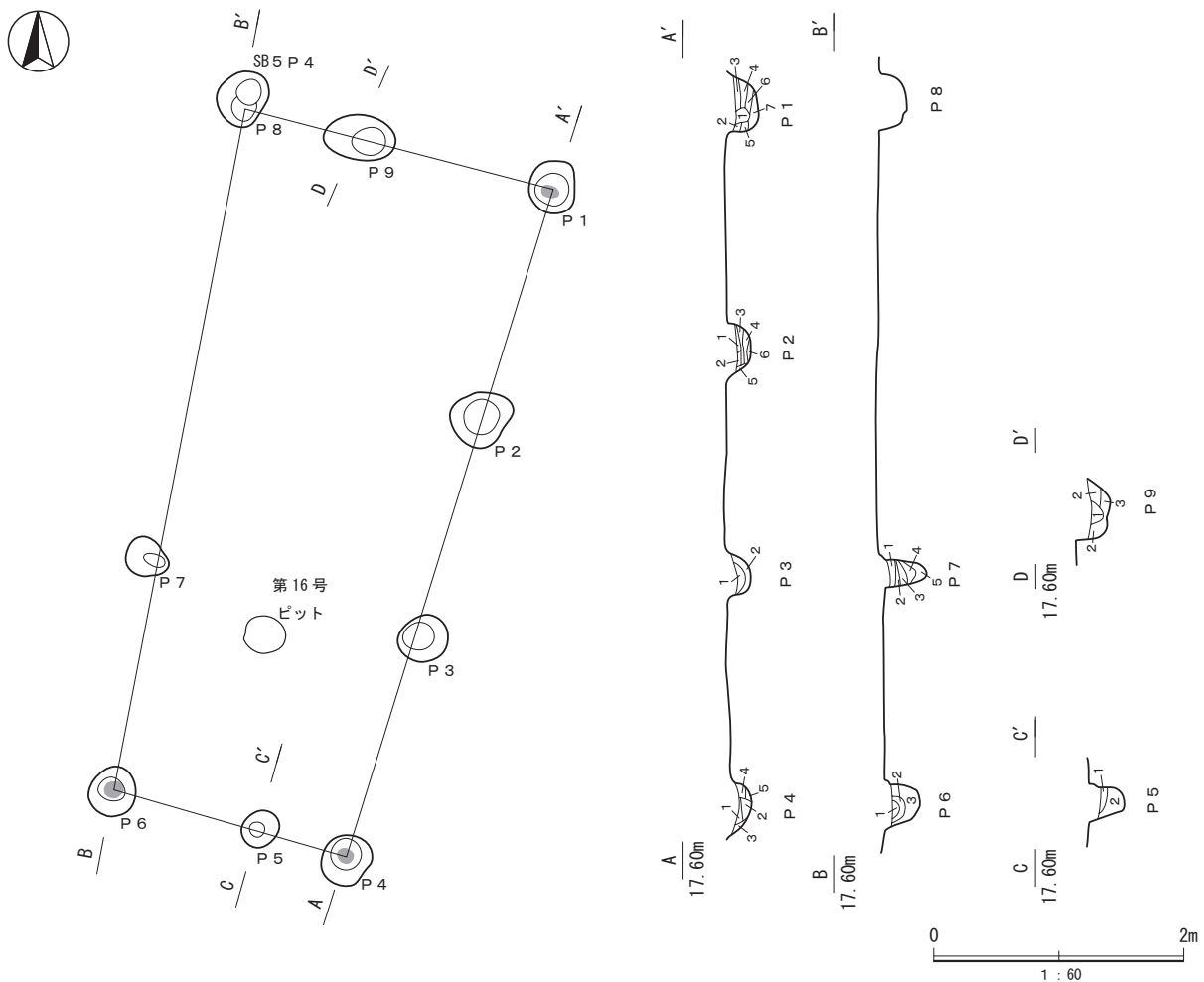
**位置と重複** F3区に位置し, 第9号竪穴建物跡, 第18号土坑, 第7号小穴を掘り込み, 第16号小穴と重複しているが新旧関係は不明である。

**建物方向と規模** 2間×3間の南北棟で, 主軸はN-10° - Eである。規模は桁行が東辺で北から1.82m + 1.86m + 1.92mの5.60m, 西辺は1間空くが北から3.77m + 1.92mの5.69mである。梁行は北辺で東から1.30m + 1.00mの2.3m, 南辺は東から0.75m + 1.20mの1.95mである。

**柱穴** 円形で柱当りが底面に達したものはなく, P1・2は柱痕跡が確認されたが他は版築状の上に柱を据えたものと考えられる。深さは20~38cmである。

**出土遺物** 出土遺物は須恵器の甕1点が出土したが, 小片のため図化できなかった。

**所見** 2間×3間の南北棟の側柱建物で西辺の2間分の西が開口している。調査状況から中世の遺構と判断した。



第46図 第7号掘立柱建物跡実測図

A - A'

P 1

- 1 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子少量, 黒色粒子・ブロック微量, 縮まりなし, 粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子多量, 黒色粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子中量, 黒色粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 4 10YR 4/3 にぶい黄褐色: ローム粒子・ブロック多量, 黒色粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり

- 5 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子微量, 黒色粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 6 10YR 3/4 暗褐色: ローム粒子・ブロック少量, 黒色粒子微量, 縮まりややあり, 粘性ややあり
- 7 10YR 3/4 黒褐色: ローム粒子微量, 黒色粒子微量, 暗褐色土粒子極微量, 縮まりあり, 粘性ややあり



## P 2

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/2 灰黄褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，暗褐色粘土ブロック少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，暗褐色粘土ブロック極微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子中量，黒色粒子微量，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 4/6 褐色：ローム粒子と黒色粒子が混在，縮まりあり，粘性ややあり

## P 3

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/6 褐色：ローム粒子と黒色粒子が混在，縮まりややあり，粘性ややあり

## P 4

- 1 10YR 4/2 灰黄褐色：ローム粒子微量，黒色粒子微量，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/2 灰黄褐色：ローム粒子・大ブロック少量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子と黒色粒子が混在，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/2 灰黄褐色：ローム粒子微量，焼土粒子微量，炭化物極微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり

## P 5 C - C'

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり

- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，縮まりなし，粘性ややあり

## B - B'

## P 6

- 1 10YR 4/6 褐色：ローム粒子中量，黒色粒子中量，暗褐色粒子中量，縮まりなし，粘性なし
- 2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/6 褐色：ローム粒子と黒色粒子が混在，縮まりあり，粘性ややあり

## P 7

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子少量，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，暗褐色粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり

## P 9 D - D'

- 1 10YR 3/2 黒褐色：ローム微細粒子・塊少量，縮まり強い，粘性ややあり
- 2 10YR 3/2 黒褐色：ローム微細粒子・塊中量，縮まり強い，粘性ややあり
- 3 10YR 3/2 黒褐色：ローム微細粒子少量・塊中量，縮まりややあり，粘性あり

## 第8 A・B号掘立柱建物跡（第47図，PL19・20・40）

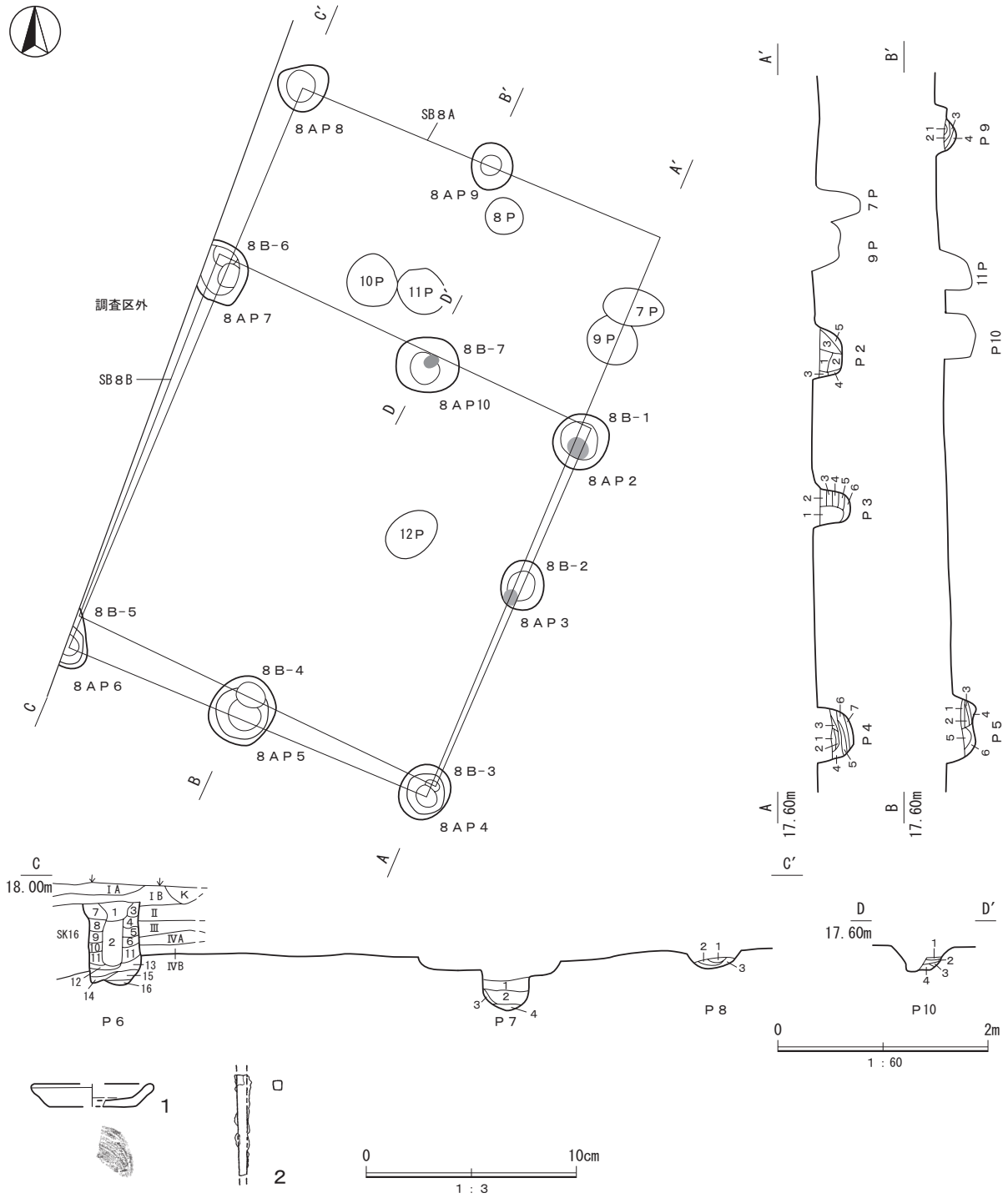
**位置と重複** E 3区に位置し，第8 A号が新しく，第8 B号が古い。第8 A号は第11号竪穴建物跡を掘り込み，第4・17・18・22・23号土坑を掘り込んでいる。第8・10・11号小穴との新旧関係は不明である。第8 B号は第11号竪穴建物跡を掘り込み，第4・16～18・22・23号土坑を掘り込んでいる。第12号小穴との新旧関係は不明である。

**建物方向と規模** 第8 A号は2間×3間の南北棟で北東隅柱が無い。主軸はN-15° - Eである。規模は桁行が東辺で北から1.50 m + 2.05 mの推定5.55 m，西辺は南側の柱は無いが，北から1.95 m + 3.90 mの推定5.85 mである。梁行は北辺で東から1.90 mの推定3.7 m，南辺で東から1.95 m + 1.80 mの3.75 mである。第8 B号は2間×2間の南北棟と推定される。規模は桁行が東辺で北から1.50 m + 2.05 mの3.55 m，西辺は中柱が無く3.68 mである。桁行は北辺で東から1.50 m + 2.10 mの3.60 m，南辺で東から1.90 m + 1.80 mの3.70 mである。

**柱穴** 円形でP 2・4・5・6で新旧関係が確認された。P 2・3には柱当り，P 6は当遺構に近世～近代の掘立柱建物の柱が重複した結果と推定される。他は版築据え付けである。深さは25～50 cmである。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の甕23点，須恵器の坏2点・蓋2点・甕1点，土師質土器のかわらけ1点，鉄鏝1点が出土した。その内かわらけ1点，鉄鏝1点を図化した。1はP 6から出土したかわらけで，底部糸切ロクロ成形である。5は鉄鏝の茎であろう。

**所見** 第8 A号が新しく，第8 B号が古い。第8 A号は2間×3間の側柱の南北棟で，北から1間目に中柱があり2間目は開口している。第8 B号は2間×2間の側柱の南北棟で西が開口している。柱穴の調査状況やかわらけから，時期は16世紀末から17世紀初頭と考えられる。



第47図 第8A・B号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第23表 第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師質土器	かわらけ	[5.6]	[4.1]	(1.1)	(3.0)	7.5YR6/6 橙	石英・長石粒 微量, 黒色砂 粒中量	良	ロクロ成形, 底部糸切	一括 20%	胎土C 17世紀初頭
遺物番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
2	金属製品	鎌	(4.7)	—	0.5	(4.9)	棒状で大きさが3~1.5mmと細く断面が四角である				一括	古代

## A-A', B-B', C-C'

## P2

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒褐色粒子少量，暗褐色粘土粒微量，縮みややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量，縮まりなし，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，縮みややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子多量，縮まりなし，粘性ややあり
- 5 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色粒子少量，黒褐色粒子少量縮まりあり，粘性あり

## P3

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，暗褐色粒子少量，縮みややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮みややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，縮みややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮みややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子多量，縮みややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 4/6 褐色：ローム粒子多量，ロームブロック少量，暗褐色粒子中量，縮みややあり，粘性ややあり

## P4

- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色粘土粒中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 6 10YR 3/3 暗褐色：ロームブロック中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 7 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色粒子少量，縮まりあり，粘性あり

## P5

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，縮まりあり，粘性なし
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/6 褐色：ローム粒子多量，ロームブロック中量，黒褐色粒子多量，縮みややあり，粘性あり
- 5 10YR 2/2 黒褐色：ロームブロック・ブロック中量，縮まりなし，粘性なし
- 6 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ロームブロック多量，黒褐色粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり

## P6

- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，縮まりあり，粘性なし
- 2 10YR 4/2 灰黄褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒褐色粒子中量，炭化粒子微量，灰微量，縮みややあり，粘性なし
- 3 10YR 4/4 褐色：ロームブロック・大ブロック多量，明赤褐色土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり

- 4 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 4/6 褐色：黒褐色粒子多量（下方に集中），縮まりあり，粘性ややあり
- 6 10YR 4/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮みややあり，粘性なし
- 7 10YR 4/4 褐色：ロームブロック・大ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり
- 8 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量（上方に集中），縮まりあり，粘性ややあり
- 9 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色粒子多量（上方に集中），縮まりあり，粘性ややあり
- 10 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 11 10YR 4/6 褐色：ローム粒子多量（上方に集中）・ロームブロック中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 12 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 13 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック，黒褐色粒子多量，縮まりあり，粘性ややあり
- 14 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 15 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子多量（根による攪乱あり），縮みややあり，粘性あり
- 16 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色粒子多量，縮みややあり，粘性あり

## P7

- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性なし
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性なし
- 3 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり

## P8

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，縮まりあり，粘性なし
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック微量，縮まりあり，粘性なし
- 3 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色粒子多量，縮まりあり，粘性あり

## P9

- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック微量，明赤褐色土粒微量，縮みややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，暗褐色粒子（赤みを帯びている）少量，縮みややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮みややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，暗褐色粒子少量，縮みややあり，粘性ややあり

## P10 D-D'

- 1 10YR 4/2 灰黄褐色：ローム粒子・塊少量，灰黄褐色土粒多量，炭化物微量，縮まりあり，粘性あり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・塊微量，縮まり強い，粘性あり
- 3 10YR 4/2 灰黄褐色：ローム粒子微量，縮まり強い，粘性あり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・塊中量，縮まり強い，粘性あり

## 第9号掘立柱建物跡（第48図，PL20）

**位置と重複** E4区に位置し第10号溝，第10・11号土坑を掘り込んでいる。

**建物方向と規模** 現状は3間の柱列の南北棟である。北から2本目の柱は第10号溝中に存在したと思われるが確認できなかった。東に展開する可能性がある。主軸はN-28-Eである。規模は北から3.85m+1.90mの5.75mである。

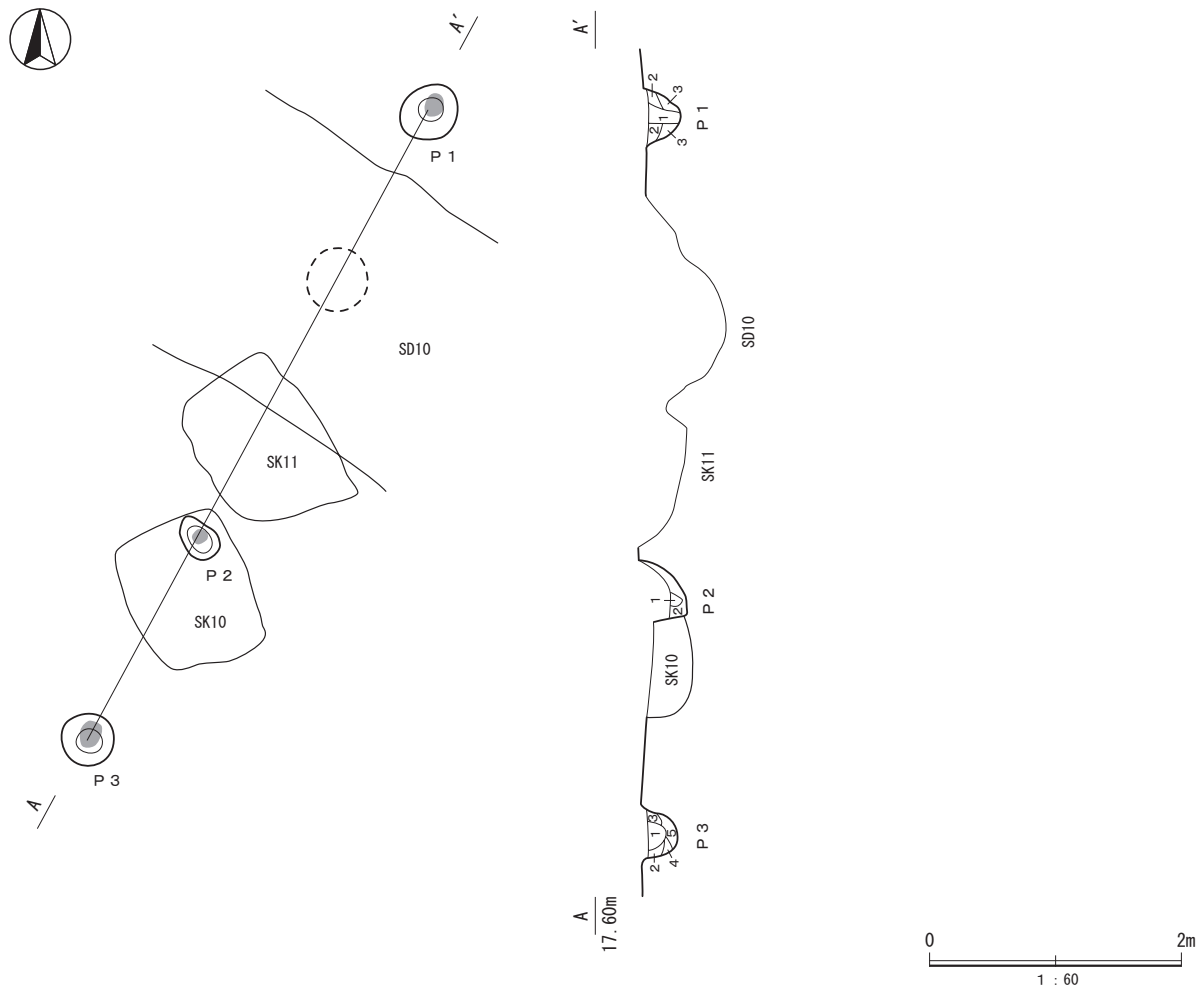
**柱穴** 平面形は円形から不整形である。P1には柱当りが，P2・3には底面まで達しない柱痕が確認され

## 第4章 遺構と遺物

た。深さは30 cmである。

**出土遺物** 出土遺物は須恵器の坏1点が出土したが小片のため図化できなかった。

**所見** 1本柱穴列か、東に展開するか掘立柱建物になるかは不明である。時期は調査状況から中世と考えられる。



A - A'

P 1

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子極微量，締まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量，黒色粒子極微量，締まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，締まりなし，粘性ややあり

P 2

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子極微量，締まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子少量，焼土粒子極微量，締まりあり，粘性ややあり

P 3

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子極微量，締まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子微量，締まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量，締まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/6 褐色：ローム粒子と黒色土が混在，締まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，締まりあり，粘性ややあり

第48図 第9号掘立柱建物跡実測図

## 2 溝跡

第1 A・B号溝跡（第49・50図，PL20・21・40）

**位置と重複** JK 1・2区に位置し，第1 A号溝が新しく，第1 B号溝が古い。

**長軸方向と規模** 北西方向から南東方向に走っている。長さ6.0 mを確認した。主軸はN -60° - Eである。

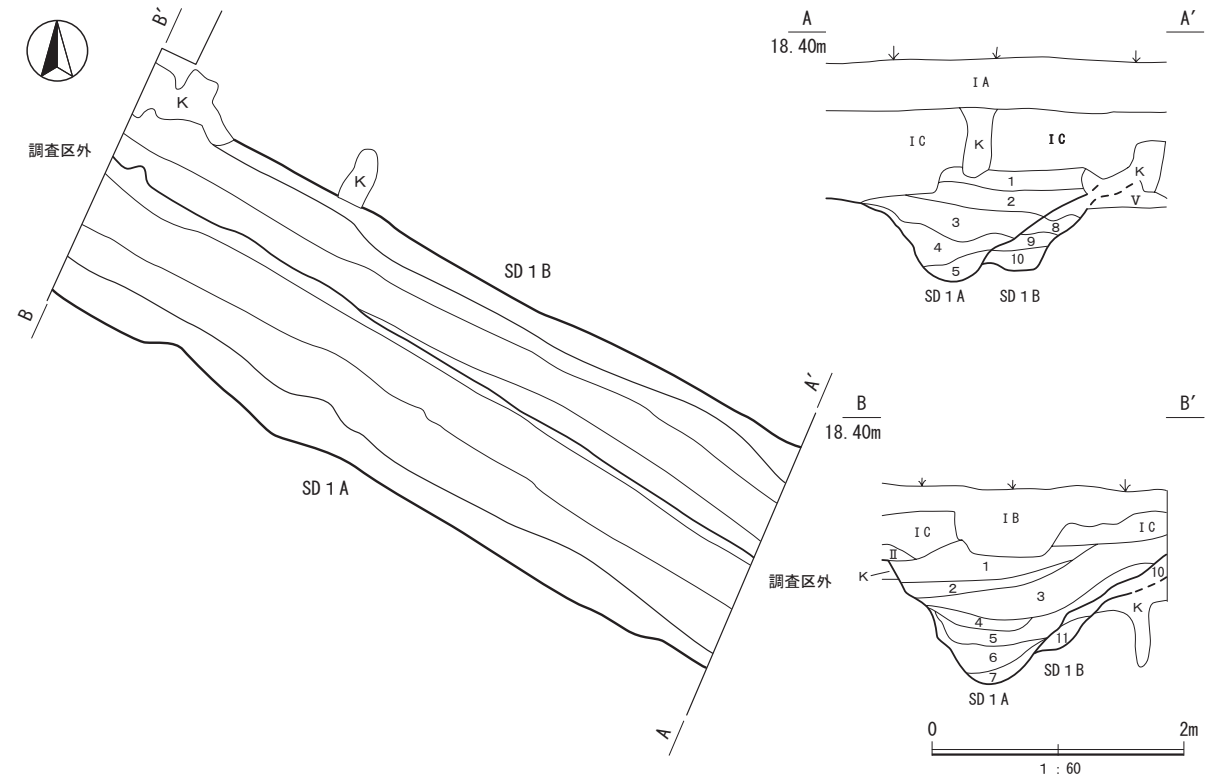
規模は第1 A・B号溝を合わせた確認面での幅は1.8～1.9 mである。東西壁面の土層は整地や攪乱によって

失われているが、第1A号溝は幅2.2m以上、底幅は25～40cm、深さは1.1m以上である。第1B号溝は現状では1.2mしか確認できないが第1A号溝と同規模と推定される。底幅は20～30cm、深さは80～90cmで第1A号溝より浅い。

**形態** 第1A号溝の溝底は丸底で、南壁は40～50度の傾斜で開き、北壁は溝底から40～50cmまでは南壁と同様であるが、底から傾斜変換し30度で開く。第1B号溝の溝底は平坦で、南壁は第1A号溝に掘り込まれて不明であるが、北壁は20～30cmまでは40度程で、傾斜変換部からは30度で開いている。溝底の形態は異なるが両壁の状況は同じである。箱葉研堀から葉研堀に変化したことになる。

**覆土** 東壁は第1B号溝の下層はローム粒子少量の暗褐色土、中層は黒色土混じりの黒褐色土、上層はローム粒子を多く含む暗褐色土で埋め戻している。第1A号溝を開削したが下層はローム粒子を多量に含む暗褐色土、中層はローム粒子・ブロックを含む暗褐色土、上層はローム粒子を含む暗褐色土を層状に埋め戻している。西壁の第1B号溝は根攪乱により明瞭でないが、第1A号溝が開削され下層はローム粒子が少ない黒褐色土、中層がローム粒子・ブロックがやや多い暗褐色土、上層がローム粒子・ブロックが少ない暗褐色土で埋め戻されている。流入土から東壁は南東側から、西壁は北東側から埋め戻されたと推定される。

**出土遺物** 出土遺物は第1A号溝から土師質土器の鍋2点、瓦質土器の火鉢1点、陶器の碗3点・鉢1点・香



A - A' , B - B'

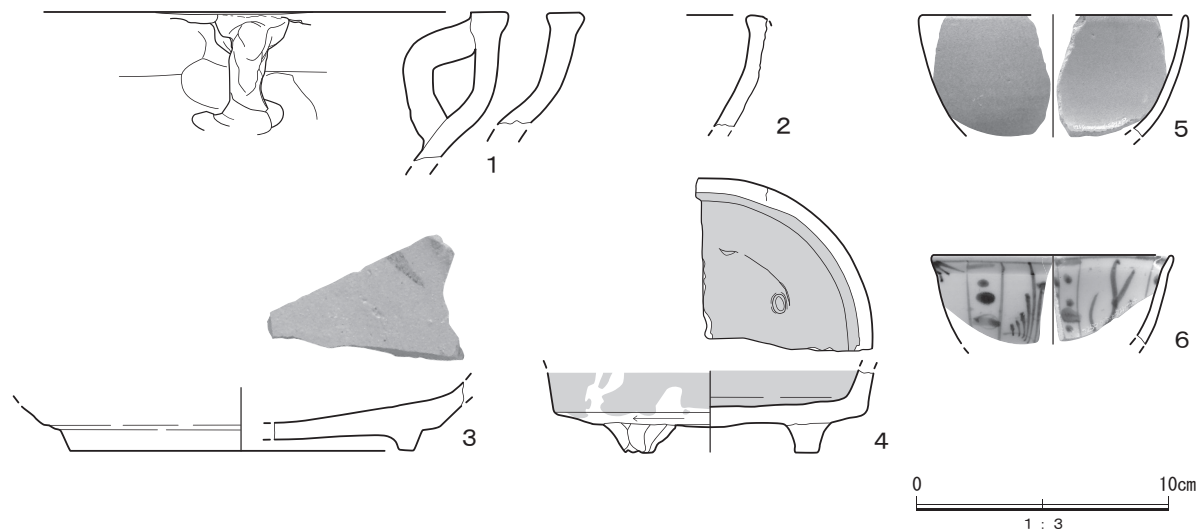
- |   |   |
|---|---|
| <p>1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，ロームブロック少量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>5 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，ロームブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>6 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子少量，黒色土粒子多量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> | <p>7 10YR 3/3 暗褐色：黒色土主体，ローム粒子・ブロック多量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>8 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，黒色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>9 10YR 3/4 黒褐色：黒色土主体，ローム粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>10 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>11 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，縮まりなし，粘性ややあり</p> <p>※ 1～7層がA号溝跡，8～11層がB号溝跡</p> |
|---|---|

第49図 第1A・B号溝跡実測図

## 第4章 遺構と遺物

炉1点、磁器の碗1点が出土した。第1B号溝からは土師器の甕10点、須恵器の坏4点・蓋1点・甌2点・甕3点が出土した。その内6点を図化した。1は瓦質の内耳鍋，2は瓦質の火鉢，3は瀬戸の笠原鉢，4は瀬戸の香炉，5は瀬戸の灰釉丸碗，6は肥前の蓋付端反碗である。出土遺物の年代は16世紀末から18世紀後半までである。

**所見** 遺物の出土状況は第1A号溝から中近世の遺物が第1B号溝からは古代の遺物が主体を占める。第1A・B号溝の使用年代は16世紀代～17世紀代で、廃棄年代は18世紀後半代と推定しておきたい。



第50図 第1A・B号溝跡出土遺物実測図

第24表 第1A・B号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	瓦質土器	内耳鍋	[39.4]	—	(5.8)	(94.0)	2.5Y2/1 黒	石英粒少量、褐色粒子少量、やや粘土質	良	輪積成形後ヨコナデ仕上げ、粘土紐の耳を貼付け後口縁部をヨコナデし口唇部を平坦に仕上げている	確認面 5%	胎土C 16世紀後半
2	瓦質土器	火鉢	—	—	(4.6)	(43.0)	10YR7/4 にぶい黄橙	石英粒微量長石粒中量、小礫(2mm)	不良	輪積成形後ヨコナデ仕上げ、外面が剥離している。使用痕が著しい	一括 5%	胎土C 16世紀後半
3	陶器	鉢	—	[13.6]	(2.7)	(54.0)	2.5Y7/4 浅黄	長石粒微量、粘土質	良	ロクロ成形、削り出し高台、鉄釉で草花文を描き黄瀬戸釉を施している。黄瀬戸鉢	表土 15%	瀬戸焼 17世紀第3四半期
4	陶器	香炉	—	[9.2]	(3.3)	(83.0)	10YR8/4 浅黄橙	長石粒微量、粘土質	良	ロクロ成形、楕円錐状の脚を手び練りで貼り付けている。底部を除き胎釉を内外面に施釉している。内底面には重ね焼きの円錐ビンの痕がある	No.1 20%	瀬戸香炉 18世紀第1四半期
5	陶器	碗	[10.4]	—	(4.8)	(15.0)	10YR8/4 浅黄橙	長石粒微量、粘土質	良	ロクロ成形の丸碗で灰釉を施釉している	上層 10%	瀬戸灰釉丸碗 17世紀後半～18世紀前半
6	磁器	碗	[9.4]	—	(3.3)	(9.4)	NS/0 灰白	黒色微砂粒	良	ロクロ成形、内外面に縦に区画した中に草文を御須染付絵付けしている。端反碗で蓋付である	表土 10%	肥前蓋付端反碗 18世紀後半

### 第2A・B号溝跡 (第51・52図, PL21・41)

**位置と重複** L12・13区に位置し、第2A号溝が新しく、第2B号溝が古い。第2B号溝は平面的に調査区内の南側では確認できるが北壁側では確認できない。

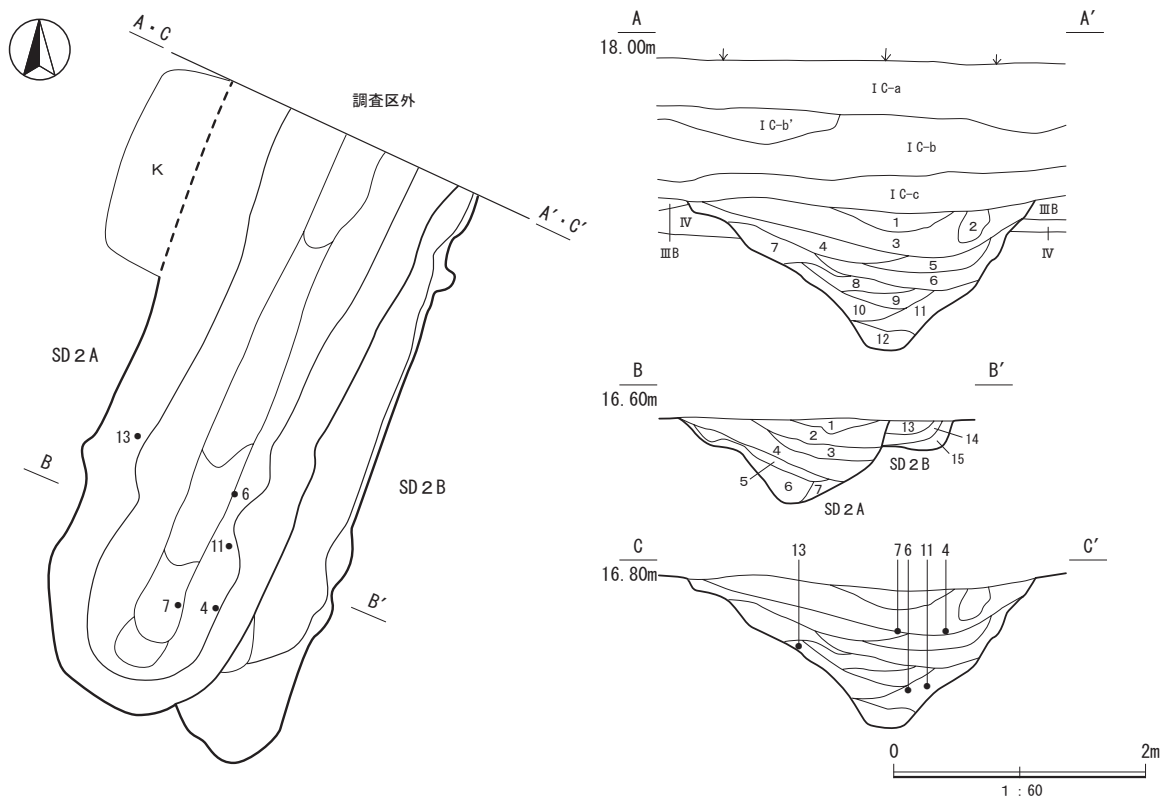
**長軸方向と規模** 溝は調査区内の南側で途切れている。区画溝の出入口施設と考えられる。溝は北東方向から南西方向に走っている。主軸はN-23°-Eである。規模は第2A号溝は確認面で長さ4.85m、幅1.62～1.70m、底幅は22～33cm、深さは68cmで、北壁の土層では110cmである。第2B号溝の幅は不明、底幅は30cm、

深さは22 cmである。第2 B号溝から第2 A号溝の溝底は約50 cm深くなっている。

**形態** 第2 A号溝は平坦な溝底から東壁は50度で開き、西壁は底面から40 cmの傾斜変換部までは55度で上方は30度で開く。第2 B号溝は不明である。第2 A・B号溝とも箱葺研堀の溝と思われる。

**覆土** 下層はローム粒混ざりの暗褐色土、中層はローム粒子多量の黄褐色土、上層はローム粒子の少ない暗褐色土である。中層のローム主体の黄褐色土は西側から流入していることから、溝の西側に土塁状の施設が存在したことが推定される。主体的には西側からの流入からであるが、人為的か自然の埋没か判断しかねる。

**出土遺物** 出土遺物は第2 A号溝からは土師質土器の鍋1点、瓦質土器の火鉢1点・焙烙1点・火消壺1点・鍋3点、陶器の碗5点・瓶1点、鉄製品の不明1点、銅製品の煙管1点が出土した。第2 B号溝からは土師器の坏11点・甕36点、須恵器の坏10点・高台付坏2点・蓋1点・鉢3点・甕14点が出土した。その内13点を図化した。1～4は須恵器で1は坏で底部外面にヘラ記号がある。2は蓋の摘み部、3は高台付盤の体部、4は高台付坏の底部である。5は灰釉陶器の長頸壺である。6は唐津焼の銅緑釉皿、7は美濃焼の鉄釉丸碗、



A - A' , B - B'

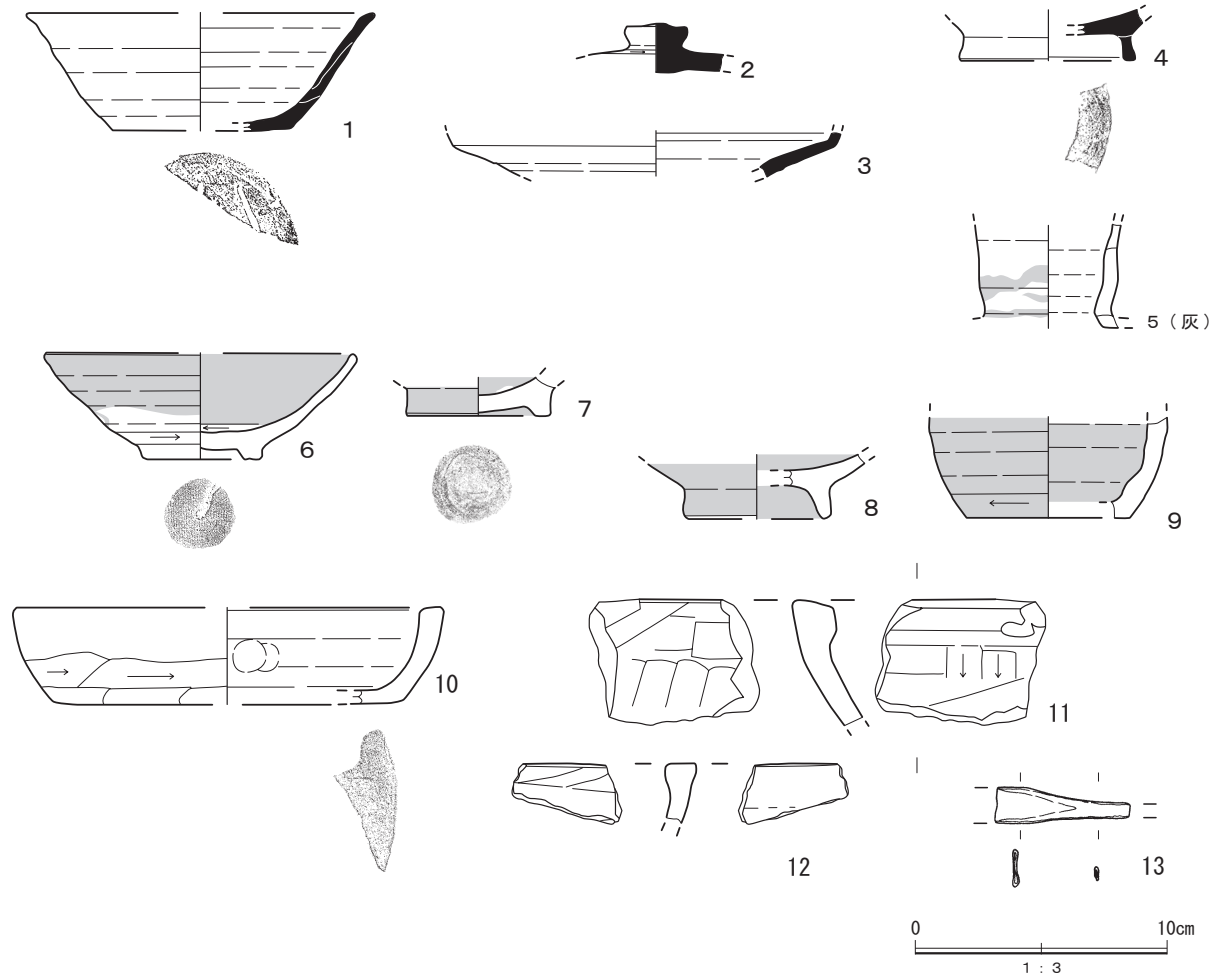
- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，暗赤褐色粒子微量，白色土粒子微量，縮まりあり，粘性なし
  - 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性なし（根痕か）
  - 3 10YR 3/3 黒褐色：ローム粒子少量，褐色土粒子微量，褐色土粒子微量，白色土粒子微量，縮まりあり，粘性なし
  - 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，白色土粒子微量，縮まりあり，粘性なし
  - 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，白色土粒子微量，褐色土粒子微量，縮まりあり，粘性なし
  - 6 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗赤色土粒子微量，黒色土粒子少量，縮まりあり，粘性なし
  - 7 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒褐色土粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり
  - 8 10YR 5/6 黄褐色：ローム主体，黒色土粒子多量，縮まりややあり，粘性ややあり
  - 9 10YR 5/6 黄褐色：ローム主体，ロームブロック中量，黒褐色土粒子中量，縮まりややあり，粘性あり
  - 10 10YR 4/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒褐色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
  - 11 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり
  - 12 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子多量，縮まりあり，粘性なし
  - 13 10YR 3/3 暗褐色：黒色土主体，ローム粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり
  - 14 10YR 3/3 暗褐色：黒色土主体，ローム粒子多量，縮まりあり，粘性あり
  - 15 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子多量，黒色土粒子微量，縮まりあり，粘性あり
- ※ 1～12層がA号溝，13～15層がB号溝

第51図 第2 A・B号溝跡実測図

第4章 遺構と遺物

8は瀬戸焼の灰釉丸碗, 9は瀬戸焼の鉄釉徳利, 10は瓦質土器の焙烙, 11は土師質土器の火消壺, 12は煙管の吸口である。

所見 第2B号溝は第2A号溝により開削され, 調査区内では遺存状況は良くない。出土遺物の9世紀代の須恵器は第2B号溝から, 17世紀代～18世紀代の陶器・瓦質土器・煙管は第2A号溝から出土した。第2A・B号溝の使用年代は16世紀代～17世紀代で廃棄年代を含めて18世紀代と推定したい。



第52図 第2A・B号溝跡出土遺物実測図

第25表 第2A・B号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	[13.6]	[7.0]	4.6	(46.0)	2.5Y7/2 灰黄	石英粒微量, 長石粒少量, 小礫	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部ヘラ切後ナデ, ロクロ目5段, 底部ヘラ記号「不明」	確認面 35%	胎土C 9世紀前半
2	須恵器	蓋	—	—	(1.9)	(13.0)	2.5Y6/1 黄灰	石英粒微量, 長石粒少量, 針状鉱物微量	普	輪積成形後ロクロ整形, 摘み接合	下層 5%	胎土C 9世紀前半
3	須恵器	盤	—	—	(1.7)	(7.0)	2.5Y6/1 黄灰	石英粒黒色砂 粒化, 石英粒 中量, 針状鉱 物微量	良	輪積成形後ロクロ整形	一括 5%	胎土C 9世紀代
4	須恵器	高台付 坏	—	[6.8]	(2.0)	(13.0)	2.5Y6/2 黄灰	石英粒微量, 長石粒少量, 針状鉱物少量	普	輪積成形後ロクロ整形, 付高台	No.5 5%	木葉下窯跡群カ 9世紀代
5	施釉 陶器	長頸壺	—	—	(4.1)	(9.0)	10YR7/2 にぶい 黄橙	長石粒多量, 黒色粒子	良	ロクロ成形, 頸部接合, 外面灰釉, 内面自然 釉	東区確認面 5%	猿投灰釉長頸壺 9世紀前半
6	陶器	皿	[12.2]	4.8	4.1	(99.0)	2.5Y7/2 灰黄	白色砂質土	良	ロクロ成形, 削り出し高台, 内面に銅緑釉を掛 け, 底面を蛇の目上に釉を剥ぎ取り, 砂目を置 き重ね焼きしている。外面は内面に透明釉を施 す折, 体部中位まで透明釉を掛けている。	No.8 50%	唐津銅緑釉皿 1690～1780

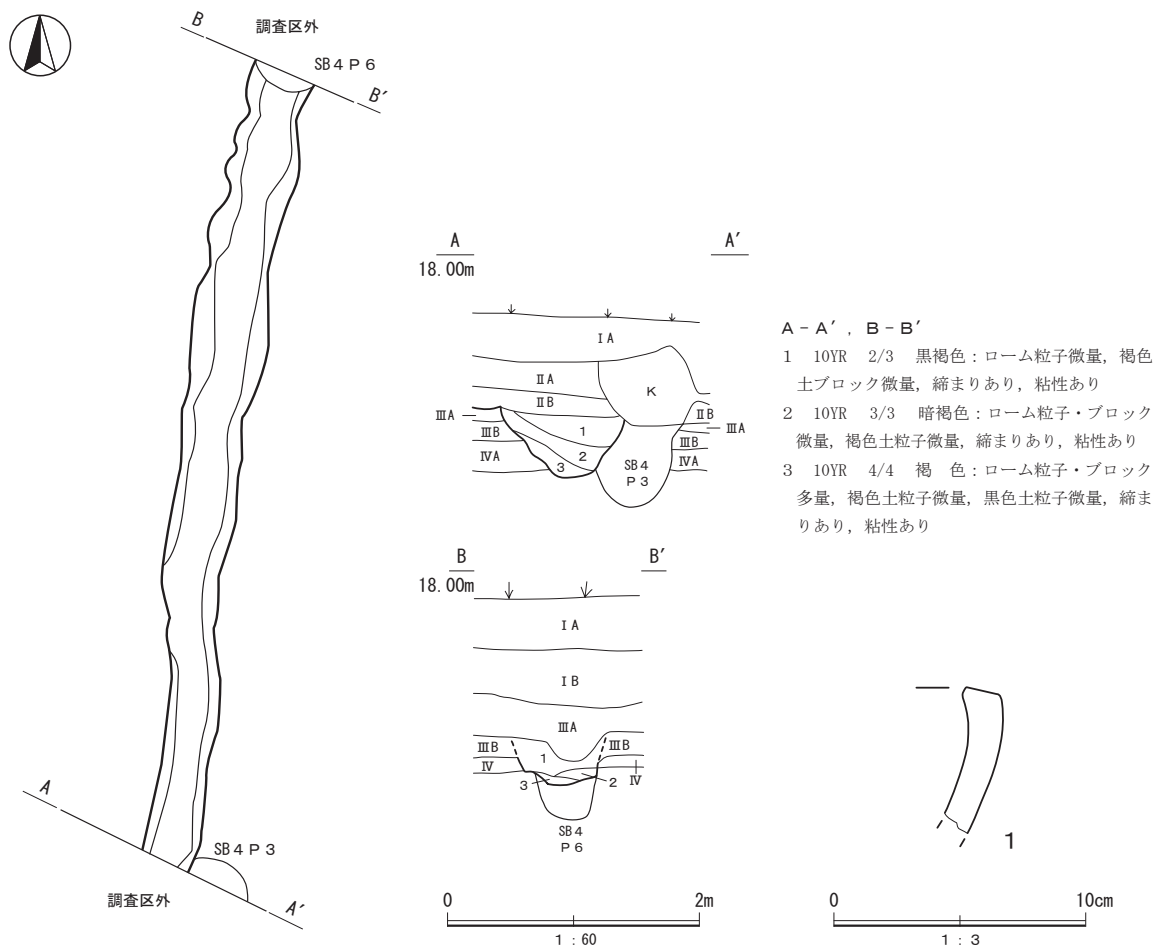


遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
7	陶器	碗	—	5.7	(1.5)	(59.0)	10YR7/2 にぶい 黄橙	長石粒少量, 小礫	良	底部片で削り出し高台, 内面は胎釉, 外面は 薄い褐色の鉄釉を施している。底部から体部 に向かって人為的に打ち欠いている	No.3 20%	美濃鉄釉丸碗 1670～1700
8	陶器	碗	—	[5.4]	(2.4)	(21.3)	10YR7/3 にぶい 黄橙	長石粒微量, やや砂質	良	ロクロ成形, 削り出し高台で, 高台が高い。 高台畳付をを除いて灰釉を施している	一括 5%	瀬戸灰釉丸碗 17世紀後半
9	陶器	徳利	—	[6.4]	(4.0)	(24.0)	10YR2/2 黒褐色	石英・長石少 量	良	ロクロ成形, 体部下端と底部ロクロ整形, 底 部下端と底部内面には鉄錆, 上半は鉄釉を施 している	一括 15%	瀬戸鉄釉徳利 1670～1700
10	瓦質 土器	焙烙	[16.8]	[13.8]	(3.8)	(52.0)	10YR5/6 明褐	石英粒少量, 長石粒中量, 白雲母微細粒 多量, 小礫	普	ロクロ成形, 外面下半はヘラ削り, 底部は薄い, 内耳か把手か不明	一括 5%	胎土B 18世紀後半～19 世紀前半
11	土師質 土器	火消壺	—	—	(4.9)	(54.0)	10YR6/3 にぶい 黄橙	石英・長石粒 少量, 針状鉄 物多量, 小礫	普	ロクロ成形, 蓋付の火消壺	No.9 5%	胎土C 17世紀後半
12	瓦質 土器	火鉢	—	—	(2.3)	(12.0)	10YR5/3 にぶい 黄褐	石英・長石粒 微量, 針状鉄 物中量小礫	良	ロクロ成形	一括 5%	胎土C 18世紀前半
遺物 番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
13	金属 製品	煙管	(5.4)	1.4	0.3	(3.0)	銅製の煙管の吸口で人為的に叩き潰されている				No.7 100%	19世紀前半

第3号溝跡 (第53図, PL21・41)

位置と重複 L12区に位置し, 4号掘立柱建物跡と重複し3号溝跡が掘り込んでいる。

長軸方向と規模 南北方向に走り, 主軸はN-5°-Eである。規模は確認面で長さ6.30m, 幅は36～62cm,



第53図 第3号溝跡・出土遺物実測図

#### 第4章 遺構と遺物

底幅は20～30cmで深さは20cmである。南北の壁面土層では50cm確認できる。

**形態** 溝底は平底気味で壁は東側が60度、西側が50度で明瞭でないが傾斜変換部がある。規模は小さいが箱薬研堀の溝である。

**覆土** 南壁面の土層では僅かにローム粒子を含む黒褐色土で西から埋め戻されている。標準層序のⅢA層から開削されている。北壁面の土層では現耕作土の下層に2回の天地返しや整地層がある。標準層序のⅢ層までの立ち上がり不明瞭で上層の整地層が埋没している。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏1点・甕2点、須恵器の甕1点、瓦質土器の火鉢1点が出土した。1点を図化した。1は瓦質土器の火鉢である。

**所見** 第3号溝は中世に分類したが出土遺物から近世の所産の可能性もあり、幕末・明治期には廃棄されたと推定される。

第26表 第3号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	瓦質土器	火鉢	[26.2]	—	(5.7)	(61.0)	2.5Y3/1 黒褐	石英粒中量, 長石粒少量	—	ロクロ成形, 口縁部ヨコナデ, 表面は灰黒色	No.2 5%	胎土C 18世紀前半

#### 第7号溝跡 (第54図, PL22・41)

**位置と重複** C4区に位置し、第4号竪穴建物跡を掘り込んでいる。さらに、現代の建物の基礎や配管によって掘り込まれている。溝の重複は無い。

**長軸方向と規模** 東西方向の溝で、主軸はN-80°-Eである。規模は確認面で東西6.36m、幅は1.70～2.28mで底幅は46～50cmで、深さは70cmであるが、東西壁面の土層では1.00～1.10m確認できる。

**形態** 平底の底面から北壁は約60度で開き、傾斜変換部までが約50度、上方が30度で開く。両側面とも開口部近くで内湾する。基本的には箱薬研堀であるが北壁の傾斜変換部から内湾するまでの間が1.00～1.50mと長いのが特徴である。

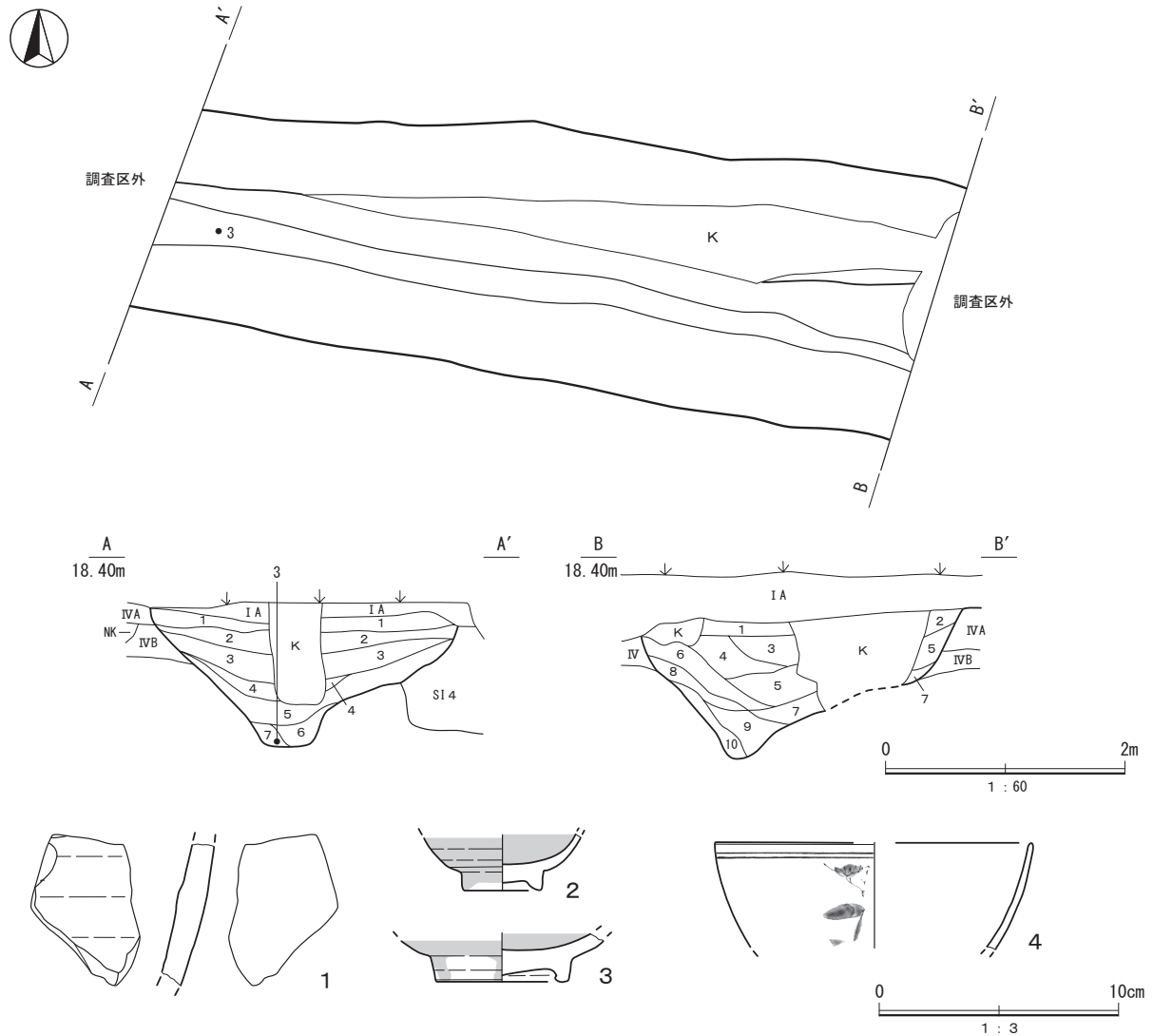
**覆土** 下層は暗褐色・褐色土、中層は北側からローム粒子・ブロックを含む層が流入し、上層はローム粒子を含む暗褐色土が南から流入している。東壁も状況は同様である。自然埋没と思われる。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏1点・甕6点、須恵器の坏2点・甗2点・甕6点、陶器の碗2点、磁器の碗1点が出土した。その内4点を図化した。1・2は上層、3は底面近く、4は中層から出土した。1は常滑焼の甕の体部片、2は信楽焼の丸碗、3は瀬戸焼の飴釉丸碗、4は肥前焼の丸碗である。

**所見** 重複の無い1条の溝で北側が内側、南側が外側と推定される。出土遺物は16世紀代から18世紀前半代である。3の瀬戸飴釉丸碗は底面近くから出土したことから、使用年代は17世紀代と推定される。

第27表 第7号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	陶器	甕	—	—	(6.2)	(39.0)	7.5YR5/3 にぶい褐	石英中量・長石粒多量, 小礫	良	輪積成形後ロクロ整形	上層 5%	常滑焼 16世紀代
2	陶器	碗	—	3.2	(2.3)	(23.0)	2.5YR8/1 灰白	石英粒微量, 長石粒少量	良	ロクロ成形, 削り出し高台, 体部外面と内面 灰釉掛け	上層 10%	信楽丸碗 18世紀前半
3	陶器	碗	—	5.4	(2.0)	(64.0)	10Y4/3 にぶい 黄褐	長石粒少量, 黒色粒子微量	良	ロクロ成形, 削り出し高台, 体部外面と内面 飴釉掛け, 高台部無釉	No.1 5%	瀬戸飴釉丸碗 18世紀前半
4	磁器	碗	[13.2]	—	(4.4)	(6.0)	2.5Y8/1 灰白	黒色粒子	良	ロクロ成形, 呉須染付透明釉, 草花文	中層 10%	肥前丸碗 18世紀前半



A - A' , B - B'

- |  |   |
|--|---|
| <p>1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，褐色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，黒色土粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，黒色土粒子微量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>5 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子多量・ブロック微量，褐色土粒子微量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> | <p>6 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量・ブロック微量，褐色土ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>7 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック・塊多量，黒色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>8 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ロームブロック多量，黒色土塊極微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>9 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・塊中量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>10 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・塊・ブロック多量，縮まりなし，粘性ややあり</p> |
|--|---|

第54図 第7号溝跡・出土遺物実測図

第10 A・B号溝跡 (第55～57図, PL22・23・42・43)

**位置と重複** E3・4区に位置し，第10号溝跡は2次期あり，第10 A号溝が新しく，第10 B号溝が古く第10 A号溝によって大半が壊されている。第9号掘立柱建物跡と第11号土坑を掘り込んでいる。西側3分の1が攪乱を受けていた。

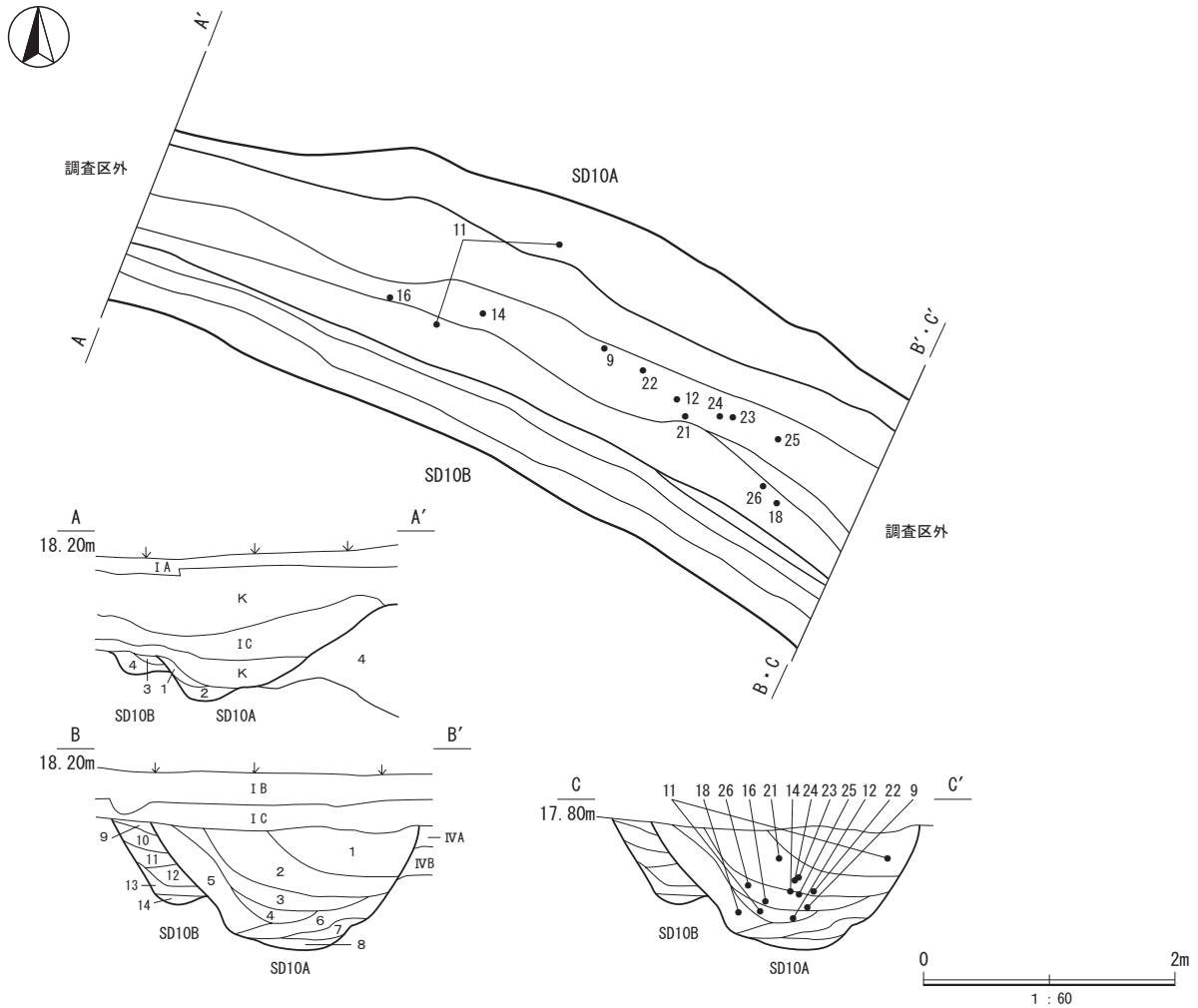
**長軸方向と規模** 東西方向に走り，主軸はN-60°-Wである。規模は確認面で長さ6.20m，幅は第10 A・B号合わせて2.10～2.20m，底幅は第10 A号溝は15～75cm，第10 B号溝は38cm，深さは第10 A号溝が57cmで東壁土層では90cmである。第10 B溝は23cmで東壁土層では61cmである。

第4章 遺構と遺物

**形態** 第10 A号溝の溝底は皿状で段が付き、10 cm程が平らになっている。北壁は60度で開き、南壁は傾斜変換部までが70度、上方は50度で開く。第10 B号溝は底部から南壁が遺存し、平底の底部から60度で開いている。

**覆土** 西壁は殆ど攪乱を受けていた。第10 B号溝は埋め戻し、第10 A号溝は東壁の下層は自然埋没で中層からは南から埋め戻したと推定される。

**出土遺物** 出土遺物は第10 A号溝からは土師質土器のかわらけ4点・鉢1点・火鉢1点、瓦質土器の火鉢1点、陶器の碗16点・皿2点・播鉢1点・壺1点、磁器の碗2点、石製品の砥石1点、鉄製品の錠前1点、銅製品

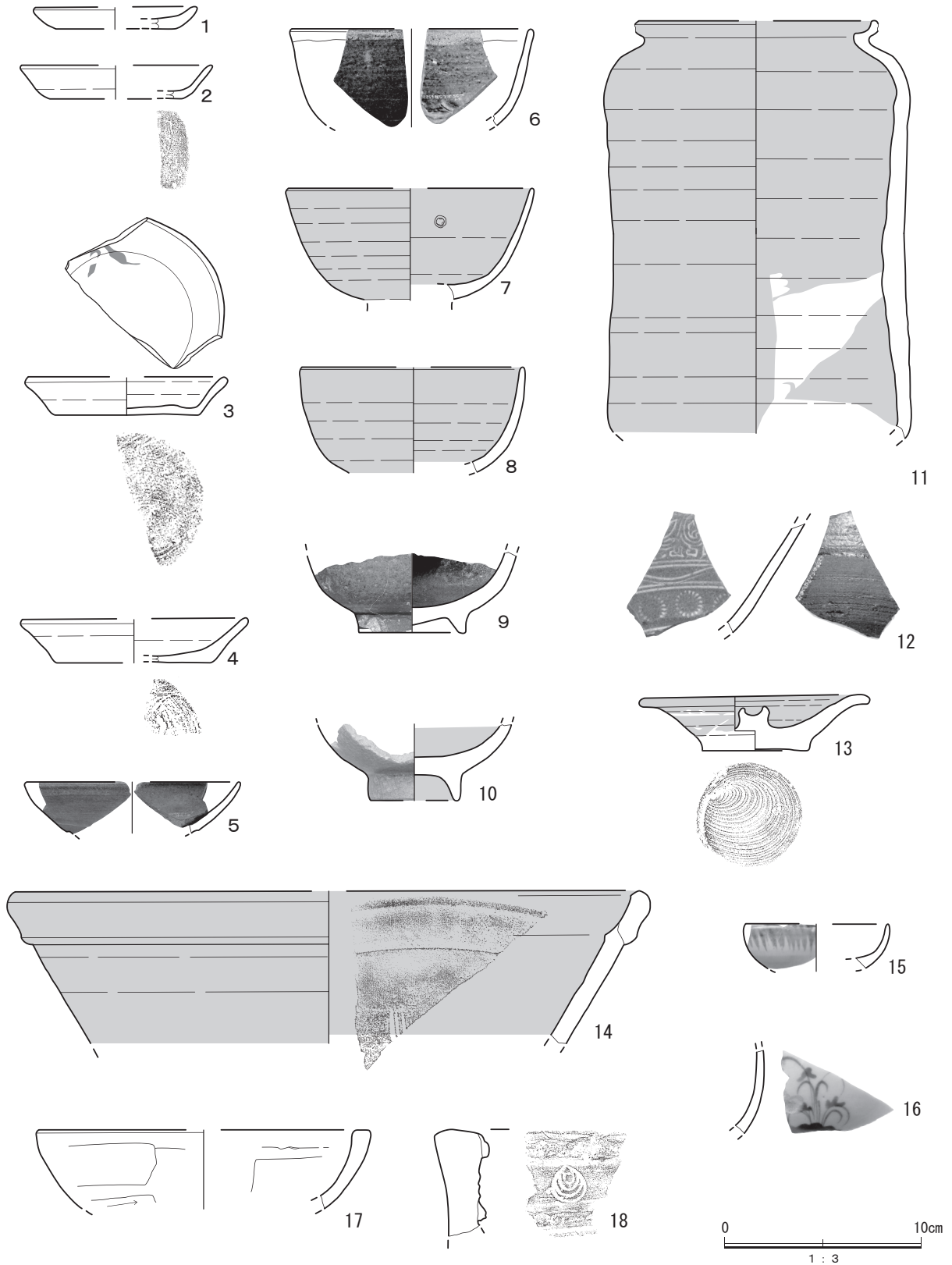


A - A' , B - B' , C - C'

- |  |  |
|--|--|
| <p>1 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック微量,炭化物微量,褐色土粒子・ブロック微量,縮まりあり,粘性ややあり</p> <p>2 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量,炭化物微量,暗褐色土粒子少量,円礫少量,縮まりややあり,粘性ややあり</p> <p>3 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量,炭化物微量,褐色粘土少量,円礫微量,縮まりなし,粘性ややあり</p> <p>4 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量,炭化粒子微量,縮まりややあり,粘性ややあり</p> <p>5 10YR 4/3 にぶい黄褐色:ローム粒子・ブロック多量,炭化物微量,灰黄色砂質粘土ブロック微量,縮まりなし,粘性ややあり</p> <p>6 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・大ブロック少量,暗褐色土粒子中量,縮まりなし,粘性ややあり</p> <p>7 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・ブロック中量,礫微量,縮まりややあり,粘性ややあり</p> | <p>8 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量,暗褐色土粒子少量,縮まりややあり,粘性ややあり</p> <p>9 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量,炭化粒子・炭化物微量,礫微量,縮まりあり,粘性なし</p> <p>10 10YR 3/4 暗褐色:ローム粒子・ブロック中量,炭化粒子微量,円礫少量,縮まりややあり,粘性なし</p> <p>11 10YR 4/3 にぶい黄褐色:ローム粒子・ブロック多量,炭化粒子微量,縮まりあり,粘性ややあり</p> <p>12 10YR 4/6 褐色:ローム粒子・ブロック多量,黒色土粒子少量,縮まりややあり,粘性ややあり</p> <p>13 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・ブロック多量,暗褐色土粒子少量,縮まりあり,粘性ややあり</p> <p>14 10YR 4/4 褐色:ローム粒子・ブロック多量,黒褐色土粒子少量,炭化粒子・炭化物微量,縮まりあり,粘性ややあり</p> |
|--|--|

第55図 第10 A・B号溝跡実測図

の煙管1点・銅線1点・銅銭4点が出土した。第10 B号溝からは土師器の坏12点・甕18点，須恵器の坏13点・蓋1点・甕10点が出土した。その内26点を図化した。大半が中層から出土している。1～4はかわらけ，5は唐津焼の銅緑釉皿，6は瀬戸焼の尾呂茶碗，7～10は瀬戸焼の灰釉・鉄鏝丸碗，11は信楽焼の茶壺，12

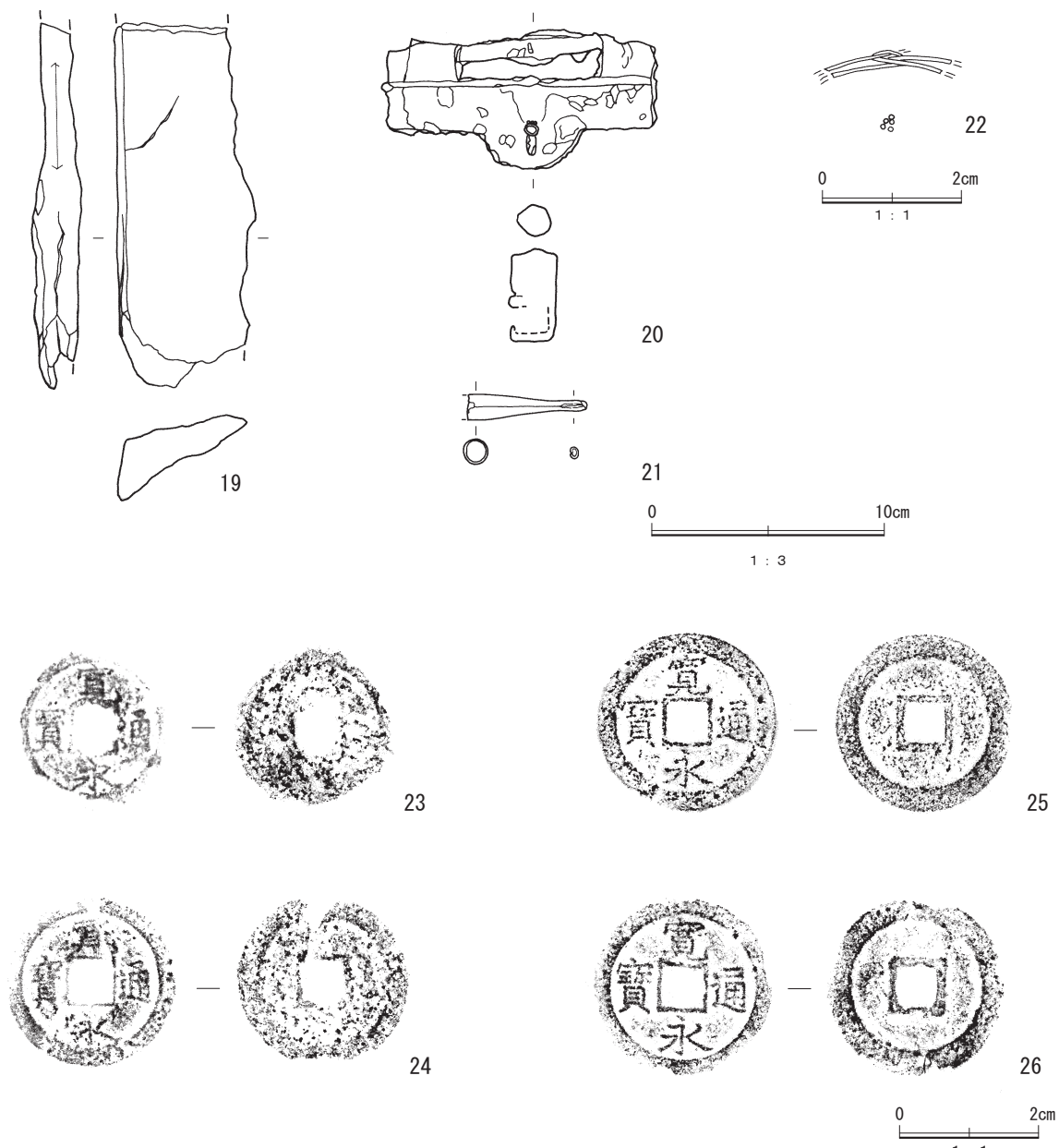


第56図 第10 A・B号溝跡出土遺物実測図(1)

第4章 遺構と遺物

は唐津焼の三島手大皿，13は瀬戸焼の双耳壺の蓋，14は瀬戸焼の播鉢，15は肥前焼の小杯，16は肥前焼の丸碗，17は土師質土器の火鉢，18は瓦質の火鉢，19は砥石，20は錠前，21は煙管の吸口，22は銅線，23～26は寛永通宝の新寛永で，26は亀戸銭である。

所見 第10A・B号溝は重複し第10A号溝が新しく，第10B号溝が古い。両溝とも区画溝の北方が外側で南方が内側と推定される。出土遺物は第10A号溝からは17世紀初頭から18世紀代の遺物が出土している。第10B号溝からは古代の遺物が出土している。第10B号溝から第10A号溝に改築した時点で古代の遺物が混入したと想定される。第10B号溝の使用年代は16世紀から17世紀代で18世紀中葉には寛永通宝や煙管がまともって出土していることから，この付近が墓域として利用されたと推定される。



第57図 第10A・B号溝跡出土遺物実測図(2)

第28表 第10A・B号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師質土器	かわらけ	[8.2]	[6.0]	(1.1)	(7.5)	5YR6/6 橙	石英・長石粒微量, 褐色粒子・針状鉱物微量	普	ロクロ成形, 底部糸切後ナデ	上層 15%	在地C 17世紀初頭
2	土師質土器	かわらけ	[9.6]	[6.8]	1.7	(7.0)	10YR8/3 浅黄橙	石英・長石粒微量, 黒色粒子, 赤色粒子	普	ロクロ成形, 底部糸切後ナデ	上層 5%	在地C 17世紀前半
3	土師質土器	かわらけ	[10.0]	[7.2]	1.9	(24.0)	7.5YR8/6 浅黄橙	石英・長石粒微量, 針状鉱物微量	普	ロクロ成形, 底部糸切後ナデ	上層 40%	在地C 17世紀前半
4	土師質土器	かわらけ	[11.4]	[8.0]	2.2	(15.0)	7.5YR8/6 浅黄橙	石英・長石粒微量, 褐色粒子, 針状鉱物微量	普	ロクロ成形, 底部糸切後ナデ	上層 20%	在地C 17世紀前半
5	陶器	皿	[10.8]	—	(2.6)	(6.0)	10GY3/1 暗緑灰	長石粒微量, 砂質	良	ロクロ成形, 内面銅緑釉, 外面透明釉	上層 50%	唐津銅緑釉皿 1780～1860
6	陶器	碗	[12.0]	—	(4.9)	(12.0)	10YR5/6 淡黄褐色	長石粒微量・砂粒少量	良	ロクロ成形, 内外面釉に口縁部に藁灰釉掛け	上層 10%	瀬戸尾呂茶碗 1700～1730
7	陶器	碗	[12.4]	—	(5.0)	(28.0)	10YR8/6 黄褐色	黒色粒子少量, 白色	良	ロクロ成形, 貫入, 内面に灰被り	上層 10%	瀬戸灰釉丸碗 1670～1700
8	陶器	碗	[11.7]	—	(5.3)	(32.0)	10YR6/6 明黄褐色	長石粒少量, 黄白色	良	ロクロ整形, 貫入	上層 10%	瀬戸灰釉丸碗 1700～1730
9	陶器	碗	—	[5.4]	(4.0)	(89.0)	7.5YR4/3 褐	長石粒少量	良	ロクロ成形, 削り出し高台, 鉄釉浸し掛け荒い	No.5 40%	瀬戸鉄釉丸碗 1660～1680
10	陶器	碗	—	4.4	(3.8)	(63.0)	10YR6/2 灰黄褐色	長石粒中量, 黒色粒子少量	良	ロクロ成形, 削り出し高台で高台が高い, 貫入	上層 30%	瀬戸灰釉丸碗 1720～1750
11	陶器	壺	[12.0]	—	—	(375.0)	10YR2/3 黒褐色	長石, 褐色粒少量	良	粘土紐巻上ロクロ成形, ロクロ目が明瞭, 受口, 褐色の鉄釉掛け	No.3+19+ 15%	信楽茶壺カ 18世紀代
12	陶器	皿	—	—	—	(24.0)	10YR5/3 にぶい黄褐色	長石粒少量, 淡茶褐色	良	文様を型押し化粧土を掛け, 内面と外面上半に透明釉を掛けている	No.20 5%	唐津三島手大皿 1690～1780
13	陶器	蓋	11.1	—	2.8	(151.0)	10YR4/2 灰黄褐色	長石, 乳白色	不良	ロクロ成形で下端は糸切, ツマミ貼付け, 上面は鉄釉, 下半迄釉が流れている。壺の落し蓋	上層 80%	瀬戸双耳壺蓋 18世紀代
14	陶器	播鉢	[31.4]	—	(7.0)	(92.0)	10YR5/ にぶい黄褐色	石英粒微量, 長石粒・砂粒中量	良	ロクロ成形, 内面に荒く櫛目を施し, 内外面に鉄釉を掛けている。	No.4 5%	瀬戸播鉢 1700～1730
15	磁器	杯	[7.2]	—	(2.2)	(7.4)	5Y8/1 灰白	長石, 黒色粒子, 白色	良	ロクロ成形, 呉須染付透明釉, 雨垂れ文	上層 10%	肥前小杯 1690～1780
16	磁器	碗	—	—	(4.3)	(15.0)	7.5Y8/1 灰白	長石粒, 白色	良	ロクロ成形, 呉須染付透明釉, 草花文	No.2 5%	肥前丸碗 18世紀代
17	土師質土器	火鉢	[16.6]	—	(4.0)	(33.0)	10YR6/3 にぶい黄橙	石英粒多量, 長石粒中量	普	輪積成形後ロクロ整形	上層 5%	在地C 18世紀代
18	瓦質土器	火鉢	—	—	(5.3)	(73.0)	10YR7/1 灰白色	石英・長石粒多量, 白雲母粒微量	普	輪積成形後ロクロ整形, 寶文型押し	No.18 5%	在地B 18世紀代
遺物番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
19	石製品	砥石	(15.6)	(6.0)	(2.1)	(242.0)	砥石の破片で側面の一部が残存している。材質は粘板岩, 側面の残存部分に使用痕がある				上層	近世
20	鉄製品	錠前	11.5	5.9	2.0	151.0	舟形錠の板バネ式で鍵を差し込み回して跳ね上げる				一括	近世
21	銅製品	煙管 (吸口)	(5.1)	—	1.1	(3.2)	煙管の吸い口で銅の板を丸めている				No.29	
22	銅製品	銅線	(2.1)	—	0.08	(0.1)	1mm大の銅線で数本を束ねている				一括	近世
遺物番号	種別	器種	径 (cm)	孔径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
23	銅製品	銭貨	2.2	0.6	0.1	1.4	寛永通宝で径2.2cm, 寶の字がハ開宝の新寛永				No.14	1668～
24	銅製品	銭貨	2.4	0.56	0.1	1.9	寛永通宝で径2.4cm, 寶の字がハ開宝の新寛永				No.17	1668～
25	銅製品	銭貨	2.5	0.56	0.1	2.7	寛永通宝で径2.5cm, 寶の字がハ開放の新寛永				No.16	1668～
26	銅製品	銭貨	2.4	0.56	0.1	2.8	寛永通宝で径2.4cm, 寶の字がハ開放の新寛永				No.15	亀戸銭 1668～1683

3 道路状遺構

第1号道路状遺構 (第58図, PL23)

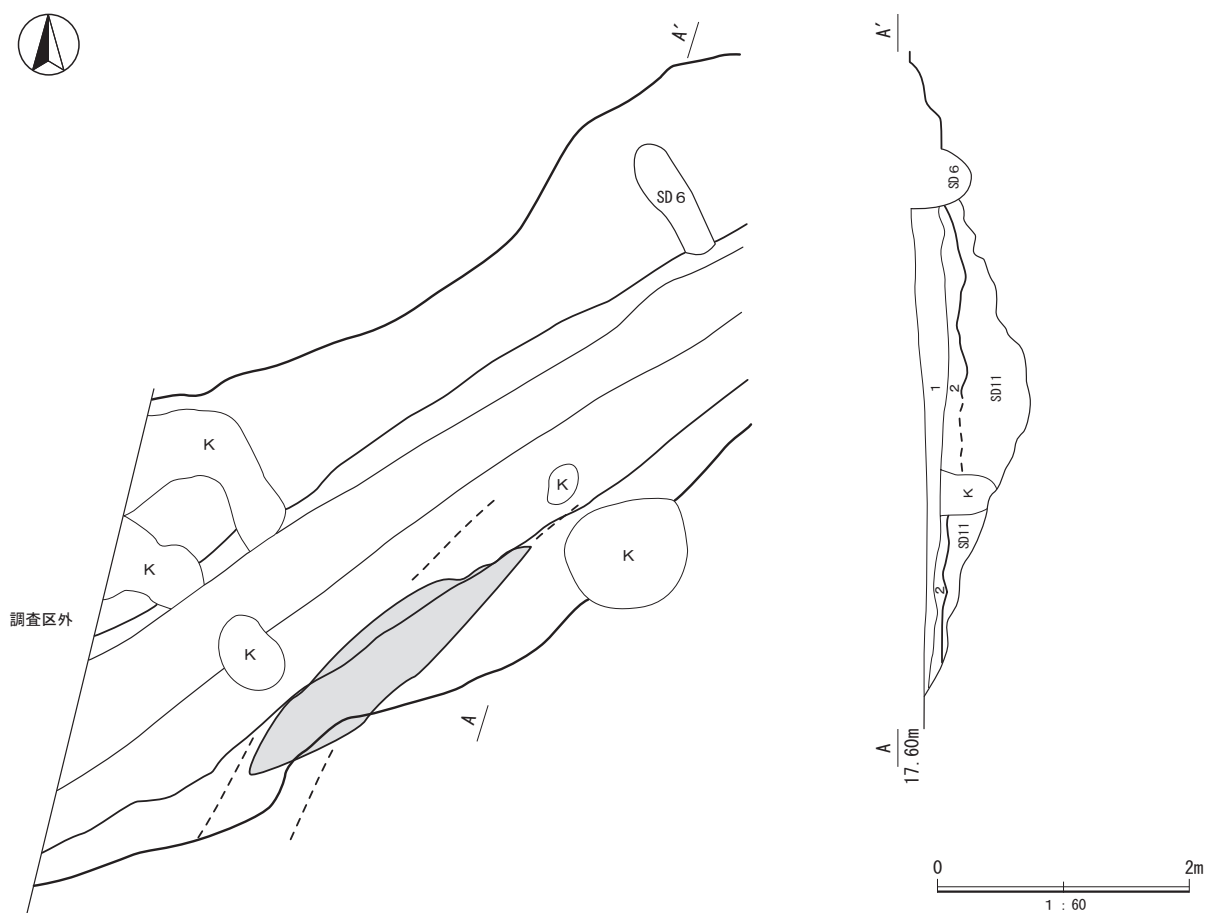
位置と重複 D3・4区に位置し, 古代の11号溝跡の上層に確認した。

長軸方向と規模 北東から南西方向に硬化面を確認した。主軸はN-45° - Eである。規模は長さ2.8m, 幅

## 第4章 遺構と遺物

67 cm程である。硬化面はロームを多量に混ぜ合わせた土を10 cm程、2層中に叩き締め構築されている。

**所見** 第1号道路状遺構に伴う遺物は出土していない。第11号溝跡は層毎に上面の硬化が確認され、堀底道として利用されてきた。その中でも本跡は最も明瞭な遺構である。時期は中世と判断したが他の遺構との関係から実態に近い年代が与えられると考えられる。



A - A'

1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子・ブロック中量，褐色土粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり

2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子・ブロック少量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり

第58図 第1号道路状遺構実測図

### 4 集石遺構

#### 第1号集石遺構（第59図，PL23・43）

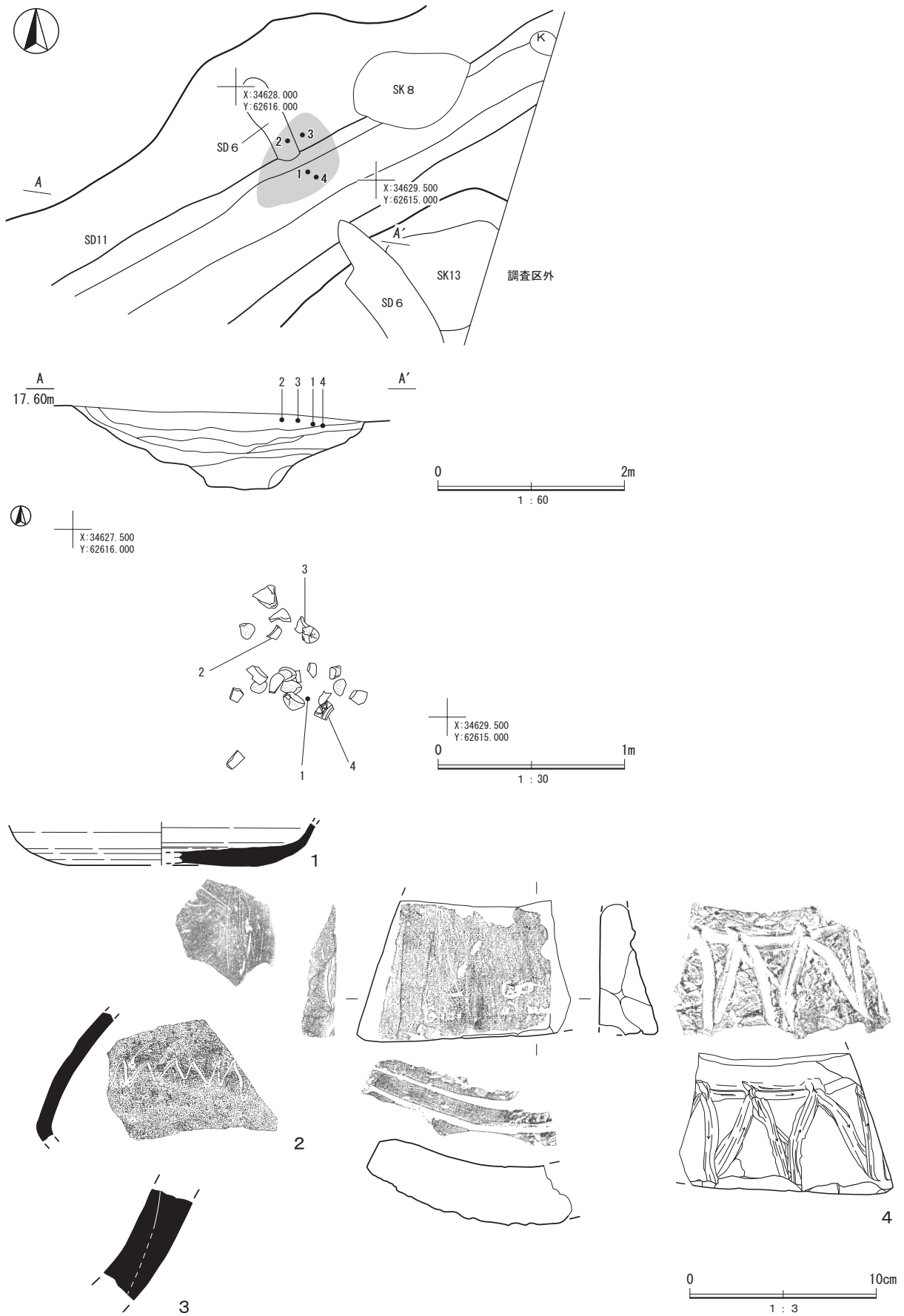
**位置と重複** D4区に位置し，第11号溝跡の1層の土層ベルト中から確認された。

**遺物出土状況** まとまった川原石の中に古代の須恵器と瓦が出土した。

**出土遺物** 出土遺物は須恵器の盤1点・甕2点，瓦1点が出土した。全て図化した。1は須恵器の盤，2は甕の口辺，3は大甕の底部付近で器厚が厚い。4は顎面施文の三重弧文字瓦である。

**所見** 2次的な遺構で中世段階の集石遺構と推定したい。しかし，出土遺物は全て古代に収まるようで，その時期は8世紀前半であろう。





第59図 第1号集石遺跡・出土遺物実測図

第4章 遺構と遺物

第29表 第1号集石遺構出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	盤	—	[10.0]	(2.2)	(51.0)	5Y6/1 灰	石英粒少量, 長石粒・砂粒 中量, 斜状鉱 物中量	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部手持ちヘラ削り	No.22 5%	木葉下窯跡群 8世紀前半
2	須恵器	甕	—	—	—	(66.0)	5Y4/1 灰	石英粒中量, 長石粒・砂粒 多量	良	輪積成形後ロクロ整形, 外面に手書きによる 雑な波状文が描かれる	No.8 5%	胎土C 8世紀前半
3	須恵器	甕	—	—	(5.9)	(116.0)	2.5YR6/1 黄灰	石英粒中量, 長石粒・砂粒 多量	良	甕の底部片で輪積痕, 器厚が2.1cmと厚い	No.2 5%	東海系 8世紀代
4	宇瓦	瓦	長さ (7.6)	全 (11.4)	厚み (7.6)	(295.0)	10YR8/2 灰白	石英粒微量, 長石粒・砂粒 少量	良	三重弧文字瓦, 凹面布目・縦ヘラナデ, 凸面 格子叩き・頸部を沈線で区画し頸面に鋸歯文 を描く	No.1 5%	8世紀前半

5 井戸跡

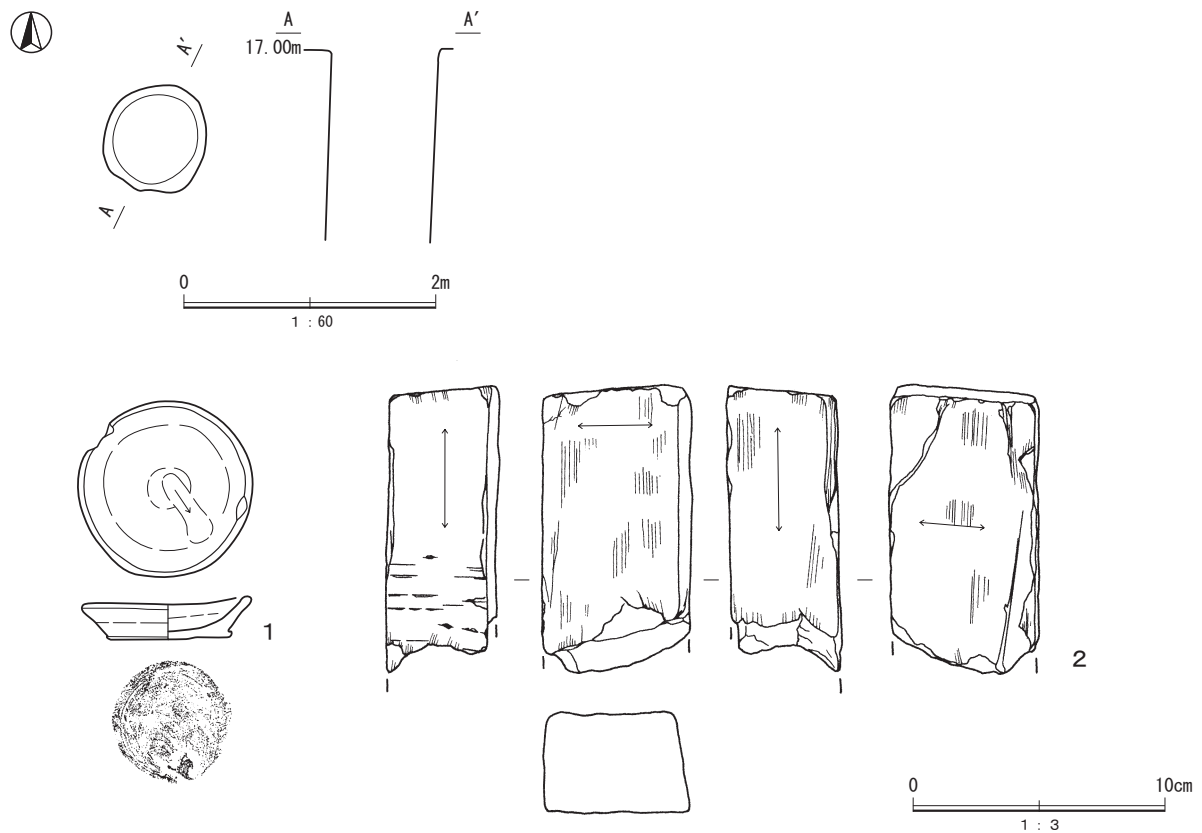
第1号井戸跡 (第60図, PL23・43)

位置と重複 J2区に位置している。

形態 平面形は円形で径は54～58cm, 深さは1.5m以上である。南北の壁面にはコの字状と轡状の足掛け穴が交互に造られている。

出土遺物 出土遺物は土師器の皿1点, 土師質土器のかわらけ1点・鍋1点, 石製品の砥石1点が出土した。その内2点を図化した。1はかわらけで内面に指ナデ痕がある。2は砥石で使用痕が少なく, 加工痕がある。

所見 出土したかわらけは, 16世紀末から17世紀初頭と考えられることから, 井戸は16世紀代と推定される。



第60図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第30表 第1号井戸跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師質土器	かわらけ	6.5	4.7	1.7	(25.0)	7.5YR7/4にぶい橙	石英・長石微細粒微量, 赤色粒子微量	良	ロクロ成形, 底部糸切, 内面に軽い指ナデ	一括 95%	胎土C 16世紀後半
遺物番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
2	石製品	砥石	(11.4)	6.0	(4.6)	(555.0)	直方体で全体は不明, 断面は長方形, 広端面より狭端面の方が使用痕が明瞭である。				一括	中世

第3号井戸跡 (第61図, PL23・24・44)

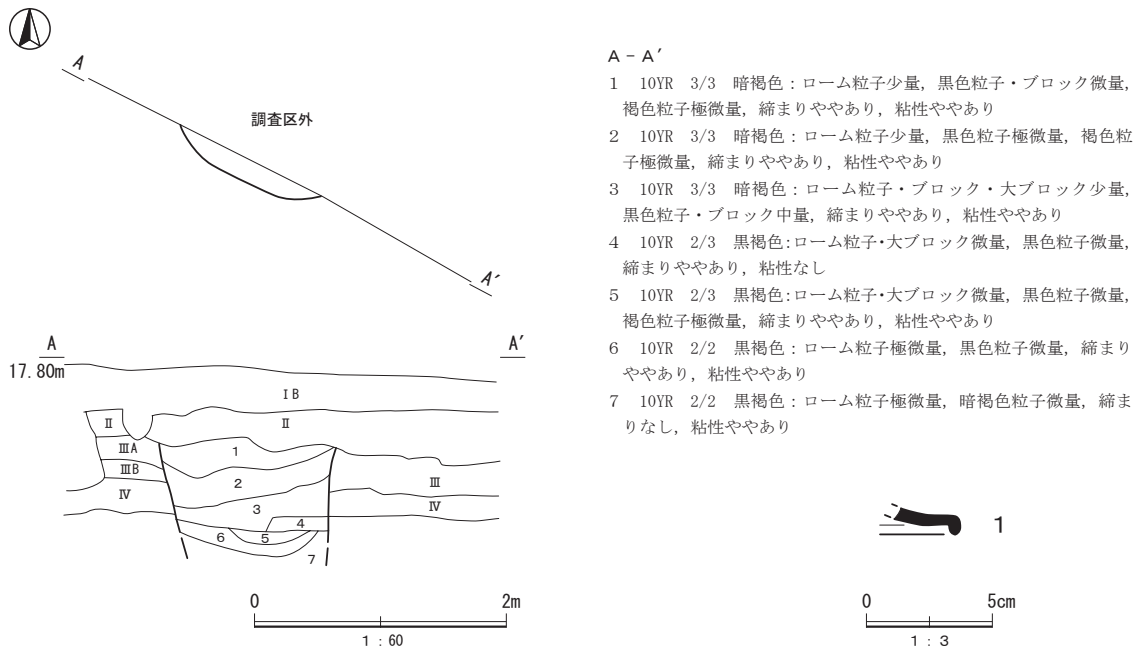
位置と重複 H4・5区に位置している。東区北壁に確認した。調査区内の位置関係から井戸と判断した。

形態 円形で弧状の1.5mを確認した。深さは70cm以上である。

覆土 基本層序のⅢ層から開削され, 小石やローム混じりの土で埋め戻していた。

出土遺物 出土遺物は須恵器の蓋1点が出土した。1点を図化した。1は須恵器の蓋である。8世紀代であろう。

所見 出土遺物は古代であるが, 調査状況から中世と推定したい。



第61図 第3号井戸跡・出土遺物実測図

第31表 第3号井戸跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	蓋	—	—	[1.0]	(4.1)	2.5YR6/1黄灰	石英・長石粒微量, 黒色粒子少量	良	ロクロ整形, 返り端部が丸味を帯びる	一括 5%	在地C 8世紀代

第4号井戸跡 (第62図, PL24・44)

位置と重複 I2区に位置している。一部は調査区外にあり, 全体の3分の2を調査した。

形態 平面形は楕円形で長軸が東西にある。主軸はN-70°-Wである。規模は確認面で0.98×1.18m, 深

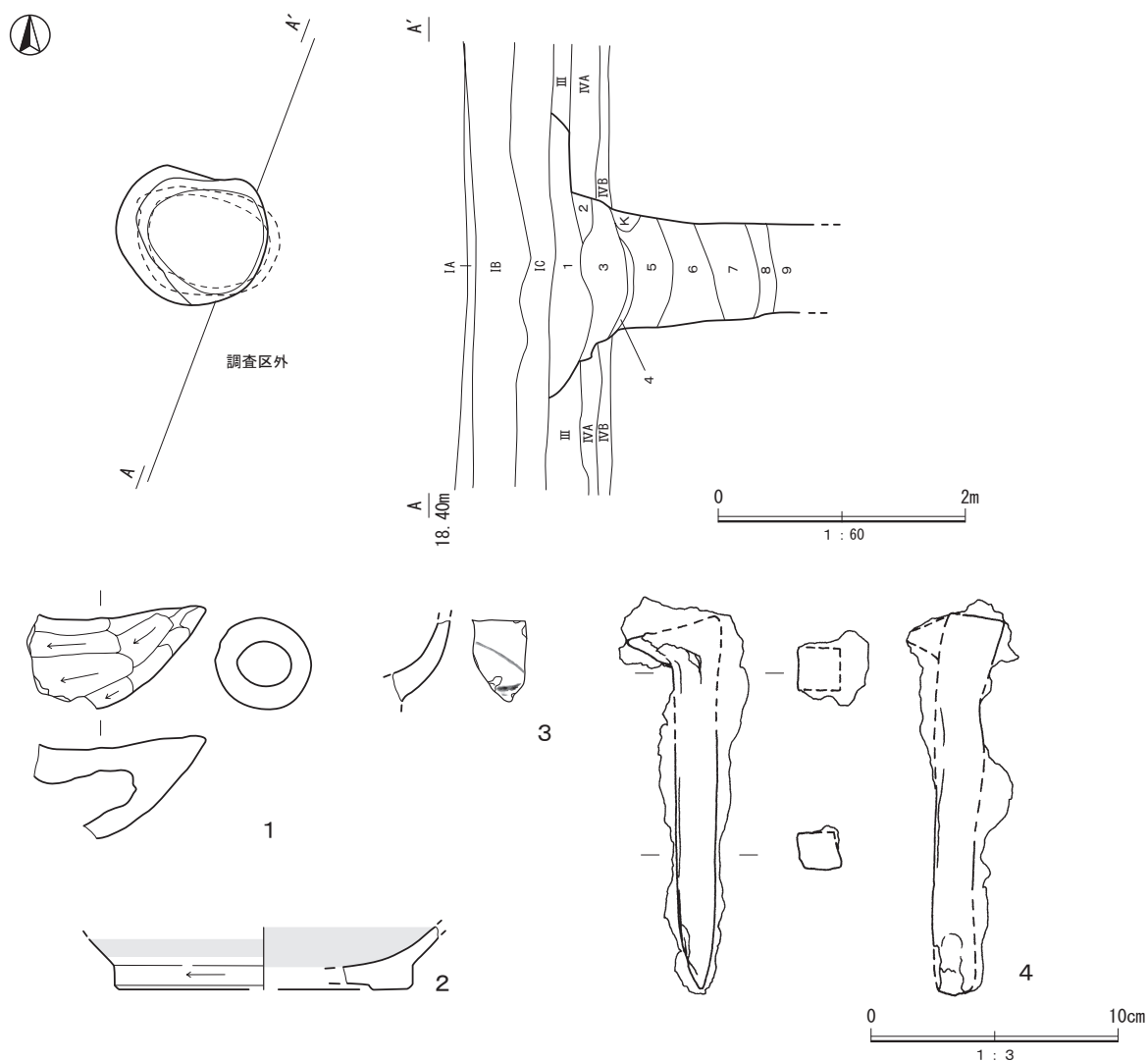
## 第4章 遺構と遺物

さは1.50 mで確認面からは2.05 mである。本跡は東壁土層ではⅢ層から開削され、土層によると開削準備として地表面を2.18 mの範囲を整地してⅣB層まで漏斗状に掘下げてから、下方に開削したと推定される。

**覆土** 黒褐色土を層状に埋め戻している。遺物は各層から少量出土した。

**出土遺物** 出土遺物は須恵器の甕1点、瓦質土器の火鉢1点、陶器の碗1点・鉢1点、磁器の碗1点、鉄製品釘1点が出土した。4点を図化した。1は甕の把手として図化した。中世の鍋の脚部とも考えられる。2は益子焼の鉢である。3は肥前焼の丸碗である。4は15.9 cmの釘で、頭部を折り曲げて作っている。

**所見** 中世から近世の井戸で近世から近代に埋め戻したと推定される。



A - A'

- |  |  |
|--|--|
| 1 10YR 3/3 暗褐色：砂岩(15cm)を含む、締まりややあり、粘性なし            | 6 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子極微量、締まりなし、粘性ややあり         |
| 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量、褐色粒子微量、炭化物微量、締まりややあり、粘性ややあり | 7 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック中量、締まりなし、粘性あり       |
| 3 10YR 3/4 暗褐色：炭化物少量、小礫少量、締まりなし、粘性なし               | 8 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック中量、締まりなし、粘性あり |
| 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子微量、小礫多量、締まりあり、粘性なし             | 9 10YR 2/2 黒褐色：ブロック中量、締まりなし、粘性あり             |
| 5 10YR 3/4 暗褐色：褐色ブロック多量、小礫少量、締まりあり、粘性なし            |  |

第62図 第4号井戸跡・出土遺物実測図

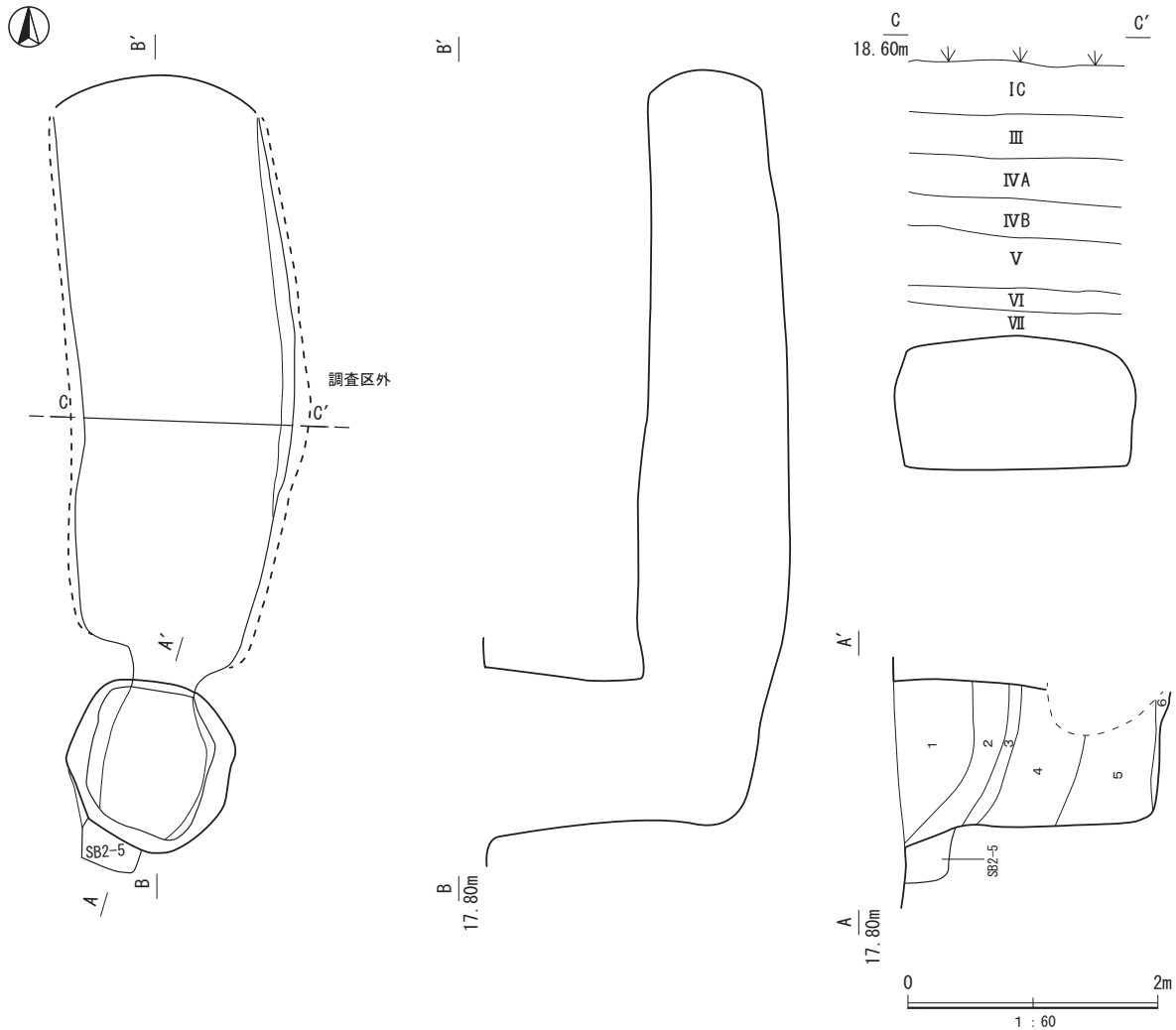
第32表 第4号井戸跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師質土器	把手	全長 (7.2)	—	(4.1)	(4.1)	10YR6/4 にぶい黄橙	石英・長石粒中量	普	手び練りで角状にしヘラナデし本体に張付けている。甔の把手としたが中世の鍋の脚部の可能性もある。	P 1 5%	在地C 中世
2	陶器	鉢	—	—	(3.2)	(3.2)	10YR2/3 黒褐色	石英・長石微細粒微量	良	ロクロ成形、底部削り出し高台、内外面鉄釉	一括 5%	益子焼 19世紀前半
3	磁器	碗	—	—	(2.5)	(2.5)	2.5GY8/2 灰白	石英・長石、灰白色	良	ロクロ成形、呉須染付透明釉	一括 5%	肥前焼 18世紀代
遺物番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
4	金属製品	釘	15.9	4.3	5.2	(315.0)	大形の頭が片折れ形の釘で、断面は方形である				一括	近世

6 地下式坑

第1号地下式坑 (SK25) (第63・64図, PL24・44)

位置と重複 B3区に位置し、2号掘立柱建物跡のP5を掘り込んでいる。



A - A'

- |                                     |                                     |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子多量，締まりなし，粘性ややあり | 4 10YR 2/1 黒色：ローム粒子微量，締まりなし，粘性ややあり  |
| 2 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子少量，締まりなし，粘性ややあり | 5 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子少量，締まりなし，粘性ややあり |
| 3 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子少量，締まりなし，粘性ややあり | 6 10YR 2/1 黒色：ローム粒子多量，締まりなし，粘性ややあり  |

第63図 第1号地下式坑実測図

第4章 遺構と遺物

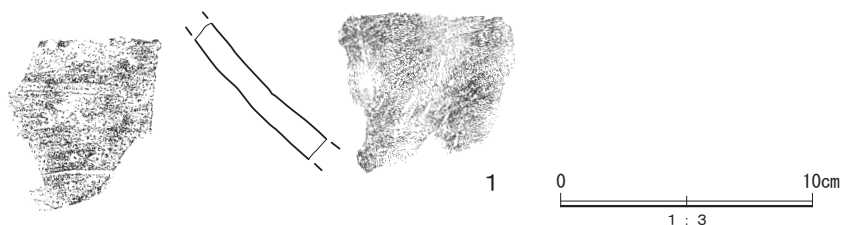
**平面形と規模** 竪坑部は不正方形, 室部は南北に長い長方形で, 主軸はN-46° - Wである。規模全長 6.16 m, 竪坑部で奥行き 1.32 m, 横幅 1.30 m で深さは 2.05 m である。底面は奥行き 1.10 m, 横幅 0.82 m である。室部の奥行きは 4.65 m, 横幅は 1.90 m, 天井高は手前が 1.23 m, 奥が 0.93 m である。

**形態** 竪坑部から底面に向かって内傾している。室部の入口部分では 90 cm と狭くなっている。底面から室部に向かって傾斜し入口の部分で傾斜がきつく 16 cm の高低差がある。竪坑から室部に至る入口の天井部は楕状に下がり 38 cm で室部の天井部になる。室部は楕から 1.3 m で西側に 18 度屈曲している。それに伴い天井高は 1.23 m から 0.98 m と低くなり, 底面も入口から奥壁に皿状に窪んでいる。横断面は胴部が膨らみ天井部は若干ドーム状になる。

**覆土** 入口部は黒褐色土の自然埋没で, 室部は底面から 30 cm 程土が流入していた。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の甕 6 点, 須恵器の坏 1 点・蓋 1 点・甕 2 点, 陶器の甕が 1 点出土した。1 点を図化した。1 は常滑焼の甕の肩部片である。

**所見** 室部が屈曲する地下式坑で信州地方に類例がある。16 世紀代が使用時期と推定したい。



第 64 図 第 1 号地下式坑出土遺物実測図

第 33 表 第 1 号地下式坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	陶器	甕	—	—	(5.5)	(69.0)	5YR4/4 にぶい 赤褐	石英・長石粒 多量	普	輪積成形後クロロナデ	一括 5%	常滑焼 13・14 世紀

第 2 号地下式坑 (SK27) (第 65 図, PL24・25)

**位置と重複** C 4 区に位置している。

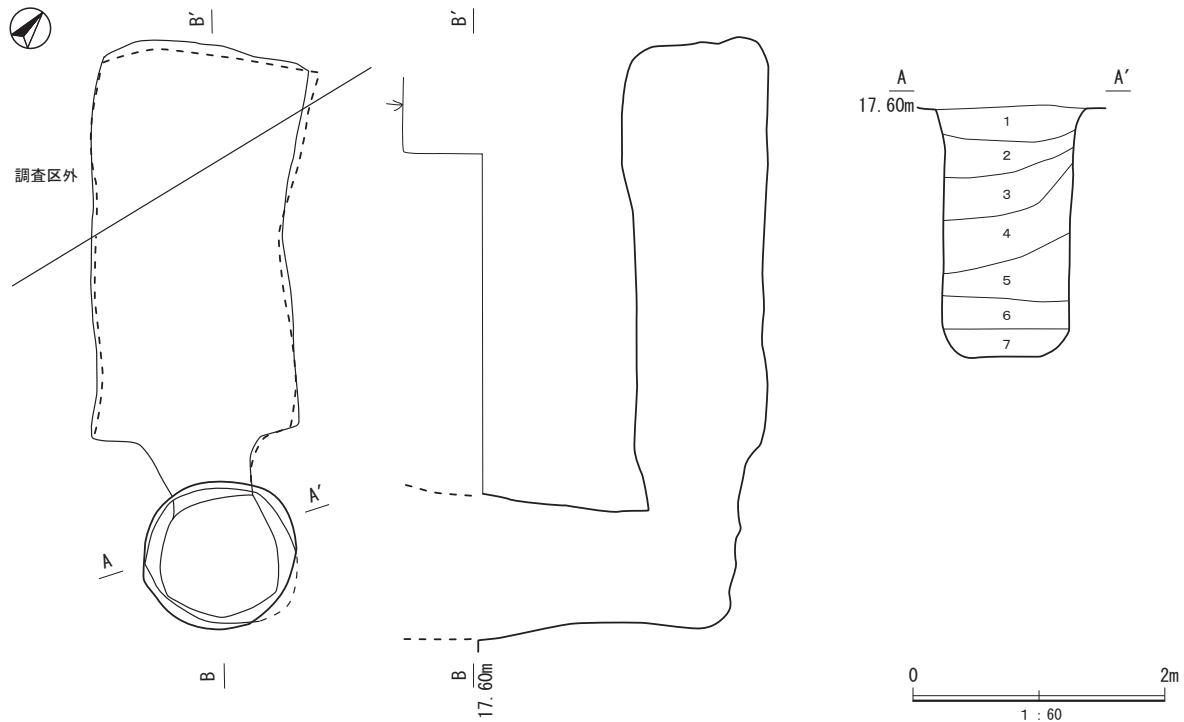
**平面形と規模** 竪坑部は円形, 室部は長方形である。主軸はN-45° - Wである。規模は全長 4.62 m, 竪坑部は確認面は円形で奥行き 1.17 m, 横幅 1.24 m で, 深さは 1.97 m である。底面は不整六角形で奥行き 0.96 m, 横幅 0.92 m である。室部は奥行 3.16 m, 横幅 1.60 m, 天井高は手前が 1.00 m, 奥が 1.16 m である。

**形態** 竪坑の開口部は円形であるが, 底面は多角形に成っている。開口部から底面は内傾し, 室部の入り口部分では 86 cm と狭くなっている。入り口部分の底面は竪坑部底面から傾斜して室部へは 14 cm の段がある。天井は楕状に下がり 45 cm で室部天井になる。室部は奥へ 1.80 m で軸が 13 度東へ屈曲している。それに伴って天井高も 1.00 m から 1.16 m と高くなっている。

**覆土** 竪坑部は黒褐色土が自然埋没している。室部は底面に 20 cm 程の流入土が堆積し, その上に天井が落盤したブロックを確認した。

**出土遺物** 出土遺物は鉄製品が 1 点あるが図化できなかった。

**所見** 時期判定の出土遺物は無いが, 形態は室部が途中で屈曲し, それに伴い天井高が高くなるなど, 掘削技術に第 1 号地下式坑と共通性が認められることから 16 世紀代が使用時期と推定したい



A - A'

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，ブロック微量，褐色土粒子極量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子中量，ブロック極微量，褐色土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子中量，ブロック微量，褐色微粒子極微量，黒色土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子少量，ブロック微量，褐色土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり

- 5 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子微量，ブロック微量，褐色土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 6 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子少量，ブロック少量，褐色土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 7 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子少量，ブロック微量，黒色土粒子・ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり

第 65 図 第 2 号地下式坑実測図

第 3 号地下式坑 (SK28) (第 66 図, PL25・26・44)

**位置と重複** D 4 区に位置している。南東部の 3 分の 1 が調査区外にあるため，開口部確認できず，天井は落盤していた。

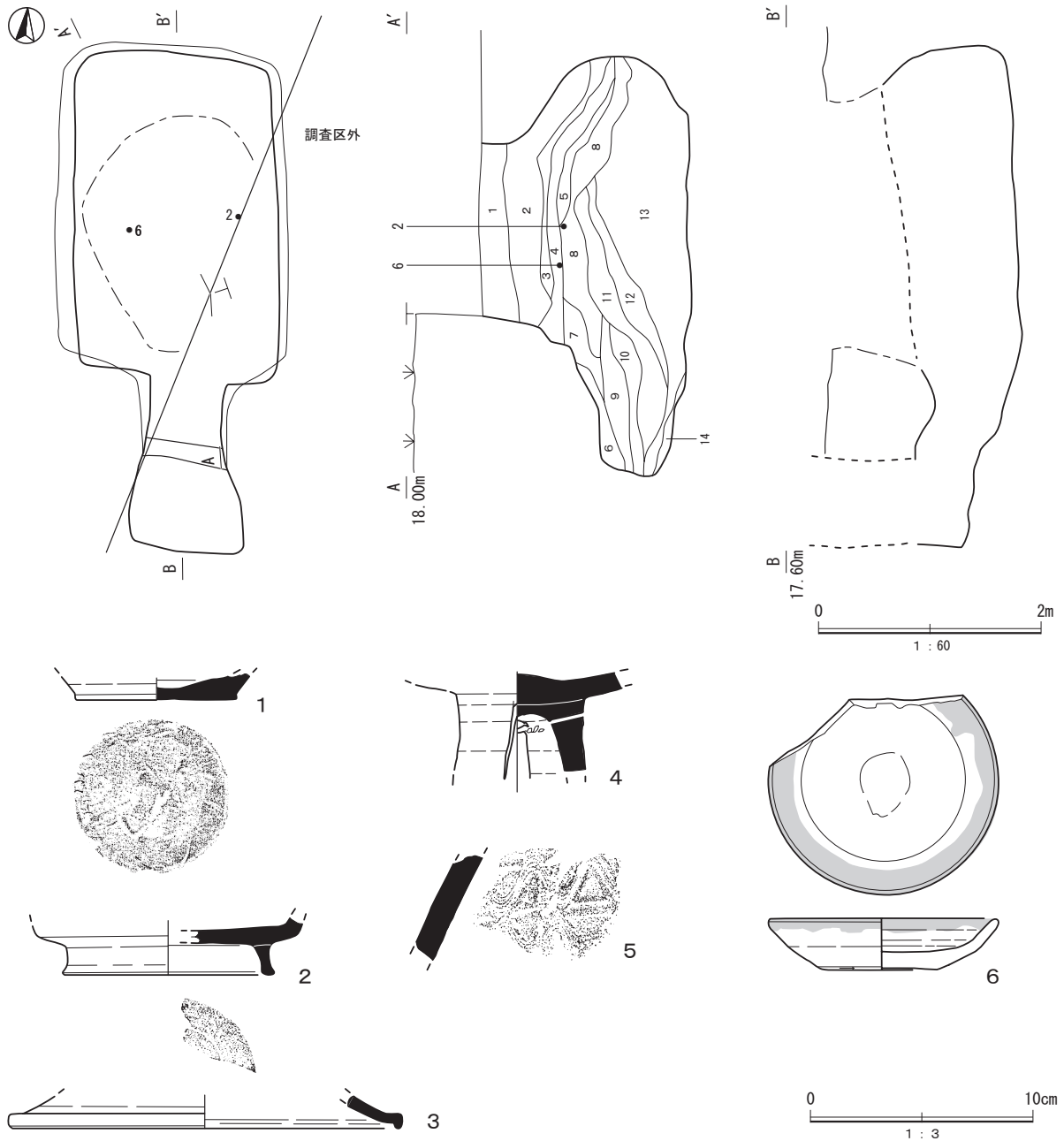
**平面形と規模** 全長 4.50 m で，主軸は N - 3° - W である。竪坑部の平面形は底面は不正方形で奥行 0.80 m，横幅南壁下で 1.02 m，入口側で 0.87 m で，深さは 1.30 m である。室部は平面状の奥行は 2.90 m であるが底面では 2.56 m である。天井高は 1.10 m 以上である。

**形態** 竪坑部は漏斗状になっていると推定される。底面は入口に向かって傾斜し入口部は 90 cm と長く 17 cm の段があり，底から室部に向かって傾斜し 86 cm で室部の底面になる。天井部の楣は円頭状に下がっている。

**覆土** 天井が落盤したのち自然埋没している。落盤は室部底面に流入土が無いことから地下式坑の構築から時間を絶たず埋没したと推定される。遺物は自然埋没中の 4・8 層から出土した。

**出土遺物** 出土遺物は土師器の坏 22 点・高台付坏 2 点・甕 74 点，須恵器の坏 50 点・高台付坏 5 点・高盤 1 点・蓋 7 点・甕 16 点，陶器の皿 1 点，鉄製品の器種不明 1 点が出土した。その内 6 点を図化した。1～5 は須恵器で，1 は坏，2 は高台付坏，3 は蓋，4 は高台付盤，5 は甕である。6 は瀬戸焼の縁釉小皿である。

**所見** 入口部の長い地下式坑で，落盤中の埋没土の中層から瀬戸縁釉小皿が出土した。天井落盤後の層位は下部に黒色土，中位に褐色粒混ざりの土，上層は耕作土で埋まっていた。この状況は地下式坑の開削にあたって，掘り上げた土を地下式坑の真上に積み上げたものと推定したい。瀬戸縁釉小皿はその場所で行われた追善供養の産物と考えられる。瀬戸縁釉小皿は 1490～1530 年の生産年代が与えられている。第 3 号地下式坑の使用年代はこれに近い時期と推定される。



A - A' , B - B'

- |   |  |
|---|--|
| <p>1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子・ブロック中量，炭化物極微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子微量，焼土粒子・ブロック極微量，縮まりなし，粘性ややあり</p> <p>3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子極微量，焼土粒子極微量，縮まりなし，粘性ややあり</p> <p>4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子微量，焼土粒子・ブロック極微量，縮まりなし，粘性ややあり</p> <p>5 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子多量，黒色土粒子極微量，縮まりややあり，粘性なし</p> <p>6 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック中量，黒色土粒子少量，縮まりなし，粘性なし</p> <p>7 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色土粒子極微量，縮まりなし，粘性なし</p> | <p>8 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色土粒子・ブロック微量，縮まりなし，粘性なし</p> <p>9 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子極微量，縮まりなし，粘性ややあり</p> <p>10 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子・ブロック極微量，縮まりあり，粘性ややあり</p> <p>11 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック多量，黒色土粒子・ブロック(1cm)少量，炭化物微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>12 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子微量，炭化物微量，焼土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり</p> <p>13 10YR 5/6 黄褐色：ローム主体層，縮まりあり，粘性あり(天井部落盤)</p> <p>14 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック多量，縮まりあり，粘性ややあり</p> |
|---|--|

第66図 第3号地下式坑・出土遺物実測図



第34表 第3号地下式抗出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	—	7.2	(1.2)	(94.0)	10Y6/1 灰	石英少量, 長石粒・砂粒中量, 針状鈣物中量	良	底部片で底部へラ切後ナデ, 花卉状, 底部突出し	一括 5%	木葉下窯跡群 9世紀前半
2	須恵器	高台付坏	—	[9.0]	(2.5)	(30.0)	5Y6/1 灰	石英・長石粒少量, 針状鈣物少量	良	底部回転へラ削り, 付高台	一括 5%	木葉下窯跡群 9世紀代
3	須恵器	蓋	[17.2]	—	(1.4)	(6.0)	5Y6/1 灰	石英粒微量, 長石粒中量, 針状鈣物微量	良	ロクロ整形, 返り部縁部は丸い	一括 5%	木葉下窯跡群 9世紀代
4	須恵器	高盤	—	—	(4.3)	(115.0)	2.5Y5/1 黄灰	石英粒多量, 長石粒多量, 黒色粒子, 針状鈣物微量	良	器部と脚部を輪積成形後ロクロ整形して接合し, 脚部に縦長に透かしを4か所掘り込み出している	No.2 10%	木葉下窯跡群 8世紀後半～9世紀前
5	須恵器	甕	—	—	(5.2)	(51.0)	5Y3/1 オリーブ黒	石英・長石粒多量, 砂質	不良	輪積成形後ロクロ整形, 口縁部片で外面に5条単位の櫛描き波状文が2列施している	一括 5%	胎土C 8世紀前半
6	陶器	小皿	10.2	4.5	2.3	(88.0)	2.5Y8/1 灰白	長石粒少量, 乳白色	良	ロクロ成形, 底部糸切, 口縁部内外面に黄緑色の灰釉, 内底面に指ナデ痕	No.1 80%	瀬戸縁袖小皿 1490～1530

7 粘土貼土坑

第1号粘土貼土坑 (SK 3) (第67図, PL26)

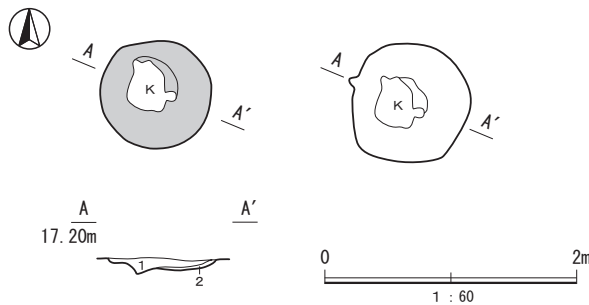
位置と重複 H2区に位置し, 中央が根により攪乱を受けている。重複は無い。

平面形と規模 円形で, 主軸はN-30° - Wである。規模は100×88cmで深さは確認面から12cmである。

覆土 皿状の底面に1～2cm程の黄灰色の粘土を貼り付けている。覆土は粘土ブロックを含む暗褐色土で, 埋め戻している。

出土遺物 無し

所見 粘土貼土坑で使用時期は中世と思われる。



A - A'

- 1 10YR 3/3 暗褐色: ローム粒子少量, 粘土ブロック微量, 明褐色土粒子微量, 締まりなし, 粘性なし
- 2 10YR 6/6 明黄褐色: 粘土粒子・ブロック多量, にぶい黄褐色粘土微量, 締まりあり, 粘性なし

第67図 第1号粘土貼土坑実測図

第2号粘土貼土坑 (SK 4) (第68図, PL27・44)

位置と重複 E3区に位置し, 西半が調査区外にある。第11号竪穴建物跡を掘り込み, 第8号掘立柱建物跡と第24号土坑に掘り込まれている。

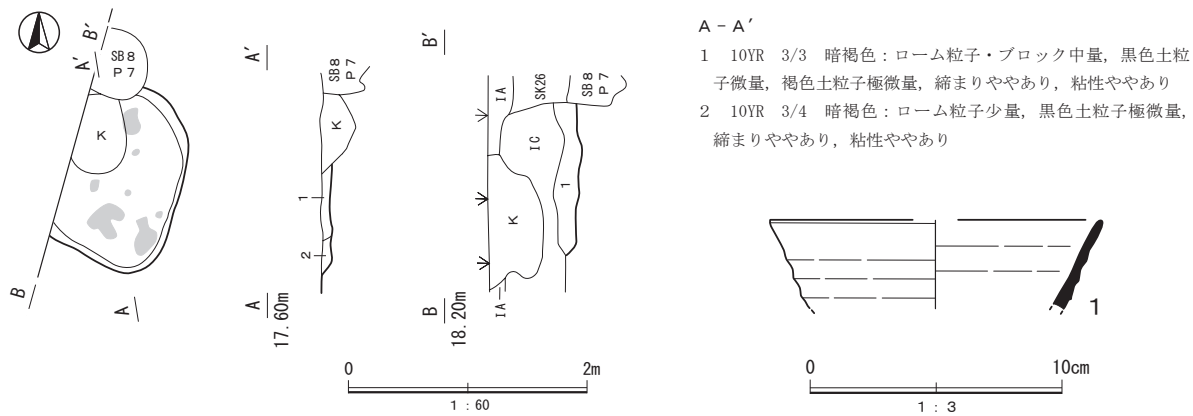
平面形と規模 平面形は楕円形と推定され, 主軸はN-40° - Wである。規模は144×88cm以上で西壁面の土層では24cmである。

覆土 平坦な底部に黄白色粘土が散在した状況が確認された。覆土はローム粒子・黒色土粒子・褐色土粒子を含む暗褐色土である。

出土遺物 出土遺物は土師器の甕1点, 須恵器の坏1点が出土した。1点を図化した。1は須恵器坏の口辺部である。

所見 遺存状態は良くなかったが, 中世の粘土貼土坑と判断した。

第4章 遺構と遺物



第68図 第2号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第35表 第2号粘土貼土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	[13.0]	—	(3.5)	(7.0)	10YR6/1 灰	石英・長石粒中量，針状鈦物微量	普	輪積成形後ロクロ整形	掘方 5%	木葉下窯跡群 9世紀代

第3号粘土貼土坑 (SK 5) (第69図, PL27)

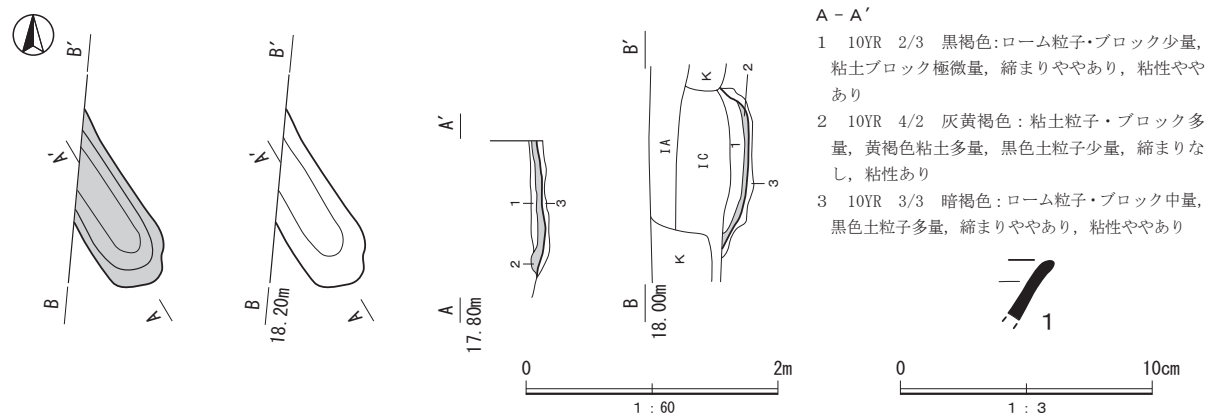
**位置と重複** F3区に位置し，西半は調査区外にある。10号竪穴建物を切り19号土坑に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は楕円形と推定される。主軸はN -40° - Wである。規模は100以上×56cmで深さは西壁面の土層では12cmである。

**覆土** 底面は皿状で黄灰色の粘土貼の遺存状況は良好であった。底面から立ち上がりにかけて5～8cmの粘土を丁寧に貼り付けていた。掘方はやや凹凸がある。覆土はローム粒子・粘土ブロックを含む黒褐色土である。

**出土遺物** 出土遺物は須恵器の坏1点・甕1点が出土した。1点を図化した。1は須恵器坏の口辺部である。

**所見** 全形ではないが，良好な粘土貼土坑であった。使用時期は中世である。



第69図 第3号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第36表 第3号粘土貼土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	—	—	(2.3)	(4.0)	5YR4/1 灰	石英・長石粒 中量, 針状鈦 物中量	普	輪積成形後ロクロ整形	掘方 5%	木葉下窯跡群 8世紀後半代

第4号粘土貼土坑 (SK 6) (第70図, PL27・28・44)

位置と重複 G3区に位置し, 第7号堅穴建物跡の確認面から検出され, 全形が確認できた。

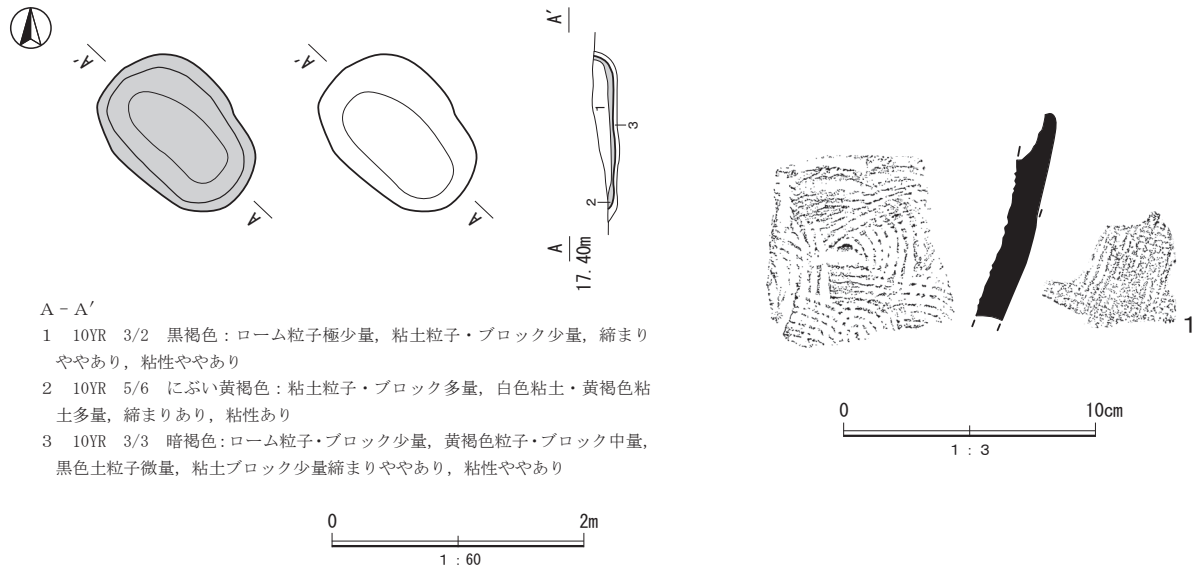
平面形と規模 平面形は楕円形で, 主軸はN-46°-Wである。規模は140×96cmで深さは16cmである。

覆土 底面は平坦で, 立ち上がりは丸い。底面には2~3cmの粘土を貼り付けている。掘方には凹凸がある。

覆土はローム粒子・粘土粒子を含む黒褐色土である。

出土遺物 出土遺物は土師器の甕2点, 須恵器の坏2点・甕2点が出土した。1点を図化した。1は須恵器甕の体部片である。

所見 全形が確認された粘土貼土坑で使用時期は中世であろう。



第70図 第4号粘土貼土坑・出土遺物実測図

第37表 第4号粘土貼土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	甕	—	—	(1.3)	(104.0)	10YR6/1 褐灰	石英・長石粒 少量, 針状鈦 物微量	不良	輪積成形後ロクロ整形, 甕の体部片で外面が剥離している。外面は格子目の細かい格子叩き, 内面は同心円の当具痕	一括 5%	木葉下産跡群カ 7世紀代

8 土坑

第1号土坑 (第71図, PL28)

位置と重複 B4区に位置し, 第1号堅穴建物跡を掘り込み, 第2号土坑に掘り込まれている。

平面形と規模 平面形は円形で, 長軸はN-42°-Eである。規模は88×80cmで深さは32cmである。底面

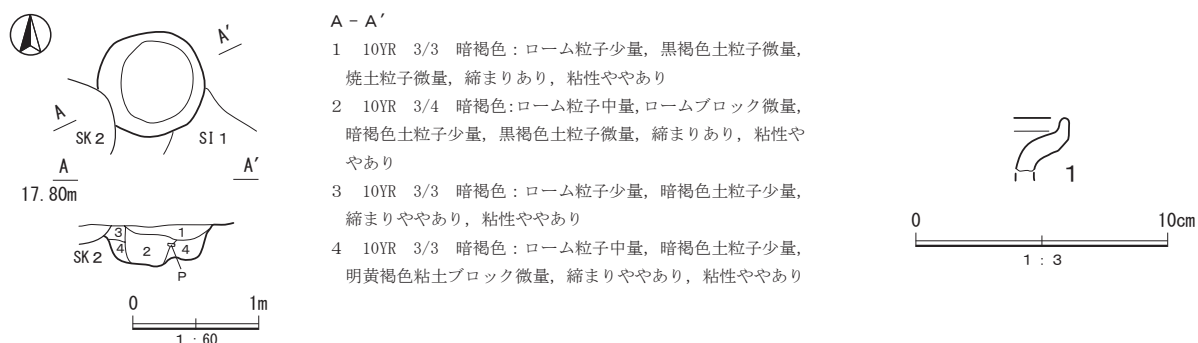
には凹凸があり, 壁は外傾する。

第4章 遺構と遺物

**覆土** 覆土は柱痕跡のような状況であるが、ローム粒子・ブロックを含む暗褐色土である。

**出土遺物** 混入した土師器の甕2点と須恵器の坏2点が出土した。1は土師器甕の口縁部である。

**所見** 中世の土坑と判断した。



第71図 第1号土坑・出土遺物実測図

第38表 第1号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	甕	—	—	(2.5)	(7.5)	7.57/6 橙	石英粒少量, 長石粒多量, 白雲母多量	不良	輪積成形後ロクロ整形	土層 5%	胎土B 8世紀代

第2号土坑 (第72図, PL28)

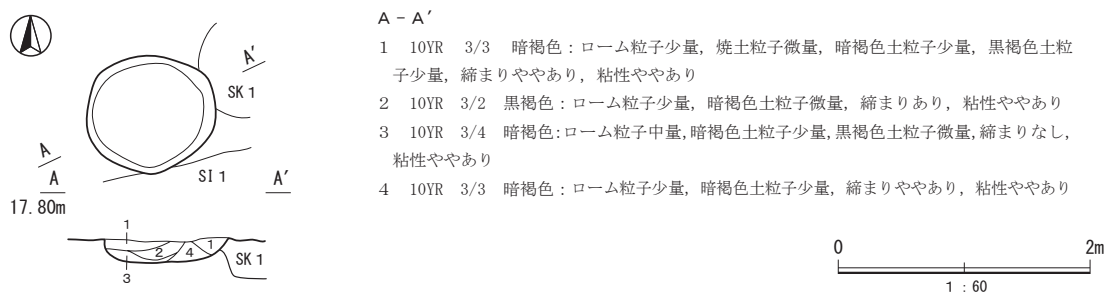
**位置と重複** B4区に位置し、第1号竪穴建物と第1号土坑を掘り込んでいる。

**平面形と規模** 平面形は円形で、長軸はN-70°-Eである。規模は104×88cmで深さは16cmである。底面は皿状で凹凸がある。

**覆土** 覆土はローム粒子・暗褐色土粒子を含む黒褐色・暗褐色土である。

**出土遺物** 混入した土師器の甕2点と須恵器が出土したが、小片のため図化できなかった。

**所見** 中世の土坑と判断した。



第72図 第2号土坑実測図

第7号土坑 (第73図, PL28・44)

**位置と重複** D3区に位置している。4分の1が調査区外にある。

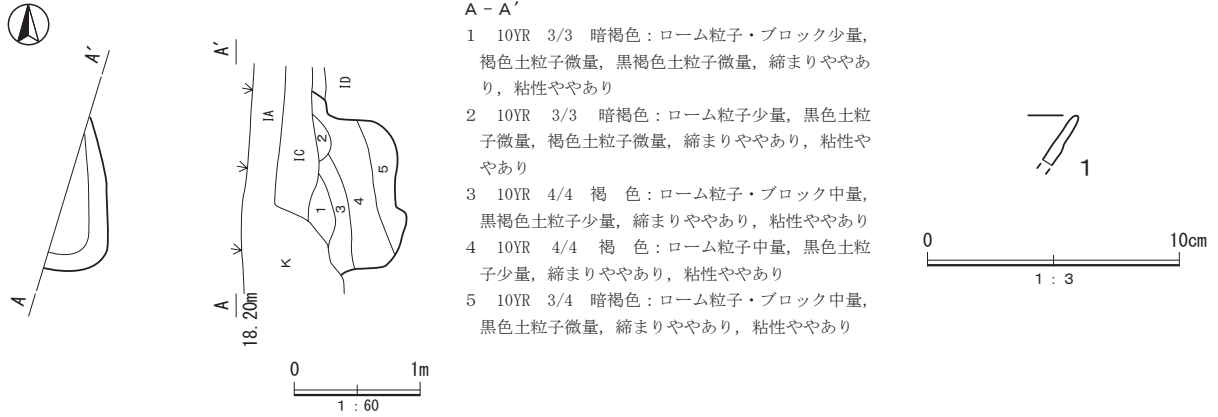
**平面形と規模** 平面形は楕円形と推定される。長軸はN-25°-Eである。規模は120以上×40cm以上で、深

さは西壁面の土層では 64 cm である。

**覆土** ローム粒子・黒褐色土粒子・褐色土粒子を含む暗褐色・褐色土である。埋め戻している。

**出土遺物** 混入した土師器の坏 1 点、甕 1 点が出土した。1 は土師器坏の口縁部片である。

**所見** 中世の土坑と判断した。



第 73 図 第 7 号土坑・出土遺物実測図

第 39 表 第 7 号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	坏	—	—	(1.9)	(2.8)	10YR7/4 にぶい 黄橙	石英・長石粒 微量	不良	輪積成形後ロクロ整形，赤彩痕	一括 5%	胎土C 9世紀代

**第 8 号土坑 (第 74 図, PL44)**

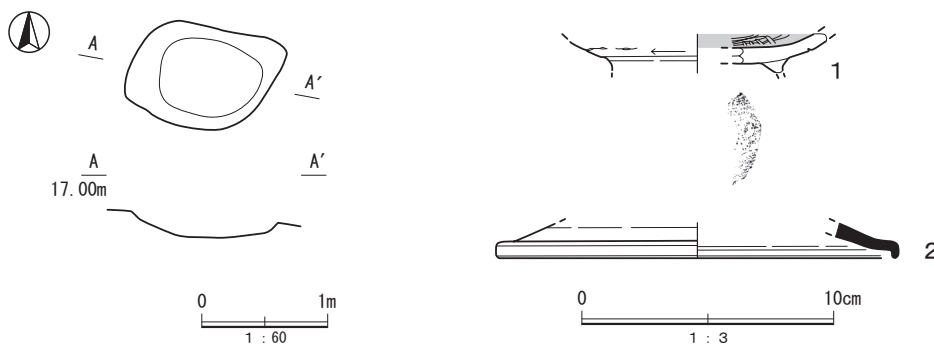
**位置と重複** D 4 区に位置し，第 11 号溝跡の底面で確認した。

**平面形と規模** 不整長方形で，長軸は N - 79° - E である。規模は 132 × 90 cm で深さは 16 cm である。

**覆土** 調査できなかった。

**出土遺物** 混入した土師器の高台付坏 1 点と須恵器の坏 1 点，蓋 1 点が出土した。1 は土師器の高台付坏，2 は須恵器の蓋である。

**所見** 他の中世土坑より底面の標高が 1.0 m 程低いため，第 11 号溝の埋没途中で掘削されたものと推定される。



第 74 図 第 8 号土坑・出土遺物実測図

第4章 遺構と遺物

第40表 第8号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	高台付 杯	—	—	(1.5)	(19)	7.5YR6/4 にぶい橙	石英・長石粒 微量、粘土質 で軟質	普	輪積成形後ロクロ整形、底部回転ヘラ削り後付高台、内面ヘラ磨き、内面黒色処理	一括 5%	胎土C 10世紀代
2	須恵器	蓋	[15.6]	—	(1.5)	(6.0)	5Y6/1 灰	石英・長石粒 微量、針状鈹 物微量	普	輪積成形後ロクロ整形、返り部縁部細い	一括 5%	木葉下窯跡群 9世紀代

第9号土坑 (第75図, PL28)

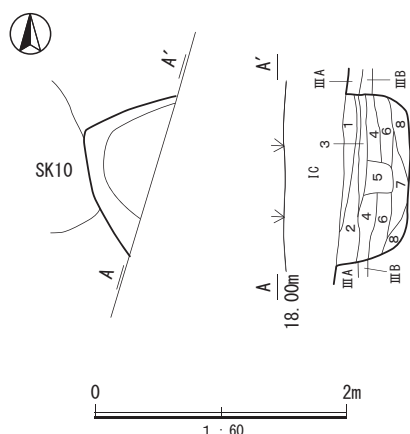
**位置と重複** E4区に位置し、東半が調査区外にある。第10号土坑を掘り込んでいる。

**平面形と規模** 平面形は方形と推定される。長軸はN-17°-Wである。規模は108以上×80cm以上で深さは65cmである。底面は平坦で立ち上がりは丸く、外傾して開く。

**覆土** 覆土は5層が柱痕跡状になっている。6・7・8層にはローム粒子・ブロックが多く含まれる。上層は埋め戻している。

**出土遺物** 混入土から土師器の杯2点、甕2点が出土したが小片のため図化できなかった。

**所見** 中世の大形掘立柱建物の柱掘方とも考えられるが並ばないため確証はない。



A-A'

- 1 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子多量，黒色土粒子極微量，褐色土粒子極微量，締まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，黒色土粒子極微量，締まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，黒色土粒子極微量，白色土ブロック極微量，褐色土粒子極微量，締まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子微量，黒色土粒子多量，締まりなし，粘性なし
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子中量，締まりなし，粘性なし
- 6 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色土粒子・ブロック極微量，締まりややあり，粘性ややあり
- 7 10YR 4/4 褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック多量，黒色土粒子少量，締まりややあり，粘性ややあり
- 8 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，暗褐色土混在，締まりなし，粘性ややあり

第75図 第9号土坑実測図

第10号土坑 (第76図, PL28・44)

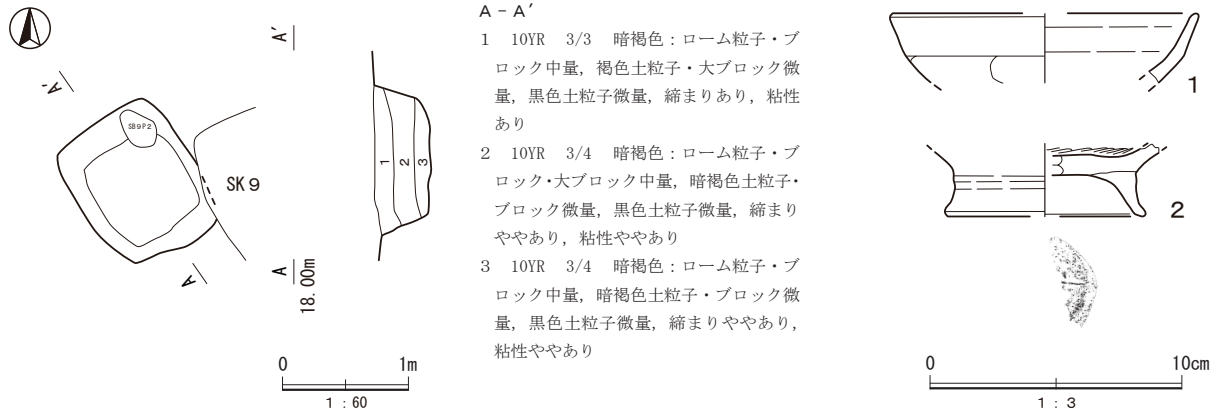
**位置と重複** E4区に位置し、第9号土坑と第9号掘立柱建物跡のP2に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は長方形で、長軸はN-18°-Wである。規模は120×98cmで、深さは46cmである。底面は平坦で立ち上がり部が丸く壁は外形している。

**覆土** 覆土はローム粒子・ブロック，褐色粒子・ブロック，暗褐色土粒子を含む暗褐色土である。層状に埋め戻している。

**出土遺物** 混入土から土師器の杯4点，高台付杯1点，甕20点，須恵器の杯3点，鉢1点，壺1点が出土した。2点を図化した。1は土師器の杯で体部と口縁の境に稜がある。2は土師器の高台付杯で高台が「ハ」の字に開き端部が外反する。

**所見** 中世の土坑と推定される。



第76図 第10号土坑・出土遺物実測図

第41表 第10号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	坏	[12.0]	—	(2.7)	(11.0)	5Y5/4にぶい赤褐	石英・長石粒少量, 石英, 白雲母微量	普	輪積成形後ヨコナデ, 鉄分の多い胎土で表面が赤色化している。	一括 5%	胎土B 9世紀前半
2	土師器	高台付坏	—	7.8	(2.9)	(40.0)	10YR6/3にぶい黄橙	石英・長石粒・砂粒少量	普	輪積成形後ロクロ整形, 付高台, 内面へラ磨き, 赤彩	一括 20%	胎土C 10世紀代

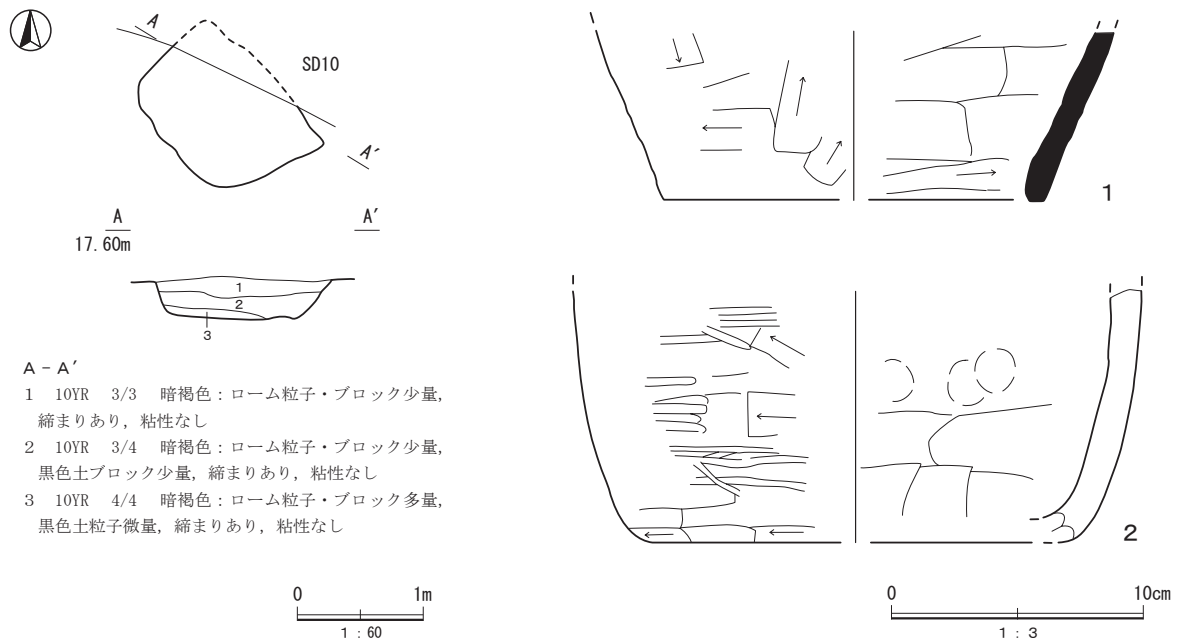
第11号土坑 (第77図, PL44)

**位置と重複** E4区に位置し, 第10号溝跡と第1・2号小穴に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は不整長方形で, 長軸はN-45°-Wである。規模は128×100cmで, 深さは36cmである。底面は平坦で立ち上がり丸く壁はやや大きく外傾する。

**覆土** 覆土はローム粒子・ブロックを含む暗褐色土で埋め戻されている。

**出土遺物** 混入土から土師器の甕1点と・須恵器の甗1点, 甕1点, 瓦質土器の火鉢1点が出土した。2点を



第77図 第11号土坑・出土遺物実測図

第4章 遺構と遺物

図化した。1は須恵器の甔で底部の孔がある。2は瓦質土器の火鉢である。

所見 層状堆積で埋め戻している。近世の火鉢が出土しているが第10号溝の上層の遺物が流入したと考えられ、使用時期は中世と考えられる。

第42表 第11号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	甔	—	[16.0]	(9.9)	(139.0)	5Y4/1 灰	石英・長石粒少量	普	輪積成形後ロクロ整形, 内面横ヘラナデ, 外面荒いナデ	一括 5%	胎土C 9世紀代
2	瓦質土器	火鉢	—	[15.0]	(6.7)	(52.0)	10YR7/2 にぶい黄橙	石英・長石粒中量, 白雲母微量	普	輪積成形後ロクロ整形, 外面ヘラナデで黒色, 内面摩滅	10%	胎土B 18世紀代

第12号土坑 (第78図, PL28・44)

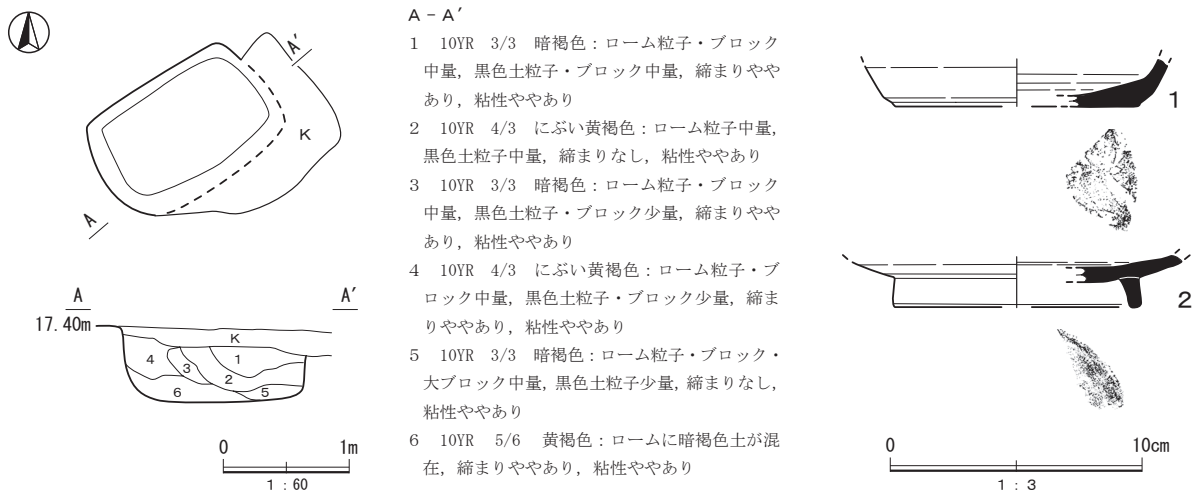
位置と重複 E3区に位置し, 上部が攪乱を受けている。

平面形と規模 平面形は長方形で, 長軸はN-50° - Eである。規模は156 × 100 cmで, 深さは50 cmである。底面は平坦で立ち上がり丸く, 壁は外傾する。

覆土 ローム粒子・ブロックが均一に混ざり合った暗褐色・黄褐色土で埋め戻している。

出土遺物 混入土から土師器の甔2点と須恵器の坏2点, 高台付坏1点, 高台付盤1点が出土した。2点を図化した。1は須恵器坏の底部, 2は須恵器の高台付盤の底部である。

所見 埋め戻した土坑で, 使用時期は中世と考えられる。



第78図 第12号土坑・出土遺物実測図

第43表 第12号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	—	[9.6]	(1.8)	(17.0)	7.5Y7/2 灰白	石英粒微量, 石英粒少量, 針状鉱物少量	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部回転ヘラ削り後ナデ, 内底面にヘラ状具痕	一括 5%	木葉下窯跡群 9世紀前半
2	須恵器	高台付盤	—	[9.7]	(2.0)	(17.0)	2.5Y6/2 灰黄	石英粒少量, 長石粒中量, 針状鉱物微量	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部回転ヘラ削り後付高台	一括 5%	木葉下窯跡群 8世紀後半



第13号土坑（第79図，PL29・44）

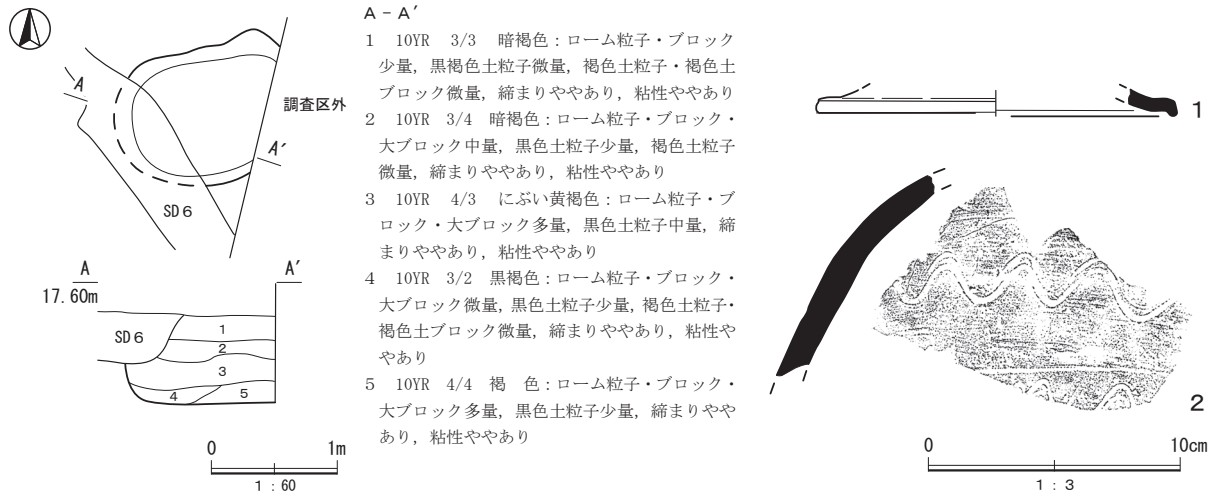
**位置と重複** D4区に位置し，東半は調査区外にある。第6号溝跡に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は楕円形で，長軸はN-70° - Eである。規模は120以上×88cmで，深さは68cmである。底面は平坦で，立ち上がり丸く，壁は外傾して開く。

**覆土** ローム粒子・ブロック，黒色土粒子を含む暗褐色土で埋め戻している。

**出土遺物** 流入土から土師器の坏2点，甕5点と須恵器の坏6点，蓋2点，甑1点，甕5点が出土した。2点を図化した。1は須恵器の蓋の小片，2は須恵器の甕の口辺部片である。

**所見** 中世の土坑である。



第79図 第13号土坑・出土遺物実測図

第44表 第13号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	蓋	[14.0]	—	(1.0)	(3.7)	2.5Y5/1 黄灰	石英粒少量， 長石粒中量	良	輪積成形後ロクロ整形， 返り部縁部は短く外反	一括 5%	胎土C 9世紀代
2	須恵器	甕	—	—	(8.0)	(135.0)	10YR5/3 にぶい 黄褐	石英粒少量， 長石粒・砂粒 多量，針状鉄 物中量	普	輪積成形後ロクロ整形， ロクロ整形，外面横 沈線で区画して波状文	一括 5%	木葉下竈跡群 8世紀前半

第14号土坑（第80図，PL44）

**位置と重複** F3区に位置し，第10号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

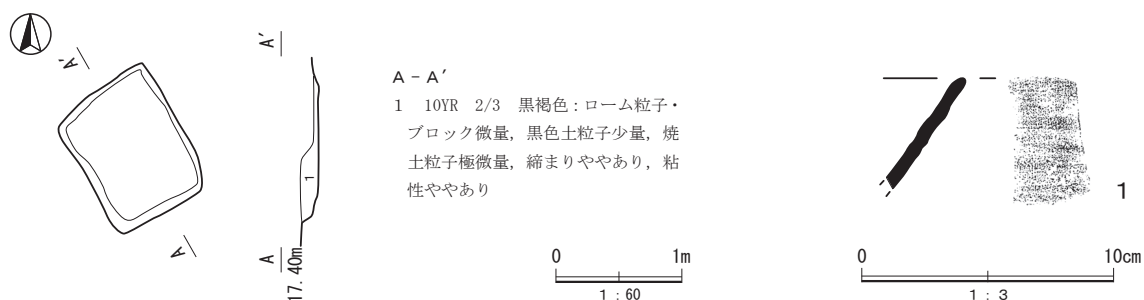
**平面形と規模** 平面形は長方形で，長軸はN-65° - Eである。規模は94×70cmで，深さは16cmである。底面は平坦で壁は外傾する。

**覆土** ローム粒子微量，黒色土粒子を含む黒褐色土である。埋め戻したと考えられる。

**出土遺物** 流入土から土師器の甕3点と須恵器の坏1点が出土した。第10号竪穴建物の土器であろう。1点を図化した。1は須恵器坏の口辺部である。

**所見** 上部が削平されていた。黒褐色土の一層で，中世の土坑と考えられる。

第4章 遺構と遺物



第80図 第14号土坑・出土遺物実測図

第45表 第14号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	—	—	(4.4)	(12.0)	7.5Y5/1 灰	石英粒少量，長石粒・砂粒多量，針状鉄物中量	—	輪積成形後ロクロ整形	一括 5%	木葉下窯跡群 9世紀代

第15号土坑 (第81図, PL29)

**位置と重複** E3区に位置し，西半が調査区外にある。第10号堅穴建物跡を掘り込み，第16号土坑に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は長方形と推定され，長軸はN-50° - Eである。規模は100以上×75cm以上で，深さは56cmである。底面は平坦で立ち上がりが丸く，壁は外傾する。

**覆土** 覆土はローム粒子，黒褐色土粒子を含む黒褐色土で，層状堆積で埋め戻している。

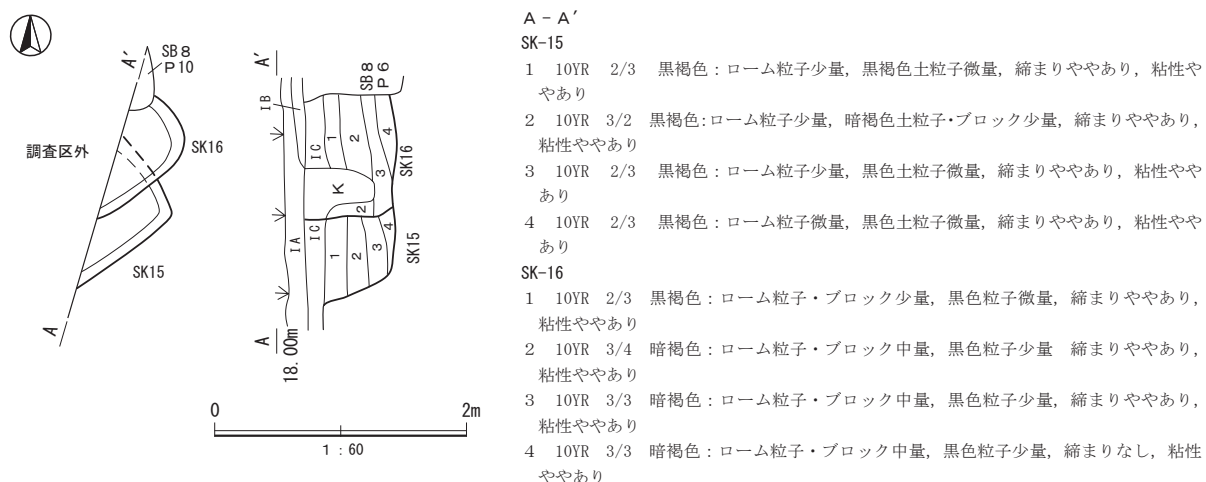
**出土遺物** 流入土から土師器の甕2点が出土しているが，小片のため図化できなかった。

**所見** 埋め戻した中世の土坑である。

第16号土坑 (第81図, PL29)

**位置と重複** E3区に位置し，西半が調査区外にある。第15号土坑を掘り込み，第8号掘立柱建物跡のP10に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は長方形と推定され，長軸はN-55° - Eである。規模は100以上×56cm以上で，深さは56cm以上である。底面は皿状で立ち上がりが丸く，壁は外傾する。



第81図 第15・16号土坑実測図

**覆土** 下層はローム粒子・ブロックを中量含む暗褐色土で、上層はローム粒子を少量含む黒褐色土で埋め戻している。

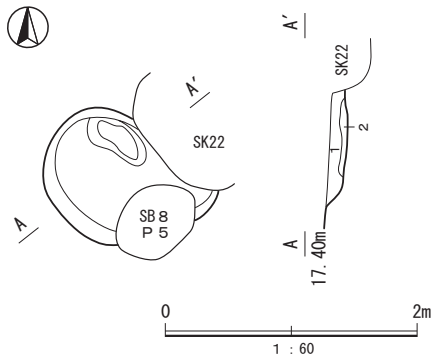
**出土遺物** 混入土から土師器の甕1点が出土しているが、小片のため図化できなかった。

**所見** 埋め戻した中世の土坑である。

第17号土坑 (第82図)

**位置と重複** E3区に位置し、第8号掘立柱建物跡-P5と第22号土坑に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は不整楕円形で、長軸はN-45°-Wである。規模は132×100cmで、深さは16cmである。底面は凹凸がある。



**覆土** 覆土はローム粒子・ブロック含む暗褐色土である。自然埋没と思われる。

**出土遺物** 混入土から土師器の坏1点、甕2点が出土したが実測できる遺物は無かった。

**所見** 底面に凹凸があり、自然埋没であることから植栽痕と思われる。

A-A'

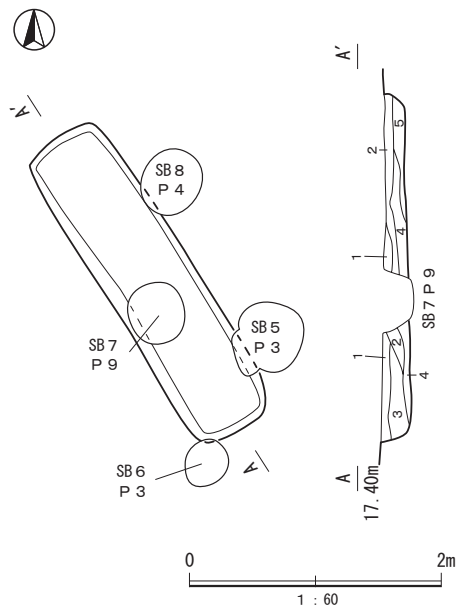
- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/2 暗褐色：ローム粒子微量，黒色土粒子微量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり

第82図 第17号土坑実測図

第18号土坑 (第83図, PL29)

**位置と重複** EF3区に位置し、第5号掘立柱建物跡-P3，第6号掘立柱建物跡-P3，第7号掘立柱建物跡-P9，第8A号掘立柱建物跡-P4に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は長方形で、長軸はN-18°-Wである。規模は276×72cmで深さは24cmである。底面は平坦で、立ち上がり部は丸く、壁は外傾する。



**覆土** 覆土は主にローム粒子・ブロックを多く含む暗褐色土で埋め戻している。

**出土遺物** 混入土から土師器の甕2点が出土したが、小片のため図化できなかった。

**所見** 長方形の土坑で、掘立柱建物に掘り込まれていた。使用時期は中世であろう。

A-A'

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色土粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子少量，縮まりなし，粘性ややあり

第83図 第18号土坑実測図

第4章 遺構と遺物

第20号土坑 (第84図, PL29・44)

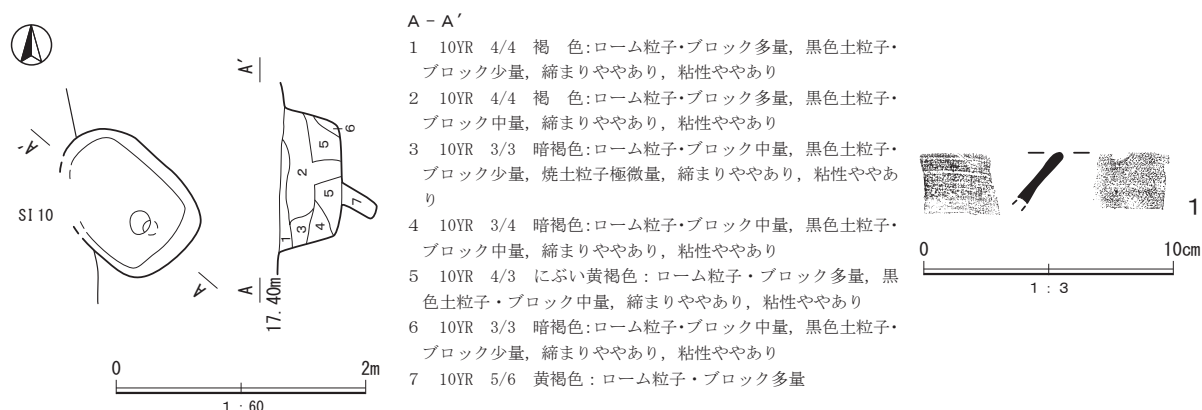
**位置と重複** F3区に位置し, 第10号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形で, 長軸はN-45° - Wである。規模は120×88cmで深さは52cmである。底面は平坦で立ち上がり丸く, 壁は外傾する。底面の南側には径18cm, 深さ28cmの小穴が斜方向に掘り込まれていた。

**覆土** 覆土は2層がローム粒子・ブロックを多量に含む層で柱穴を埋め戻したように観察される。周囲の5層はそれを支えているようで, 底面の小穴の柱が南に倒されたことによってずれたと考えられ, 埋め戻した状況と思われる。

**出土遺物** 混入土から土師器の甕3点と須恵器の坏2点が出土した。第10号竪穴建物跡に帰属する遺物と思われる。1点を図化した。1は須恵器坏の口縁部である。

**所見** 底面の遺面に小穴を持つ土坑で, 使用時期は中世であろう



第84図 第20号土坑・出土遺物実測図

第46表 第20号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	—	—	(2.1)	(5.0)	2.5Y4/1 黄灰	石英・長粒多量, 針状鉱物中量	不良	輪積成形後ロクロ整形	一括 5%	木葉下窯跡群 9世紀代

第22号土坑 (第85図, PL29)

**位置と重複** E3区に位置し, 第17・23号土坑を掘り込み, 第12号小穴に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は長方形で, 長軸はN-60° - Eである。規模は252×112cmで, 深さは28cmである。底面は平坦で立ち上がり部は丸く, 壁は外傾する。

**覆土** 覆土は長軸方向は平行堆積であるが, 短軸方向は南東方向からローム粒子・ブロックを含む暗褐色土で埋め戻している。23号土坑の重複部分はロームブロック多量の土層で構築している。

**出土遺物** 混入土から土師器の甕4点と須恵器の坏1点, 甕1点が出土したが, 小片のため図化できなかった。

**所見** 使用時期は中世であろう。

第23号土坑 (第85図, PL29)

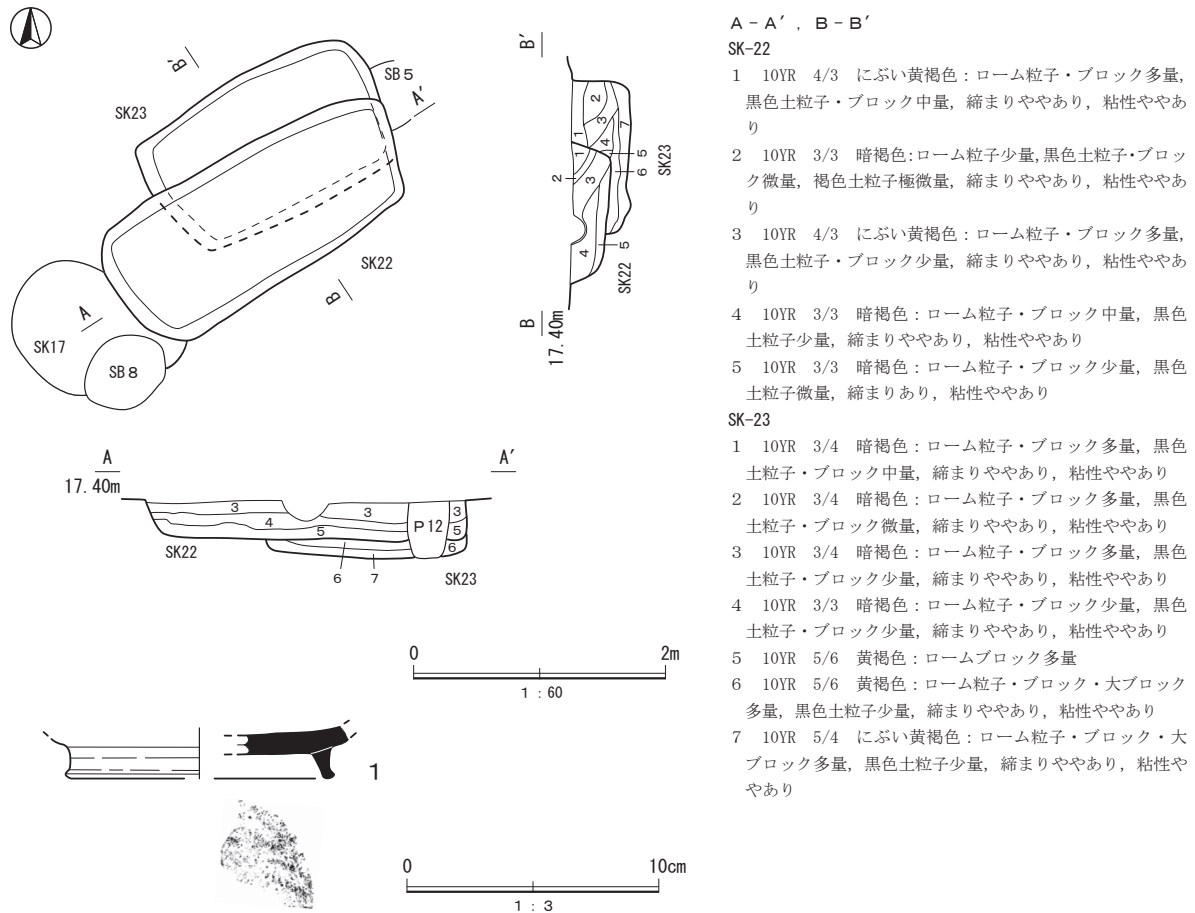
**位置と重複** E3区に位置し, 第11号竪穴建物跡を掘り込み, 第22号土坑と第5号掘立柱建物跡-P8に掘り込まれている。

**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形で, 長軸はN-58°-Eである。規模は200×120cmで深さは32cmである。

**覆土** 主にローム粒子・ブロックを多量に含む暗褐色土で埋め戻している。5・6層はロームブロックを多量に含む層である。

**出土遺物** 混入土から土師器の甕2点と須恵器の高台付坏1点, 甕3点が出土した。1点を図化した。1は須恵器高台付坏である。

**所見** 第22号土坑と重複した土坑で, 底面はローム主体土構築していた。使用時期は中世であろう。



第85図 第22・23号土坑・第23号土坑出土遺物実測図

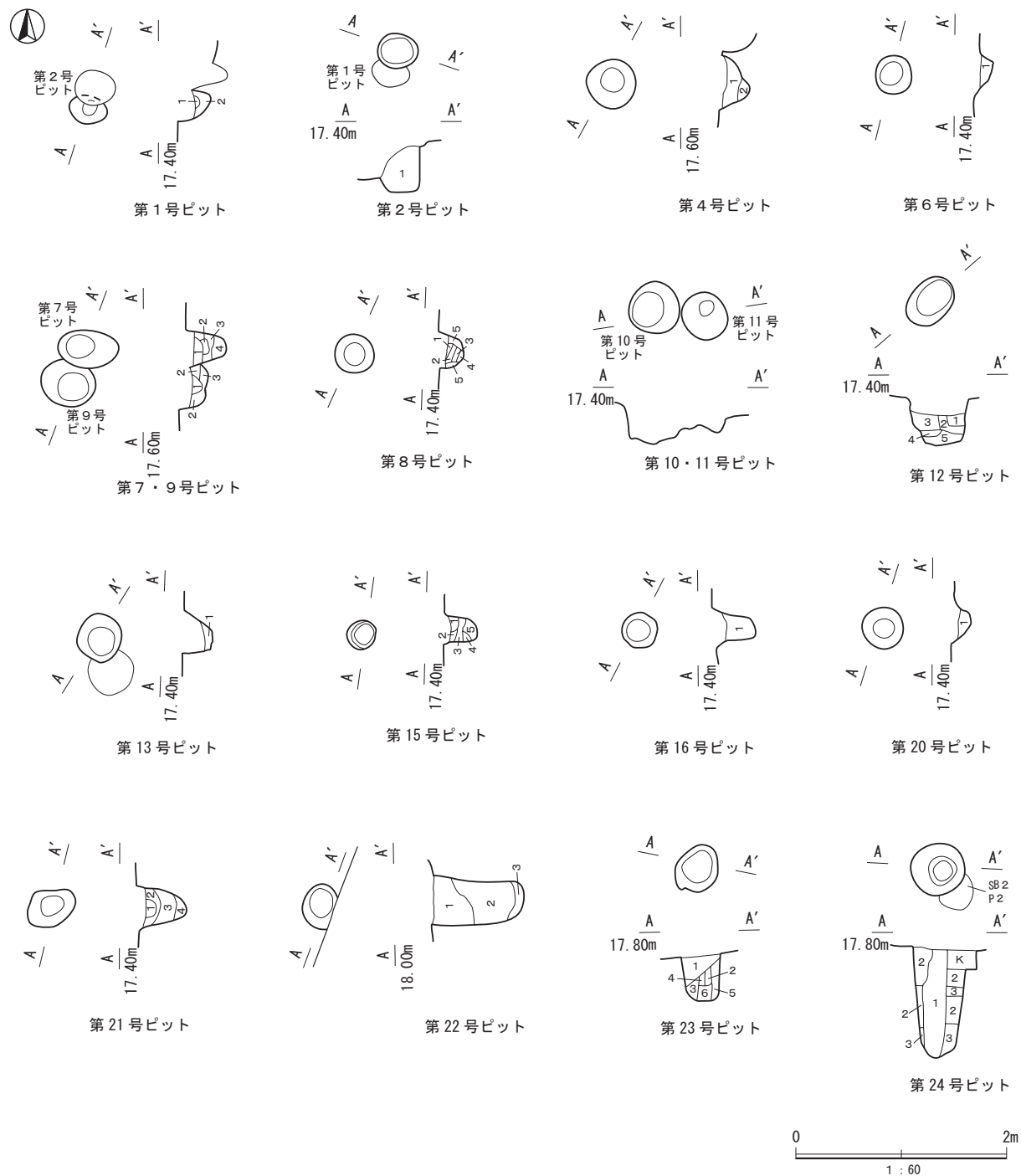
第47表 第23号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	高台付坏	—	[10.2]	(2.0)	(30.0)	5Y6/1 灰	石英粒黒色砂粒化多量, 長石粒・砂粒中量	不良	輪積成形後ロクロ整形, 底部回転ヘラ削り後付高台, 高温焼成	一括 5%	胎土C 9世紀代

9 小穴 (ピット) (第86図)

小穴は24基確認した。第6・7・8・16号小穴は根痕, 第22号小穴は判断不明である。他の小穴は柱痕と判断したが, 展開する建物には復元出来なかった。第2号小穴から土師器, 第12・21号小穴から須恵器, 第18号小穴から土師器と須恵器が出土している。

第4章 遺構と遺物



第86図 第1～24号小穴実測図

P 1

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子極微量，縮まりなし，粘性ややあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり

P 2

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 4

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子少量，縮まりなし，粘性ややあり
- 2 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子少量，黒色粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 6

- 1 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子中量，黒色粒子多量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 7

- 1 10YR 5/6 黄褐色：ロームブロック・塊多量，黒褐色土中量，縮まりあり，粘性あり
- 2 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム塊多量，縮まりなし，粘性ややあり
- 3 10YR 3/2 黒褐色：ローム微細粒微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子多量，ロームブロック中量，縮まり弱い，粘性あり

P 8

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子少量，黒色粒子・ブロック微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，黒色粒子中量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 4 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子中量，縮まりなし，粘性ややあり

P 9

- 1 10YR 3/2 黒褐色：ローム微細粒・塊少量，縮まり強い，粘性ややあり
- 2 10YR 3/2 黒褐色：ローム微細粒・塊中量，縮まり強い，粘性ややあり
- 3 10YR 3/2 黒褐色：ローム微細粒少量・塊中量，縮まりややあり，粘性あり

P 12

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，黒色粒子少量，暗赤褐色ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/6 褐色：ローム粒子と黒色粒子が混在，縮まりあり，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり

P 13

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子微量，黒色粒子微量，焼土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 15

- 1 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子少量，黒色粒子極微量，縮まりなし，粘性ややあり
- 5 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子少量，縮まりなし，粘性ややあり

P 16

- 1 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック微量，黒色粒子微量，縮まりなし，粘性なし

P 17

- 1 10YR 4/6 褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色土粒子微量，縮まりやや弱い，粘性ややあり，
- 2 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色土粒子少量，縮まりやや弱い，粘性ややあり，

P 18

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，褐色土粒子極微量，暗褐色粘土ブロック微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子少量，褐色土粒子極微量，暗褐色粘土ブロック少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 4 10YR 4/6 褐色：ローム粒子と黒色粒子が混在，縮まりややあり，粘性ややあり
- 5 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子微量，褐色土粒子微量，暗褐色粘土ブロック少量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 20

- 1 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子中量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 21

- 1 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子極微量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック多量，黒色粒子少量，焼土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 4 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色粒子中量，縮まりややあり，粘性ややあり

P 22

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子少量，褐色土粒子・ブロック極微量，暗褐色粘土ブロック少量，縮まりあり，粘性ややあり
- 2 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子少量，黒色粒子微量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 3 10YR 4/6 褐色：ローム粒子中量

P 23

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，縮まりなし，粘性あり
- 2 10YR 4/1 褐灰色：褐色土粒子少量，炭化物少量，縮まりなし，粘性あり
- 3 10YR 4/3 褐色：ローム粒子多量，縮まりあり，粘性あり
- 4 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，縮まりややあり，粘性あり
- 5 10YR 4/4 褐色：ローム粒子多量，縮まりあり，粘性あり
- 6 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子少量，縮まりあり，粘性あり

P 24

- 1 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子少量，炭化物少量，縮まりなし，粘性あり
- 2 10YR 4/1 褐灰色：ローム粒子多量，縮まりややあり，粘性あり
- 3 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子少量，縮まりなし，粘性あり

第48表 小六一覧表

小穴番号	地区	規模 (cm)			重複	出土遺物	備考
		長径	短径	深さ			
1	E 4	40	24	20	<P2		柱痕跡
2	E 4	40	32	40	P1>	土師器	柱痕跡
4	E 4	50	40	26			柱痕跡
6	E 4	36	36	12			根痕跡
7	E 4	58	36	42	>P9		柱痕跡
8	E 3	36	36	20			柱痕跡
9	E 3	46	44	42	<P 7		柱痕跡
10	E 3	50	50	44			柱痕跡
11	E 3	44	44	20			柱痕跡
12	E 3	50	36	50		須恵器	柱痕跡
13	E 3	44	44	28	SB6P1<		柱痕
15	F 3	28	28	32			柱痕跡
16	F 3	28	32	40			根痕跡
20	E 4	40	36	16			柱痕跡
21	F 3	50	40	50		須恵器	柱痕跡
22	F 3・4	40	28	88			不明
23	B 3	48	40	44			柱痕跡
24	B 3	50	50	104	SB2P2<		柱痕跡

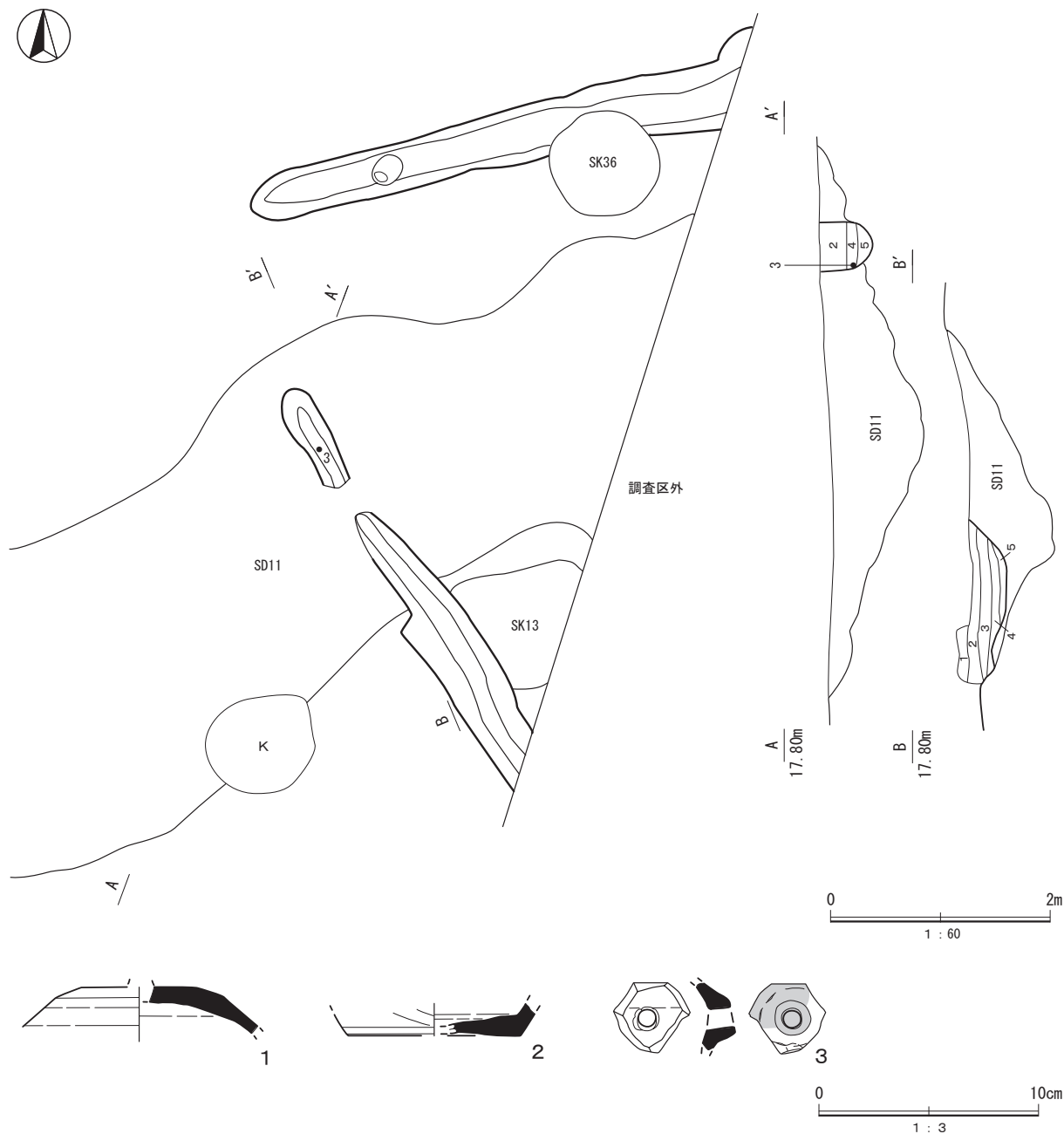
第3節 近世・近代の遺構と遺物

1 溝跡

第6号溝跡 (第87図, PL29)

位置と重複 D4区に位置し, 第11号溝跡, 第13号土坑を掘り込んで, 第36号土坑に掘り込まれている。

長軸方向と規模 連結はしていないが, 南北方向と東西方向の溝を同一と推定した。長軸は南北方向が



A - A' , B - B'

- |  |   |
|--|---|
| <p>1 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量, 褐色土粒子微量, 黒色土粒子微量, 締まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>2 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子・ブロック少量, 褐色土粒子微量, 黒色土粒子微量, 締まりややあり, 粘性ややあり</p> <p>3 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子少量, 褐色土粒子微量, 黒色土粒子微量, 締まりややあり, 粘性ややあり</p> | <p>4 10YR 3/3 暗褐色:ローム粒子少量, 黒色土粒子微量, 締まりややあり, 粘性なし</p> <p>5 10YR 4/3 にぶい黄褐色:ローム粒子・ブロック中量, 黒色土粒子微量, 締まりややあり, 粘性なし</p> |
|--|---|

第87図 第6号溝跡・出土遺物実測図



N-30° - Wで、東西方向がN-75° - Eである。規模は南北が5.9 m以上、東西は5.2 m以上である。幅は43 ~ 53 cm、底面幅は15 ~ 32 cmで、深さは43 ~ 49 cmである。底面はU字状である。

**覆土** 覆土は主にローム粒子・ブロック、褐色土粒子を含む暗褐色土である。

**出土遺物** 混入土から土師器と須恵器が出土した。3点を図化した。1は須恵器の蓋、2は須恵器の坏の底部片、3は須恵器の甕の注口である。

**所見** 根切の区画溝と推定される。埋め戻している。時期は近代であろう。

第49表 第6号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	蓋	—	[5.4]	(2.1)	(31.0)	2.5Y6/1 黄灰	石英微細粒微量, 長石石英粒・細粒中量, 針状鉱物微細粒微量,	普	輪積成形後ロクロ整形, 外面上位2段削り	一括 20%	木葉下窯跡群 9世紀代
2	須恵器	坏	—	[8.0]	(1.3)	(14.0)	7.5Y5/1 灰	石英粒微量, 長石粒少量, 針状鉱物微量	良	底部ヘラ切後ナデ	一括 5%	木葉下窯跡群 9世紀代
3	須恵器	甕	(3.1)	(3.5)	(1.7)	(9.1)	10YR6/1 褐灰	石英・長石微細粒微量, 黒色砂粒微量	良	房に粘土を巻付け手ひ練り, 体部に接合, 甕の注口	No.1 5%	猿投窯跡群 8世紀代

第8号溝跡 (第88図, PL30)

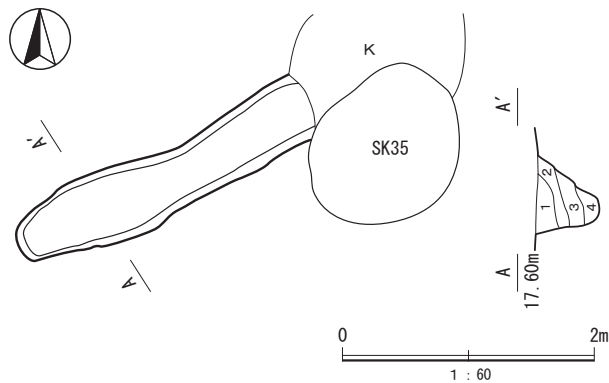
**位置と重複** CD4区に位置し、第6号竪穴建物跡を掘り込み、攪乱を受け第35号土坑に掘り込まれている。

**長軸方向と規模** 東西方向で長軸はN-70° - Eである。規模は2.60 m以上、幅は55 cm、底面幅は30 cm、深さは50 cmである。断面はV字状である。

**覆土** 覆土はローム粒子・ブロックを含む層である。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

**所見** 第6号溝の東西方向に平行している。根切溝で時期は近代であろう。



A - A'

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子多量，ロームブロック少量，黒色土粒子少量，しまりややなし，粘性ややあり
- 2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，ロームブロック少量，褐色土粒子微量，しまりややなし，粘性ややあり
- 3 10YR 4/3 にぶい黄褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子微量，しまりややなし，粘性ややあり
- 4 10YR 5/6 黄褐色：ローム粒子中量，ロームブロック多量，黒色土粒子少量，縮まりなし，粘性あり

第88図 第8号溝跡実測図

第9号溝跡 (第89図, PL30)

**位置と重複** D4区に位置し、第11号溝跡を掘り込んでいる。

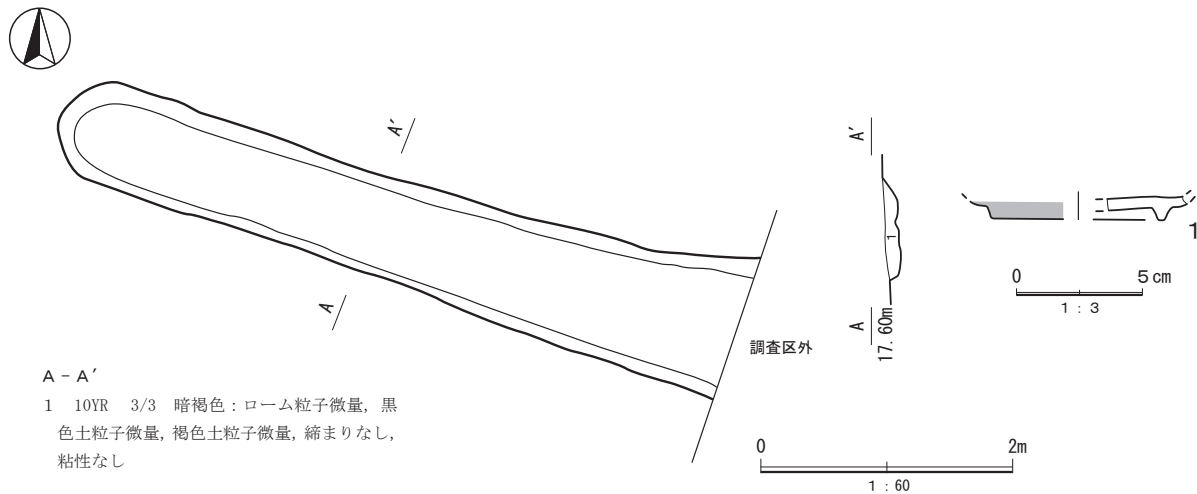
**長軸方向と規模** 東西方向に長軸があり、長軸はN-70° - Wである。規模は東西5.63 m以上、幅は66 ~ 116 cmで深さは10 cmである。

**覆土** ローム粒子，黒色土粒子を含む暗褐色土である。

第4章 遺構と遺物

**出土遺物** 出土遺物は土師器、須恵器、陶器、磁器が出土した。1点を図化した。1は瀬戸焼の鉢である。

**所見** 農耕用の溝で、時期は近代であろう。



- A - A'
- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量，黒色土粒子微量，褐色土粒子微量，縮まりなし，粘性なし

第89図 第9号溝跡・出土遺物実測図

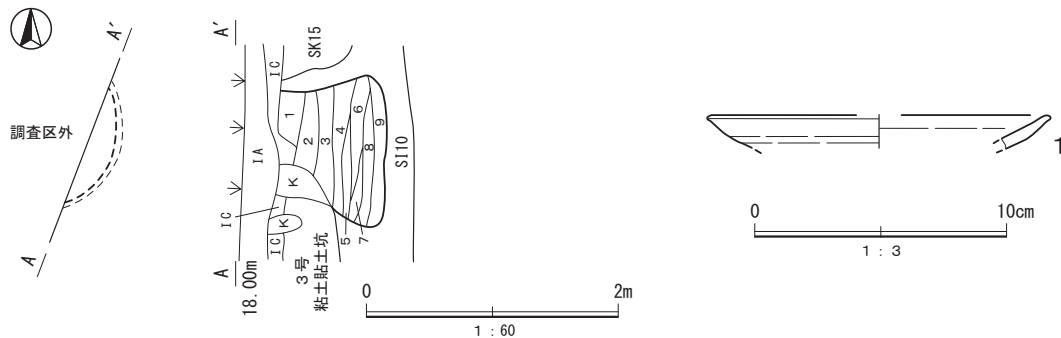
第50表 第9号溝跡出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	磁器	鉢	—	[6.6]	(0.9)	(16.0)	N8/0 灰白	白色	良	ロクロ成形，削り出し高台，外面コバルト釉，内面と底部内面透明釉，高台壘付無釉	上層 10%	瀬戸コバルト鉢 20世紀前半

2 土坑

第19号土坑 (第90図)

**位置と重複** EF3区に位置し，大半は西壁の調査区外にあり西壁の土層によって確認した。10号竪穴建物



- A - A'
- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック少量，黒色粒子微量，褐色土粒子・ブロック極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
  - 2 10YR 2/2 黒褐色：ローム粒子微量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
  - 3 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子微量，黒色粒子微量，縮まりなし，粘性なし
  - 4 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子微量，黒色粒子微量，褐色土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
  - 5 10YR 2/1 黒色：ローム粒子極微量，褐色土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
  - 6 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子微量，黒色粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
  - 7 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，黒色粒子・ブロック微量，褐色土粒子極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
  - 8 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量，黒色粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり
  - 9 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子微量，黒色粒子微量，褐色土粒子微量，縮まりややあり，粘性ややあり

第90図 第19号土坑・出土遺物実測図

跡と第3号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

**平面形と規模** 平面形は円形と思われ、断面は袋状で、長軸は不明である。規模は上端は50 cm以上底面幅は112 cmで深さは84 cmである。

**覆土** 覆土は暗褐色土と黒褐色土を層状に埋め戻している。

**出土遺物** 混入土から土師器と須恵器が出土し、1点を図化した。1は須恵器の皿である。

**所見** 幕末から明治にかけての植木の植替え痕と推定される。須恵器は第10号堅穴建物跡に帰属すると考えられる。

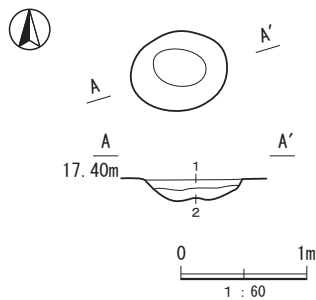
第51表 第19号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	皿	[13.2]	—	(1.3)	(4.0)	10YR7/4にぶい黄橙	石英・長石粒微量、針状鉱物微量	不良	輪積成形後ロクロ整形、酸化焰焼成	一括5%	木葉下窯跡群カ 9世紀末

第21号土坑 (第91図)

**位置と重複** F3区に位置している。

**平面形と規模** 平面形は楕円形で、長軸はN-75° - Eである。規模は80 × 60 cmで深さは16 cmである。底面は皿状で凹凸がある。



**覆土** ローム粒子・ブロックを中量含む暗褐色土で埋め戻している。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

**所見** 植栽痕と思われる。

A - A'

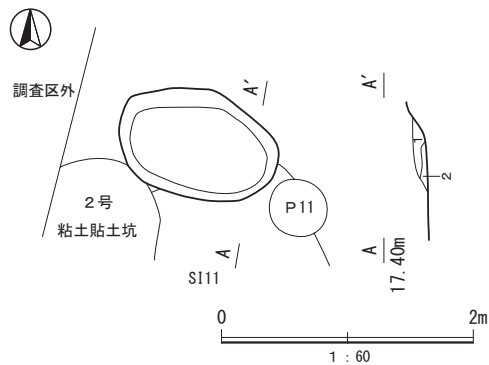
- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，暗褐色粘土極微量，縮まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，黒色土粒子・ブロック中量，暗褐色粘土極微量，縮まりややあり，粘性ややあり

第91図 第21号土坑実測図

第24号土坑 (第92図)

**位置と重複** E3区に位置し、第11号堅穴建物跡、第2号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

**平面形と規模** 平面形は不整楕円形で、長軸はN-70° - Wである。規模は129 × 86 cmで深さは10 cmである。



底面は播鉢状で硬化していない

**覆土** ローム粒子・ブロックを中量含む層である。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

**所見** 近代の遺構であろう。

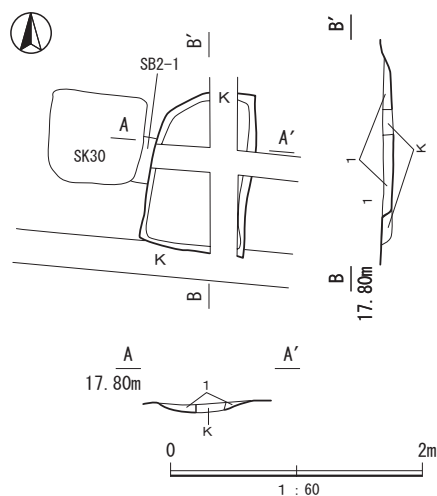
A - A'

- 1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子・ブロック中量，縮まりややあり，粘性なし
- 2 10YR 3/2 黒褐色：ローム粒子中量，縮まりややあり，粘性なし

第92図 第24号土坑実測図

第29号土坑 (第93図)

位置と重複 B3区に位置し、第2号掘立柱建物跡-P1を掘り込んでいる。



**平面形と規模** 平面形は不整長方形で、長軸はN-10°-Eである。規模は122×80cmで深さは3cmである。底面は平坦で凹凸がある。壁は外傾する。

**覆土** ローム粒子、黒褐色土粒子を微量含む暗褐色土である。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

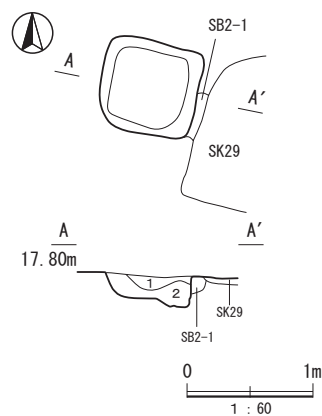
**所見** 現代の農耕用土坑であろう。

A-A'  
1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子微量，黒褐色土粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり

第93図 第29号土坑実測図

第30号土坑 (第94図)

位置と重複 B3区に位置し、第2号掘立柱堅穴建物跡-P1を掘り込んでいる。



**平面形と規模** 平面形は正方形で、長軸はN-82°-Wである。規模は77×75cmで深さは23cmである。底面には凹凸がある。壁は外傾する。

**覆土** 覆土はローム粒子がやや多い暗褐色土である。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

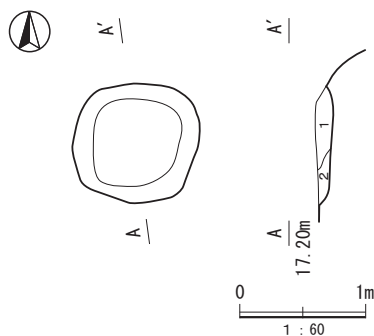
**所見** 現代の農耕用土坑であろう。

A-A'  
1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，黒褐色土粒子微量，暗褐色土粒子微量，縮まりあり，粘性ややあり  
2 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子中量，黒褐色土粒子少量，暗褐色土粒子少量，縮まりややあり，粘性ややあり

第94図 第30号土坑実測図

第32号土坑 (第95図)

位置と重複 B4区に位置している。



**平面形と規模** 平面形は隅丸方形で、長軸はN-82°-Wである。規模は98×92cmで深さは15cmである。底面は皿状である。

**覆土** ローム粒子を含む暗褐色土で、根が沢山確認できる。

**出土遺物** 遺物は出土していない。

**所見** 近代の農耕用土坑であろう。

A-A'  
1 10YR 3/3 暗褐色：ローム粒子少量，縮まりややあり，粘性なし  
2 10YR 3/4 暗褐色：ローム粒子中量，縮まりややあり，粘性なし

第95図 第32号土坑実測図

第33号土坑（第96図，PL45）

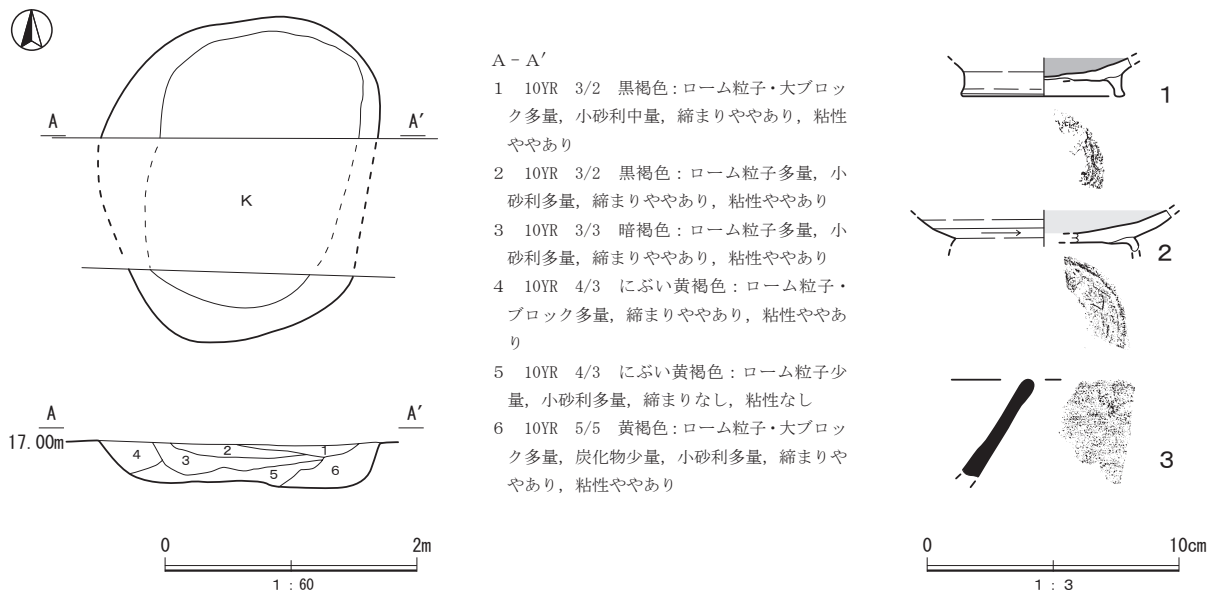
**位置と重複** C4区に位置し，第4号竪穴建物跡，現代の下水のエンビ管を掘り込んでいる。

**平面形と規模** 平面形は楕円形で，N-0°である。規模は280×220cmで深さは36cmである。底面は平坦で壁は外傾する。

**覆土** 覆土は砂利混じりのロームブロックの多い層と黒色土の多い層が東から埋め戻されている。

**出土遺物** 混入土から土師器と須恵器が出土している。3点を図化した。1は土師器の高台付坏で，脚部が「ハ」の字に開き端部が外反する。2は土師器の高台付坏で，内面が赤彩され，脚部が体部下端に付き内湾する。3は須恵器坏の口辺部である。

**所見** 現代の工事に伴う土坑であろう。



第96図 第33号土坑・出土遺物実測図

第52表 第33号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	高台付坏	—	[6.4]	(1.5)	(13.0)	10YR6/4 にぶい 黄橙	石英・長石粒 微量	良	輪積成形後ロクロ整形，底部付高台，内面ヘラナデ後黒色処理	上層 10%	胎土C 10世紀代
2	土師器	高台付坏	—	[7.8]	(1.8)	(18.0)	7.5YR7/4 にぶい橙	精鋭・長石粒 微量，粘土質	不良	輪積成形後ロクロ整形，底部回転ヘラ削り後付高台，内面軽い磨き後赤彩	一括 15%	胎土C 10世紀代
3	須恵器	坏	—	—	(4.2)	(8.0)	2.5Y6/2 灰黄	石英粒微量， 長石粒少量， 針状鈹物中量	普	輪積成形後ロクロ整形	一括 5%	木葉下窯跡群 9世紀代

第35 A・B号土坑（第97図，PL45）

**位置と重複** CD4区に位置し，第8号溝跡を掘り込んでいる。第35 A号土坑が新しく第35 B号土坑が古い。

**平面形と規模** 第35 A・B号土坑とも楕円形で，長軸はN-27° - Eである。規模は第35 A号土坑が108×88cmで深さは40cmである。第35 B号土坑は140×48cm以上で深さは20cmである。底面は第35 A・B号土坑とも皿状である。

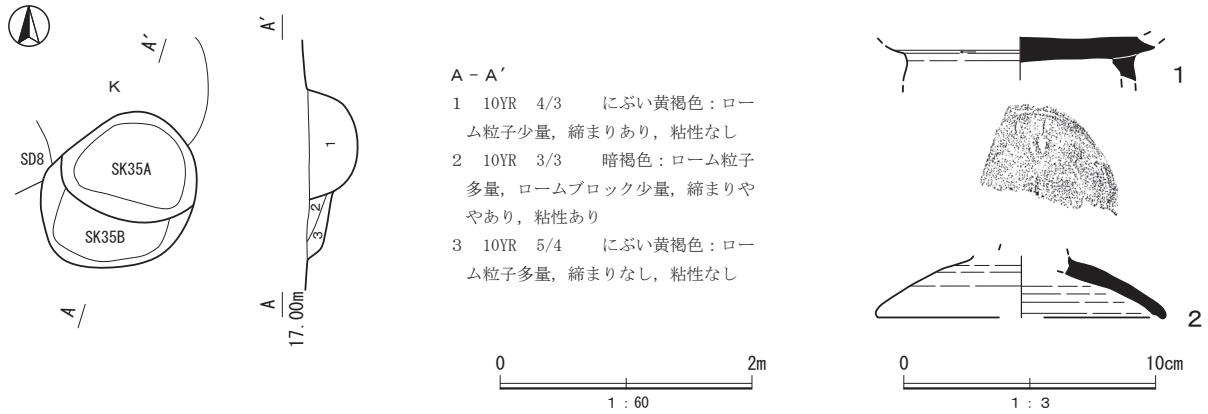
**覆土** 覆土は第35 A号土坑がローム粒子を少量含む黄褐色土，第35 B号土坑はローム粒子を多量に含む黄褐

第4章 遺構と遺物

色土である。

**出土遺物** 第35 A号土坑の混入土から土師器と須恵器が出土した。2点を図化した。1は須恵器の高台付坏で、2は須恵器の蓋である。

**所見** 近代の農耕用土坑と思われる。



第97図 第35 A・B号土坑・出土遺物実測図

第53表 第35 A・B号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	高台付坏	—	—	(1.7)	(47.0)	5Y6/1 灰	石英・長石粒中量，針状鉱物中量，白雲母微量	不良	輪積成形後ロクロ整形，底部回転ヘラ削り後付高台	一括 5%	胎土B 8世紀代
2	須恵器	蓋	[11.2]	—	(2.4)	(19.0)	5Y6/1 灰	石英・長石粒微量	良好	輪積成形後ロクロ整形，手法も焼成も良好	一括 15%	東海系 9世紀代

第36号土坑 (第98図, PL45)

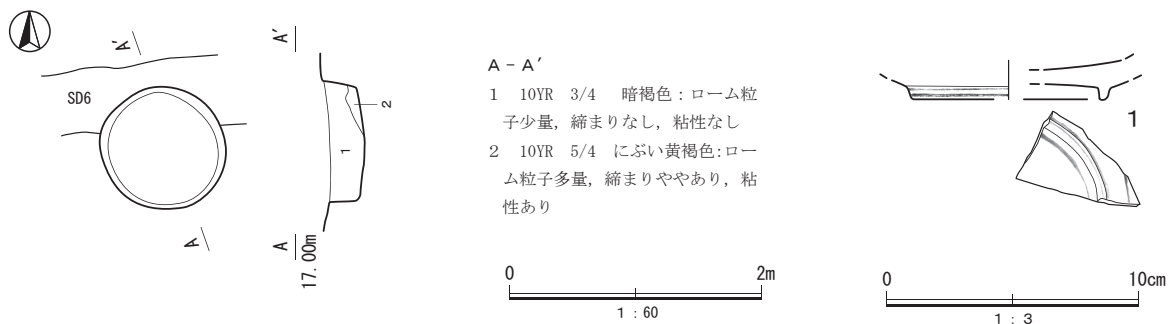
**位置と重複** D4区に位置し，第6号溝跡を掘り込んでいる。

**平面形と規模** 平面形は円形で，長軸はN - 0°である。規模は100 × 96 cmで深さは24 cmである。底面は平坦であるが凹凸がある。

**覆土** 覆土主にはローム粒子を少量含む暗褐色土である。

**出土遺物** 混入土から土師器，須恵器，瓦質土器，磁器が出土し，1点を図化した。1は肥前焼の磁器の皿である。

**所見** 近代の農耕用土坑であろう。



第98図 第36号土坑・出土遺物実測図

第54表 第36号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	磁器	皿	—	[8.9]	(1.5)	(15.0)	N8/0 灰白	黒色砂粒微量, 乳白色	良	ロクロ成形, 削り出し高台, 呉須染付	一括 5%	肥前焼 18世紀代

第38号土坑 (第99図, PL30)

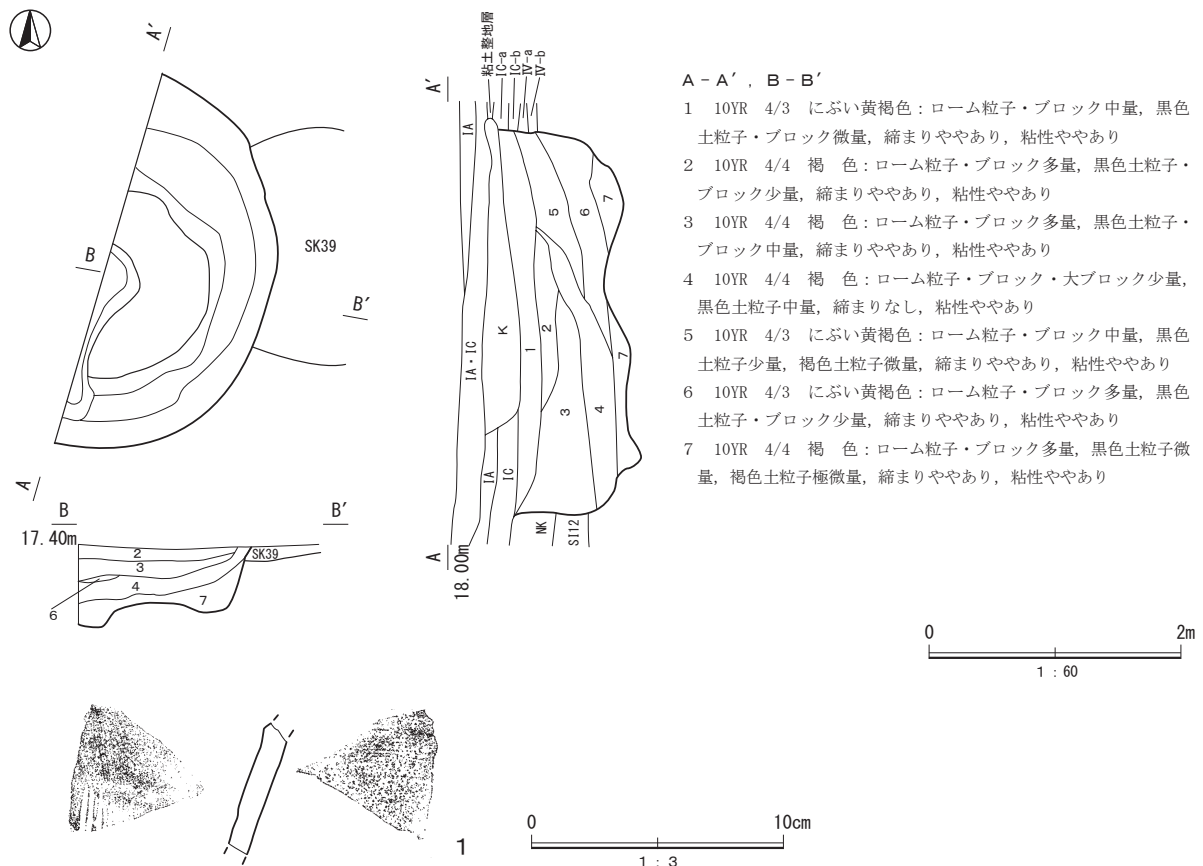
**位置と重複** F3区に位置し, 第12号竪穴建物跡と第39号土坑を掘り込み, 西半は調査区外にある。

**平面形と規模** 平面形は楕円形で, 長軸はN-18° - Eである。規模は308×132cm以上で深さは100cmである。底面は全体的に凹凸があるが, 特に中央部が凸状になりさらに南側は1段低くなっている。

**覆土** 覆土の全体は層状堆積であるが, 南側がローム混じりの褐色土, 北側はローム粒子・ブロックを多く含む黄褐色で, 中央は縦に中間の大きなロームブロックを含む褐色土である。

**出土遺物** 混入土から土師器と陶器が出土した。1点を図化した。1は瀬戸播鉢である。

**所見** 植木の植替えの痕と思われる。最初に南側を掘り, 次に北側を掘り植木の中心部を残し, 根回りに麻袋を巻いて荒縄で固定し, 南側に倒しながら北側の黄褐色土詰めて, 三つ又を組み滑車で引き上げながら南側に黒色土を詰めていく。最後に均して終了となる。中央・中間の大きなロームブロックは植木の真下に着いていた塊であろう。時期は近世から近代であろう。



第99図 第38号土坑・出土遺物実測図

第4章 遺構と遺物

第55表 第38号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	陶器	播鉢	—	—	(5.3)	(30.0)	7.5YR3/4 暗褐色	石英粒微量, 長石粒・砂粒 少量	普	ロクロ成形, 内面に櫛目 10本の櫛目を粗く施文, 内外に鉄釉を施す	一括 5%	瀬戸播鉢 18世紀代

第39号土坑 (第100図, PL30・45)

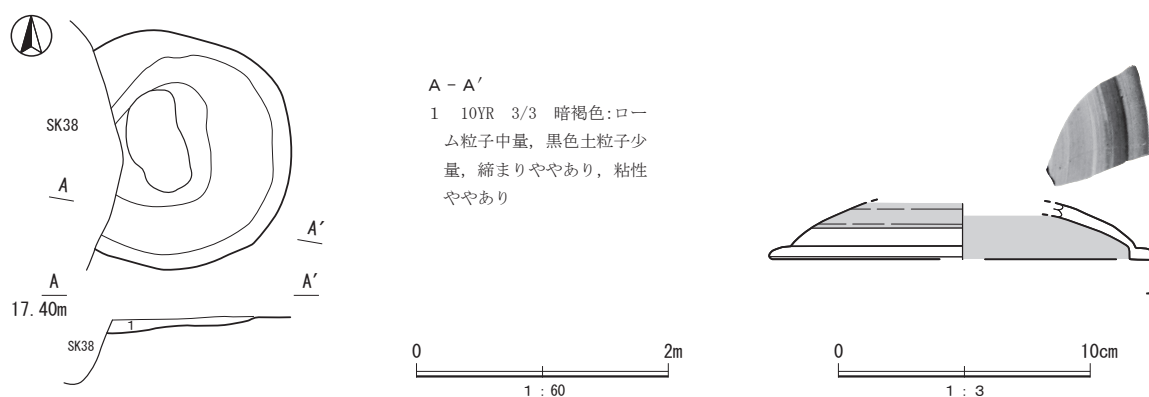
位置と重複 F3区に位置し, 第38号土坑に掘り込まれている。

平面形と規模 平面形は円形で長軸はN-0°である。規模は202×136cm以上で, 深さは18cmである。底面は皿状で中心部はさらに下がっている。

覆土 覆土はローム粒を中量含む暗褐色土である。

出土遺物 混入土から陶器が出土した。1は益子焼の行平鍋の蓋である。

所見 植木の植替え痕である。時期は近代であろう。



第100図 第39号土坑・出土遺物実測図

第56表 第39号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	陶器	蓋	[15.0]	—	(2.2)	(13.0)	10YR6/4 にぶい 黄橙	長石微細微量, 黒色砂粒 微量	良	ロクロ成形, 内面灰釉, 外面化粧戸を回転刷毛塗師し, 化学御須で絵を描いている	一括 5%	益子行平鍋蓋 1851年~明治中期

第40号土坑 (第101図, PL45)

位置と重複 F3区に位置し, 第9号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

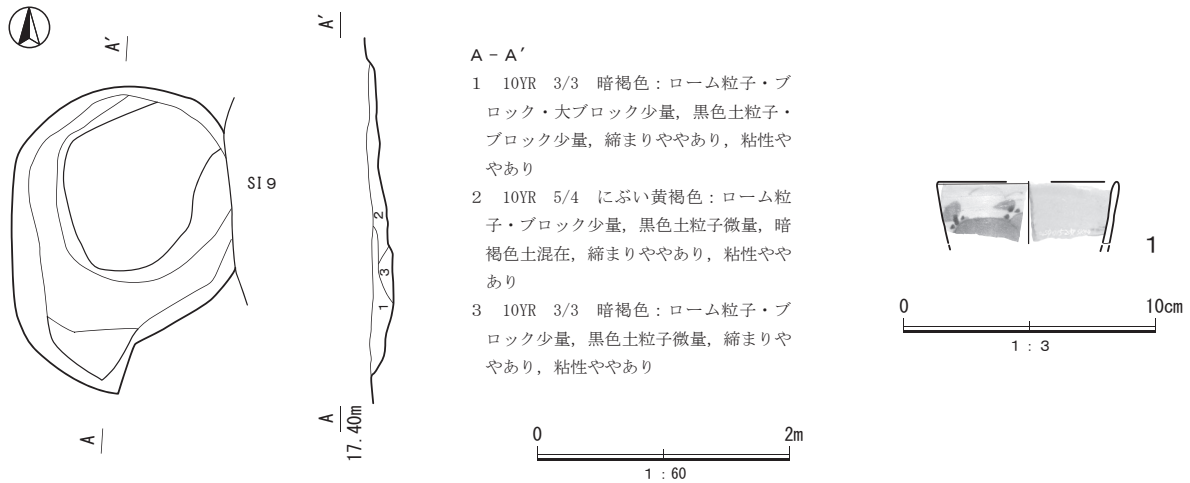
平面形と規模 平面形は不定形で, 長軸はN-10°-Eである。規模は244×174cmで深さは18cmである。底面は平坦であるが凹凸があり南側が皿状に窪んでいる。

覆土 覆土は北側が黄褐色土, 南側がロームブロックを含む暗褐色土である。

出土遺物 混入土から磁器が出土し, 図化した。1は肥前焼の猪口である。

所見 植木に植替え痕である。時期は近世から近代であろう。





第 101 図 第 40 号土坑・出土遺物実測図

第 57 表 第 40 号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	磁器	碗	[7.0]	—	(2.4)	(5.0)	2.5GY8/1 灰白	黒色微砂粒少量	良	ロクロ成形, 呉須染付透明釉, 山水文	一括 10%	肥前猪口 18世紀代

第 41 号土坑 (第 102・103 図, PL41・45)

位置と重複 F G 3 区に位置し, 第 12 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

平面形と規模 不整楕円形で, 長軸はN-0°である。規模は280×200cmで深さは20cmである。底面は皿状で凹凸がある。

覆土 ローム粒子・ブロックを含む褐色・黒褐色土である。

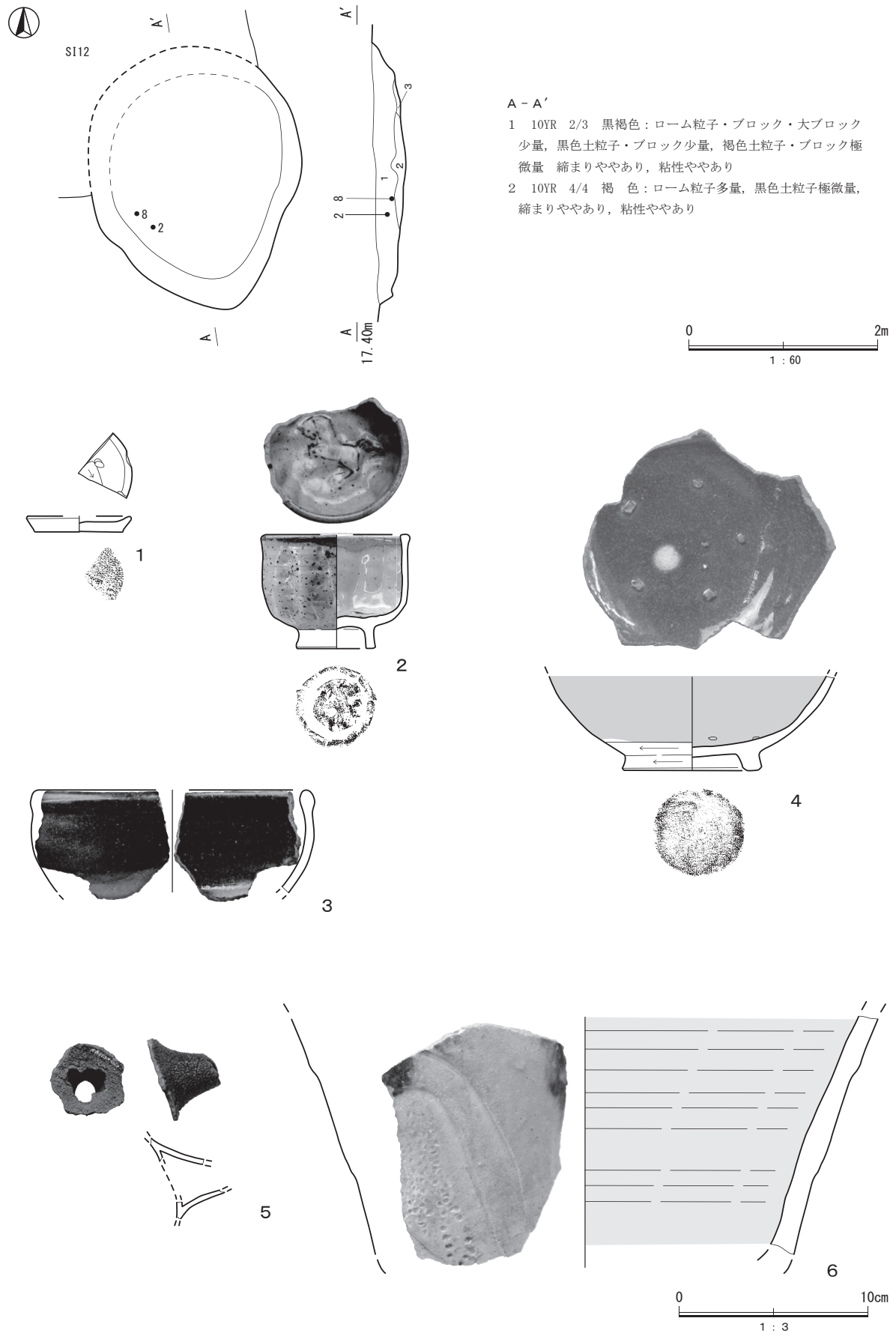
出土遺物 出土遺物は土師器, 須恵器, 土師質土器, 陶器, 磁器で, そのうち10点を図化した。1はかわらけ, 2は相馬焼の型作り湯呑茶碗, 3・4は松岡焼の鉢, 5は松岡焼の鮫肌土瓶の鉄砲口である。6は瀬戸焼の水鉢, 7は明石播鉢, 8は肥前焼の端反碗, 9は肥前焼の筒丸形湯呑茶碗, 10は肥前焼の水滴である。

所見 植木の植替え痕で, 出土遺物から幕末から明治期の遺構であることが確認された。

第 58 表 第 41 号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師質土器	かわらけ	[5.4]	[4.6]	(0.8)	(4.4)	7.5YR7/6 橙	石英・長石粒微量, 褐色粒子微量	普	ロクロ成形, 底部糸切後ナデ	一括 25%	在地C 17世紀前半
2	陶器	碗	[7.3]	4.0	6.0	(84.0)	2.5GY8/1 灰白	黒色砂粒多量	良	組合せ型作り, 鉄分の砂粒を混入し, 外面は拳骨茶碗に内底面には馬を表出し, 鉄釉で馬の輪郭線を描く。外面は褐色の胡麻状で内外面に透明釉を施釉し, 口縁部に銅緑釉を流している	No.4 60%	大堀相馬焼 19世紀後半
3	陶器	鉢	[14.0]	—	(5.4)	(26.0)	5YR2/2 オリーブ黒	石英粒微量, 長石粒中量	良	ロクロ成形, 内外胎釉施釉	一括 5%	松岡焼鉢 19世紀後半
4	陶器	鉢	—	7.1	(5.0)	(150.0)	5Y4/3 暗オリーブ	石英・長石粒微量	良	ロクロ成形, 削り出し高台, 内面に焼台の目痕が5か所, 内外面に土灰釉掛け, 中央に薬灰釉が垂れている	一括 40%	松岡焼鉢 19世紀後半
5	陶器	土瓶	—	—	(4.2)	(17.0)	10YR4/4 褐	石英・長石粒微量	良	土瓶の鉄砲口, 鉄釉鮫肌, 接合, 注ぎ口穴は3孔	一括 5%	松岡焼鮫肌土瓶 19世紀後半
6	陶器	鉢	—	—	(12.5)	(267.0)	7.5YR8/2 灰白	石英・長石粒少量	良	輪積成形後ロクロ整形, ヘラで流水文を列点で草文を表現, 内外面に灰釉を掛け, 外面に鉄釉を流している	一括 5%	瀬戸水鉢 1800~1820

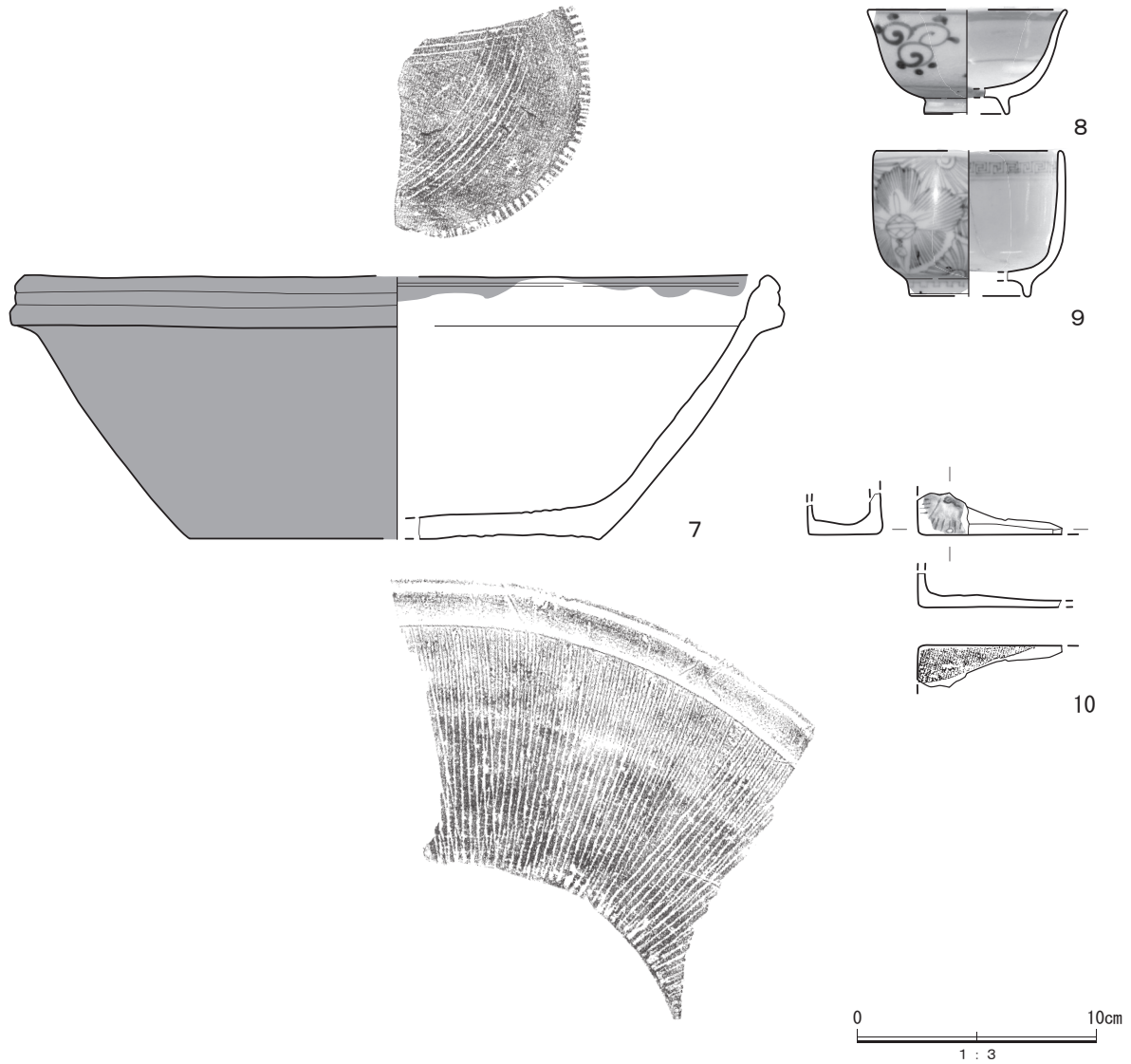
第4章 遺構と遺物



A - A'

- 1 10YR 2/3 黒褐色：ローム粒子・ブロック・大ブロック少量，黒色土粒子・ブロック少量，褐色土粒子・ブロック極微量 締まりややあり，粘性ややあり
- 2 10YR 4/4 褐色：ローム粒子多量，黒色土粒子極微量，締まりややあり，粘性ややあり

第102図 第41号土坑・出土遺物実測図



第103図 第41号土坑出土遺物実測図

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
7	陶器	播鉢	[31.0]	[17.0]	11.0	(540.0)	5YR3/3 明赤褐	石英粒微量, 長石粒・砂粒多量	良	輪積成形後ロクロ整形, 内面に櫛目9本の櫛目を密に施している。底面はウールマーク状, 使用痕で滑らか	一括 25%	明石・堺播鉢 19世紀後半
8	磁器	碗	[8.2]	[3.4]	(4.3)	(30.0)	7.5YR8/1 灰白	石英粒微量, 黒色細砂粒微量	良	ロクロ成形, 削り出し高台, 呉須染付透明釉, 雲文	No.3 25%	肥前端反碗 1780～1860
9	磁器	碗	[7.6]	[4.8]	6.0	(40.0)	2.5YR8/1 灰白	黒色微砂粒中量	良	ロクロ成形, 削り出し高台, 呉須染付透明釉, 菊花文, 口縁部内面と高台外面に雷文, 焼継	一括 20%	肥前筒丸碗 1820～1860
10	磁器	水滴	(1.7)	(6.0)	(3.0)	(17.0)	NS/0 灰白	黒色砂粒少量	良	型押成形, 長方形で焼成時は狭端面を立てて, 使用時は横で使用, 側面に呉須染付透明釉	一括 30%	肥前水滴 17・18世紀

第42号土坑 (第104図, PL45)

位置と重複 G3区に位置し, 第7号竪穴建物跡を掘り込み, 第41号土坑に掘り込まれている。

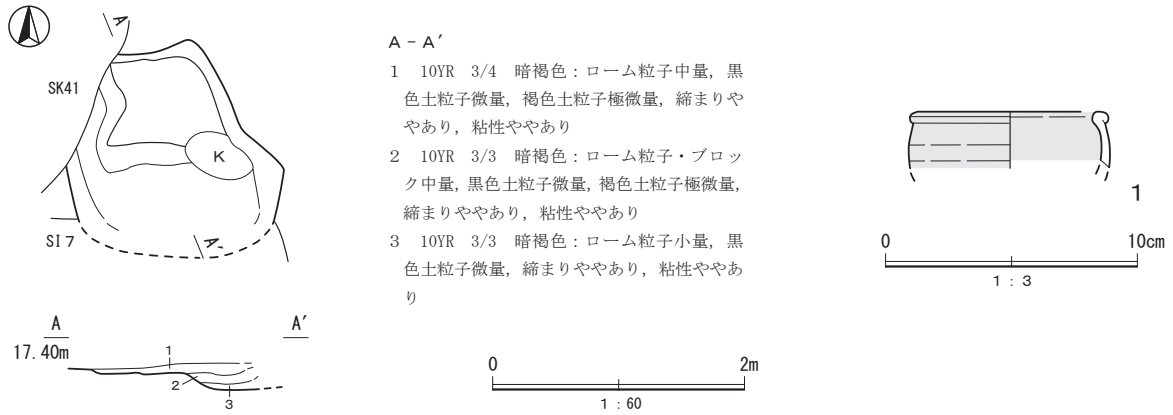
平面形と規模 平面形は不定形で, 長軸はN-30°-Eである。規模は166×140cm以上で深さは20cmである。底面は凹凸がある。

第4章 遺構と遺物

**覆土** 覆土はローム粒子・ブロックを含む暗褐色土を主体とする。

**出土遺物** 混入土から陶器が出土し、図化した。1は松岡焼の小壺である。

**所見** 植木の植替え痕であろう。時期は近代であろう。



第104図 第42号土坑・出土遺物実測図

第59表 第42号土坑出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	陶器	小形壺	[7.2]	—	(2.2)	(4.5)	5YR3/4 暗赤褐	石英・長石粒 微量	良	ロクロ成形，口縁部折返し，鉄軸	一括 5%	松岡焼小壺 19世紀後半

第43号土坑 (第105図)

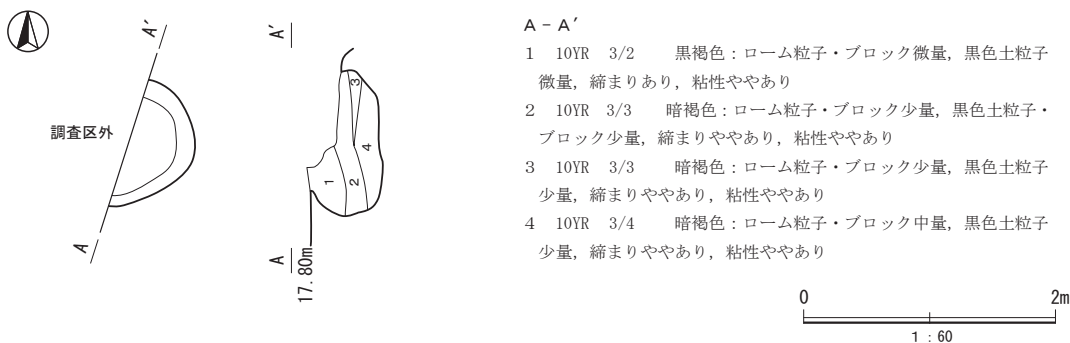
**位置と重複** F3区に位置し，西半が調査区外にある。

**平面形と規模** 平面形は円形と思われる。長軸はN-20° - Eである。規模は100×52cm以上で深さは60cmである。

**覆土** 覆土はローム粒子・ブロックを含む暗褐色土を主体とする。

**出土遺物** 出土遺物は無い。

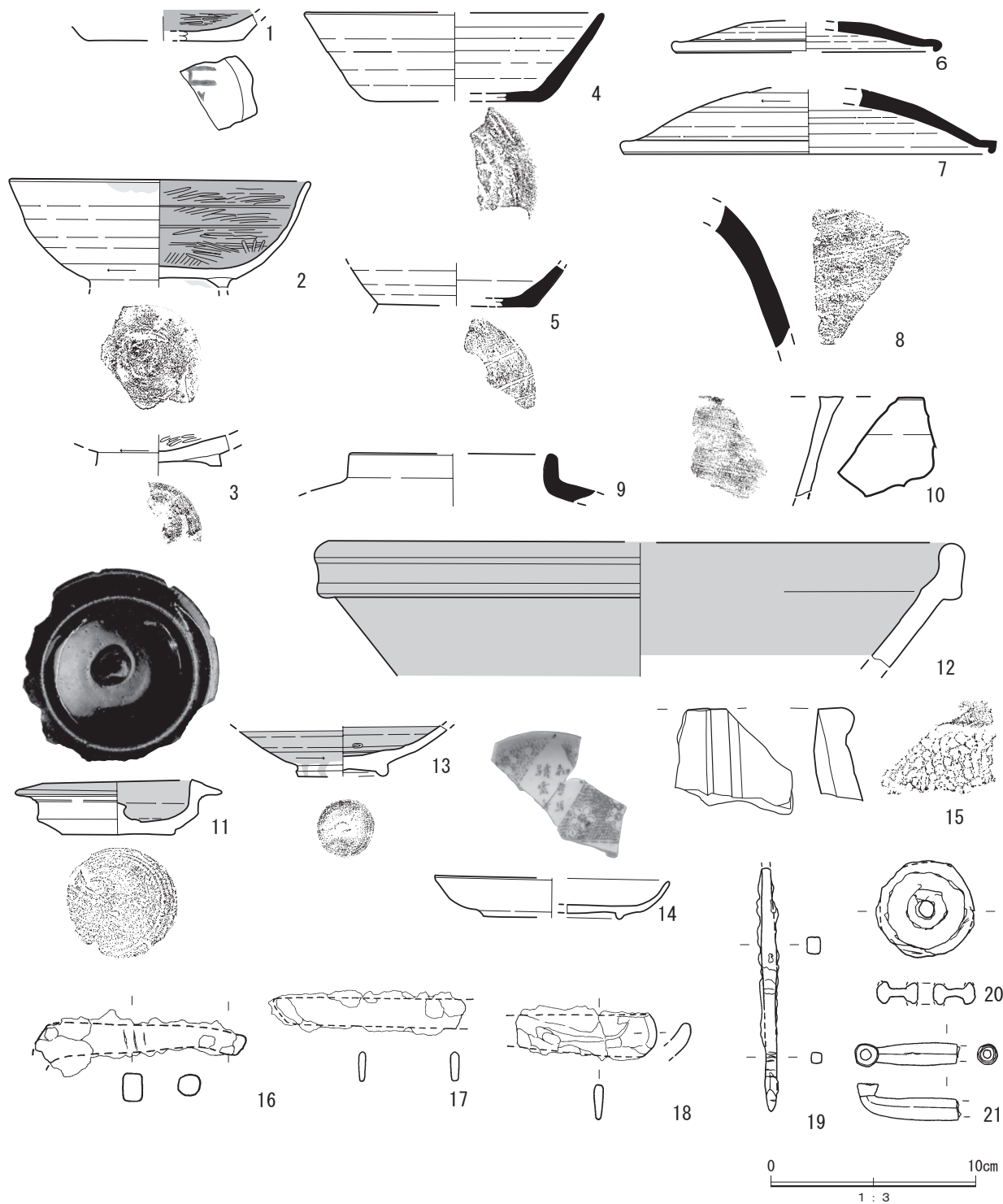
**所見** 植栽痕である。



第105図 第43号土坑実測図

第4節 遺構外出土遺物 (第106図, PL46)

1～3は土師器, 4～9は須恵器, 10は瓦質土器, 11～13は陶器, 14は磁器, 15は土師質土器, 16～20は鉄製品, 21は銅製品である。1は土師器の坏で底部外面に墨書がある。2は土師器の高台付坏碗で脚部が破損したので全体を打ち欠いている。3は高台付坏の脚部が三角高台になっている。4・5は須恵器の坏で5にはヘラ記号がある。6・7は須恵器の蓋である。8は壺の肩部片で器厚が厚い。9は須恵器の短頸壺自然釉が掛かっている。10は瓦質土器の鉢である。11は益子焼の壺の蓋である。12は在地の播鉢で、軟質で赤褐色



第106図 遺構外出土遺物実測図

第4章 遺構と遺物

の鉄釉を掛けている。13は美濃焼の輪禿皿で内面に銅緑釉、外面に透明釉を掛けている。14は瀬戸焼の摺絵皿で型紙摺である。15は型作りの火鉢である。16・17は刀子である。18はへら状の鉄製品、19は鉄鍬の茎と思われる。20は水道の止水栓のバルブと思われる。21は煙管の雁首である。

第60表 遺構外出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	土師器	坏	—	[7.6]	(1.2)	(11.0)	10YR6/4にぶい黄橙	石英・長石粒微細微量	良	輪積成形後ロクロ整形, 内面へら磨き後黒色処理, 底部外面墨書 (不明)	一括 5%	胎土C 9世紀代
2	土師器	高台付坏	[14.5]	—	(5.2)	(9.4)	10YR7/4にぶい黄橙	石英・長石粒少量, 針状鉱物少量	良	輪積成形後ロクロ整形, 底部回転糸切後付高台, 内面へら磨き後黒色処理, 外面赤彩, 2次被熱	一括 40%	胎土C 10世紀代
3	土師器	高台付坏	—	—	(1.5)	(23.0)	735YRにぶい橙	石英・長石粒微細微量, 粘土質	不良	輪積成形後ロクロ整形, 底部付高台, 2次被熱	一括 10%	胎土C 10世紀代
4	須恵器	坏	[14.4]	[8.6]	4.3	(40.0)	2.5Y8/3淡黄	石英・長石粒微細微量, 針状鉱物微量	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部へら切後ナデ, 花卉状	一括 20%	胎土C 8世紀代
5	須恵器	坏	—	[7.6]	(2.1)	(20.0)	10YR6/4にぶい黄橙	石英粒微量, 長石粒・砂粒中量, 針状鉱物多量,	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部へら切後へら削り, 花卉状, 底部へら記号「不明」	一括 5%	木葉下窯跡群 8世紀代
6	須恵器	蓋	[12.6]	—	(1.4)	(20.0)	2.5Y5/1黄灰	石英粒少量・長石粒・砂粒多量, 針状鉱物多量	普	輪積成形後ロクロ整形, 頂部へら削り1段, 返り部縁部は巻込み	一括 10%	木葉下窯跡群 8世紀後半
7	須恵器	蓋	[17.8]	—	(3.1)	(22.0)	2.5Y6/1黄灰	石英・長石粒中量, 針状鉱物少量	普	輪積成形後ロクロ整形, 頂部へら削り1段, 返り部縁部は巻込み	一括 10%	木葉下窯跡群カ 8世紀後半
8	須恵器	壺	—	—	(5.7)	(35.0)	5Y7/1灰白	石英粒多量長粒少量石, 黒色粒子・高温焼成で溶解	良	輪積成形後ロクロ整形, 内面当具痕, 外面へらナデ, 沈線1条, 外面自然釉	一括 5%	不明 (成沢窯跡群カ) 8・9世紀代
9	須恵器	壺	[9.8]	—	(2.2)	(15.0)	5Y6/1灰	石英・長石粒中量, 黒色砂粒少量	良	輪積成形後ロクロ整形, 口縁部内外面から肩部自然釉	確認面 5%	猿投窯跡群カ 8・9世紀代
10	瓦質土器	鉢	—	—	(4.8)	(18.0)	2.5Y7/2灰黄	石英粒微量, 長石少量	良	輪積成形後ロクロ整形, 内外面へらナデ	一括 5%	在地C 15・16世紀代
11	陶器	蓋	7.1	5.4	2.6	(100.0)	2.5YR5/6明赤褐 7.5YR3/4明褐	長石粒少量, 鉄分が多い	良	ロクロ成形, 底部糸切, 内面胎釉	確認面 90%	益子焼 20世紀前半
12	陶器	播鉢	[30.2]	—	(6.5)	(74.0)	7.5YR7/6橙	石英・長石粒少量, 赤色粒子少量	不良	ロクロ成形, 10本櫛で櫛目を施す。軟質で低温焼成で鉄釉剥離	確認面 5%	在地不明 19・20世紀
13	陶器	高台付皿	—	4.3		(70.0)	5Y7/1灰白	長石粒微量, 黒色砂粒微量	良	ロクロ成形, 削り出し高台, 内面織部釉後剥ぎ取り, 内面と外面中心迄透明釉	確認面 20%	美濃輪禿皿 18世紀前半
14	磁器	小皿	[11.2]	[6.7]		(19.0)	白色	微砂粒, 白色	良	鑄込み整形, 型紙播繪透明釉	確認面 5%	瀬戸播繪皿 19世紀後半
15	陶器	火鉢	—	—	(4.9)	(45.0)	5YR6/6橙	石英粒少量, 長石粒多量, 金雲母多量, 白雲母少量	良	型作り手びねり, 外面に刺突	確認面 5%	在地B・C 19世紀代
遺物番号	種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	製品の製作手法と特徴				出土位置	推定産地
16	鉄製品	刀子	(9.9)	1.6	3.1	(22.0)	刀子の茎から関部分で刃関である。一部に鞘を緊縛痕がある。				確認面	古代
17	鉄製品	刀子	(8.3)	1.3	0.4	(19.1)	刀子の刃部で切先迄遺存している。				確認面	古代
18	鉄製品	不明	(6.8)	1.7	0.5	(21.7)	刀子の刃部にも観察されるが不明としておく。				確認面	古代
19	鉄製品	鍬	(11.9)	0.49	0.48	(19.9)	鉄鍬の茎で幅広の方に平行して身が付く。				確認面	古代
20	鉄製品	バルブ	4.7	内径0.72	1.16	(46.0)	水道管の止水栓のバルブの頭部である。花形をしている。				確認面	現代
21	銅製品	煙管	5.0	1.09	0.05	10.3	雁首部で銅の板を丸く合わせて接合する。羅字が遺存				確認面	19世紀前半

# 第5章 まとめ

## 第1節 東前原遺跡の火山噴出物の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

橋本 真紀夫 矢作 健二 石岡 智武

### はじめに

水戸市に所在する東前原遺跡は、茨城県北部を流下する那珂川の中流域右岸に分布する河成段丘上に位置する。調査区の位置する段丘は、南関東における武蔵野面群に対比される中位段丘群に区別されている（貝塚ほか編, 2000）。

発掘調査では、台地表層を構成する黒ボク土層から、近世、中世、古代の各時代に相当する遺構や遺物が検出されているが、黒ボク土層の下位のローム層まで調査は及んでいる。本報告では、調査区内で確認された黒ボク土層およびローム層について、その鉱物組成やテフラの産状を明らかにすることにより、各層の年代に係る資料を作成する。

### 1. 試料

試料は、調査区内で作成されたU-4土層断面より採取した。調査区内の基本層序は、発掘調査所見により、上位よりI層からIX層までが設定されている。これらのうち、I層は整地層と現耕作土、II層は旧耕作土と黒ボク土層、III層は黒ボク土層、IV層はいわゆる漸移層、V層は男体今市スコリア（Nt-I: 須藤・山崎, 1980）の混在する男体七本桜軽石層（Nt-S: 須藤・山崎, 1980）、VI層はハードローム層、VII層とVIII層は色調の若干暗いローム層であり、IX層は最上部に赤城鹿沼軽石層（Ag-KP: 新井, 1962）を挟むローム層である。さらに、I層についてはI A, I B, I C, II層はII A, II B, III層はIII A, III B, IV層はIV A, IV Bの各層に細分されている。

試料は、U-4断面の2箇所にて採取され、主に黒ボク土層の試料を採取した箇所はA地点とされ、ローム層の試料を採取した地点はB地点とされた。A地点ではII A層からVI層上部まで厚さ5cmで連続に上位より試料番号1～28までの28点を採取し、B地点ではVI層中部からIX層上部までA地点と同様に試料番号1～23までの23点を採取した。各地点における各試料の採取層位は、分析結果を呈示した図1, 2に柱状図として併記する。

今回の分析では、これらの試料から、各地点において各層より1点の割合で選択した。A地点では、試料番号5, 9, 13, 18, 23の5点、B地点では試料番号4, 9, 17, 22の4点をそれぞれ選択し、合計9点の試料について分析を実施した。

### 2. 分析方法

試料約40gに水を加え超音波洗浄装置により分散、250メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径1/16mm以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径1/4mm-1/8mmの砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約2.96に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて250粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。

火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を250粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。また、火山ガラス比における「そ

の他」は、主に石英および長石などの鉱物粒と変質等で同定の不可能な粒子を含む。

### 3. 結果

#### (1)A 地点

結果を表1, 図1に示す。また、黒ボク土層中におけるテフラ由来の碎屑物の状況を確認するために、処理済の砂分を実体顕微鏡下で観察した結果を表2に示す。

重鉱物組成は、いずれの層位においても大差はなく、斜方輝石が最も多く、60～70%を占め、10～20%程度の単斜輝石と不透明鉱物を伴い、極めて微量の角閃石を含むという組成である。詳細にみれば、試料番号13で単斜輝石の量比が比較的高く、試料番号18で不透明鉱物の量比が比較的高い。

火山ガラスは、いずれの試料においても極めて微量しか検出されないが、その中で、試料番号18と13にはバブル型火山ガラスが検出されている。

テフラ由来の碎屑物は、試料番号9に極めて微量のスコリアが認められ、試料番号18以上の各試料に極めて微量の火山ガラスが認められ、試料番号5と9に極めて微量の軽石が認められた。スコリアは、最大径約0.9mm、黒色で発泡やや不良のスコリアと褐色で発泡やや不良のスコリアとが混在する。火山ガラスは、いずれの試料も無色透明のバブル型である。軽石は、いずれの試料も同様の特徴であり、最大径は約0.8mm、灰褐色を呈し、発泡はやや不良、斜方輝石の斑晶を包有する。

#### (2)B 地点

結果を表1, 図2に示す。重鉱物組成は、各層ごとに異なっている。試料番号4と9はともに斜方輝石が最も多く、少量の単斜輝石と不透明鉱物を含むことで類似した組成であるが、詳細にみれば、試料番号9の方が単斜輝石の量比がやや高く、また、微量のカンラン石も含まれている。試料番号17は、斜方輝石が最も多いことは上述の2点の試料と共通するが、斜方輝石に次いで多い鉱物は角閃石であり、単斜輝石は極めて微量しか含まれない。試料番号22は不透明鉱物が最も多く、約80%を占め、他に少量の斜方輝石と角閃石を含むという組成である。

火山ガラス比では、試料番号4に少量のバブル型が含まれ、試料番号9に微量のバブル型と中間型が含まれるが、試料番号17と22には火山ガラスはほとんど含まれない。

表1 重鉱物・火山ガラス比分析結果

地点名	層名	試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
A	II B	5	0	182	26	1	36	5	250	0	2	1	247	250
	III A	9	0	174	40	3	24	9	250	0	2	1	247	250
	III B	13	0	159	53	3	33	2	250	1	2	0	247	250
	IV A	18	0	142	40	3	59	6	250	1	3	2	244	250
	IV B	23	0	177	30	1	37	5	250	0	2	0	248	250
B	VI	4	1	221	12	1	13	2	250	22	2	0	226	250
	VII	9	4	186	37	1	20	2	250	4	6	1	239	250
	VIII	17	0	150	1	63	26	10	250	0	1	0	249	250
	IX	22	0	16	0	29	203	2	250	0	0	0	250	250



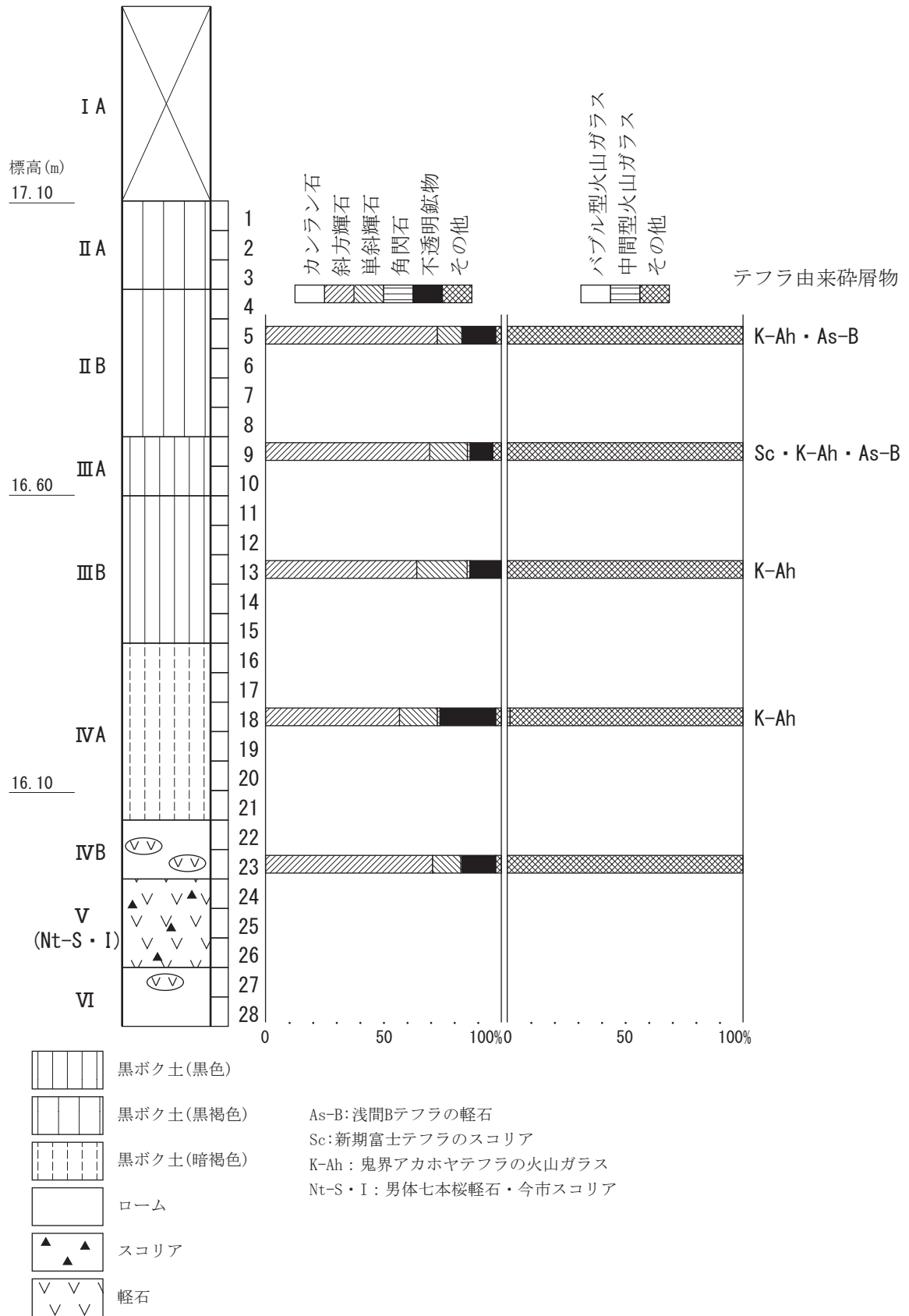


図1 U-4断面A地点の重鉱物組成および火山ガラス比

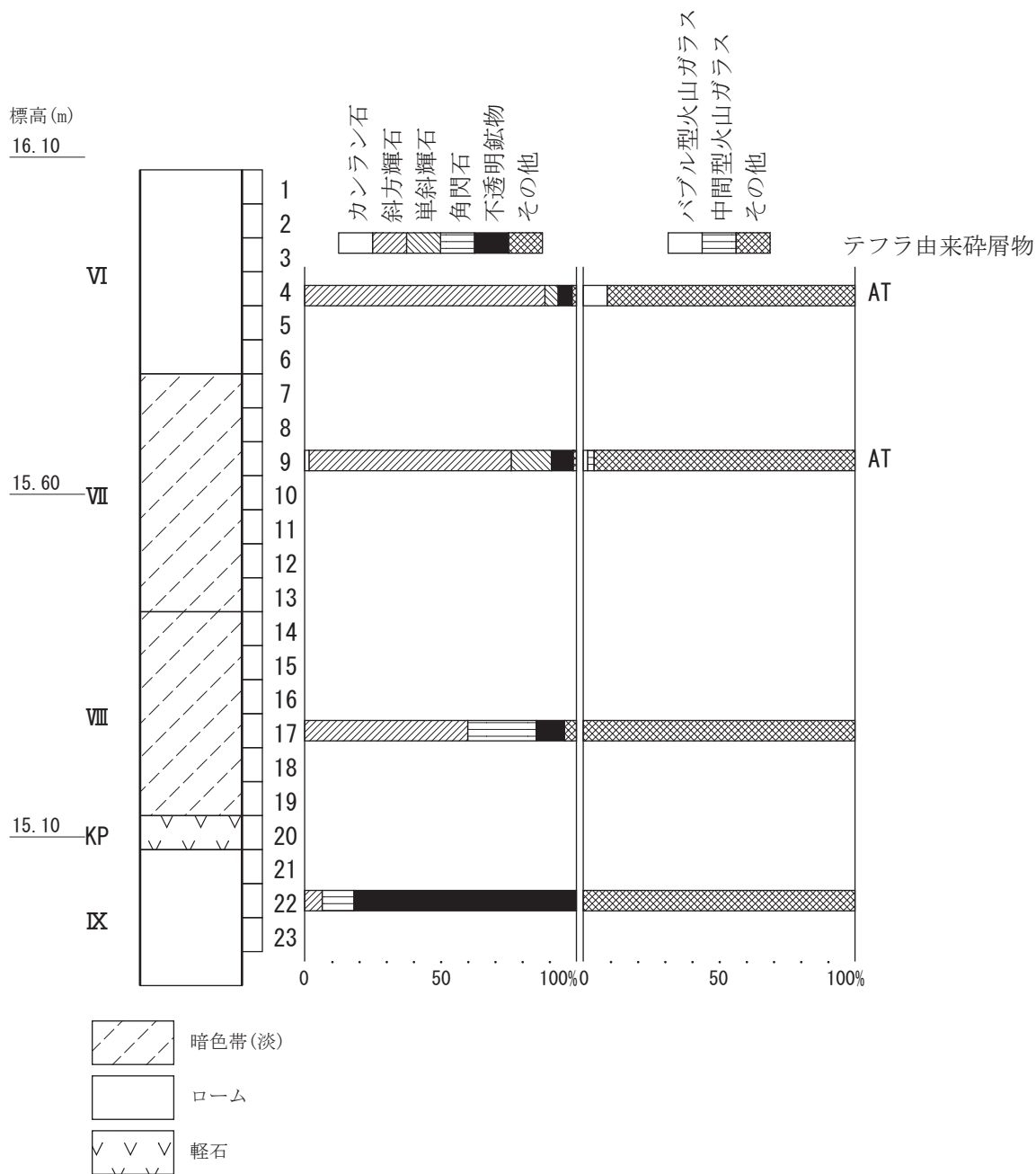


図2 U-4断面B地点の重鉱物組成および火山ガラス比

表2 A地点黒ボク土層のテフラ観察結果

層名	試料番号	スコリア			火山ガラス		軽石		
		量	色調・発泡度	最大粒径	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径
II B	5	—			(+)	c1・bw	(+)	GBr・sb (opx)	0.8
III A	9	(+)	B・sb, Br・sb	0.9	(+)	c1・bw	(+)	GBr・sb (opx)	0.7
III B	13	—			(+)	c1・bw	—		
IV A	18	—			(+)	c1・bw, br・bw	—		
IV B	23	—			—		—		

凡例 — : 含まれない. (+): さわめて微量. + : 微量. ++ : 少量. +++ : 中量. ++++ : 多量.

B: 黒色. Br: 褐色. GBr: 灰褐色.

g: 良好. sg: やや良好. sb: やや不良. b: 不良. 最大粒径はmm.

c1: 無色透明. br: 褐色. bw: バブル型. md: 中間型. pm: 軽石型. (opx): 斜方輝石斑晶包有

#### 4. 考察

##### (1) A 地点の層序対比

これまで関東地域の黒ボク土層の層序対比には、完新世に噴出した関東平野周縁に分布する火山を給源とするテフラに由来する砕屑物の産状を指標としてきた。特に、南関東では、完新世に多数のテフラを噴出している新期富士火山のテフラに由来するスコリアの産状が、比較的良好な対比指標となった。一方、北関東における黒ボク土層では、完新世に活発な活動をした浅間火山や榛名火山を給源とするテフラに由来する軽石や火山ガラスの産状が対比指標とされた。

東前原遺跡の位置する水戸市付近は、上述したいずれの火山からも比較的遠い距離にあるため、土層断面中にはテフラの降下堆積層として認めることはできなかった。しかし、処理後の砂分の観察により、極めて微量ではあるが、前述したようなテフラに由来する砕屑物を各層に認めることができた。これらのうち、Ⅲ A 層上部の試料番号 9 に認められたスコリアは、完新世に噴出した新期富士テフラに由来する可能性が高いと考えられる。新期富士テフラは、上杉 (1990) による記載では、富士黒土層中の S-0 から宝永スコリアの S-25 まで記載されており、さらにこの中のテフラによっては、細分されているものもあることから、50 枚近くのテフラにより構成されている。ただし、給源から離れた神奈川県東部や東京都の低地の調査例では、検出される新期富士テフラの枚数は極端に少なくなり、縄文時代後期から晩期のテフラである S-10・11 (湯船第一スコリア (Yu-1)), S-13 (砂沢スコリア (Zu)), 弥生時代中期頃の S-22 (湯船第二スコリア (Yu-2)), 古墳時代のテフラとされる S-24-1 ~ 5, 平安時代延暦年間の西暦 800 ~ 802 年の噴火で多量のスコリアを噴出したとされている S-24-7, さらに江戸時代の宝永 4 年 (1707 年) に噴出した宝永スコリア (F-Ho) などにほぼ限定される。これらのテフラは、産状が良好な場合は、スコリアの色調や発泡度の特徴から特定することはできるが、今回のような極めて微量しか検出されない場合は特定のテフラに由来するという判断は難しい。富士火山からの距離や方向を考慮すれば、おそらく上述した各テフラの中でも比較的噴出規模の大きなテフラである Yu-1 や Yu-2 あるいは S-24-7 などに由来する可能性があると考えられる。

火山ガラスは、Ⅳ A 層上部の試料番号 18 以上の各試料から極めて微量のバブル型火山ガラスが認められており、火山ガラス比分析においても試料番号 18 ではバブル型と中間型および軽石型の各火山ガラスが微量認められている。この火山ガラスは、バブル型という形態を含むことから、鬼界アカホヤテフラ (K-Ah: 町田・新井, 1978) に由来する可能性が高い。ただし、本地点における火山ガラスの産状は、降灰層準の特定できるようなものではなく、現時点ではⅣ A 層以上の黒ボク土層中としか言えない。

軽石は、Ⅲ A 層上部の試料番号 9 とⅡ B 層上部の試料番号 5 に極めて微量認められた。その色調や発泡度および包有される珪晶鉱物から、軽石は、平安時代の天仁元年 (AD1108 年) に浅間火山から噴出した浅間 B テフラ (As-B: 新井, 1979) に由来する可能性が高い。このテフラについても、その産状からは本地点における降灰層準を特定することはできない。降灰後の再堆積や植物根痕による落ち込みなどにより、降灰層準から上位へも下位へも移動するからである。

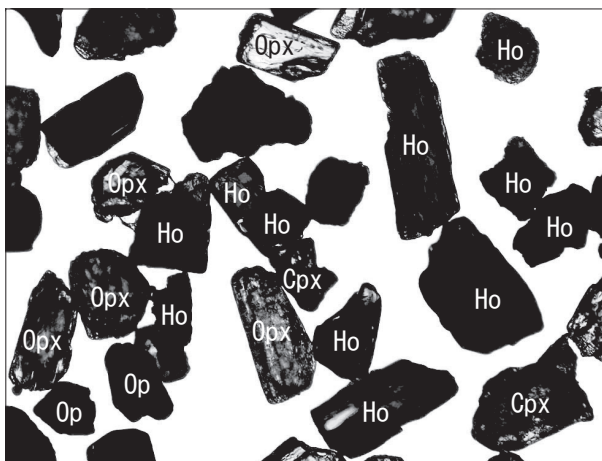
以上述べたように、今回の分析では、黒ボク土層各層における確実な対比指標を得ることはできなかったが、発掘調査所見による各層の年代観とは概ね整合する可能性のあることが示唆された。また、同時に行った重鉍物分析では、各層における斜方輝石と単斜輝石および不透明鉍物の 3 者間の量比の違いが示唆された。現時点では、基準となる黒ボク土層における重鉍物の層位的な変化が得られていないために他箇所との具体的な対比はできないが、今後の周辺地域における黒ボク土層の分析事例を蓄積することにより、重鉍物組成とテフラ由来の砕屑物の産状を組み合わせることで層序対比が可能になることが期待される。

なお、A 地点では確実な対比指標として Nt-I のスコリアの混在する Nt-S の降下堆積層が確認されている。Nt-S の層位は、1.4 ~ 1.5 万年前とされる噴出年代 (町田・新井, 2003) により、1.5 ~ 1.6 万年前に噴出したとされる浅間火山を給源とする浅間板鼻黄色軽石 (As-YP: 新井, 1962) の直上に位置づけられる。南関東の

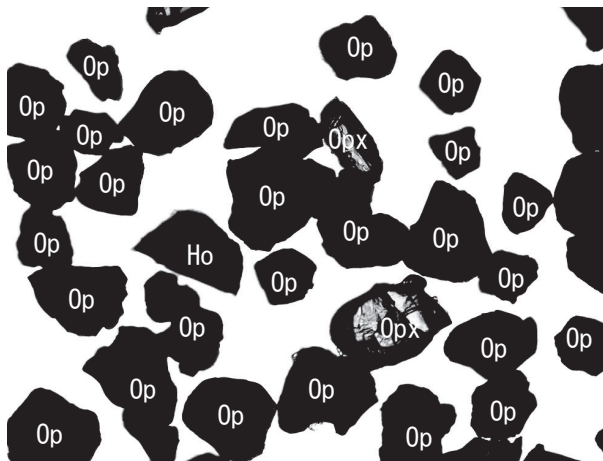
図版1 重鉱物・軽鉱物



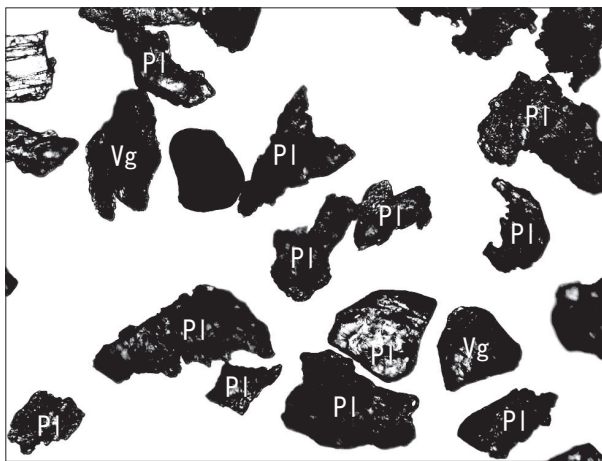
1. 重鉱物 (U-4断面A地点 II B層; 13)



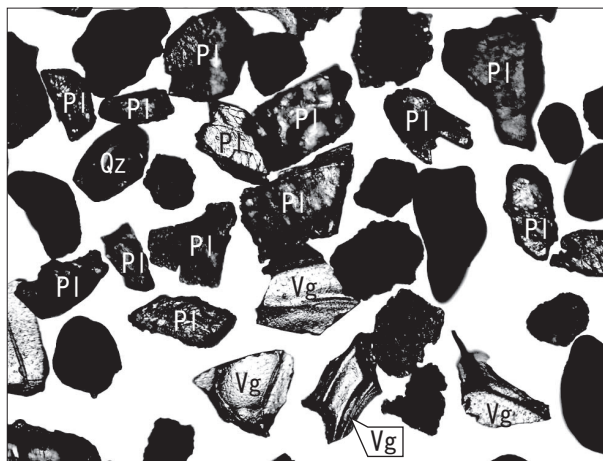
2. 重鉱物 (U-4断面B地点 VIII層; 17)



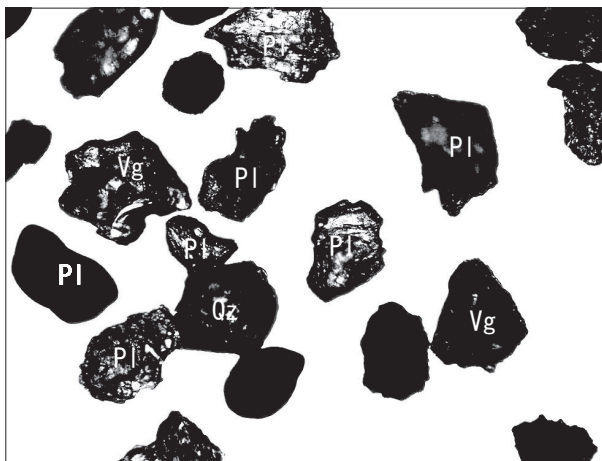
3. 重鉱物 (U-4断面B地点 IX層; 22)



4. 軽鉱物 (U-4断面A地点 II B層; 13)



5. 軽鉱物 (U-4断面B地点 VI層; 4)



6. 軽鉱物 (U-4断面B地点 IX層; 22)

Opx: 斜方輝石, Cpx: 単斜輝石, Ho: 角閃石, Op: 不透明鉱物, Vg: 火山ガラス, Qz: 石英,  
Pl: 斜長石.

0.5mm

立川ローム層の最上部には、立川ローム層上部ガラス質テフラ (UG: 山崎, 1978) が検出されることが多いが、UG は As-YP 噴出期の噴出物とされている (町田・新井, 2003)。したがって、A 地点の V 層は、南関東武蔵野台地の立川ローム層における標準層序の III 層上部にほぼ対比され、A 地点の VI 層上部は、武蔵野台地立川ローム層の III 層下部～IV 層上部付近にほぼ対比されると考えられる。

## (2) B 地点の層序対比

本地点におけるもっとも有効な対比指標は、VI 層下部の試料番号 4 で検出された少量のバブル型火山ガラスである。この火山ガラスは、その形態的特徴と Ag-KP より上位のローム層という検出層位から、鹿児島湾北部を形成する始良カルデラを給源とする始良 Tn テフラ (AT: 町田・新井, 1976) に由来する。今回の分析結果からは、その詳細な降灰層準を特定することはできないが、試料番号 9 でも微量のバブル型火山ガラスが検出されていることを考慮すると VI 層下部から VII 層上部の間に AT の降灰層準を推定することができる。AT の噴出年代については、Smith et al. (2013) による水月湖の年縞堆積物の研究から、暦年で 3 万年前であることがほぼ確定されている。また、Ag-KP の噴出年代については、4.5 万年前以前とされている (町田・新井, 2003) ことなども考慮すれば、B 地点の VI 層から VIII 層までの層位は、武蔵野台地の立川ローム層のほぼ下半部に対比される。標準層序との概ねの対比では、B 地点の VI 層は武蔵野台地立川ローム層標準層序の IV 層下部から VI 層まで、B 地点の VII 層は武蔵野台地立川ローム層標準層序の VII 層および IX 層、B 地点の VIII 層は武蔵野台地立川ローム層標準層序の X 層、B 地点の IX 層は武蔵野台地の武蔵野ローム層最上部の X I 層にそれぞれ対比される可能性があると考えられる。

なお、B 地点における重鉱物組成は、層位による違いが比較的明瞭であるため、周辺地域のローム層との対比に有効な指標になると考えられる。

## 引用文献

- 新井房夫, 1962, 関東盆地北西部地域の第四紀編年. 群馬大学紀要自然科学編, 10, 1-79.
- 新井房夫, 1979, 関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層. 考古学ジャーナル, 157, 41-52.
- 貝塚爽平・小池一之・遠藤邦彦・山崎晴雄・鈴木毅彦編, 2000, 日本の地形 4 関東・伊豆小笠原. 東京大学出版会, 349p.
- 町田 洋・新井房夫, 1976, 広域に分布する火山灰-始良 Tn 火山灰の発見とその意義-. 科学, 46, 339-347.
- 町田 洋・新井房夫, 1978, 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラ-アカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, 143-163.
- 町田 洋・新井房夫, 2003, 新編 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 336p.
- 須藤 茂・山崎正夫, 1980, 男体火山活動末期における斜め噴火と異種のマグマ連続噴出. 火山第 2 集, 25, 75-87.
- Smith, V.C., Staff, R.A., Blockley, S.P.E., Ramsey, C.B., Nakagawa, T., Mark, D.F., Takemura, K., Danhara, T., Suigetsu 2006 Project Members, 2013, Identification and correlation of visible tephra in the Lake Suigetsu SG06 sedimentary archive, Japan: chronostratigraphic markers for synchronizing of east Asian/west Pacific palaeoclimatic records across the last 150 ka. *Quaternary Science Reviews*, 67, 121-137.
- 上杉 陽, 1990, 富士火山東方地域のテフラ標準柱状図-その 1: S-25 ~ Y-114 -. 関東の四紀, 16, 3-28.
- 山崎晴雄, 1978, 立川断層とその第四紀後期の運動. 第四紀研究, 16, 231-246.

## 第2節 東前原遺跡の層序と年代

### 1 火山噴出物の内容と基本層序との関係

火山噴出物の鉱物組成やテフラの産状を基本層序の層序ごとに、層序の状態が良好な東区のA地点とB地点から試料採取を行った。A地点ではⅡB層、ⅢA層、ⅢB層、Ⅳ層、Ⅴ層の5点、B地点ではⅥ層、Ⅶ層、Ⅷ層、Ⅸ層の4点の計9点を分析した。

分析結果はⅢA層が新規富士テフラに由来する宝永スコリアの可能性が高いとされ、江戸時代の宝永4年(1707年)に噴出した宝永スコリアが微量ながら確認された。また、Ⅴ層は浅間火山を給源とする浅間板鼻黄色軽石の直上に位置づけられ、1.5～1.6万年前に噴出されたとされる。さらに、Ⅵ層下部からⅦ層上部の間に始良カルデラ(AT)の降灰層準を推定され暦年で3万年前であることがほぼ確定されている。

武蔵野台地との対比では、Ⅵ層は武蔵野台地の立川ローム層標準層序のⅣ層下部からⅥ層まで、Ⅶ層は武蔵野台地立川ローム層標準層のⅦ層～Ⅸ層、Ⅷ層は武蔵野台地立川ローム層標準層序のⅩ層、Ⅸ層は武蔵野台地の武蔵のローム層最上部のⅪ層に対比される可能性があることが確認された。

東前原遺跡の位置する水戸市は噴出物の火山から比較的遠い距離にあるため、縄文時代後期から晩期のテフラ、弥生時代中期のテフラ、古墳時代のテフラ、平安時代の延暦年間800～802年のテフラなどは確認できなかったが、ⅢB層や上層から極めて微量ながら、降灰後の再堆積であるが平安時代の天仁元年(1108年)に浅間火山から噴出した軽石は浅間Bテフラの可能性を指摘されている。

今回の分析によってⅣ層下部～Ⅶ層上部のAT、天元元年の浅間火山、宝永4年の宝永スコリアなど微量ではあるが、テフラやスコリアが検出され関東東部でも自然層序の良好な調査地点では資料の累積が必要であることが認識された。

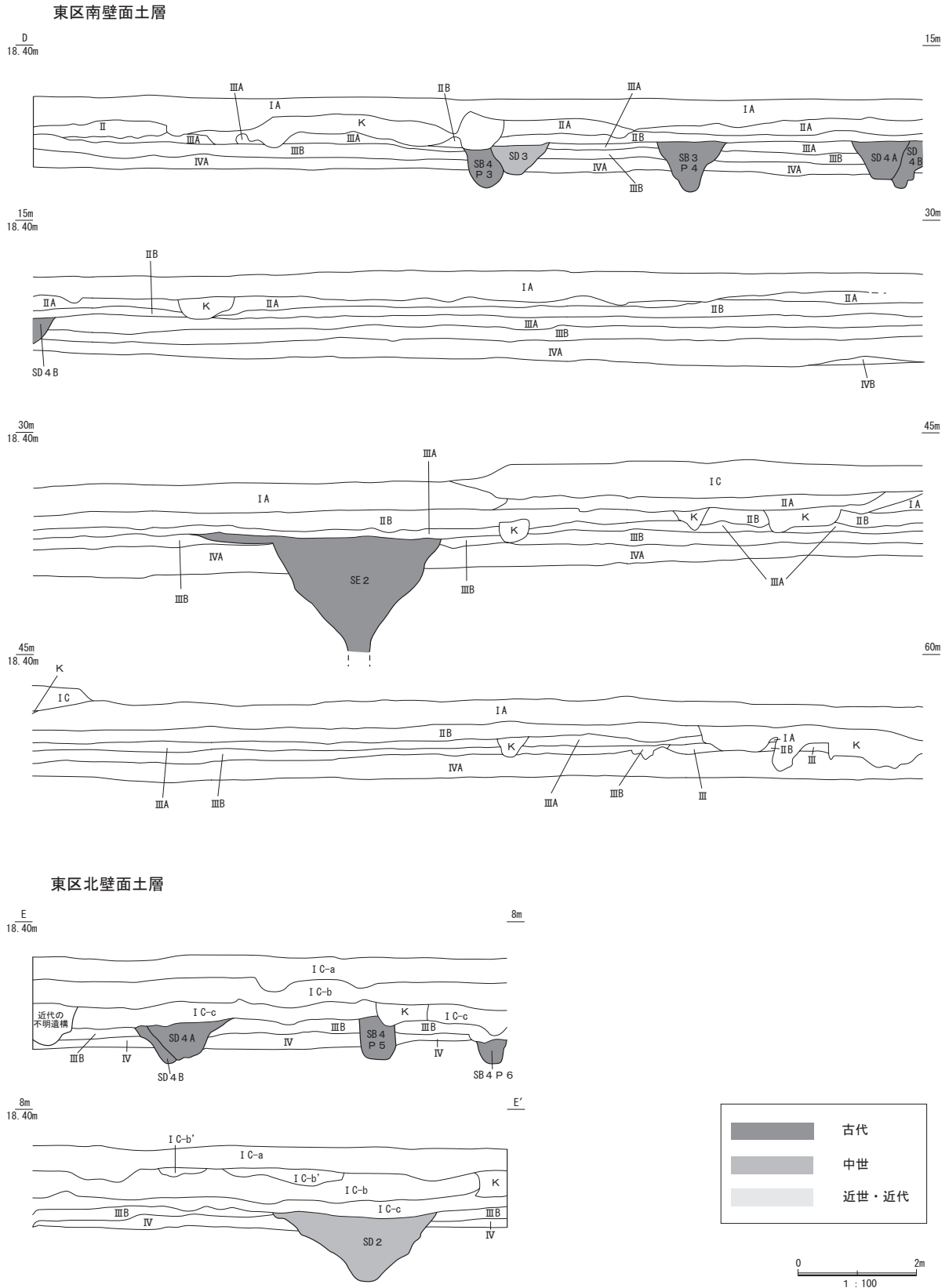
### 2 地形と層位(第107～109図, PL46)

本遺跡の立地する東茨城台地は中世から行われた切土整地や近年の天地返しや圃場整備により標高18～19mと現在は平坦になっているが、遺構確認面や基本層序を観察すると中世以前は起伏にある地形を呈していたと考えられる。

調査区の各壁面に遺存した古代・中世・近世・近代の遺構が標準層序の何層から確認できるのか、担当者の主観的な見方もあると思うが調査手法として確認したいと考え、107・108図から各壁面層序ごとに確認する。基準の標高は18.4mで統一し、基本15mで区切った。

東区南壁面の遺構数は少ないが、今回提示した標準層序と火山噴出物の分析を行った地点はA2区と3区にあたり最も良好な地点である。古代の遺構としたのは2号井戸跡、4号掘立柱建物跡、4A・B号溝跡であるが、2号井戸跡はⅢA層から掘り込まれているが4号掘立柱建物跡と4A・B号溝跡はⅢA層から掘り込まれていると理解した。中世の遺構は3号溝跡であるがⅢA層から掘り込まれていた。3号溝跡も調査時は古代と考えていたが、中世の遺物が含まれていたことから中世に移動した。5号溝跡(第 図)はⅢA層から掘り込まれていると理解していたが、2号井戸跡からは古代の遺物が出土し、井戸に掘り込まれていたことから古代の溝と判断した。この状況から古代の2号井戸跡と中世の3号溝跡は良とするが、4号掘立柱建物跡の柱は北壁面でも確認出来たがⅢB層から上層は整地層により失われた結果ⅢB層となった。古代はⅢB層から中世はⅢA層からと考えたいが、火山噴出物の分析ではⅢA層上層から宝永4年(1707)の宝永スコリアが確認されていることから、ⅢA層下層までは古代から中世の遺構上面の可能性はある。しかし、古代の須恵器はⅢB層から出土する傾向が多い。

今回の調査では結論は保留し、今後の遺跡の遺存状況が良好な調査で明らかにしたい。それからⅣ層下部からⅤ層上面の遺構確認面まで実際の遺構は平面形も大きいこと、深さも50cm以上はあることを認識することが必要と思われる。



第 107 図 壁面実測図 (1)



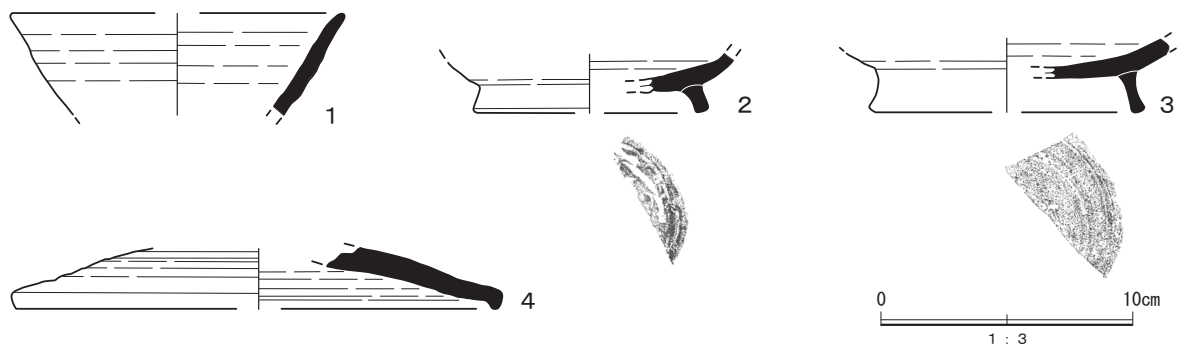


東区北壁面土層では2 A・B号溝跡，4号掘立柱建物跡，4 A・B号溝跡が確認されたがⅢ B層から上層は整地層によって失われた結果Ⅲ B層からの掘り込みが確認された。

南区西壁面土層では1 A・B号溝が確認されたが根痕や攪乱によってV層からの掘り込みであった。Ⅳ層の上層にⅡ層の旧耕作土があることからⅢ B層まで削平され，その後畑地になったと考えられる。

北区西壁面土層では古代の竪穴建物を中世の土坑や掘立柱建物が，さらに近世の土坑が掘り込んでいる状況であった。攪乱としているが遺構の線を入れているのは近代から現代の建物の基礎があった状況である。この地区の重複関係から，古代の竪穴建物を掘り込んで中世の掘立柱建物がその下に土坑が，土坑と粘土貼土坑では粘土貼土坑が掘り込んでいる。つまり土坑から粘土貼土坑そして掘立柱建物が建てられたことになる。土坑と粘土貼土坑は重複していない遺構に関しては同時存在も考えられる。近世・近代の遺構は植栽痕と植木の植替え痕が確認された。

最後に難題ではあるが，遺跡を理解するために何時の時期に削平され，新たな土地利用を行った時期を推定する。遺跡は前述のように東区の南側はⅡ層からⅣ B層まで自然な状況で確認されたが，北側はⅢ B層上層を含むⅢ A層まで削平されていた。南区西側はⅣ層上層を含むⅢ B層まで削平されていた。また，北区西側はⅣ B層も僅かで場所によってはV層の今市・七本桜軽石まで削平されてⅥ層上面まで削平されていた。遺跡全体で考えると東区は現状道路の真下，北区も道路の真下の可能性がある。この道路が起点になって北から西側が削平されていた。その時期は考古学的な事象で考えてみたい。この古代の遺構の竪穴建物が10世紀初頭で廃絶すると中世の15世紀までは考古学的に検証できない。1 A B・2 A B・10 A B号溝跡は一連の溝で東に開口部がある。これらの溝はA号溝が新しく，B号溝が古い。掲載した2号溝跡の資料には古代の10世紀代の須恵器や灰釉陶器がB号溝，1690～1780年の唐津銅緑釉皿がA号溝から出土した。遺跡出土遺物一覧からは掲載遺物も含めて1 A号溝から土師質土器2点，瓦質土器1点，陶器5点，磁器1点が，1 B号溝跡から土師器10点，須恵器10点が出土している。2 A号溝跡からは土師質土器1点，瓦質土器7点，陶器7点，煙管などが，2 B号溝跡からは土師器47点，須恵器31点が出土した。10 A号溝跡からは土師質土器6点，瓦質土器1点，陶器21点，磁器2点が10 B号からは土師器30点，須恵器24点が出土した。この状況から1・2・10 B号溝跡の埋め戻し段階で東区の北側と南区の西側が削平された可能性が高い。1・2・10号溝跡からは江戸初期の遺物が出土することから，A号溝は16世紀以前と考えられ，B号溝はさらに古くなる。この遺跡の中世の資料で最も古いのは11号溝跡から出土した，常滑焼の甕で15世紀後半に位置づけられる。他の中世の遺構は先の重複関係から土坑・粘土貼土坑・掘立柱建物跡へと変遷している。3号地下式坑からは1490～1530年代の瀬戸緑釉小皿が出土した。これらの事から，遺跡全体の様相は15世紀中葉頃に開始され17世紀初頭頃には溝の本来の意味は失われていったと考えられる。その間の15世紀末から16世紀初頭の時期に大規模な土木工事が行われたと推定したい。



第109図 壁面遺物出土遺物実測図

第61表 壁面出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	重さ (g)	色調	胎土	焼成	成形・整形手法	出土位置 残存率 (%)	推定産地 推定時期
1	須恵器	坏	[13.0]	—	(3.9)	(11.0)	5Y7/2 灰白	石英粒微量, 長石粒少量, 小礫, 針状鉱物 微量	普	輪積成形後ロクロ整形	ⅢB層 5%	木葉下窯跡群 9世紀代
2	須恵器	高台付 坏	—	[9.0]	(2.2)	(40.0)	2.5Y6/2 灰黄	石英粒微量, 長石粒少量, 針状鉱物中 量, 黒色砂粒 中量	普	輪積成形後ロクロ整形, 底部回転ヘラ削り後 付け高台	ⅢB層 10%	木葉下窯跡群 9世紀代
3	須恵器	蓋	[18.9]	—	(2.4)	(40.0)	10YR7/1 灰白	石英粒・長石 粒少量, 針状 鉱物微量	良	輪積成形後ロクロ整形, 返り部縁部は丸味を 帯びる	ⅢB層 5%	木葉下窯跡群 8世紀代
4	須恵器	高台付 盤	—	[10.2]	(2.9)	(42.0)	10YR6/2 灰黄褐	石英粒微量, 長石粒少量, 針状鉱物微細 微量	良	輪積成形後ロクロ整形, 底部回転ヘラ削り後 付け高台	ⅢB層 5%	木葉下窯跡群 9世紀代

### 第3節 古代の景観

#### 1 出土遺物の年代観 (第110～112図)

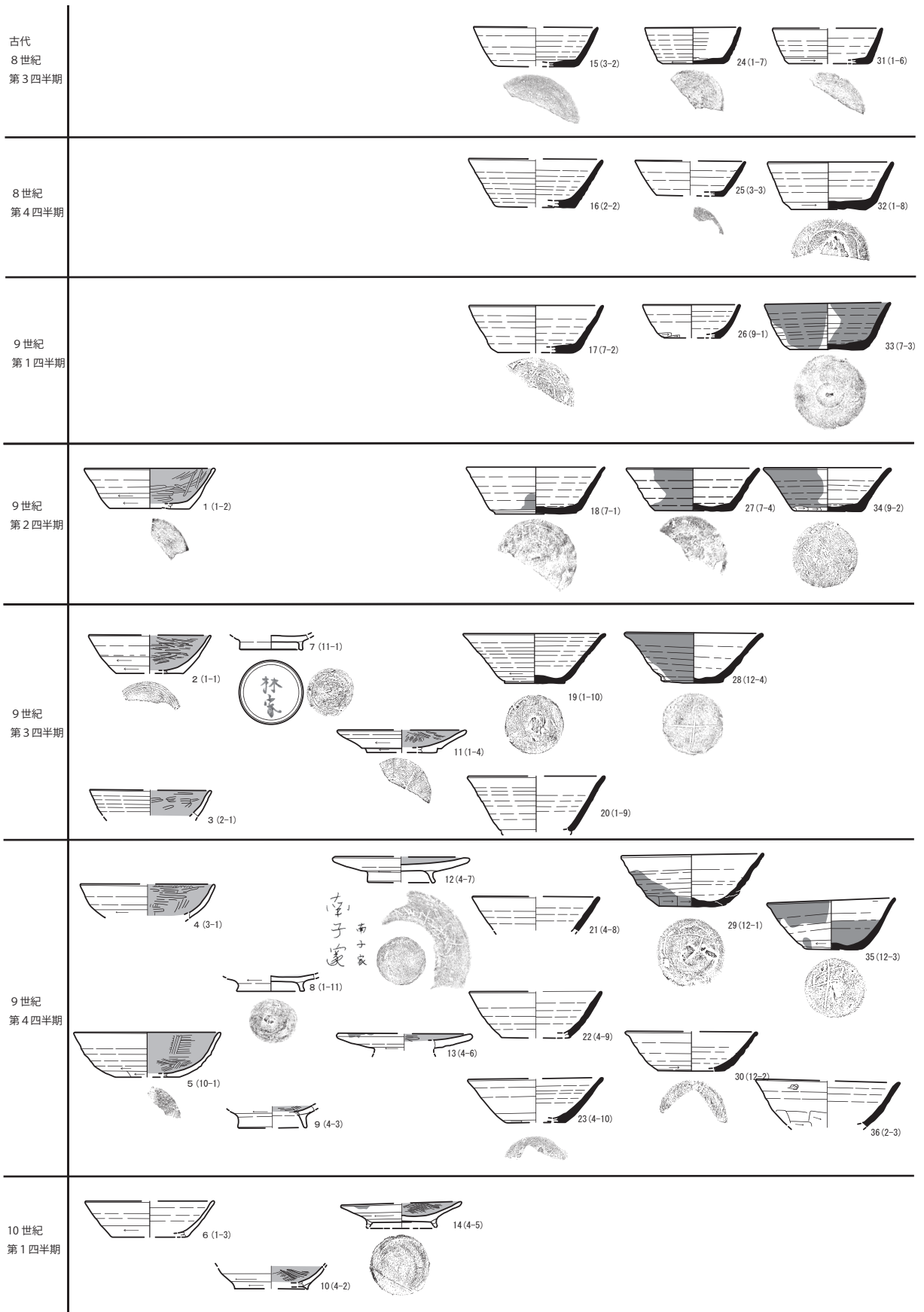
古代の遺構は竪穴建物跡11軒, 掘立柱建物跡4棟, 溝4条, 井戸1基を確認した。これらの遺構と遺跡を理解するために, まず竪穴建物出土遺物を出土状況に合わせて変遷を考えた。出土地点が貼床下からの遺物と, 竈芯材, 竈火床部, 竈周辺, 床直, 下層, 中層, 上層との接合関係などを踏まえると, 考古学的に貼床下と竈芯材は同時, あるいは貼床下が古くなる。他も同様に想定して編年表を作成したが, あくまでも指針とするもので完全なものとは考えていない。また, できうる限り須恵器の生産窯や胎土による土師器の分別を行った。須恵器・土師器とも胎土Aは金雲母を含むもの, 胎土Bは白雲母を含むもの, 胎土Cはどちらも含まないものとした。

1～6は土師器の坏で紐作りロクロ整形, 平底で内面黒色処理, 底部からの立上りが直線的なものから内湾するものに変化する。最終的にはいわゆるロクロ土師器になる。2・3は胎土B, 1・4～6は胎土Cである。7～10は高台坏で直立する低い高台から「ハ」の字に開く高い高台になる。最後は高台が底部でなく体部下端に付く低い高台になる。7・8は胎土C, 9・10は胎土Bである。11～14は土師器皿で11は削り出し高台で, 12・13は「ハ」の字に開く高い高台で体部の器厚が厚い。14は体部下端に低い高台が付く。11・13・14が胎土B, 12が胎土Cである。

15～36は須恵器の坏で15～24は木葉下窯跡群と推定される。器厚が厚いものから薄くなる。器形は箱型のものから逆「八」に変化する。体部の立ち上りは外湾から内湾し外傾する。その後外湾ないし外傾し口縁部が外反する。いわゆる端反碗(坏)である。9世紀第3四半期頃の時期に底部切離しの時に底部を柱状に残す特徴がある。柱状高台まではいかないが底部突出しである。その後は内湾し口縁部が僅かに外反する。25～27・32は小形の坏で25～27は木葉下窯跡群であろう。25は15とやや器厚が厚く箱型に近いのでこの時期に入れた。

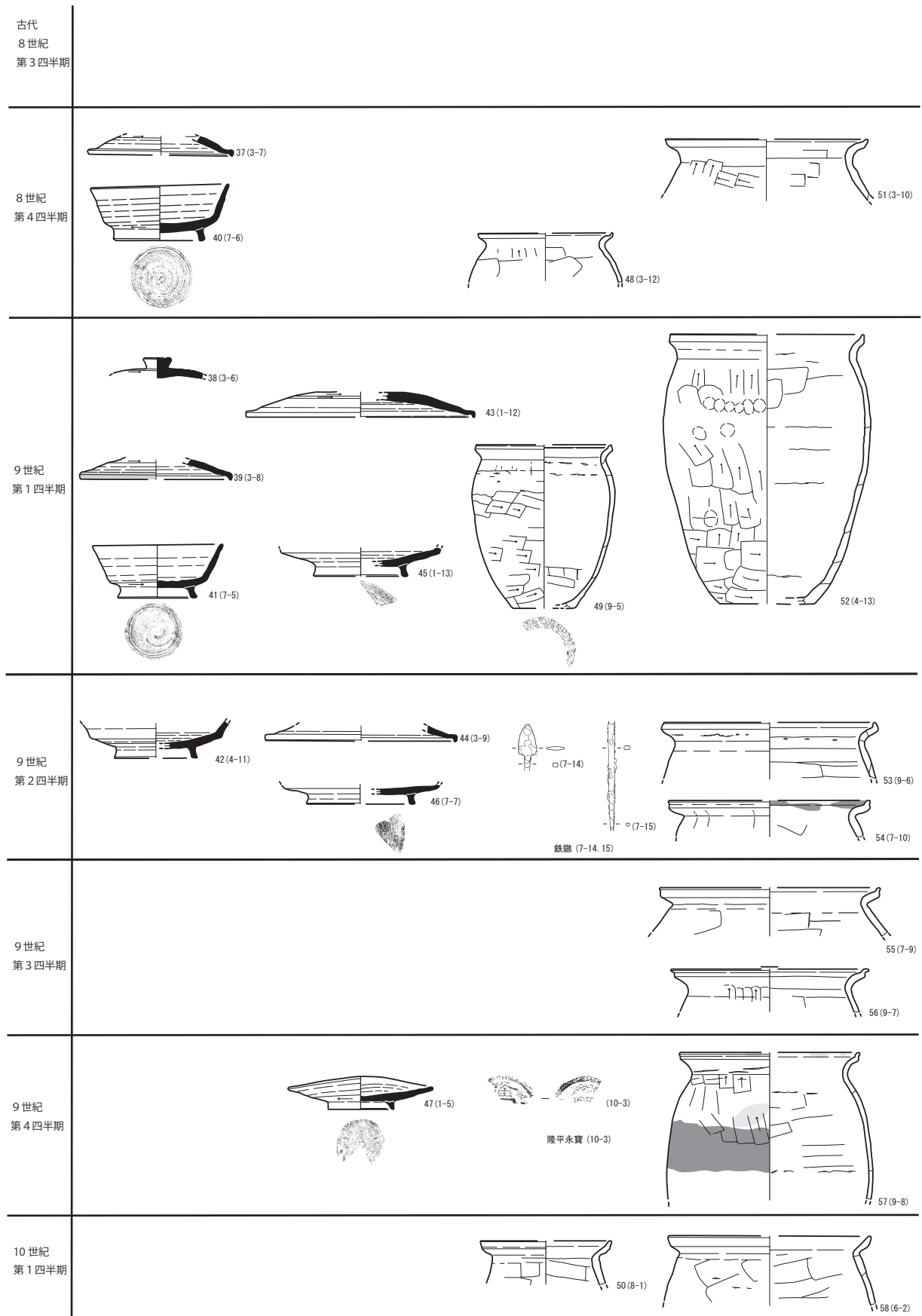
28～36は胎土Cとした一群で木葉下窯跡群ではない。28～31は外反から端反へ, 33～36も外反から端反へ変化する。28～30・35はロクロ目の凹凸が強く内底面の中央が突出する特徴がある。益子窯跡群産と推定する。32～34は胎土が均一で長石が多く, 質感が重い一群で堀ノ内窯跡群産と推定する。31は胎土が粘土質で酸化焰焼成である。三叢山媚麓群窯跡群産と推定する。36は胎土に長石を多量に含み, 体部下半までヘラ削りしている。三和窯跡群産と推定する。37～42は高台付坏とそれに伴う蓋である。量的の少ないが体部は外傾するものから外反するものへ, 高台は直立気味のものから「ハ」字に開き外端が外方に突出するものへ, 高台の付位置が徐々に内側にはいる。蓋は変化が乏しいが受部を意識し端部は逆三角形になる。43～44は高台付盤で高台は高台付坏と同じであるが, 蓋は端部がやや伸び二等辺三角形になる。47は高台付皿である。

48～61は土師器の常総型甕である。48～50は小形, 51～58は中形～大形, 59～61は肩の張りが少ない

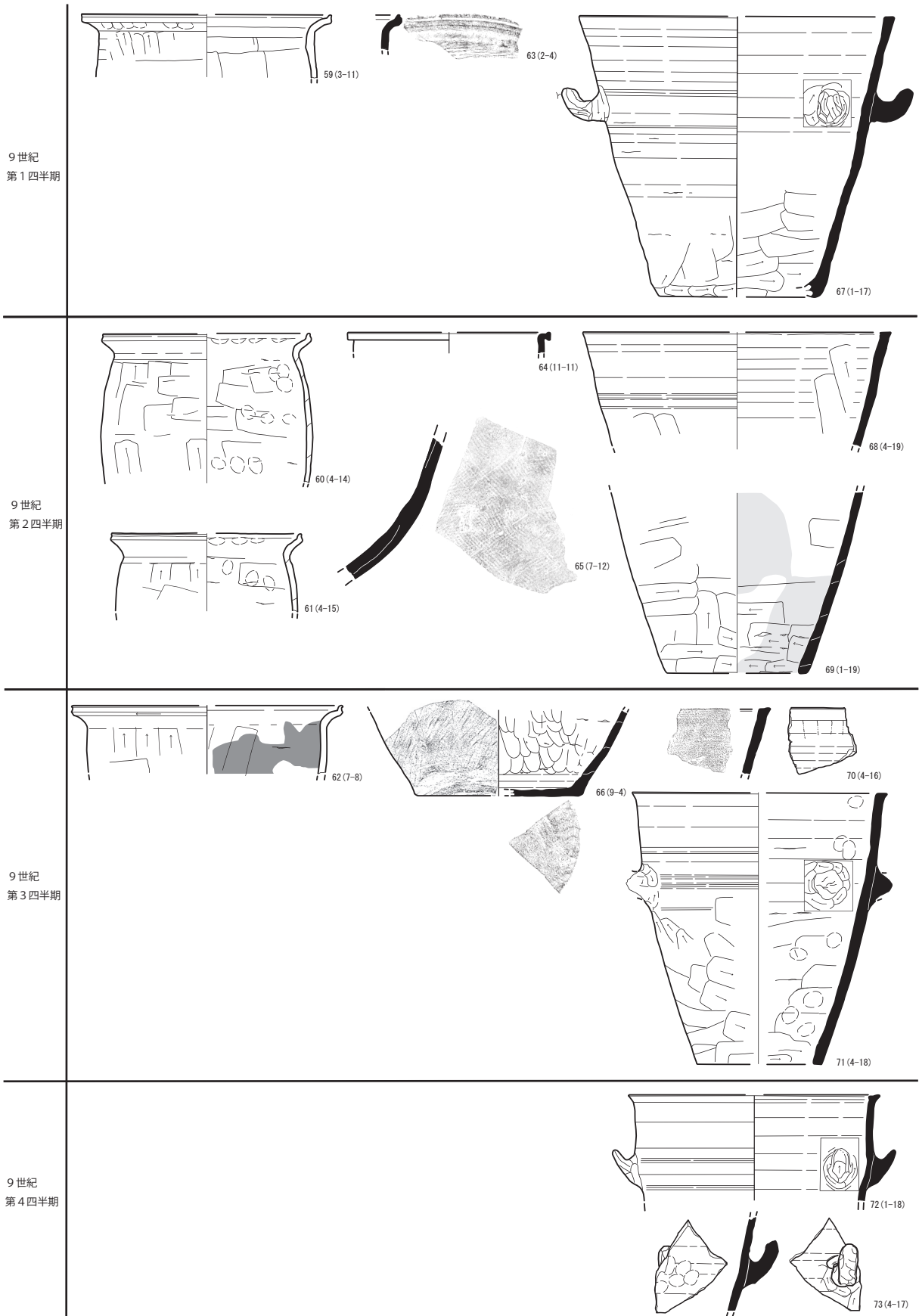


第110図 古代遺物変遷図(1)

第5章 まとめ



第111図 古代遺物変遷図(2)



第112図 古代遺物変遷図(3)

## 第5章 まとめ

ものである。常総型甕の特徴である口唇部の摘み上げは、外方に引出すものから直立するもの内傾するものに変化し、この時期に外面の沈線が最も明瞭になる。その後また直立気味になるが外面稜線が外湾するようになる。頸部は「コ」の字状のものから「く」字状になり徐々に屈曲が強くなる。最後は外反し口唇部は初期の形態に似る。体部は3分の2上半が縦へら削り、3分の1下半が横へら削りである。本跡では見られないが古い遺物は体部下半に細いへら磨きから全体をへら削りしているようである。50・51の甕は前段階の口縁部形態の変化が著しい。この間に何形式かあるのか、実態なのかは今後検討していきたい。

63～72は須恵器で63～66は鉢と甕であるが、64は甕の底部近くであるが器厚が2.3cmと厚い大形甕である。焼台の痕があり丸底である。推定で最大径・高さとも100cm近いと思われる。胎土から猿投窯跡群産と推定される。67～73は甕である。第1号竪穴建物跡からは67・69は竈芯材、72は竈付近から出土した。4号竪穴建物跡の68は竈と付近の物が接合、73は右袖部前から出土で使用していた可能性がある。69・72か下層から出土した。口唇部が平坦のものから内外に僅かに突出するものに、さらに外方のみ突出するものから内外に突出するが外側に強く突出するものになる。把手は鍵形のものと同角型のものがある。また、上半にはロクロ目が残るが把手の取付位置を強調しているようである。

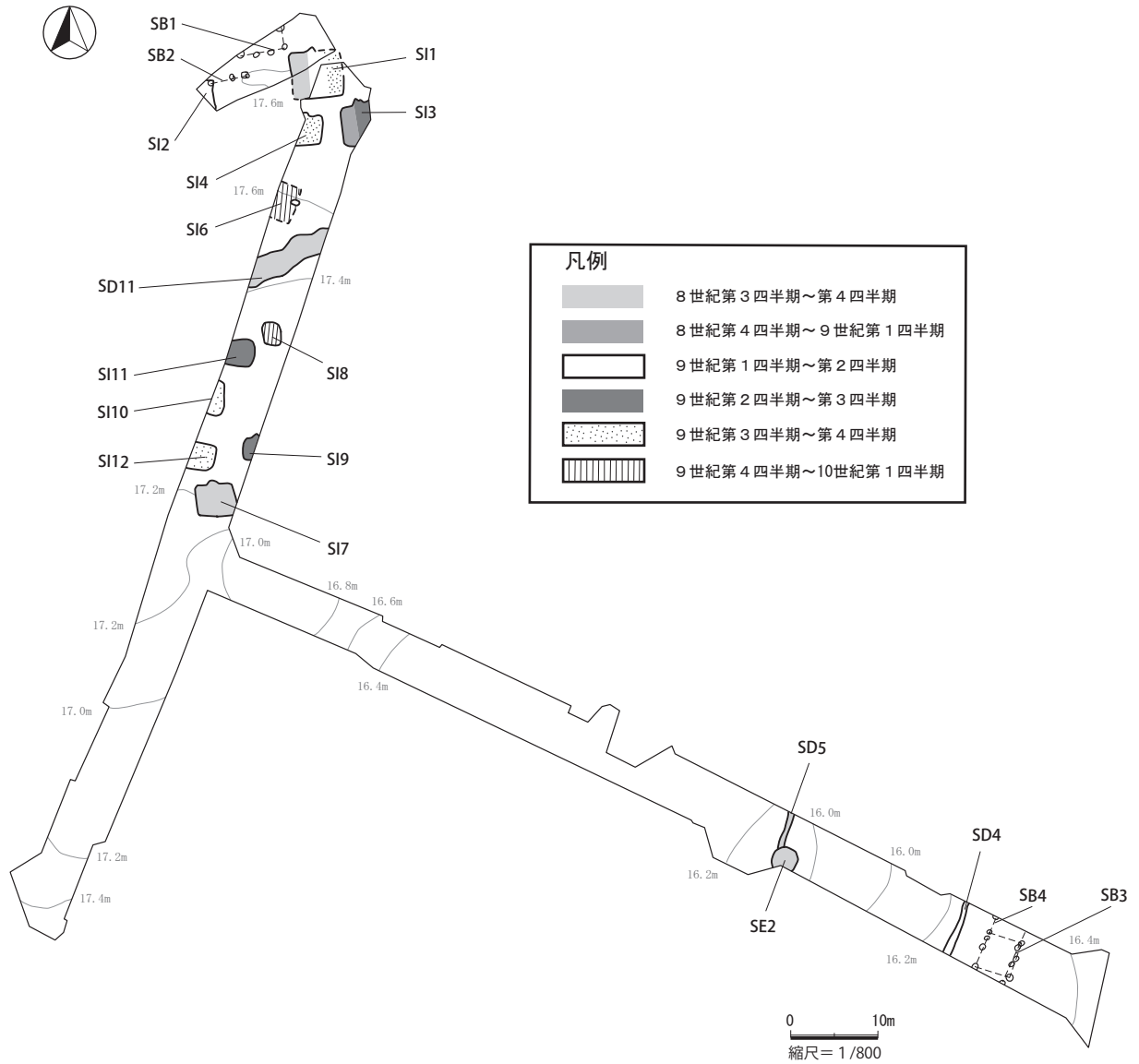
以上、遺跡を理解するために時間軸として、大まかな各種の土器の流れを列挙した。

### 2 古代の遺構変遷（第113図）

古代の遺構は竪穴建物跡11軒、掘立柱建物跡4棟、溝4条、井戸1基を確認した。第1号竪穴建物跡は床面が2次期、竈が3次期、出土遺物は8世紀後半から10世紀初頭まで出土している。2回の建て替えが想定され創建は8世紀第3四半期、1次建て替えは9世紀第1四半期、2次建て替えは9世紀第3四半期と想定すると、居住時期は8世紀第3四半期～第4四半期、9世紀第1四半期～第2四半期、9世紀第3四半期～第4四半期になる。第2号竪穴建物跡の出土遺物は9世紀第1四半期～第4四半期で、居住時期は9世紀第1四半期～第2四半期と推定される。第3号竪穴建物跡は竈の造り替えを確認した。出土遺物は8世紀第4四半期～9世紀第4四半期まで出土している。1回の改築が想定され、居住時期は8世紀第4四半期～9世紀第1四半期、改築後は9世紀第2四半期～第3四半期と推定される。第4号竪穴建物跡の建替えは確認されないが、出土遺物は9世紀第2四半期～10世紀第1四半期で、居住時期は9世紀第3四半期～第4四半期と推定される。第6号竪穴建物跡は竈が遺存し、東竈を確認した。出土遺物は9世紀第4四半期～10世紀第1四半期で居住時期は同時期と推定される。第7号竪穴建物跡の出土遺物は8世紀第1四半期～9世紀第3四半期で、居住時期は9世紀第1四半期～第2四半期と推定される。第8号竪穴建物跡は床面と東竈を確認した。出土遺物は9世紀第4四半期～10世紀第1四半期で、居住時期も同時期と推定される。第9号竪穴建物跡の出土遺物は9世紀第1四半期～第4四半期で、居住時期は9世紀第2四半期～第3四半期と推定される。第10号竪穴建物跡は床面を2面確認した。出土遺物は9世紀第3四半期～第4四半期で、居住時期も推定される。第11号竪穴建物跡の出土遺物は9世紀第1四半期～第3四半期で、居住時期は9世紀第2四半期～第3四半期と推定される。第12号竪穴建物跡の出土遺物は9世紀第3四半期～第4四半期で居住時期も同時期と推定される。

掘立柱建物跡で時期が確定できる建物は、9世紀第2四半期の第2号竪穴建物跡を掘り込んでいる第2号掘立柱建物跡である。須恵器坏の小片が出土しており9世紀第3四半期以降であろう。第1・3・4号掘立柱建物跡の出土遺物も9世紀以降である。

第4A・B号溝跡からは須恵器の坏と常総型甕の小片が出土しており9世紀第3四半期以降と推定される。第5号溝跡からは遺物の出土は無いが、第2号井戸跡に掘り込まれている。第2号井戸跡からは鬼高系の甕と9世紀後半の土師器の高台付坏が出土した。8世紀前半に開削され、9世紀後半には廃棄されたと推定される。第11号溝跡からは須恵器の坏・蓋・高台付盤・甕が出土し9世紀代と推定される。また、中世の15世紀後半



第 113 図 古代遺構配置図

第 62 表 古代遺構変遷表

遺構名	時期	8 C2	8 C3	8 C4	9 C1	9 C2	9 C3	9 C4	10 C1
第 1 号堅穴建物跡									
第 2 号堅穴建物跡									
第 3 号堅穴建物跡									
第 4 号堅穴建物跡									
第 1 号掘立柱建物跡									
第 2 号掘立柱建物跡									
第 6 号堅穴建物跡									
第 7 号堅穴建物跡									
第 8 号堅穴建物跡									
第 9 号堅穴建物跡									
第 10 号堅穴建物跡									
第 11 号堅穴建物跡									
第 12 号堅穴建物跡									
第 3 号掘立柱建物跡									
第 4 号掘立柱建物跡									
第 4 号溝跡									
第 5 号溝跡									
第 11 号溝跡									
第 2 号井戸跡									

出土遺物年代  
使用と建替年代

## 第5章 まとめ

の常滑焼の甕や石臼・砥石が出土した。中世まで利用されていたと推定される。中世の遺構と判断した第1号道路状遺構と第1号集石遺構も第11号溝跡の上層に位置している。特に第1号集石遺構から出土した、顎B面施文三重弧文字瓦、須恵器の盤、口辺部に波状文ある甕や器厚が2.1cmと厚く猿投窯と推定される甕が出土した。この一群は本跡の中で最も古く、8世紀第2四半期で11号溝跡に帰属すると推定される。

### 第4節 中世の景観

#### 1 出土遺物の年代観（第114・115図）

中世の出土遺物は遺構に対して非常に少ない。遺構の性格を表出しているのであろう。中世の遺物としたが、遺構は15世紀末から17世紀前半までの時期と推定され、埋没過程や最終廃棄年代の19世紀代の遺物を含めた。

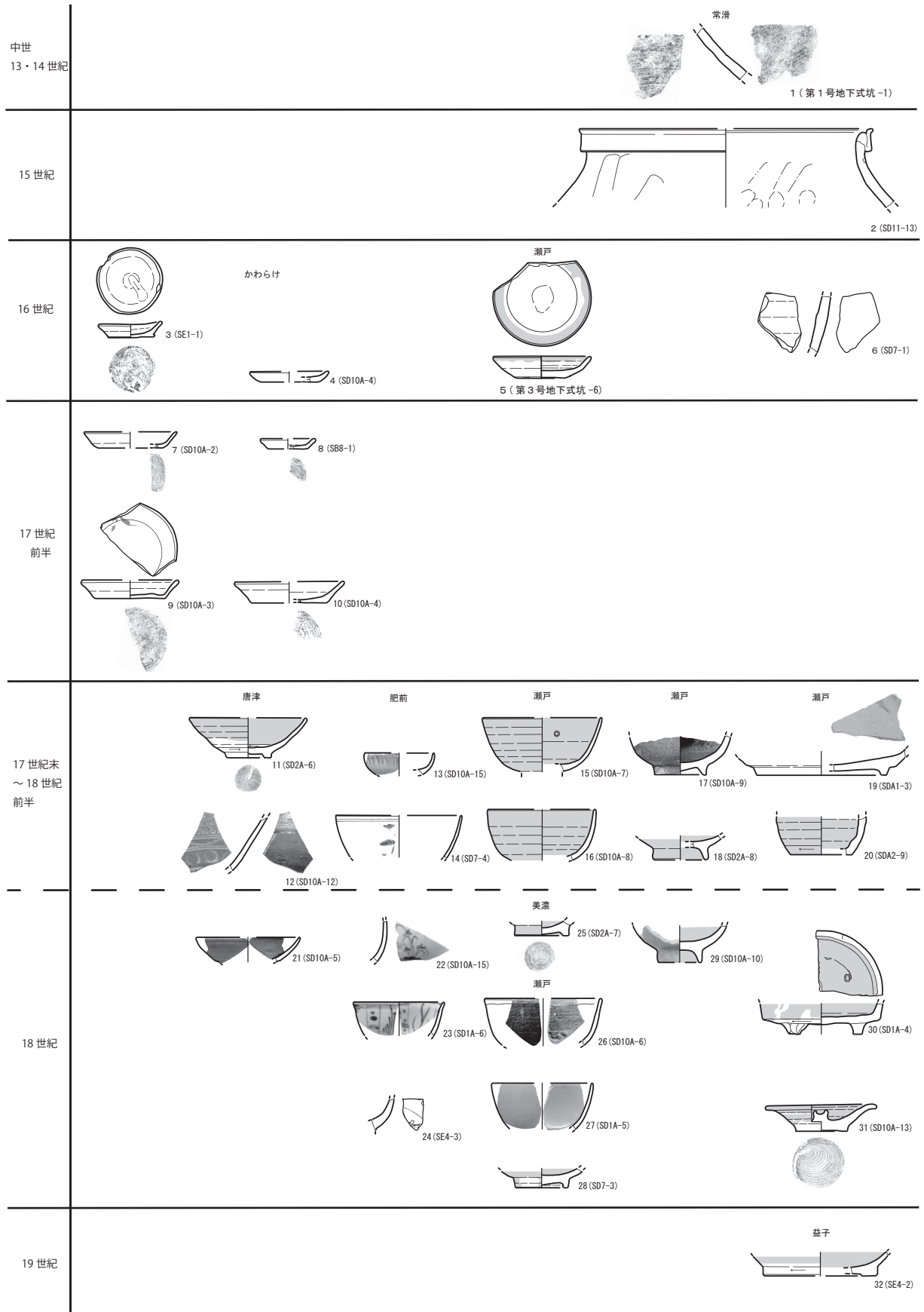
1は第1号地下式坑から出土した常滑焼の甕の肩部片で13・14世紀代と推定する。2は第11号溝跡から出土した常滑焼の甕の口辺部で15世紀後半であろう。3・4・7～10はかわらけで、3・4は中世的なかわらけである。3は底部が柱状で内面に指ナゲ痕がある。4は小皿で底部が丸味を帯びる。7～10は近世的なかわらけでクロ目目が均一で中世かわらけよりやや硬質に焼成される。7・8の直線的に立ち上がるものから、9・10の外反するものになる。3が第1号井戸跡、8が第8号掘立柱建物跡、4・7・9・10が第10A号溝跡から出土した。5は第3号地下式坑から出土した瀬戸焼の縁釉小皿で1490～1530年代であろう。6は第7号溝跡から出土した常滑焼の甕の体部片で16世紀代であろう。11・12・21は唐津焼である。11・21は銅緑釉碗で、11は1690～1780年代、21は1780～1860年代、12は三島手大皿で1690～1780年代であろう。13・14・22～24は肥前系の磁器で、13は雨垂れ文の小杯で1690～1780年、14は草花文の丸碗で18世紀前半、22は草花文の丸碗で18世紀代、23は草花文の蓋付端反碗で18世紀後半、24は染付丸碗で18世紀代であろう。15～20・26～31は瀬戸焼、25は美濃焼である。15・16は灰釉丸碗で15は1670～1700年、16は1700～1730年、17は鉄釉丸碗で1660～1680年、18は灰釉丸碗で1670～1700年、19は笠原鉢で17世紀第3四半期、20は鉄釉徳利で1670～1700年、25は美濃焼の鉄釉丸碗で1670～1700年、26は尾呂茶碗で1700～1730年、27は灰釉丸碗で17世紀後半から18世紀前半、28は鉄釉丸碗で18世紀前半、29は灰釉丸碗で1720～1750年、30は香炉で18世紀第1四半期、31は鉄釉双耳壺の蓋で18世紀代であろう。32は益子焼の鉢で19世紀前半であろう。33・34は信楽焼で33は灰釉小杯で18世紀前半、34は鉄釉茶壺で18世紀代であろう。35は瓦質の内耳土鍋で16世紀代であろう。36は陶器の播鉢で瀬戸窯と思われる。1700～1730年代と推定される。37～40は瓦質の火鉢で18世紀代であろう。42～44は瓦質で、42は焙烙、43は火鉢で宝珠文の印刻がある。44は火消壺で19世紀代であろう。

1・2の常滑焼は伝世、かわらけと5の縁釉小皿・35の瓦質土鍋は中世遺構の開基年代、17世紀末から19世紀代の陶磁器・瓦質土器はその間の遺構の衰退から埋没過程の廃棄年代を示していると推定される。

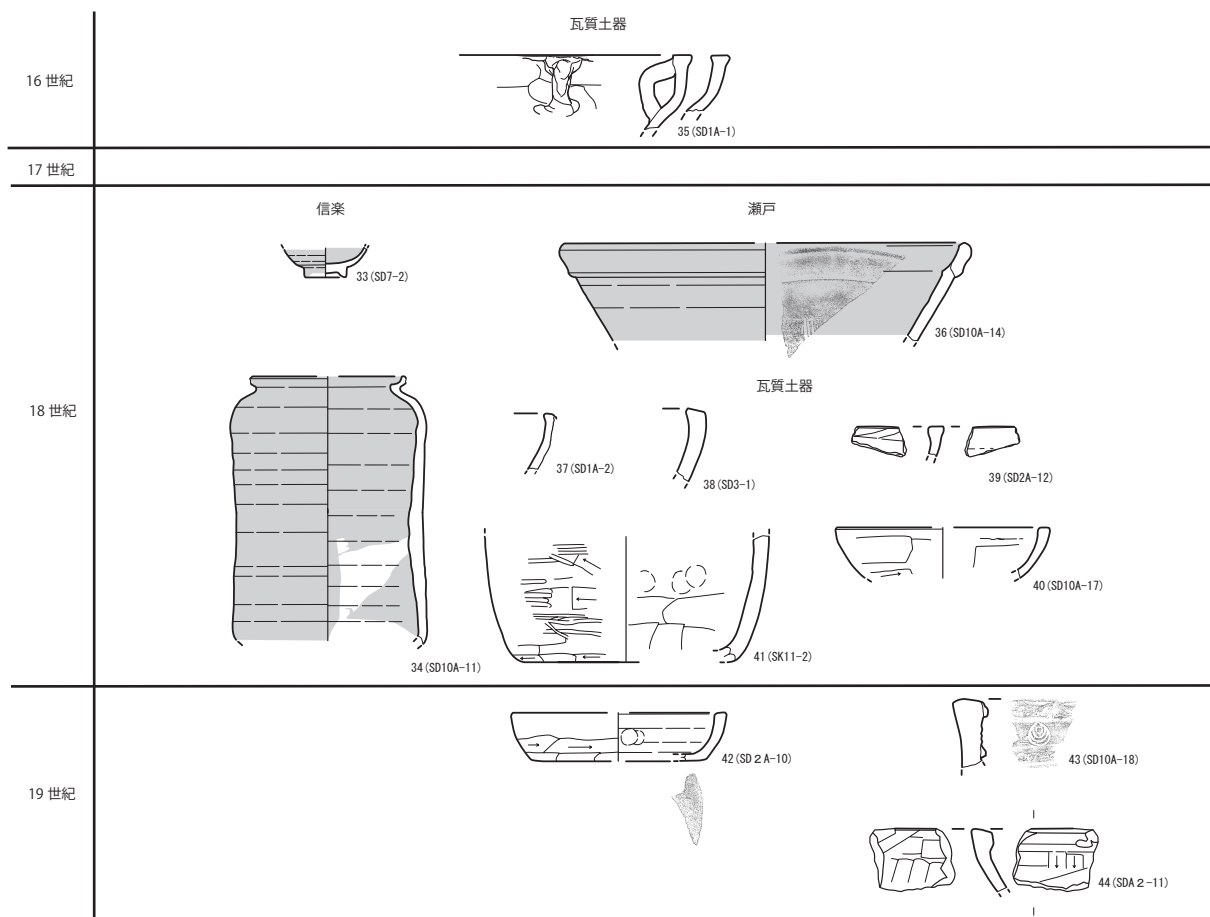
#### 2 中世の遺構変遷（第116・117図）

中世の遺構は第1A・B、2A・B、10A・B号溝跡で同一の遺構で区画溝になる。他に第3・7号溝跡、第1号道路状遺構、第1号集石遺構、第1・3・4号井戸跡、第1・2・3号地下式坑、第5・6・7・8A・8B・9号掘立柱建物跡、第1・2・3・4号粘土貼土坑、第1・2・7～18・20・23号土坑である。この内、遺物が出土しているのは第1A号溝の16世紀第3四半期～18世紀第4四半期まで、第2A号溝跡は16世紀第3四半期～19世紀第4四半期まで、第10A号溝跡は17世紀第3四半期～18世紀第4四半期まで、第7号溝跡は15世紀第1四半期～18世紀第2四半期まで出土している。第1号井戸跡からは16世紀後半のかわらけ、第4号井戸跡からは16世紀後半から16世紀第3四半期と思われる土器と、期間をおき18世紀～19世紀前半の陶磁器が出土した。第1号地下式坑からは伝世したと思われる、13・14世紀代の常滑焼の肩部片が出土した。第3号地下式坑からは瀬戸縁釉小皿が出土し、1490～1530年の年代が与えられる。第8B号掘立柱建物跡か





第114図 中・近世遺物変遷図(1)

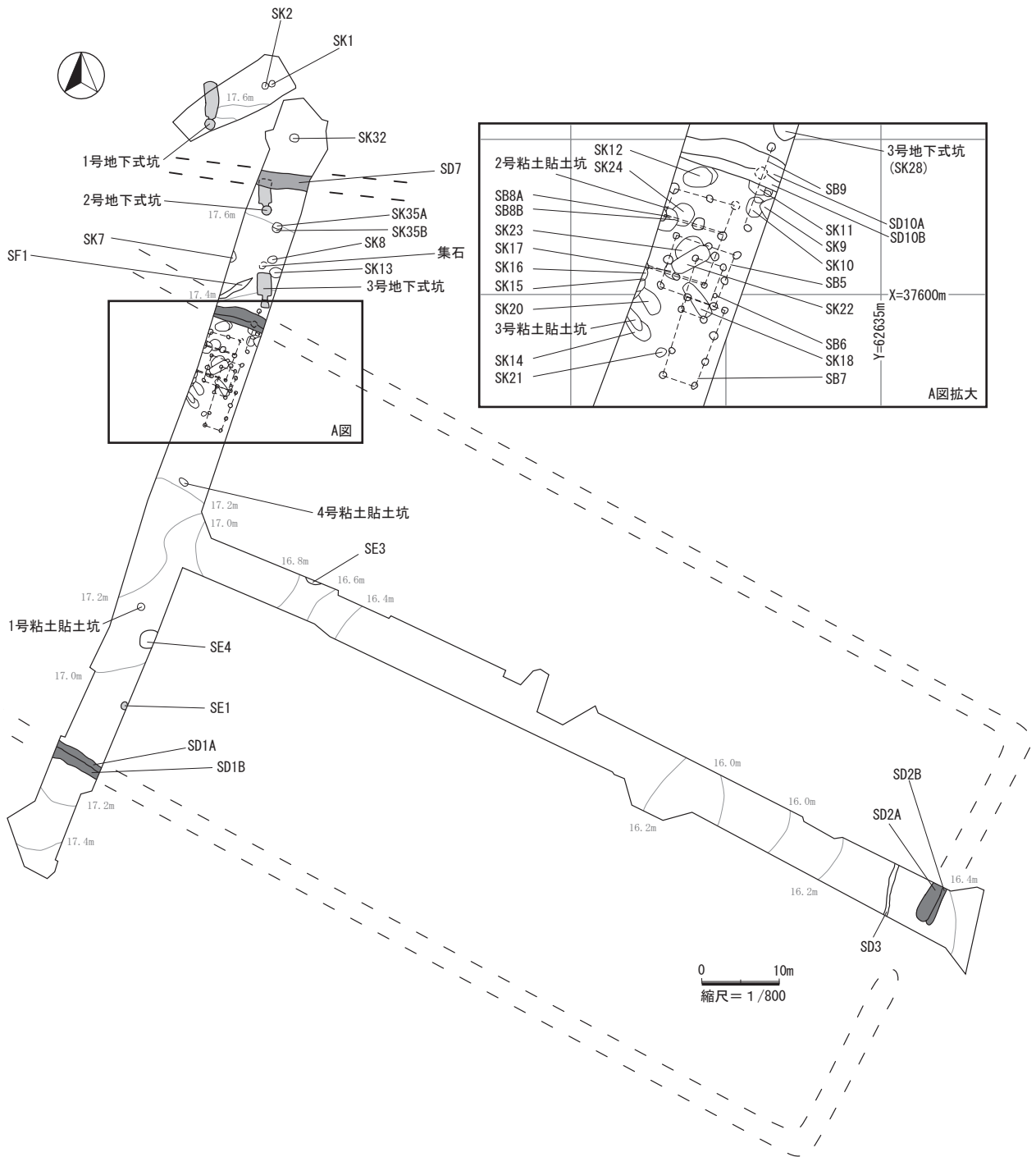


第115図 中・近世遺物変遷図 (2)

らは17世紀初頭のかわけが出土した。第11号土坑からは18世紀代の瓦質火鉢が出土した。

遺構の重複関係からは第2号粘土貼土坑は第24号土坑を掘り込み、第8A・B号掘立柱建物跡に掘り込まれている。また、EFの3・4区の土坑は全て掘立柱建物跡に掘り込まれている。このことから土坑・粘土貼土坑・掘立柱建物跡へと変遷した可能性がある。区画溝(第1A・B, 第2A・B, 第10A・B)は軸が東に振れているが、南北は外辺で約63.6m, 内辺で約58.8m, 東西は120m以上である。この区画内に含まれる遺構は土坑・粘土貼土坑と掘立柱建物跡, 井戸跡であるが、第9号掘立柱建物跡は区画溝を跨いでいる。区画外には地下式坑と若干の土坑である。地下式坑の軸はほぼ北を向いている。第7号溝跡の東西軸は若干の東に振れている。第1・2・10号溝区画溝はA号が新しくB号が古い, 古い時期のB号溝から中近世の遺物の出土は無く, すべて古代の須恵器である。このことはB号溝からA号溝に改修時期に先の記述したように大規模な土木工事が行われたものと思われる。調査区の東区の北辺と北区から南区の西辺が削平された。西辺ではV層上面まで, 北辺ではIV層まで削平されていた。この工事のため古代の竪穴建物の土器を含む土で埋め戻されたと推定する。土木工事前の段階では北区北半と中央区付近では標準層序からも1m以上の比高差があった。そのことが当時窪みであった中央区に井戸を, 頂部であった北区北半に土坑や地下式坑を占地したのであろう。調査時でも井戸は2mで湧水があるが, 地下式坑は3m下げても湧水はなかった。

遺物と遺構の重複関係から各遺構の年代を想定してみたい。第7号溝跡が16世紀前半, 次に区画溝B号溝, 時をおかずA号溝になり, 土坑と粘土貼土坑が共伴する。この遺構までが1490年以前と推定する。地下式坑は1490年以降で井戸・掘立柱建物と共存する。道路状遺構も建物群に向かう道で有ったと推定する。



第 116 図 中世遺構配置図

## 第5節 近世・近代の景観

### 1 出土遺物の年代観 (第 118 図)

1 はかわらけで 17 世紀前半であろう。2～4 は肥前焼の磁器で 2 は染付の猪口，3 は染付の皿，4 は型作り染付の水滴で 18 世紀代であろう。5・6 は肥前焼の磁器で，5 は雲文の端反碗，6 は菊花文の筒丸形湯呑茶碗で 1780～1860 年である。7 は瀬戸焼の水鉢で 1800～1820 年ある。8 は明石播鉢で 19 世紀前半であろう。9～12 は松岡焼で，9・10 は土灰釉の鉢，12 は鉄釉小壺，12 は鮫肌土瓶の注口で 19 世紀後半であろう。

第5章 まとめ

第63表 中世遺構変遷表

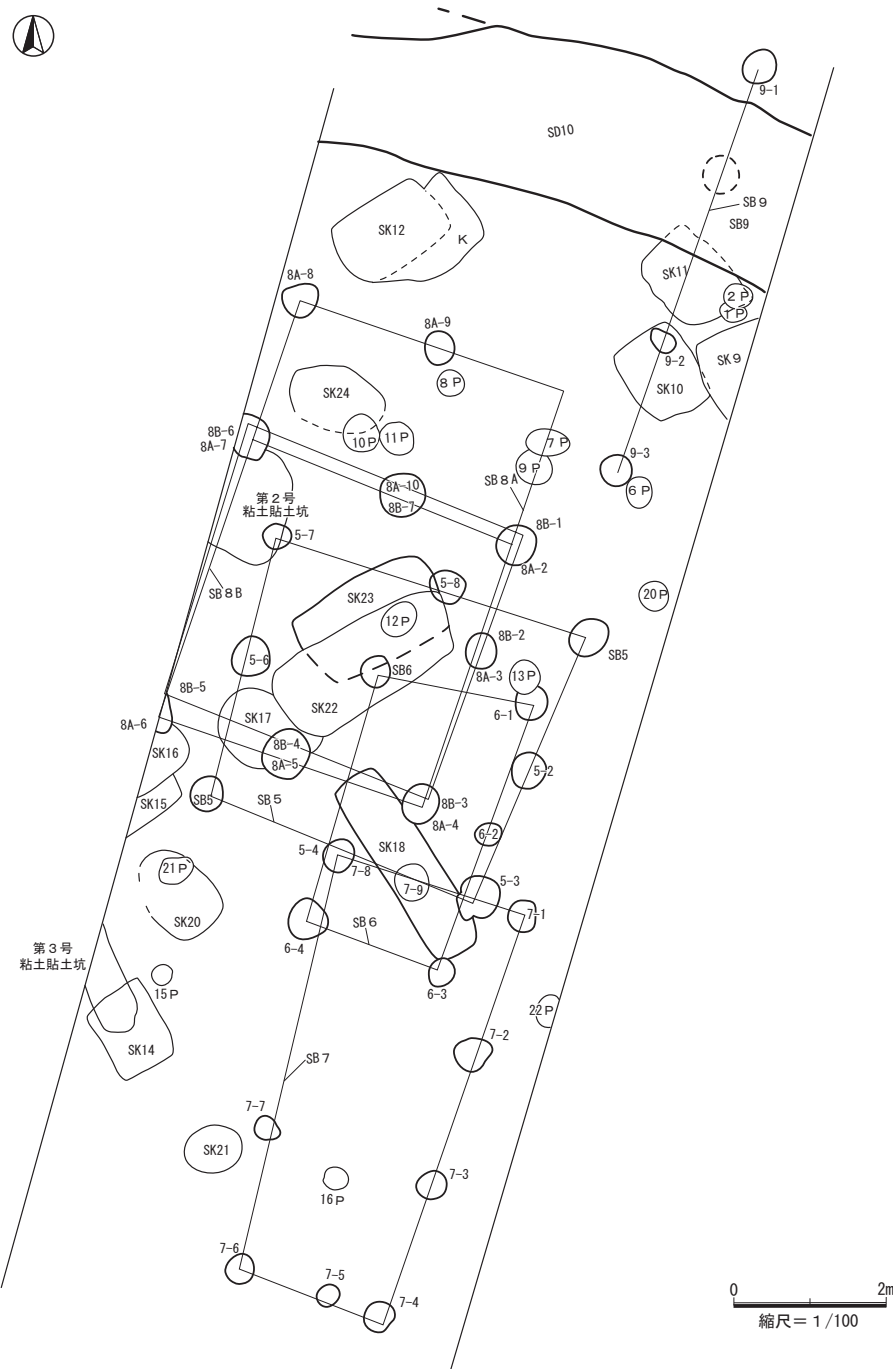
遺構名	1400	1425	1450	1475	1500	1525	1550	1575	1600	1625	1650	1675	1700	1725	1750	1775	1800	1825	1850	
第1 A・B号溝跡																				
第2 A・B号溝跡																				
第3号溝跡																				
第7号溝跡																				
第10 A・B号溝跡																				
第1号道路状遺構																				
第1号集石遺構																				
第1号井戸跡																				
第3号井戸跡																				
第4号井戸跡																				
第1号地下式坑																				
第2号地下式坑																				
第3号地下式坑																				
第5号掘立柱建物跡																				
第6号掘立柱建物跡																				
第7号掘立柱建物跡																				
第8 A号掘立柱建物跡																				
第8 B号掘立柱建物跡																				
第9号掘立柱建物跡																				
第1号粘土貼土坑																				
第2号粘土貼土坑																				
第3号粘土貼土坑																				
第4号粘土貼土坑																				
第1号土坑																				
第2号土坑																				
第7号土坑																				
第8号土坑																				
第9号土坑																				
第10号土坑																				
第11号土坑																				
第12号土坑																				
第13号土坑																				
第14号土坑																				
第15号土坑																				
第16号土坑																				
第17号土坑																				
第18号土坑																				
第20号土坑																				
第22号土坑																				
第23号土坑																				

出土遺物年代 

13は大堀相馬焼の型作り拳骨茶碗で、黒色砂粒を胡麻状に混ぜている。19世紀後半であろう。14は益子焼の行平鍋の蓋で19世紀後半であろう。全て土坑に伴う遺物である。

2 近世・近代遺構の変遷 (第119図)

近世遺構で最も特徴的な遺構は植木の植替えの土坑である。調査区内ではF4区に集中する。第38～42号土坑で重複から2次期ある。19世紀前半から後半かけて植替えが行われたと推定される。第19・21・43号土坑も植木の植替え痕と考えられるが、近世の植替え土坑が堅堀に対して、近代の植替え土坑は袋状になるようである。第21号土坑は植栽痕の根痕である。第29・30・32・35・36号土坑は近代の農耕用の土坑と推定される。第6・8号溝は近世から近代の根切溝、第9号溝は農耕用の溝で近代であろう。GHの3・4区には列状の畝痕が確認された。この様相からDEFの3・4区に幕末から明治にかけての母屋があり、植木のある庭、北側に根切溝、庭の南に畑があったことが推定される。



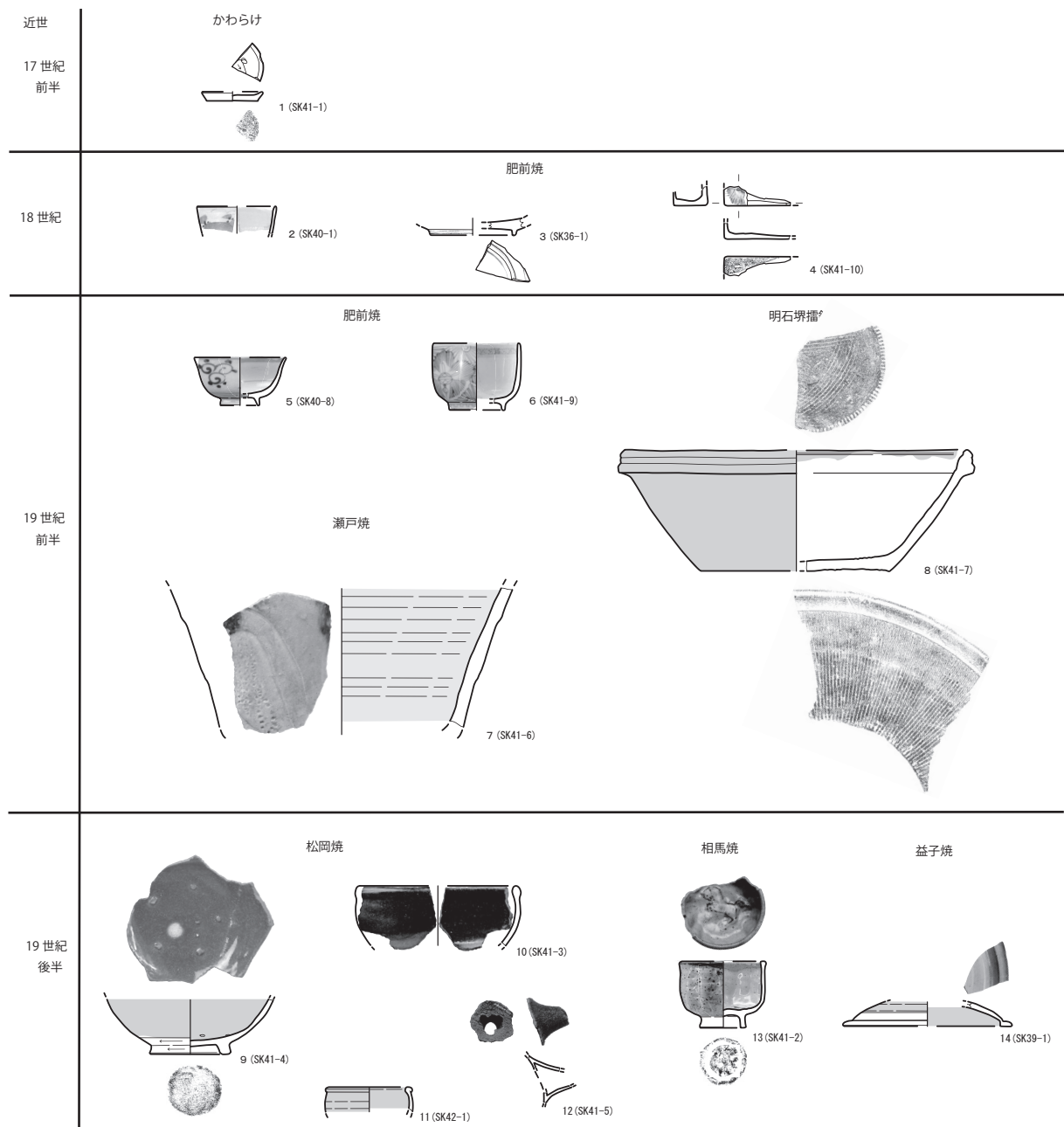
第 117 図 中世掘立柱建物跡遺構配置図

## 第6節 総括

今回の発掘調査において確認された遺構を概観してきた。縄文土器は数点出土しているが、確認した遺構は、古代の大溝・竪穴建物跡・掘立柱建物跡、中世の区画溝の中に存在する掘立柱建物跡や土坑・粘土貼り土坑・井戸跡と区画溝の外側に展開する地下式坑、近世・近代は江戸時代末期から明治時代前期にかけての植木の植替え土坑である。

広範な東前原遺跡の一部の調査であるが、調査で得られた成果を考えてみたい。古代の大溝（第11号溝跡）は東前原遺跡群の数か所で確認され連結が予想されていたが、想定された位置とは相違していた。この大溝は古代に開削され、何度かの硬化面が確認され中世まで道状遺構（堀底道）として利用されていた。少なくとも

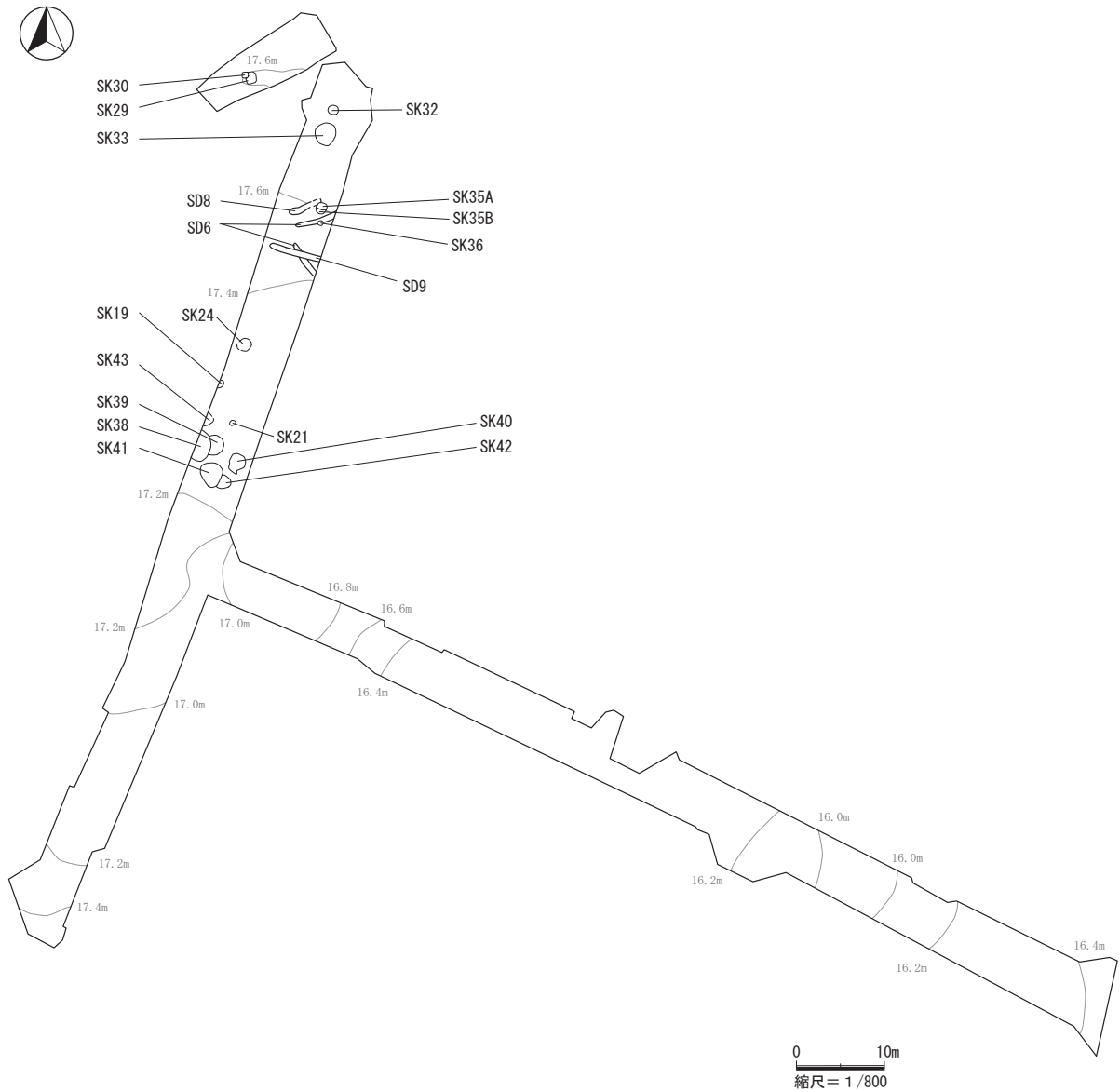
第5章 まとめ



第118図 近世遺物変遷図

常滑焼の甕が上層から出土し、15世紀後半までは利用されていた。出土須恵器からは9世紀第3四半期頃には廃棄埋没が始まったと理解される。開削時期は先に既述したように大溝上層から確認した集石遺構の顎面施文三重弧文字瓦、無台の盤の出土遺物から8世紀第2四半期の様相が窺われる。とするとそれ以前の開削が考えられる。溝幅3m以上、深さ1m以上で一般集落伴う規模ではない。主軸が西に56度振れている。官衙的遺構が正方位になる以前の開削と推定すると8世紀第1四半期の早い段階には開削されていたと考えられる。

大溝は断面形態から北辺を郭内としている。郭内には8世紀第3四半期～9世紀第3四半期の竪穴建物跡が確認された。第1号竪穴建物跡は規模が6.15×6.0m大形建物で改築を行い同位置に占地していた。また、竈袖に須恵器の甕が利用されていた、9世紀第1四半期以前には甕を活用したことになる。第4号竪穴建物跡は9世紀第3四半期から甕を活用する。甕はこの2軒に限られる。さらに第4号竪穴建物跡からは刻書で「南子家」と焼成後に書かれた土師器皿が出土した。「家」を形成していたと推測される。郭外では調査では第7



第 119 図 近世・近代遺構配置図

第 64 表 近世・近代遺構変遷表

遺構名	時期	18 世紀後半			19 世紀前半			19 世紀後半		
		1	2	3	1	2	3	1	2	3
第 6 号溝跡										
第 8 号溝跡										
第 9 号溝跡										
第 19 号土坑										
第 21 号土坑										
第 24 号土坑										
第 29 号土坑										
第 30 号土坑										
第 32 号土坑										
第 33 号土坑										
第 35 A・B 号土坑										
第 36 号土坑										
第 38 号土坑										
第 39 号土坑										
第 40 号土坑										
第 41 号土坑										
第 42 号土坑										
第 43 号土坑										

出土遺物年代

## 第5章 まとめ

号竪穴建物跡が8世紀期第4四半期に確認された。第11号竪穴建物跡から土師器の高台付坏の底部に「林家」の墨書土器が出土した。同じく「家」を形成していたと推測される。第10号竪穴建物跡からは皇朝十二銭の「隆平永豊」(796)が出土した。第6・8号竪穴建物跡は床面をローム直上に作るようになり、確認段階では床面が失われるか、僅かに確認できるようになる。竈も東竈になり、出土遺物も間に何形式か入るのか変化の大きさが実態なのか、いずれにしても古代社会の変革が読み取れる。また、集落は第7号竪穴建物跡から南側には展開していないことから、地層的に当時は南側が窪地で湧水していた可能性が考えられる。このことから、東前原遺跡第10地点の大溝は低地の手前で北に折れた可能性が考えられる。逆にその湧水を利用していたのであろう。

本遺跡は一般集落とは違った様相が見られるが、今後の調査には遺跡の性格を念頭に入れて行い、それを修正して、その実態に迫ることに期待したい。

中世の遺構はA・Bの2次期ある区画溝(第1・2・10号溝跡)の郭内にある土坑・粘土貼土坑・掘立柱建物跡・井戸跡と郭外にある地下式坑であるが、区画溝の2次期目に前述したように、東区の北半と北区から南区の西半がIVまたはIVB層上面まで削平した大土木工事が行われたが、北A区とした北辺の古代の第2号竪穴建物跡の壁面土層ではIII層まで遺存していたので現状道路までが削平範囲と推定される。また、古代の遺構と中世の遺構が重複するのは地形的要因が大きいと思われる。

さらに、当遺跡は墓域としての性格が強いと思われる。先述したが土坑と粘土貼土坑と掘立柱建物跡・井戸跡・地下式坑の2時期が考えられる。区画溝がどの遺構時期に関するのかをさらに考えてみたい。B号溝段階までは墓域としての意味を備えていたが、大土木工事のA号溝になり区画溝の性格が変わったとも考えられる。遺物からは1490年から1730年の凡そ140年のこの地域の動乱の時代を内包していると考えられる。

近世・近代の遺構は中世の土坑や区画溝が埋没し、幕末から明治にかけて植木の植替えが出来るような母屋を備えた豪農の屋敷が営まれたと推定される。

最後に、どの時代の遺跡も全体の一部を調査し記録として残すことが多い。そしてその成果について調査担当者の責任として遺跡の性格についての考えを示し、その積み重ねによって歴史の実態を読み解くことが出来ると考える。

### 参考文献

- 佐々木義則 1989 「木葉下窯跡群出土土坏・盤の法量分化について」『婆良岐考古』第11号 婆良岐考古同人会
- 佐々木義則 1995 「木葉下窯跡群産坏A Iの変化について」-消費地における形態と調整技法の様相- 『婆良岐考古』第17号 婆良岐考古同人会
- 赤井博之 1996 「新治窯跡都産須恵器坏A Iの変化」-消費地の様相- 『婆良岐考古』第18号 婆良岐考古同人会
- 佐々木義則 1997 「木葉下窯跡群の須恵器生産」-奈良時代前半を中心に- 『婆良岐考古』第19号 婆良岐考古同人会
- 九州近世陶磁学会 2000 『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
- 佐々木義則 2001 「茨城県における8・9世紀の須恵器甕概観」『婆良岐考古』第23号 婆良岐考古同人会
- 瀬戸市埋蔵文化財センター 2002 『図録 江戸時代の瀬戸窯』財団法人瀬戸市文化振興財団
- 瀬戸市埋蔵文化財センター 2003 『図録 江戸時代の美濃窯』財団法人瀬戸市文化振興財団
- 瀬戸市埋蔵文化財センター 2006 『江戸時代のやきもの-生産と流通- 記念講演会・シンポジウム資料集』財団法人瀬戸市文化振興財団
- 愛知県史編さん委員会 2015 「古代 猿投系」『愛知県史 別編 窯業1』愛知県
- 愛知県史編さん委員会 2026 「中世・近世 常滑系」『愛知県史 別編 窯業3』愛知県
- 寺井 誠 2016 「須恵器甕に見られる朝鮮半島の要素」大阪歴史博物館 研究紀要 第14号
- 水野順敏・米川暢敬・丸山優香里 2017 『東前原遺跡(第10地点) -区画道路6-33号線道路改良及び流域関連下水道工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-』  
水戸市教育委員会



第65表1 出土遺物計量一覽表

時期	遺構名	縄文		土師器										須恵器														
		深鉢		坏・碗		高台付坏			皿・高台付皿		甕			坏			高台付坏			高坏・高盤		高台付皿						
		破片数 (点)	重さ (g)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	
古代	SI- 1			8	114.0						1	61.0		143	1830.9		22	303.4		1	13					1	144.0	
	SI- 2			1	3.0									2	16.0		6	105.0										
	SI- 3			6	62.5									199	2374.8		44	350.0		2	25.0		1	19.0				
	SI- 4			23	238.0			2	26.0		7	541.3	2	196	3499.6	1	30	295.4		1	70.0		2	89.4				
	SI- 5			17	217.0			1	61.0					79	850.0		26	342.0										
	SI- 6			4	25.6									14	309.0		2	46.2										
	SI- 7			15	80.3						2	207.0		388	5468.0		188	2621.0	2	18	296.0	1						
	SI- 8			4	25.0									16	299.0		4	10.0		1	6.0							
	SI- 9													82	1722.0		10	258.7	1	1	115.0							
	SI-10			1	36.0									16	140.0		3	38.1										
	SI-11			2	4.4			1	53.0		1	13.4		17	123.2		12	83.7										
	SI-12			4	33.0												4	148.0	3									
	SB- 1													16	168.0		2	35.0										
	SB- 2													1	9.0		1	15.0										
	SB- 3													5	70.0		2	8.0		1	42.0							
	SB- 4													2	20.0													
	SD- 4 AB			5	18.0									30	344.0		3	62.5										
	SD-11			23	176.0			1	18.0					92	787.0		57	443.3		2	27.0							
	SE- 2			2	7.0			1	15.0					11	102.0		4	35.0										
	SB- 5													1	5.0													
SB- 6																1	3.0											
SB- 7																												
SB- 8 A													23	145.0		2	5.0											
SB- 9																												
SD- 1 A																												
SD- 1 B													10	156.0		4	31.0											
SD- 2 A																												
SD- 2 B			11	40.0									36	443.0		10	60.0		2	23.0								
SD- 3			1	2.0									2	9.0					1	42.0								
SD- 7			1	7.0									6	23.0		2	11.0											
SD-10A																												
SD-10B			12	76.0									18	114.0		13	99.0											
1号集石																			1	51.0								
SE- 1											1	25.0																
SE- 3																												
SE- 4																												
1号地下式坑													6	41.0		1	2.0											
2号地下式坑																												
3号地下式坑			22	128.0			2	40.0					74	636.0		50	315.0		5	132.0		1	115.0					
2号粘土貼土坑													1	4.0		1	7.0											
3号粘土貼土坑																1	4.0											
4号粘土貼土坑													2	20.0		2	6.0											
SK- 1													2	80.0		1	3.0											
SK- 2													3	47.0														
SK- 7			1	12.5									1	2.8														
SK- 8							1	19.0								1	6.9											
SK- 9			2	3.8									2	26.8														
SK-10			4	28.0			1	40.0					20	316.0		3	18.0											
SK-11													1	5.0														
SK-12													2	30.0		2	19.0		1	17.0								
SK-13			2	6.0									5	21.0		6	14.0											
SK-14													3	17.0		1	12.0											
SK-15													2	22.0														
SK-16													1	24.0														
SK-17			1	6.0									2	27.0														
SK-18													2	7.0														
SK-20													3	19.0		2	7.0											
SK-22													4	27.0		1	2.0											
SK-23													2	19.0					1	30.0								
P- 2							1	17.0					1	23.0														
P-12																3	24.0											
P-18																1	2.0											
P-21			2	8.0																								
近世・近代	SK-19			2	10.0						1	4.0		10	70.0													
	SK-33			1	3.0			2	36.0					6	171.0		2	13.0										
	SK-35A			4	28.0											1	2.0		1	47.0								
	SK-36													2	15.0													
	SK-38													4	35.0													
	SK-39																											
	SK-40													1	3.0													
	SK-41			1	7.0									10	98.0		5	31.0										
	SK-42																											
	SD- 6			4	17.0												2	14.0										
SD- 9			1	4.0									7	45.0		2	8.0											
調査区	南区東壁			1	5.0								16	62.0		4	13.0											
	遺構外	2	44.0	38	183.8			4	51.8				202	2221.0		88	493.0		1	13.0								
	点数	2		227			17				12	3	1805		631		39		1	4				1				
総数			44.0		1624.3			376.8				851.7		23180.1		7714.2		907.0					223.4			144.0		

第5章 まとめ

第65表2 出土遺物計量一覧表

時期	遺構名	須恵器																							
		盤・高台付盤			蓋			鉢			甌			甗			壺			長頸壺			円面碗		
		破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)
古代	SI- 1				2	23.0		1	43.0		3	1015.0		46	2398.0										
	SI- 2							1	49.0		1	286.0													
	SI- 3				10	101.0		1	49.0		1	286.0		3	11.0										
	SI- 4				1	1.3					11	1193.3		10	931.0										
	SI- 5	1	47.0		2	115.3		1	10.2					9	198.2										
	SI- 6													2	106.5										
	SI- 7	5	60.6		33	379.2		1	25.8					38	1372.2							1	17.2		
	SI- 8																								
	SI- 9				1	7.2		1	210.0					2	210.0										
	SI-10													2	28.9										
	SI-11				1	12.6								1	13.2										
	SI-12																								
	SB- 1																								
	SB- 2																								
	SB- 3	1	42.0																						
	SB- 4				1	6.0																			
	SD- 4AB																								
	SD-11	1	30.0		9	114.0		1	39.0		5	90.0		44	832.0										
	SE- 2				2	35.3					1	5.0		4	201.0										
	中世	SB- 5																							
		SB- 6												1	21.0										
SB- 7													1	6.0											
SB- 8A					2	24.0							1	6.0											
SB- 9													1	12.0											
SD- 1A																									
SD- 1B					1	6.0					2	26.0		3	194.0										
SD- 2A																		1	9.0						
SD- 2B		1	7.0		1	8.0		3	32.0					14	268.0										
SD- 3														1	38.0										
SD- 7											2	30.0		6	105.0										
SD-10A																									
SD-10B					1	12.0								10	199.0										
集石		1	51.0											2	182.0										
SE- 1																									
SE- 3					1	4.1																			
SE- 4														1	44.0										
1号 地下式坑					1	6.0								1	90.0										
2号 地下式坑																									
3号 地下式坑		1	51.0		7	60.0								16	202.0										
2号粘土 貼土坑																									
3号粘土 貼土坑													1	6.0											
4号粘土 貼土坑													2	111.0											
SK- 1																									
SK- 2																									
SK- 7																									
SK- 8				1	6.0																				
SK- 9																									
SK-10							1	4.0									1	2.0							
SK-11										1	52.0		1	19.0											
SK-12	1	17.0																							
SK-13				2	19.7					1	8.0		5	170.0											
SK-14																									
SK-15																									
SK-16																									
SK-17																									
SK-18																									
SK-20																									
SK-22													1	5.0											
SK-23													3	17.0											
P- 2																									
P-12																									
P-18													2	77.0											
P-21				1	6.0																				
近世・近代	SK-19																								
	SK-33				1	10.0							1	145.0											
	SK-35A				1	19.0							2	61.0											
	SK-36																								
	SK-38																								
	SK-39																								
	SK-40																								
	SK-41													1	12.0										
	SK-42																								
	SD- 6				1	31.0					1	19.0													
SD- 9													6	94.0											
調査区	南区東壁				1	40.0							1	2.0											
	遺構外	1	13.0		8	102.6		2	45.2				49	967.0		2	41.0		2	146.0					
	点数	13			92			13				29		295		3			3			1			
総数		318.6			1179.3			507.2			3010.3			9355.0			43.0			155.0			17.2		

第65表3 出土遺物計量一覧表

時期	遺構名	土師質土器																												
		瓦			かわらけ						鉢			鉢・火鉢			火鉢			焙烙・鍋			火消盃			鉢				
		破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)		
古代	SI- 1																													
	SI- 2																													
	SI- 3																													
	SI- 4																													
	SI- 5																													
	SI- 6																													
	SI- 7																													
	SI- 8																													
	SI- 9																													
	SI-10																													
	SI-11																													
	SI-12																													
SB- 1																														
SB- 2																														
SB- 3																														
SB- 4																														
SD- 4 AB																														
SD-11								1	14.0																	1	29.0			
SE- 2																														
SB- 5																														
SB- 6																														
SB- 7																														
SB- 8 A					1	1.3																								
SB- 9																														
SD- 1 A								2	193.0					1	94.0															
SD- 1 B																														
SD- 2 A								1	50.0					1	12.0			4	128.0			1	54.0							
SD- 2 B																														
SD- 3														1	61.0															
SD- 7																														
SD-10A					4	53.5																								
SD-10B																														
集石	1	295.0																												
SE- 1					1	25.0			1	11.0																				
SE- 3																														
SE- 4														2	60.0															
1号 地下式坑																														
2号 地下式坑																														
3号 地下式坑																														
2号粘土 貼土坑																														
3号粘土 貼土坑																														
4号粘土 貼土坑																														
SK- 1																														
SK- 2																														
SK- 7																														
SK- 8																														
SK- 9																														
SK-10																														
SK-11																														
SK-12																														
SK-13																														
SK-14																														
SK-15																														
SK-16																														
SK-17																														
SK-18																														
SK-20																														
SK-22																														
SK-23																														
P- 2																														
P-12																														
P-18																														
P-21																														
SK-19																														
SK-33																														
SK-35A																														
SK-36																											1	125.0		
SK-38																														
SK-39																														
SK-40																														
SK-41						2	18.5						2	45.0																
SK-42																														
SD- 6																														
SD- 9																														
調査区 南区東壁 遺構外																														
総数																														
点数		1							5				4					3	92.0		2	18.0				1			2	
重さ			295.0						98.3																					154.0

第5章 まとめ

第65表4 出土遺物計量一覧表

時期	遺構名	陶器																									
		碗			皿			土瓶			挿鉢			鉢			香炉			壺			甕				
		破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)		
古代	SI- 1	2	15.0																								
	SI- 2																										
	SI- 3																										
	SI- 4																										
	SI- 5																										
	SI- 6																										
	SI- 7	1	2.4																								
	SI- 8																										
	SI- 9	3	39.6																								
	SI-10																										
	SI-11																										
	SI-12																										
	SB- 1																										
	SB- 2																										
	SB- 3																										
	SB- 4																										
	SD- 4 AB																										
	SD-11										1	131.0												1	131.0		
	SE- 2																										
	SB- 5																										
SB- 6																											
SB- 7																											
SB- 8 A																											
SB- 9																											
SD- 1 A	3	27.4																									
SD- 1 B												1	54.0														
SD- 2 A	4	604.8	1	1	99.0																						
SD- 2 B																											
SD- 3																											
SD- 7	2	87.0																									
SD-10A	16	310.3		2	30.0					1	92.0											1	375.0				
SD-10B																											
集石																											
SE- 1																											
SE- 3																											
SE- 4	2	22.0										1	3.2														
1号 地下式坑																							1	69.0			
2号 地下式坑																											
3号 地下式坑				1	88.0																						
2号粘土 貼土坑																											
3号粘土 貼土坑																											
4号粘土 貼土坑																											
SK- 1																											
SK- 2																											
SK- 7																											
SK- 8																											
SK- 9																											
SK-10																											
SK-11																											
SK-12																											
SK-13																											
SK-14																											
SK-15																											
SK-16																											
SK-17																											
SK-18																											
SK-20																											
SK-22																											
SK-23																											
P- 2																											
P-12																											
P-18																											
P-21																											
近世・近代	SK-19																										
	SK-33																										
	SK-35A																										
	SK-36																										
	SK-38										1	30.0															
	SK-39																										
SK-40																											
SK-41	8	123.0	1			1	17.0			1	9.0		6	1432.0								1	267.0				
SK-42																							1	4.5			
SD- 6																											
SD- 9	3	27.0																									
調査区	南区東壁																										
	遺構外	22	236.0										2	119.0									1		4		
総数	点数	66		2	4		1			4			10														
	重さ	1494.5				217.0		17.0			262.0		1608.2										375.0		471.5		

第65表5 出土遺物計量一覧表

時期	遺構名	陶器						磁器						石製品						鉄製品						
		瓶			蓋			碗・皿			水滴			砥石			石斧			石臼			釘			
		破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	
古代	SI- 1																									
	SI- 2																									
	SI- 3																									
	SI- 4																									
	SI- 5																									
	SI- 6																									
	SI- 7																									
	SI- 8																									
	SI- 9													1	452.0											
	SI-10																									
	SI-11																									
	SI-12																									
	SB- 1																									
	SB- 2																									
	SB- 3																									
	SB- 4																									
	SD- 4 AB																									
	SD-11													1	378.0		1	234.0		1	489.0					
	SE- 2																									
	SB- 5																									
	SB- 6																									
	SB- 7																									
	SB- 8 A																									
	SB- 9																									
	SD- 1 A								1	94.0																
	SD- 1 B																									
	SD- 2 A		1	9.0																						
	SD- 2 B																									
SD- 3																										
SD- 7								1	6.0																	
SD-10A					1	151.0		2	8.9				1	242.0												
SD-10B																										
集石																										
SE- 1													1	555.0												
SE- 3																										
SE- 4								1	10.0														1	315.0		
1号 地下式坑																										
2号 地下式坑																										
3号 地下式坑																										
2号粘土 貼土坑																										
3号粘土 貼土坑																										
4号粘土 貼土坑																										
SK- 1																										
SK- 2																										
SK- 7																										
SK- 8																										
SK- 9																										
SK-10																										
SK-11																										
SK-12																										
SK-13																										
SK-14																										
SK-15																										
SK-16																										
SK-17																										
SK-18																										
SK-20																										
SK-22																										
SK-23																										
P- 2																										
P-12																										
P-18																										
P-21																										
近世・ 近代	SK-19																									
	SK-33																									
	SK-35A																									
	SK-36							1	15.0																	
	SK-38																									
	SK-39				1	13.0																				
	SK-40								1	5.0																
SK-41								7	102.0		2	23.0														
SK-42																										
SD- 6																										
SD- 9								1	16.0																	
調査区 遺構外	南区東壁																									
	点数	1			2			15			2		2	94.2		1			1				1	19.9		
総数	重さ		9.0			164.0			256.9			23.0		1721.2			234.0			489.0				334.9		

第5章 まとめ

第65表6 出土遺物計量一覧表

時期	遺構名	鉄製品																		土製品			計					
		鐵			鋳前			座金			不明			煙管			銅線			古銭				支脚				
		破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)	破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)		破片数 (点)	重さ (g)	個体数 (点)		
古代	SI- 1																											
	SI- 2																											
	SI- 3																											
	SI- 4																											
	SI- 5									1	13.0																	
	SI- 6																											
	SI- 7	2	19.8							1	18.2																	
	SI- 8																											
	SI- 9																											
	SI-10																			1	1.0							
	SI-11																											
	SI-12																											
	SB- 1																											
	SB- 2																											
SB- 3																												
SB- 4																												
SD- 4 AB																												
SD-11																												
SE- 2										1	1.6												1	199.0				
SB- 5																												
SB- 6																												
SB- 7																												
SB- 8 A	1	4.9																										
SB- 9																												
SD- 1 A																												
SD- 1 B																												
SD- 2 A										1	12.0		1	3.0														
SD- 2 B																												
SD- 3																												
SD- 7																												
SD-10A				1	151.0							1	3.2		1	0.1		4	0.4									
SD-10B																												
集石																												
SE- 1																												
SE- 3																												
SE- 4																												
1号 地下式坑																												
2号 地下式坑																								1	199.0			
3号 地下式坑										1	12.0																	
2号粘土 貼土坑																												
3号粘土 貼土坑																												
4号粘土 貼土坑																												
SK- 1																												
SK- 2																												
SK- 7																												
SK- 8																												
SK- 9																												
SK-10																												
SK-11																												
SK-12																												
SK-13																												
SK-14																												
SK-15																												
SK-16																												
SK-17																												
SK-18																												
SK-20																												
SK-22																												
SK-23																												
P- 2																												
P-12																												
P-18																												
P-21																												
SK-19																												
SK-33																												
SK-35A																												
SK-36																												
SK-38																												
SK-39																												
SK-40																												
SK-41																												
SK-42																												
SD- 6																												
SD- 9																												
調査区 南区東壁																												
遺構外							1	46.0		4	78.8		1	10.3														
点数	3			1			1			9			3									5			2		3419	
重さ		24.7			151.0			46.0			135.6			16.5			0.1						1.4			398.0	61255.5	